お客様各位

資料中の「ラピステクノロジー」等名称の
ローム株式会社への変更

2024 年4 月1 日をもって、ローム株式会社は、100%子会社である
ラピステクノロジー株式会社を吸収合併しました。従いまして、本資料中にあります
「ラピステクノロジー株式会社」、「ラピステクノ」、「ラピス」といった表記に関しましては、
全て「ローム株式会社」に読み替えて適用するものとさせていただきます。
なお、会社名、会社商標、ロゴ等以外の製品に関する内容については、変更はありません。
以上、ご理解の程よろしくお願いいたします。

２０２４年４月１日
ローム株式会社

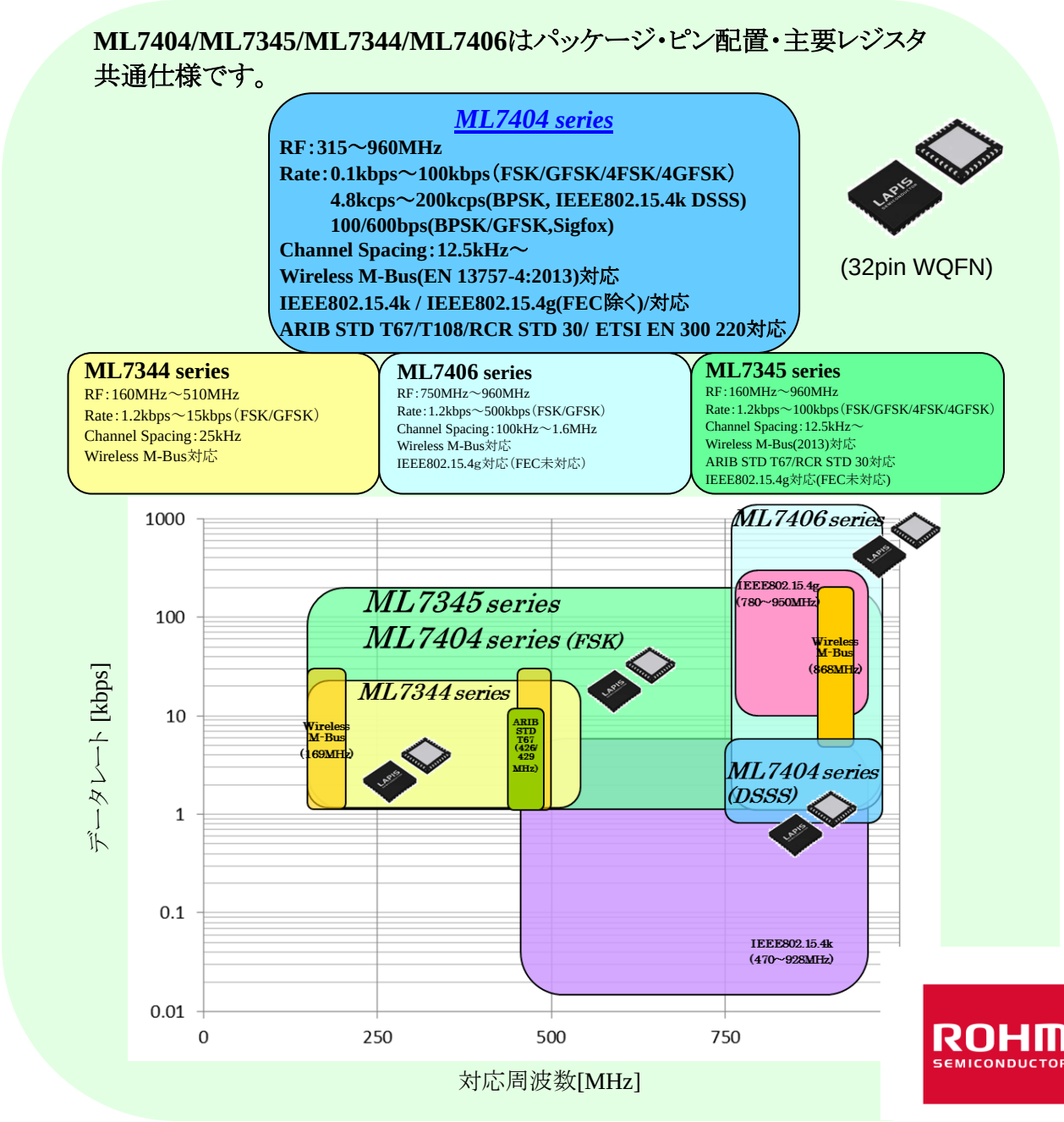
ML7404

低消費電力対応長距離通信 Sub-GHz(315～960MHz 帯) RF トランシーバ IC

■概要

ML7404 は、RF 部・IF 部・MODEM 部・直接系列スペクトラム拡散(DSSS)/逆拡散部・HOST インタフェース部を 1 チップに集積した低消費電力対応サブ GHz 無線通信用 LSI です。RF 周波数は 315MHz～960MHz に対応しています。IEEE802.15.4k 準拠の拡散通信を搭載し、低消費電力で長距離無線通信を実現できます。また狭帯域通信としては、帯域可変のチャネル選択フィルタを実装しているため 12.5kHz および 50kHz 以上のチャネル間隔のシステムに対応が可能です。欧州テレメータ規格(Wireless M-Bus)における F モード(434MHz)、および S/T/C モード(868MHz)、国内の小電力セキュリティシステム無線局および特定小電力無線局(400MHz 帯/920MHz 帯)に準拠可能です。

ML7344/ML7345/ML7406 ファミリーとパッケージ・ピン配置・主要レジスタ共通仕様のため国内外の狭・広帯域サブ GHz 帯アプリケーションに対し、基板、ソフトの共通化が可能です。



●製品名 ML7404GD

●用途　リモートコントロール
ホーム、ビルセキュリティ
センサーネットワーク
スマートメータ
物流トラッキング
インフラモニタリング
見守りシステム

■特長

- 対応規格
  - ETSI EN 300 220(Europe)
  - EN 13757-4:2013(Wireless M-Bus) S/T/C/R/F モード
  - RCR STD-30(Ⅲ型、Ⅳ型)
  - ARIB STD-T67
  - ARIB STD-T108
  - Sigfox (Rev 2.E)
- RF 周波数：315MHz - 960MHz に対応
- フラクショナル N 型 PLL の直接変調により高精度変調を実現
- IEEE802.15.4k 準拠の拡散変調(変調方式：BPSK、Chip rate：4.8～200kcps)
- 変調方式： BPSK、4GFSK/4GMSK、GFSK/GMSK、FSK/MSK(MSK は変調度 m=0.5 の FSK を示します。)
- データ転送スピード： 0.1kbps～100 kbps(変調方式: FSK/BPSK(Sigfox))
- NRZ、マンチェスタ符号化、3 out of 6 符号化機能搭載
- データ Whitening 機能搭載
- 帯域可変チャネルフィルタ機能搭載
- 周波数偏位可変機能搭載
- 送信/受信データの極性反転機能搭載
- 36MHz 発振回路/TCXO(36MHz)直接入力に対応
- 発振回路端子の負荷容量調整機能搭載
- 超低消費電力低速 RC 発振回路搭載
- 低速クロック補正補助機能搭載
- 周波数微調整機能搭載(フラクショナル N 型 PLL の採用により周波数の微調整可能)
- 同期式シリアルペリフェラルインタフェース(SPI)搭載
- 送信 PA 内蔵(最大 17dBm)
- 送信パワー調整機能搭載（±0.2dB）
- 送信パワーの自動ランプ制御搭載(ランプ制御時間:最大 57ms)
- 外付け PA 制御機能搭載
- 受信電界強度(RSSI)通知機能および閾値判定機能搭載
- 高速電波チェック機能搭載
- AFC 機能搭載(フラクショナル N 型 PLL 周波数調整による IF 周波数自動調整)
- アンテナダイバーシティ機能搭載(変調方式: FSK)
- 自動 WakeUP、自動 SLEEP 機能搭載(32kHz クロック直接入力/内部 RC 発振回路選択可能)
- 汎用タイマ搭載(2 系統)
- テストパタンジェネレータ搭載（PN9、CW、01 パターン、ALL”1”、ALL”0”出力対応）
- パケットモード機能搭載
  - Wireless M-Bus パケットフォーマット対応(Format A/B)
  - 汎用パケットフォーマット対応(Format C/D)
  - 最大 255 バイト(Format A/B)、2047 バイト(Format C/D)のパケット長に対応
  - 送信 FIFO（64Byte）内蔵、受信 FIFO（64Byte）内蔵
  - 検出プリアンブルパターン設定機能（最大 4Byte）
  - 送信プリアンブル長設定機能（最大 16383Byte）
  - SyncWord 設定機能（最大 4Bytes×2 面）
  - プログラマブル CRC 機能（CRC32/CRC16/CRC8 選択可、任意の生成多項式対応）

- アドレスチェック機能(Wireless M-Bus の C-field/M-field/A-field を検出可)
  ※設定によっては任意のパケットに対応可

- 電源電圧
  - FSK 時
    1.8V ～ 3.6V （送信電力 1mW 時）
    2.1V ～ 3.6V（送信電力 10mW 時）
    2.6V ～ 3.6V（送信電力 20mW 時）
  - BPSK 時
    2.6V ～ 3.6V（送信電力 BPSK 10mW 時）

- 動作温度 -40℃ ～ 85℃（動作保証）
  -30℃ ～ 75℃（RF 特性保証）
- 消費電流

ディープスリープモード時	0.1 μA	
スリープモード 1 時	0.45 μA	（レジスタ値保持）
スリープモード 2 時	1.2 μA	（レジスタ値/FIFO 保持、内蔵 RC 発振、WUT 動作時）
アイドルモード時	1.0 mA	
送信時		
20mW	45 mA	（FSK 時）
10mW	34 mA	（DSSS 時）
受信時	16 mA	（DSSS データ受信時、DSSS 回路 18MHz 動作時）

- パッケージ
  32 ピン WQFN (5mm x 5mm) P-WQFN32-0505-0.50
  鉛フリー RoHS 準拠

■表記方法

1) 数値表記
0xnn の形式は、16 進を示します。0bnn の形式は、2 進を示します。
(例)　0x11= 17(10 進), 0b11= 3(10 進)

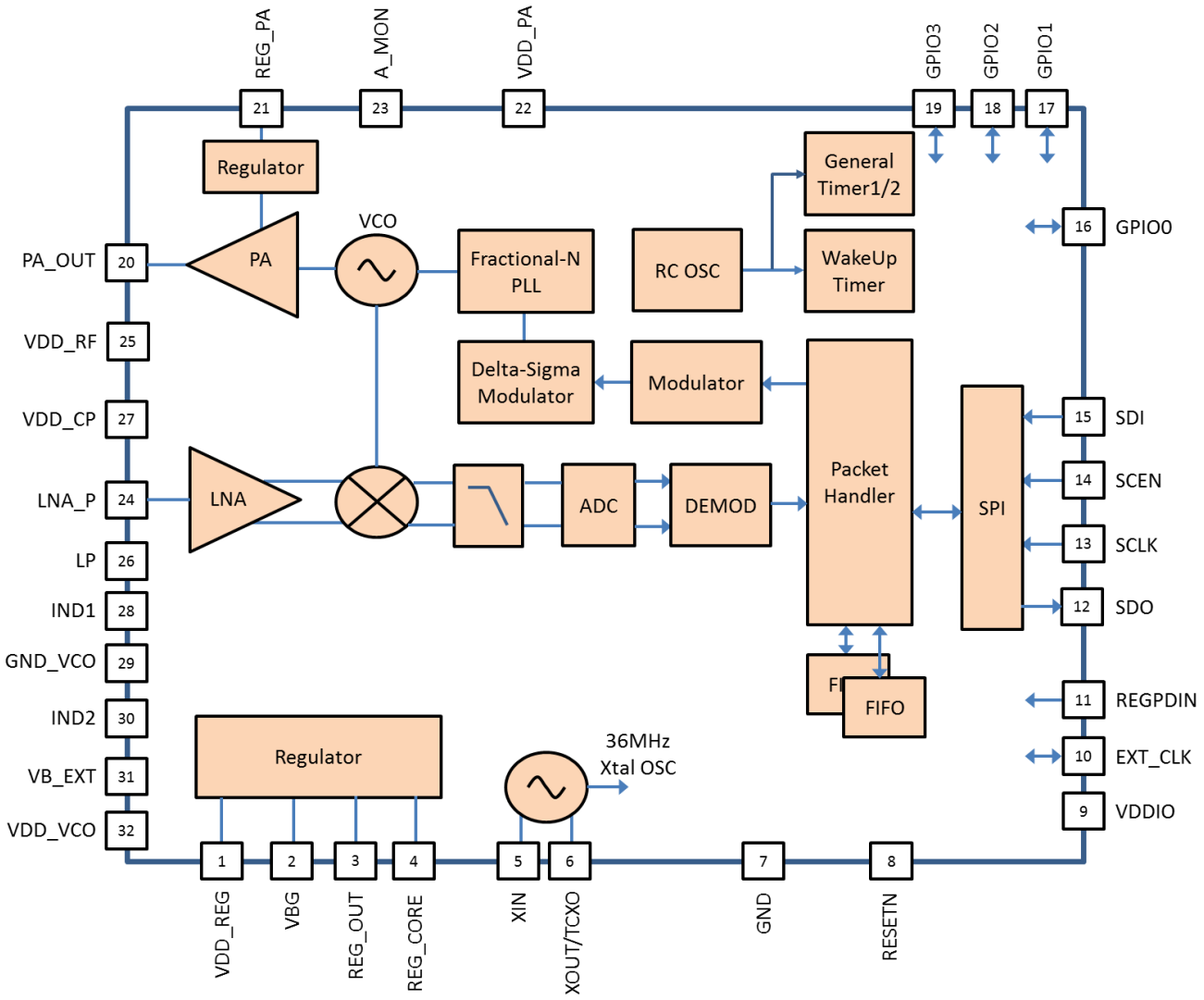
2) レジスタ表記
レジスタは以下のように表記します。
[<レジスタ名称>: B<Bank No> <レジスタアドレス>]

(例)　[RF_STATUS: B0 0x0B(3-0)]
レジスタ名称：　RF_STATUS
Bank No：　0
レジスタアドレス：　0x0B

3) ビット名表記
ビット名は以下のように表記します。
<ビット名称>[<レジスタ名称>: B<Bank No> <レジスタアドレス>(<ビット位置>)]

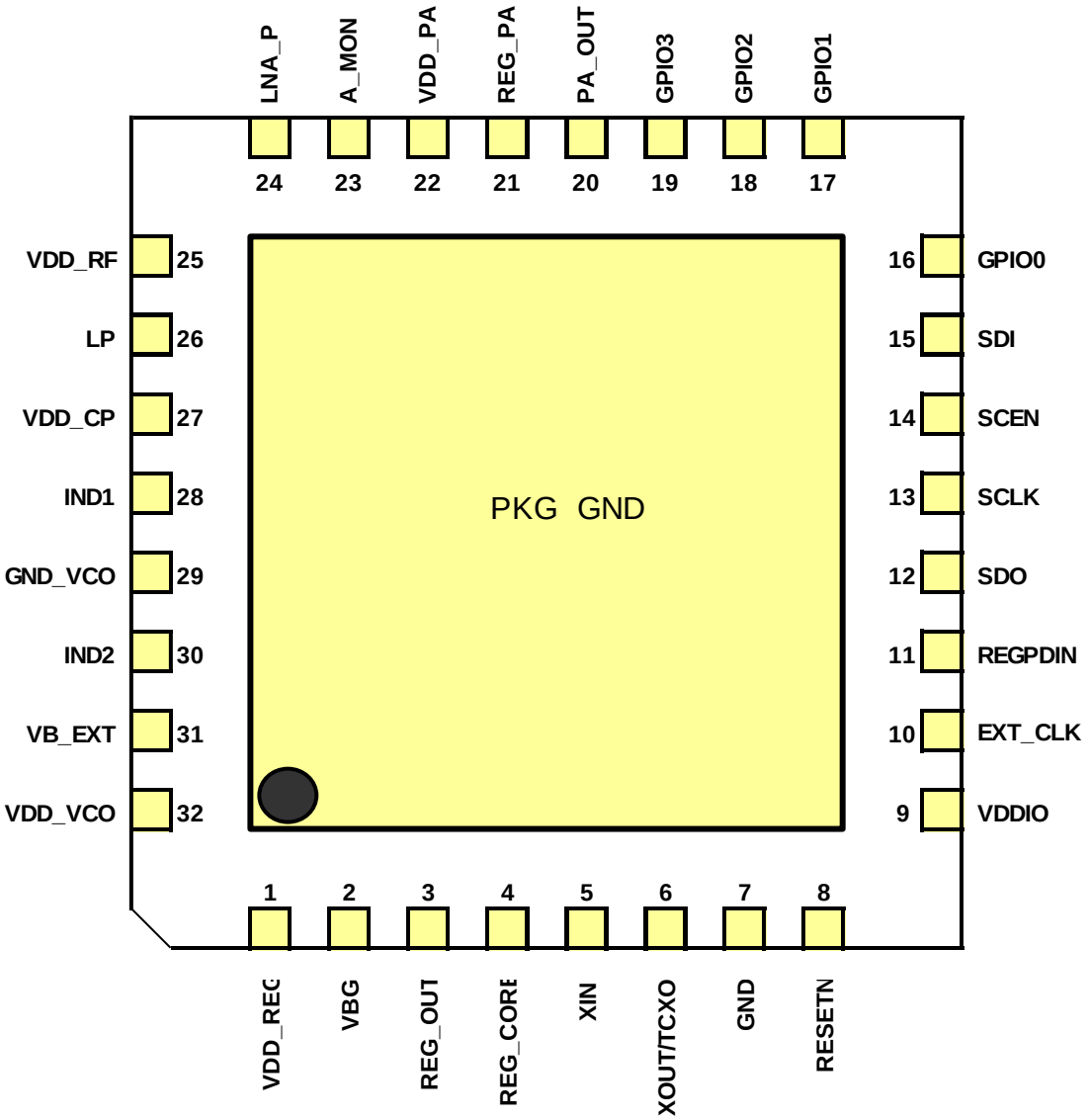
(例)　SET_TRX([RF_STATUS: B0 0x0B(3-0)])
レジスタ名称：　RF_STATUS
Bank No：　0
レジスタアドレス：　0x0B
ビット位置：　ビット 3 からビット 0

■ブロック図


REG_PA
A_MON
VDD_PA
GPIO3
GPIO2
GPIO1
21
23
22
19
18
17
Regulator
General Timer1/2
VCO
16
GPIO0
PA_OUT
20
PA
Fractional-N PLL
RC OSC
WakeUp Timer
VDD_RF
25
Delta-Sigma Modulator
Modulator
VDD_CP
27
15
SDI
LNA_P
24
LNA
ADC
DEMOD
Packet Handler
SPI
14
SCEN
LP
26
13
SCLK
IND1
28
12
SDO
GND_VCO
29
FIFO
IND2
30
11
REGPDIN
Regulator
36MHz Xtal OSC
VB_EXT
31
10
EXT_CLK
VDD_VCO
32
9
VDDIO
1
2
3
4
5
6
7
8
VDD_REG
VBG
REG_OUT
REG_CORE
XIN
XOUT/TCXO
GND
RESETN

■端子配置

32 ピン WQFN



ご注意： チップ中央の **GND** は裏面（名称：裏面 **GND**）です。

■端子説明

I/O 定義			リセット時記号			Active Level		
I	:	デジタル入力端子	I	:	入力状態	H	:	H レベル
O	:	デジタル出力端子	O	:	出力状態	L	:	L レベル
IS	:	シュミットトリガ入力端子	Hi-Z	:	ハイインピーダンス状態	OD	:	オープンドレイン
IO	:	デジタル入出力端子				P	:	立上り
IA	:	アナログ入力端子				N	:	立下り
OA	:	アナログ出力端子 1						
OAH	:	アナログ出力端子 2						
IOA	:	アナログ入力出力端子						
IRF	:	RF 入力端子						
ORF	:	RF 出力端子						
VDDIO	:	I/O 電源端子						
VDDRF	:	RF 電源端子						
GND	:	GND 端子						

●RF 関連・アナログ端子

端子番号	端子名称	リセット時	I/O	Active Level	端子機能
20	PA_OUT	O	ORF	－	RF アンテナ出力端子
23	A_MON	Hi-Z	IOA	－	テスト端子(*1)
24	LNA_P	I	IA	－	RF アンテナ入力端子
26	LP	－	IOA	－	ループフィルタ接続端子
28	IND1	－	IOA	－	VCO タンク インダクタ接続端子
30	IND2	－	IOA	－	VCO タンク インダクタ接続端子
31	VB_EXT	－	IOA	－	内部バイアス平滑容量接続端子

【詳細】
*1　ラピスセミコンダクタでのアナログ機能確認に使用します。

●SPI 関連端子

端子番号	端子名称	リセット時	I/O	Active Level	端子機能
12	SDO	Hi-Z	O	H or L or OD	SPI データ出力端子 または DCLK 出力端子(*1) ※初期設定では OpenDrain 出力に設定されています。SDO 端子を常時出力端子として使用する場合は、SPI リード前に SDO_OD([SPI/EXT_PA_CTRL: B0 0x53(7)])を 0b0 に設定してください。
13	SCLK	Hi-Z	Is	P or N	SPI クロック入力端子
14	SCEN	Hi-Z	Is	L	SPI チップイネーブル端子 L: イネーブル H: ディセーブル
15	SDI	Hi-Z	I	H or L	SPI データ入力端子 または DIO 入出力端子(*1)

【詳細】
*1 「DIO 機能」を参照してください。

●レギュレータ端子

端子番号	端子名称	リセット時	I/O	Active Level	端子機能
2	VBG	－	OAH	－	バイパスコンデンサ接続端子
3	REG_OUT	－	OAH	－	レギュレータ 1 出力端子（typ. 1.5V）
4	REG_CORE	－	OA	－	レギュレータ 2 出力端子（typ. 1.5V）
11	REGPDIN	I	I	H	レギュレータパワーダウン制御端子 通常動作時は、”L”固定入力としてください。ディープスリープ時は”H”設定してください。
21	REG_PA	－	OAH	－	PA 用レギュレータ出力端子

端子説明(続き)

●その他の端子

端子番号	端子名称	リセット時	I/O	Active Level	端子機能
5	XIN N.C.(*1)	I －	IA －	P or N －	36MHz 水晶振動子接続端子 1 ※TCXO 使用時はオープンにしてください。
6	XOUT TCXO(*1)	－	OA	P or N	36MHz 水晶振動子接続端子 2 （TCXO 入力端子）
8	RESETN	I	Is	L	リセット端子 L: 初期化、停止 H: 動作 ※本端子を”L”とするとLSI 内部が全て初期化されます。ディープスリープ時本端子を”L”と設定してください。
10	EXT_CLK	Hi-Z	IO	－	デジタル入出力端子 (*2) 初期機能: 外部 PA 制御信号出力
16	GPIO0	Hi-Z	IO	H or L or OD	デジタル入出力端子 (*3) 初期機能: 割込み通知信号出力
17	GPIO1	Hi-Z	IO	H or L or OD	デジタル入出力端子 (*4) 初期機能: クロック出力
18	GPIO2	Hi-Z	IO	H or L or OD	デジタル入出力端子 (*5) 初期機能: アンテナ切り替え制御信号出力
19	GPIO3	Hi-Z	IO	H or L or OD	デジタル入出力端子 (*6) 初期機能: 送受信切り替え信号出力

【詳細】

*1 TCXO をお使いになる場合は、TCXO_EN([CLK_SET2: B0 0x03(6)])を 0b1 に設定してください。また、必ず TCXO_EN、XTAL_EN([CLK_SET2: B0 0x03(4)])のいずれか 1 つのみ 0b1 となるように設定してください。
*2 [EXTCLK_CTRL: B0 0x52]を参照してください。
*3 [GPIO0_CTRL: B0 0x4E]を参照してください。
*4 [GPIO1_CTRL: B0 0x4F]を参照してください。
*5 [GPIO2_CTRL: B0 0x50]を参照してください。
*6 [GPIO3_CTRL: B0 0x51]を参照してください。

端子説明(続き)

●電源/GND 端子

端子番号	端子名称	リセット時	I/O	Active Level	端子機能
1	VDD_REG	－	VDDIO	－	レギュレータ用電源端子 (入力電圧 1.8~3.6V)
7	GND	－	GND	－	GND 端子
9	VDDIO	－	VDDIO	－	デジタル IO 用電源端子 (入力電圧 1.8~3.6V)
22	VDD_PA	－	VDDIO	－	PA 用電源端子 (入力電圧 1.8~3.6V 送信出力モードによる)
25	VDD_RF	－	VDDRF	－	RF 用電源端子 (REG_OUT を接続 typ.1.5V)
27	VDD_CP	－	VDDRF	－	チャージポンプ用電源端子 (REG_OUT を接続 typ.1.5V)
29	GND_VCO	－	GND	－	VCO 用 GND 端子
32	VDD_VCO	－	VDDRF	－	VCO 用電源端子 (REG_OUT を接続 typ.1.5V)

●未使用端子の処理

端子未使用時の処理方法を示します。本 LSI の基本動作を損なう端子処理は含まれません。

未使用端子の処理

端子名称	端子番号	推奨端子処理
N.C.	5	オープン
EXT_CLK	10	オープン
GPIO0	16	オープン
GPIO1	17	オープン
GPIO2	18	オープン
GPIO3	19	オープン
A_MON	23	GND

＜ご注意＞

*1. ハイインピーダンス入力設定にて端子をオープン状態のままにした状態では、消費電流が過大になる恐れがあります。未使用の入力端子及び入出力端子はオープンとならないように処理を行ってください。

*2. GPIO1 端子は初期状態はクロック出力(CLK_OUT 機能)となっています。本機能を使用しない場合は、[GPIO1_CTRL: B0 0x4F]の bit2-0 を 0b000 に設定し、クロック出力を停止してください。クロック出力のままオープン状態とすると受信感度劣化を招く恐れがあります。

■電気的特性

●絶対最大定格

特記事項がない場合、Ta=-40 to +85℃、GND=0V での値となります。

項目	記号	条件	定格値	単位
I/O 電源端子電圧	V_{DDIO}	－	-0.3～+4.6	V
RF 電源端子電圧	V_{DDRF}	－	-0.3～+2.0	V
RF 入力レベル	P_{RFI}	受信時のアンテナ端	0	dBm
RF 出力電圧	V_{RFO}	PA_OUT 端子	-0.3～4.6	V
アナログ端子電圧 1	V_A	－	-0.3～2.0	V
アナログ端子電圧 2	V_{AH}	－	-0.3～4.6	V
デジタル端子電圧	V_D	－	-0.3～4.6	V
デジタル入力電流	I_{DI}	－	-10～+10	mA
デジタル出力電流	I_{DO}	－	-8～+8	mA
許容損失	P_d	Ta= +25℃	1.2	W
保存温度	T_{stg}	－	-55～+150	℃

●推奨動作条件

項目	記号	条件	最小	標準	最大	単位
電源電圧 (I/O)	VDDIO	VDDIO 端子および VDD_REG 端子 (*1)	1.8 (*3)	3.3	3.6	V
電源電圧 (PA)	VDDPA	VDD_PA 端子 送信出力 +1mW 時	1.8	3.3	3.6	V
		VDD_PA 端子 送信出力 +10mW 時	2.1	3.3	3.6	V
		VDD_PA 端子 送信出力 +20mW 時	2.6	3.3	3.6	V
動作温度	Ta	―	-40	+25	+85	℃
デジタル入力立上り時間	TIR	デジタル入力端子 (*1)	―	―	20	ns
デジタル入力立下り時間	TIF	デジタル入力端子 (*1)	―	―	20	ns
デジタル出力負荷	CDL	全デジタル出力端子	―	―	20	pF
マスタークロック周波数 (XIN/XOUT 端子)	FMCK1	―	―	36	―	MHz
マスタークロック精度 (*2)	ACMCK1	FSK 時	-20	―	+20	ppm
	ACMCK2	DSSS 時	-5	―	+5	ppm
X'tal 等価直列抵抗	ESR	―	―	―	80	ohm
TCXO 入力電圧	VTCXO	DC カット ※TCXO オプション選択時	0.8	―	1.5	Vpp
SPI クロック入力周波数	FSCLK	SCLK 端子	0.032	2	16	MHz
SPI クロック入力 デューティ比	DSCLK	SCLK 端子	45	50	55	%
RF 周波数	FRF	―	315	―	510	MHz
			685	―	960	MHz

*1 端子説明の I/O 欄に I または Is の表示がある端子

*2 送受信で許容できる周波数偏差を示しております。各種規格に対応するためには、下表の通り規格に応じた周波数精度でご使用ください。

規格	周波数精度
RCR STD-30 type III (日本)	±10 ppm
RCR STD-30 type IV (日本)	±4 ppm
ARIB STD T-108	±20 ppm
Wireless M-Bus F mode	±16 ppm
IEEE802.15.4k	±2.5 ppm

*3 送信時は VDDPA の最小値に準ずる。

※以下、標準として規定している値は、代表的な中心値を示します。IC のばらつきを考慮した保証値ではありません。

●電源電流特性

マスタークロック周波数 = 36MHz (Typ.)での値です。

項目	記号	条件	最小	標準(*2)	最大(*3)	単位
電源電流 (*1)	IDD_DSLP	ディープスリープ状態 (レジスタ非保持, 全機能停止)	-	0.1	14 (0.3)	μA
	IDD_SLP1	スリープ状態 1 (*4)	-	0.45	55 (2.5)	μA
	IDD_SLP2	スリープ状態 2 (*4)	-	1.2	56 (3.7)	μA
	IDD_IDLE	アイドル状態 (*5) (*10)	-	1.0	1.2	mA
	IDD_RX1	DSSS 受信状態 (*5) (*10) (チップレート = 200kcps)	-	29	35	mA
	IDD_RX2	DSSS 受信状態 (*6) (*10) (チップレート = 200kcps)	-	16	-	mA
	IDD_RX3	DSSS 受信状態 (*7) (*10) (チップレート = 100kcps)	-	30	-	mA
	IDD_RX4	DSSS 受信状態 (*8) (*10) (チップレート = 100kcps)	-	17	-	mA
	IDD_RX5	FSK 受信状態 (*9) (*10)	-	13.5	18.5	mA
	IDD_TX10	DSSS 送信状態 (10mW) (*5) (*10)	-	34	40	mA
	IDD_TX20	FSK 送信状態 (20mW) (*9) (*10)	-	45	75	mA
	IDD_XTAL	水晶発振回路	-	0.3	0.4	mA

*1 電源電流は、全電源端子の合算値です。
*2 標準は VDDIO =3.3V、25℃の代表的な中央値です。
*3 括弧内の値は常温時の最大値(参考値)です。
*4 各スリープ状態の定義は下表の通りです。

スリープ状態	レジスタ状態	FIFO 状態	RC 発振回路状態	低速タイマ状態
状態 1	保持	RXFIFO のみ保持	OFF	-
状態 2	保持	RXFIFO のみ保持	ON	ON

*5 DSSS モード(DSSS チップレート 200kcps、周波数 920MHz、DSSS 受信回路動作クロック 18MHz、データ待ち受け時)、TCXO 使用、LOW_RATE_EN([CLK_SET2:B0 0x03(0)])=0b1 設定時の LSI における電流値です。
*6 DSSS モード(DSSS チップレート 200kcps、周波数 920MHz、DSSS 受信回路動作クロック 18MHz、データ受信時)、TCXO 使用、LOW_RATE_EN([CLK_SET2:B0 0x03(0)])=0b1 設定時の LSI における電流値です。
*5 DSSS モード(DSSS チップレート 100kcps、周波数 920MHz、DSSS 受信回路動作クロック 18MHz、データ待ち受け時)、TCXO 使用、LOW_RATE_EN([CLK_SET2:B0 0x03(0)])=0b1 設定時の LSI における電流値です。
*6 DSSS モード(DSSS チップレート 100kcps、周波数 920MHz、DSSS 受信回路動作クロック 18MHz、データ受信時)、TCXO 使用、LOW_RATE_EN([CLK_SET2:B0 0x03(0)])=0b1 設定時の LSI における電流値です。

*9 FSK モード, 100kbps、周波数 920MHz、TCXO 使用、LOW_RATE_EN([CLK_SET2:B0 0x03(0)])=0b1 設定時の LSI における電流値です。
*10 水晶発振回路を使用する場合はスリープ、ディープスリープ状態以外の消費電流に水晶発振回路の動作電流分が加算されます。

●直流特性

マスタークロック周波数 = 36MHz (Typ.)での値です。

項目	記号	条件	最小	標準	最大	単位
高レベル入力電圧	VIH1	デジタル入力端子	V_{DDIO} x 0.75	－	V_{DDIO}	V
低レベル入力電圧	VIL1	デジタル入力端子	0	－	V_{DDIO} x 0.18	V
	VIL2	XIN 端子	0	－	0.15	V
シュミットトリガ 高レベル判定閾値	VT+	RESETN、SDI、SCLK、SCEN、 EXT_CLK、REGPDIN、GPIO1 端子	－	1.2	V_{DDIO} x 0.75	V
シュミットトリガ 低レベル判定閾値	VT-	RESETN、SDI、SCLK、SCEN、 EXT_CLK、REGPDIN、GPIO1 端子	V_{DDIO} x 0.18	0.8	－	V
入力リーク電流	IIH1	デジタル入力端子	-1	－	1	µA
	IIL1	デジタル入力端子	-1	－	1	µA
トライステート 出力リーク電流	IOZH	デジタル入力端子	-1	－	1	µA
	IOZL	デジタル入力端子	-1	－	1	µA
高レベル出力電圧	VOH	IOH=-4mA	V_{DDIO} x 0.78	－	V_{DDIO}	V
低レベル出力電圧	VOL	IOL=4mA	0	－	0.3	V
レギュレータ 出力電圧	MAIN_REG	REG_CORE 端子 スリープ状態以外	1.5	1.6	1.65	V
	SUB_REG	REG_CORE 端子 スリープ状態	1.2	1.5	1.65	V
入力容量	CIN	入力端子	－	6	－	pF
	COUT	出力端子	－	9	－	pF
	CRFIO	RF 入出力端子	－	9	－	pF
	CAI	アナログ入力端子	－	9	－	pF

●FSK RF 特性

データレート : 0.1kbps～100kbps
変調方式 : 2/4 値 GFSK/FSK
チャネル間隔 : 12.5kHz ～

特性測定点は、推奨回路のアンテナ端となります。

【RF 周波数】

項目	条件	最小	標準	最大	単位
RF 周波数	LNA_P, PA_OUT 端子 2 分周モード時	315	433	510	MHz
	LNA_P, PA_OUT 端子 分周なし時	685	868	960	MHz

【ご注意】
1. 外付け回路の定数変更により、315MHz～960MHz の周波数に設定できます。
2. マスタークロックの整数倍近傍の周波数は使用できません。詳細は『周波数設定機能/チャネル周波数の設定』を参照してください。

【送信特性】

マスタークロック周波数 = 36MHz (Typ.)での値です。

433MHz Band, Ta=-30 to +75℃

項目	条件		最小	標準	最大	単位
送信出力電力	20mW(13dBm), 調整時		10	13	13.8	dBm
	10mW(10dBm), 調整時		7	10	10.8	dBm
	1mW(0dBm), 調整時		-3	0	0.8	dBm
周波数偏位調整範囲 [Fdev] (*1)			0.025	―	400	kHz
占有帯域幅	99%電力帯域幅 パターン:PN9 データレート:4800bps 変調周波数偏位: ±2.4kHz		―	―	8.5	kHz
隣接チャネル漏洩電力 [ACPR]	データレート:4800bps, パターン:PN9 変調周波数偏位: ±2.4kHz, 12.5kHz offset ± 8.5kHz 帯域での漏洩電力比		―	―	-40	dBc
不要発射レベル	近傍スプリアスレベル 10dBm 送信時 データレート:4800bps, パターン:PN9 変調周波数偏位:2.4kHz 62.5～162.5kHz offset の積分値		―	―	-26	dBm
	高調波スプリアスレベル（*2） 10dBm CW 送信時 ※LCトラップ回路あり時	2nd 3rd <	―	―	-36 -30	dBm

*1. 調整範囲は上記の通りですが、使用周波数帯によって設定できる最大値が変わります。
*2. 433MHz 時の特性です。

920MHz Band , Ta=-30 to +75℃

項目	条件	最小	標準	最大	単位
送信出力電力	20mW(13dBm) Max 設定時	12	-	-	dBm
周波数偏位調整範囲 [Fdev] (*1)		0.025	ー	400	kHz
占有帯域幅	99%電力帯域幅 パターン:PN9 データレート:100bps 変調周波数偏位: ±50kHz	ー	ー	400	kHz
隣接チャネル漏洩電力 [ACPR]	20mW 調整時、±1ch、帯域:200kHz	ー	-46	-28	dBc
不要発射レベル	高調波スプリアスレベル（第 2 高調波/第 3 高調波） 10dBm CW 送信時 ※LC トラップ回路あり時	ー	-35	-30	dBm

*1. 調整範囲は上記の通りですが、使用周波数帯によって設定できる最大値が変わります。

685MHz Band , Ta=-30 to +75℃

項目	条件	最小	標準	最大	単位
送信出力電力	20mW(13dBm)	ー	13	ー	dBm
隣接チャネル漏洩電力 [ACPR]	20mW 調整時、±1ch、帯域:200kHz	ー	-46	ー	dBc
不要発射レベル	高調波スプリアスレベル（第 2 高調波/第 3 高調波） 10dBm CW 送信時 ※LC トラップ回路あり時	ー	-35	ー	dBm

【受信特性】

マスタークロック周波数 = 36MHz (Typ.)での値です。

433MHz Band, Ta=-30 to +75℃

項目	条件	最小	標準	最大	単位
最小受信感度	4.8kbps モード BER<1% GFSK, ±2.4kHz deviation	―	-119.5	-112.0	dBm
	9.6kbps モード BER<1% GFSK, ±4.8kHz deviation	―	-116.5	-109	dBm
受信 C/I 隣接チャネル妨害 (*1)	12.5kHz spacing, Ta=25℃, 4.8kbps モード 妨害波: PN9	30	33	―	dB
	25kHz spacing, Ta=25℃, 9.6kbps モード 妨害波: PN9	30	33	―	dB
受信ブロッキング (*1)	2MHz offset, Ta=25℃, 4.8kbps モード	―	69	―	dB
	10MHz offset, Ta=25℃, 4.8kbps モード	―	77	―	dB
	-IF 周波数×2[Hz] offset (image frequency) , Ta=25℃, IQ 調整後	30	50	―	dB
最小電力検出(ED 値)レベル	RSSI 特性図(*2)中の RFmin 4.8kbps, チャネルフィルタ帯域=10kHz 設定時	―	-120	-105	dBm
電力検出範囲	RSSI 特性図(*2)中のダイナミックレンジ	70	80	―	dB
副次発射レベル		―	―	-54	dBm

*1.妨害関連特性の測定条件は以下の通りです。
希望入力レベルを[BER=1%となるレベル(=基準感度)+3dB] とし、妨害波レベルを変動させて BER=1%となるレベルを見つけ、U/D[dB]= (妨害波レベル) – (BER=1%となるレベル) として規定しています。
*2. RSSI 特性図を下記に示します。

920MHz Band, Ta=-30 to +75℃

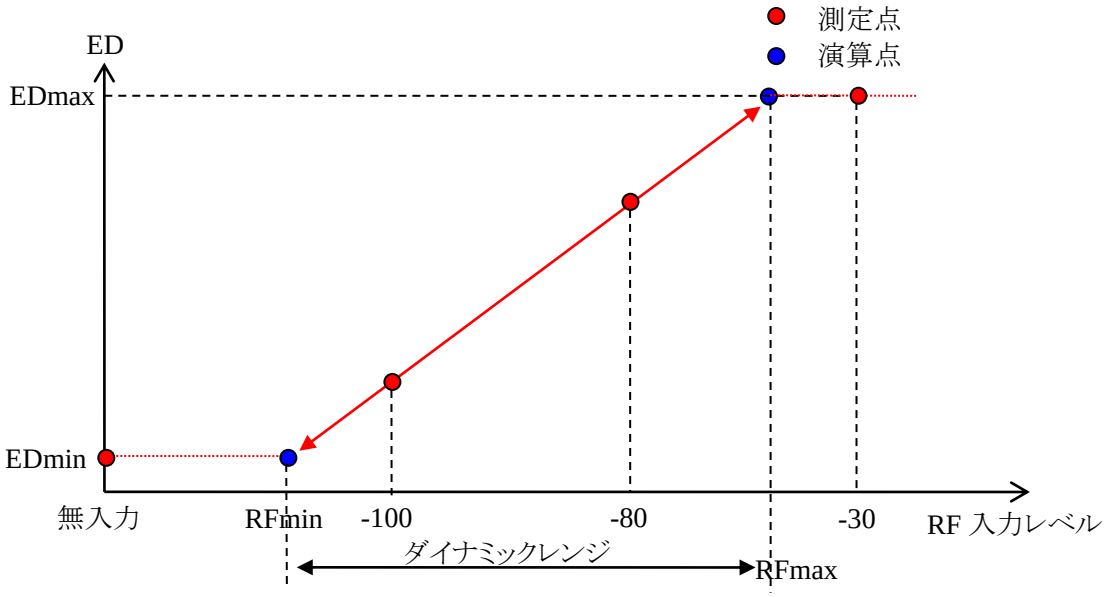
項目	条件	最小	標準	最大	単位
最小受信感度	38.4kbps モード BER<1% GFSK, 19.2kHz deviation	―	-109	-100	dBm
	100kbps モード BER<1% GFSK, 50kHz deviation	―	-106	-97	dBm
隣接チャネル選択度 (*1)	400kHz spacing, Ta=25℃, 100kbps モード 妨害波: CW	20	37	―	dB
受信ブロッキング (*1)	2MHz offset, Ta=25℃, 100kbps モード	―	52	―	dB
	10MHz offset, Ta=25℃, 100kbps モード	―	62	―	dB
最小電力検出(ED 値)レベル	RSSI 特性図(*2)中の RFmin 100kbps, チャネルフィルタ帯域=200kHz 設定時	―	-105	-96	dBm
電力検出範囲	RSSI 特性図(*2)中のダイナミックレンジ	55	65	―	dB
副次発射レベル		―	―	-54	dBm

*1.妨害関連特性の測定条件は以下の通りです。
希望入力レベルを[BER=1%となるレベル(=基準感度)+3dB] とし、妨害波レベルを変動させて BER=1%となるレベルを見つけ、U/D[dB]= (妨害波レベル) – (BER=1%となるレベル) として規定しています。
*2. RSSI 特性図を下記に示します。

685MHz Band, Ta=-30 to +75℃

項目	条件	最小	標準	最大	単位
最小受信感度	100kbps モード BER<1% GFSK, 50kHz deviation	―	-106	―	dBm
隣接チャネル選択度 (*1)	400kHz spacing, Ta=25℃, 100kbps モード 妨害波: CW	―	37	―	dB
受信ブロッキング (*1)	2MHz offset, Ta=25℃, 100kbps モード	―	52	―	dB
	10MHz offset, Ta=25℃, 100kbps モード	―	62	―	dB
最小電力検出(ED 値)レベル	RSSI 特性図(*2)中の RFmin 100kbps, チャネルフィルタ帯域=200kHz 設定時	―	-105	―	dBm
電力検出範囲	RSSI 特性図(*2)中のダイナミックレンジ	―	65	―	dB
副次発射レベル		―	―	-54	dBm

*1.妨害関連特性の測定条件は以下の通りです。
希望入力レベルを[BER=1%となるレベル(=基準感度)+3dB] とし、妨害波レベルを変動させて BER=1%となるレベルを見つけ、U/D[dB]= (妨害波レベル) – (BER=1%となるレベル) として規定しています。
*2. RSSI 特性図を下記に示します。


測定点
演算点
ED
EDmax
EDmin
無入力
RFmin
-100
-80
-30
RF 入力レベル
ダイナミックレンジ
RFmax

●BPSK RF 特性

[スペクトラム拡散]

チップレート	:	4.8～200kcps
拡散率（SF）	:	8/16/32/64
変調方式	:	BPSK
FEC 符号化率	:	1/2

[Sigfox]

データレート	:	100bps
変調方式	:	BPSK

特性測定点は、推奨回路のアンテナ端となります。

【RF 周波数】

項目	条件	最小	標準	最大	単位
RF 周波数	LNA_P, PA_OUT 端子 2 分周モード時	315	433	510	MHz
	LNA_P, PA_OUT 端子 分周なし時	685	868	960	MHz

【ご注意】
1. 外付け回路の定数変更により、315MHz～960MHz の周波数に設定できます。
2. マスタークロックの整数倍近傍の周波数は使用できません。詳細は『周波数設定機能/チャネル周波数の設定』を参照してください。
3. 推奨動作条件下において、日本国内で DSSS(100/200kcps)を使用する場合の使用可能な RF 周波数範囲は、921～924.6MHz です。その他チップレートに対してはデザインガイドをご参照ください。

【送信特性】

マスタークロック周波数 = 36MHz (Typ.)での値です。

920MHz Band , Ta=-30 to +75℃

項目	条件	最小	標準	最大	単位
送信出力電力(尖頭電力値)	10mW(10dBm)調整時	6	10	12	dBm
	1mW(0dBm)調整時	-4	0	4	dBm
拡散率（SF）		8	－	64	－
占有帯域幅（OBW）	200kcps 時	－	－	400	kHz

【ご注意】
1. 推奨動作条件下において日本国内で DSSS(100/200kcps)を使用する場合、5 単位チャネルでご使用ください。その他チップレートにおける単位チャネル数はデザインガイドをご参照ください。
2. DSSS 使用時、必ず TCXO をご使用ください。

685MHz Band , Ta=-30 to +75℃

項目	条件	最小	標準	最大	単位
送信出力電力(尖頭電力値)	10mW(10dBm)調整時	－	10	－	dBm

【ご注意】
1. DSSS 使用時、必ず TCXO をご使用ください。

【受信特性】

マスタークロック周波数 = 36MHz (Typ.)での値です。

920MHz Band, Ta=-30 to +75℃

項目	条件	最小	標準	最大	単位
最小受信感度	Chip rate=200kcps, SF＝64 PER<1% FEC coding rate＝1/2	－	-121	－	dBm
	Chip rate=100kcps, SF＝64 PER<1% FEC coding rate＝1/2	－	-121	－	dBm
受信 C/I 隣接チャネル妨害	Chip rate=200kcps, SF=64, 400kHz spacing, Ta=25℃	20	37	－	dB
受信ブロッキング	2MHz offset, Ta=25℃, Chip rate=200kcps	－	52	－	dB
	10MHz offset, Ta=25℃, Chip rate=200kcps	－	62	－	dB

【ご注意】
1. DSSS 使用時、必ず TCXO をご使用ください。

685MHz Band, Ta=-30 to +75℃

項目	条件	最小	標準	最大	単位
最小受信感度	Chip rate=200kcps, SF＝64 PER<1% FEC coding rate＝1/2	－	-121	－	dBm
	Chip rate=100kcps, SF＝64 PER<1% FEC coding rate＝1/2	－	-121	－	dBm
受信ブロッキング	2MHz offset, Ta=25℃, Chip rate=200kcps	－	52	－	dB
	10MHz offset, Ta=25℃, Chip rate=200kcps	－	62	－	dB

【ご注意】
1. DSSS 使用時、必ず TCXO をご使用ください。

●RC 発振回路特性

本 LSI はタイマー用 32kHz クロック生成機能を搭載しております。詳細は「LSI 状態制御/SLEEP 設定」の項ご参照ください。

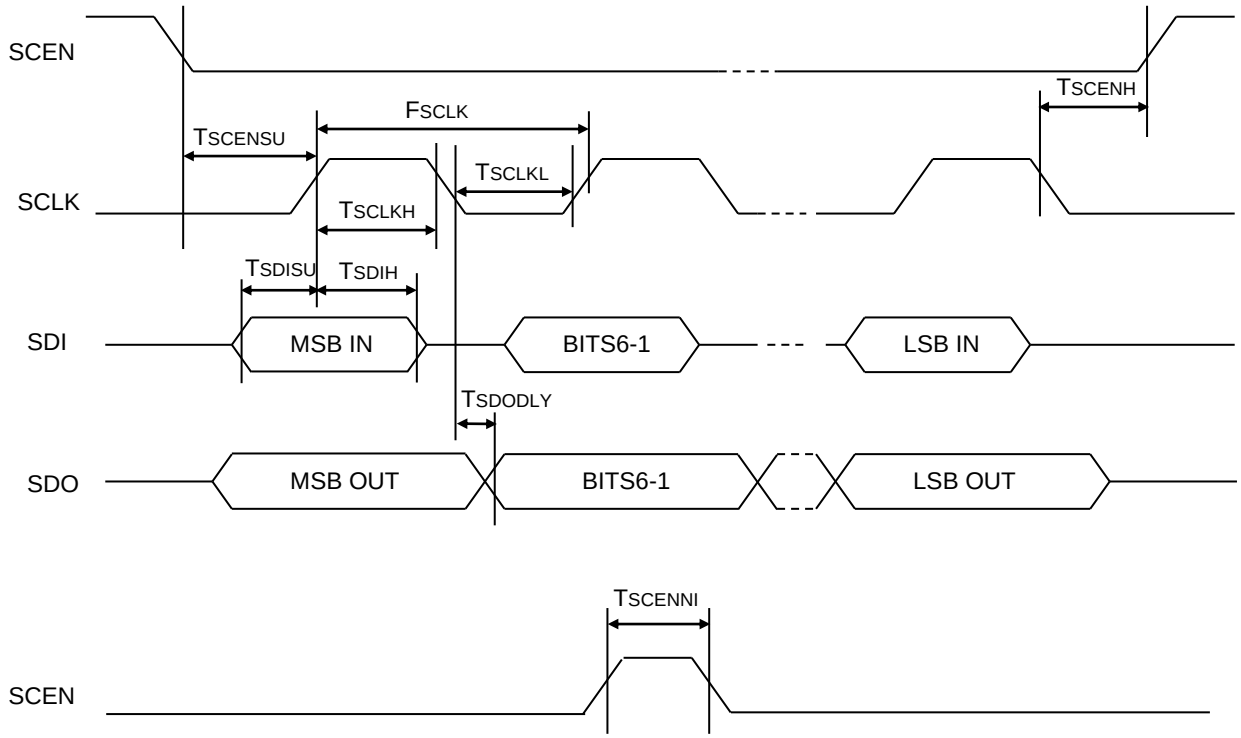
項目	記号	条件	最小	標準	最大	単位
RCOSC 発振周波数	F_{RCOSC}	トリミング後	27	32	38	kHz
RCOSC 発振安定時間	T_{RCOSC}		－	－	100	ms

●SPI 特性

項目	記号	条件	最小	標準	最大	単位
SCLK クロック周波数	F_{SCLK}	負荷容量 CL=20pF	0.032	2	16	MHz
SCEN 入力セットアップ時間	T_{SCENSU}		30	－	－	ns
SCEN 入力ホールド時間	T_{SCENH}		30	－	－	ns
SCLK ハイパルス幅	T_{SCLKH}		31	－	－	ns
SCLK ローパルス幅	T_{SCLKL}		31	－	－	ns
SDI 入力セットアップ時間	T_{SDISU}		5	－	－	ns
SDI 入力ホールド時間	T_{SDIH}		15	－	－	ns
SCEN ネゲート間隔	T_{SCENNI}		200	－	－	ns
SDO 出力遅延時間	T_{SDODLY}		0	－	25	ns

【ご注意】

全てのタイミング測定点は、V_{DDIO}* 20%と V_{DDIO}*80%のレベルです。

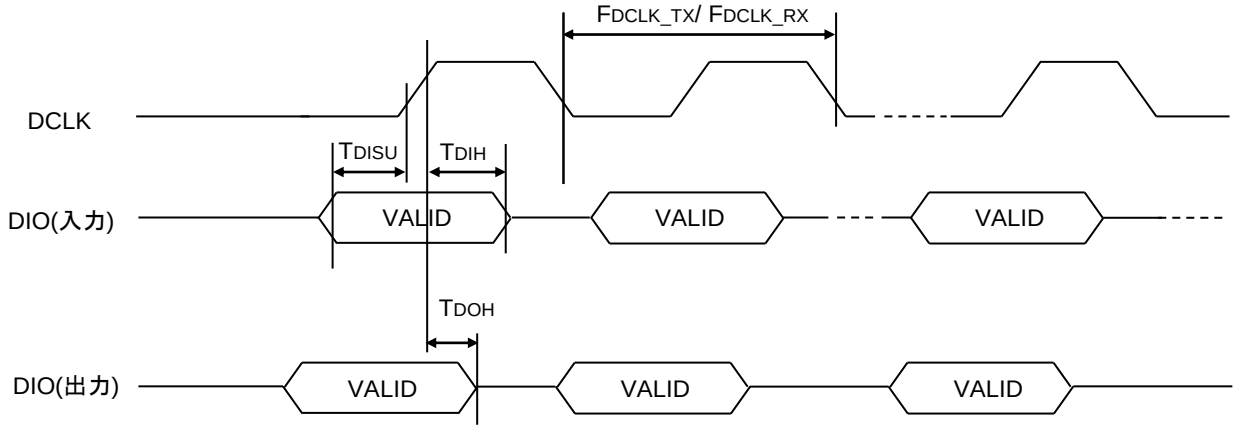


●送受信データインタフェース特性

項目	記号	条件	最小	標準	最大	単位
DIO 入力セットアップ時間	T_{DISU}	負荷容量 CL=20pF	1	―	―	μs
DIO 入力ホールド時間	T_{DIH}		0	―	―	ns
DIO 出力ホールド時間	T_{DOH}		20	―	―	ns
DCLK 周波数精度 (*1) (送信時)	F_{DCLK_TX}		-クロック 周波数偏差	―	+クロック 周波数偏差	kHz
DCLK 周波数精度 (*2) (受信時)	F_{DCLK_RX}		-30	―	+30	%
DCLK 出力デューティ比 (送信時)	D_{DCLK_TX}		45	―	55	%
DCLK 出力デューティ比 (受信時)	D_{DCLK_RX}		30	―	70	%

*1 送信データレート設定値の計算に小数点が発生しない場合([TX_RATE_H: B1 0x02]参照)、送信時の DCLK 周波数の最大値および最小値は、マスタークロック周波数偏差となります。
*2 受信時の DCLK 周波数の最小値および最大値は、受信信号に応じて生成される再生クロックのジッタ量(同期確立時)を示します。

【ご注意】
全てのタイミング測定点は、V_{DDIO}* 20%と V_{DDIO}*80%のレベルです。



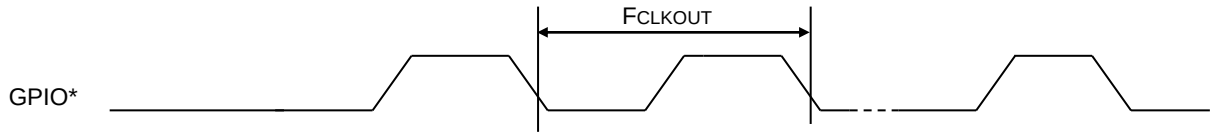
●クロック出力特性

本 LSI はクロック出力機能を搭載しております。DMON_SET([MON_CTRL: B0 0x4D(3-0)])および[GPIO*_CTRL: B0 0x4E-0x51]にて制御可能です。初期設定では GPIO1 端子より出力されます。

項目	記号	条件		最小	標準	最大	単位
クロック出力周波数	FCLKOUT	負荷容量 CL=20pF		0.0088	3	36(*2)	MHz
クロック出力デューティ比(*1)	DCLKOUT		12MHz	33	-	67	%
			上記以外	47	50	53	%

*1　12MHz に設定されたときのみ、デューティ比が High:Low = 1:2 となります。 [CLK_OUT: B1 0x01]を参照してください。
*2　LOW_RATE_EN([CLK_SET2: 0x03(0)]=0b0 設定時の周波数です。

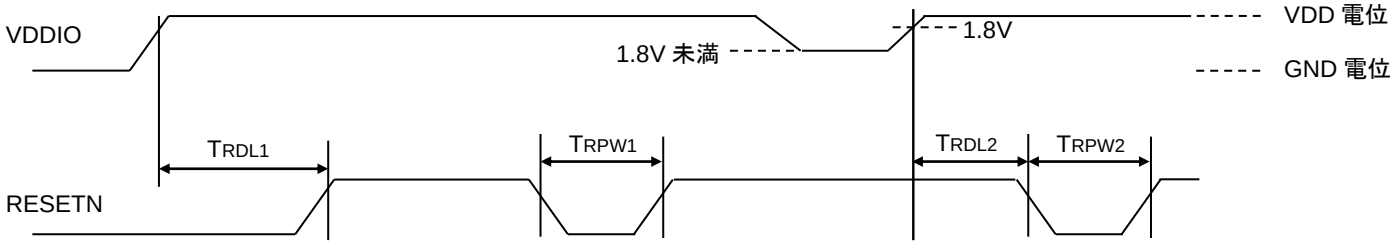
【ご注意】
全てのタイミング測定点は、VDDIO* 20%と VDDIO*80%のレベルです。



●リセット特性

項目	記号	条件	最小	標準	最大	単位
RESETN 解除遅延時間 （パワーオン時）	TRDL1	全電源端子 Power On 後	0.5	－	－	ms
RESETN パルス時間 (VDDIO＝0V からの起動時)	TRPW1		0.5	－	－	ms
RESETN パルス時間 2 (*1) (VDDIO≠0V からの起動時)	TRPW2		0.5	－	－	ms
RESETN 入力遅延時間	TRDL2	VDDIO>1.8V 後	1	－	－	µs

【ご注意】
全てのタイミング測定点は、VDDIO* 20%と VDDIO*80%のレベルです。

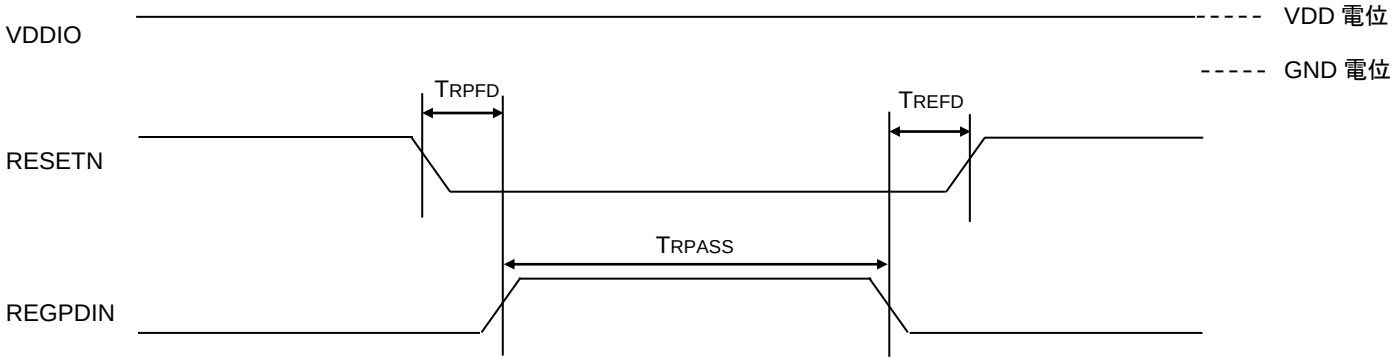


(*1) VDDIO≠0V からの起動時は VDDIO が 1.8V を超えてから RESETN 信号にパルスを入力してください。

●ディープスリープモード特性

項目	記号	条件	最小	標準	最大	単位
REGPDIN 立上り遅延時間	T_{RPFD}	VDDIO=”H”	0	－	－	μs
REGPDIN アサート時間	T_{RPASS}	VDDIO=”H”	0.3	－	－	ms
RESETN 入力遅延時間	T_{REFD}	VDDIO=”H”	0.5	－	－	ms

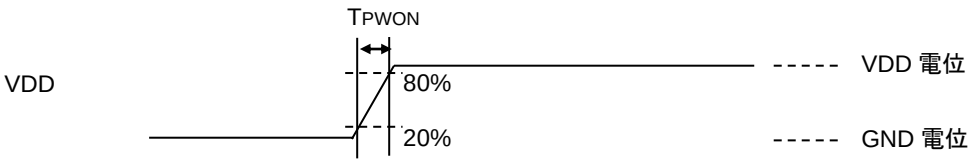
【ご注意】
全てのタイミング測定点は、V_{DDIO}* 20%と V_{DDIO}*80%のレベルです。



●パワーオン特性

項目	記号	条件	最小	標準	最大	単位
パワーオン時間差	T_{PWON}	パワーオン時 (全電源端子)	－	－	5	ms

【ご注意】
全てのタイミング測定点は、V_{DDIO}* 20%と V_{DDIO}*80%のレベルです。



■機能説明

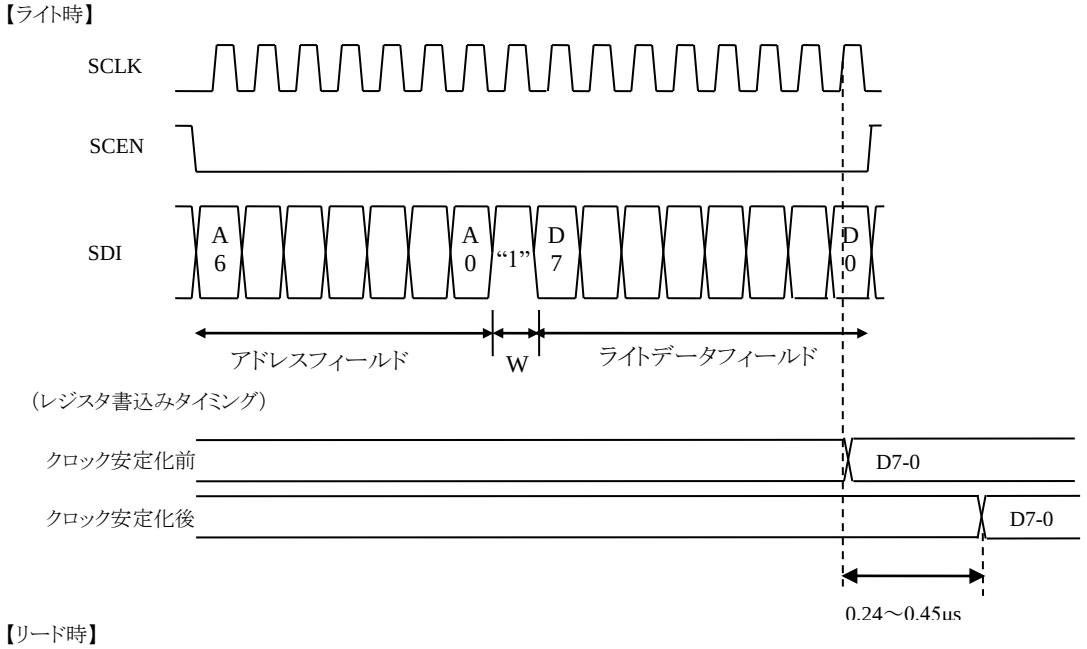
●ホストインタフェース

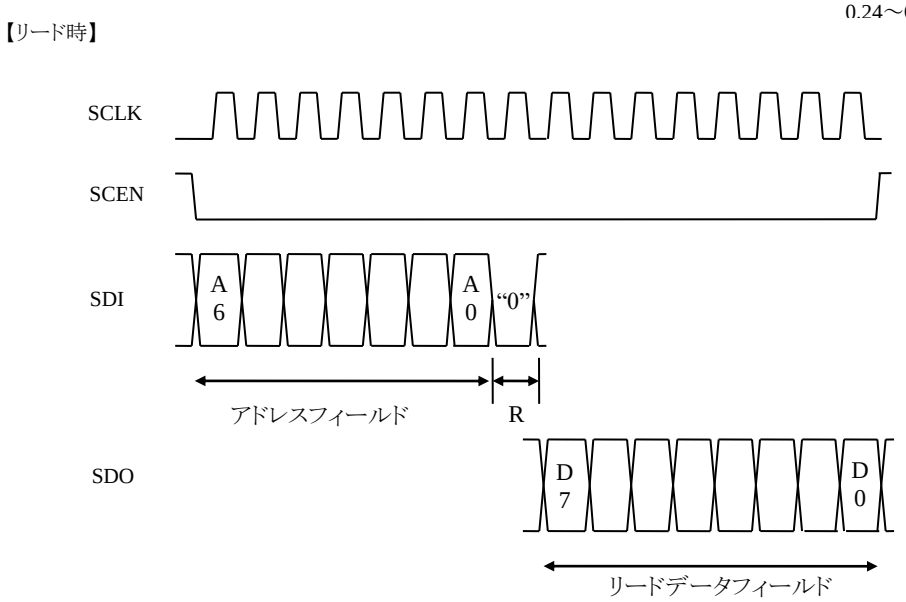
○Serial Peripheral Interface (SPI)

本 LSI はシリアルペリフェラルインタフェース（以下 SPI）を有しています。本 LSI の SPI はスレーブモードのみをサポートしており、ホスト MCU よりクロックを入力して本 LSI のレジスタと FIFO の読み書きを行います。またシングルアクセス、バーストアクセスに対応しています。

【シングルアクセス タイムチャート】

ライト時は、D0 を取り込むクロックの立ち上がりを検出して内部回路に書き込みます。SCEN を”H”にすると制御部はリセットされます。また、内部クロックの有無によりレジスタに書き込まれるタイミングが異なります。





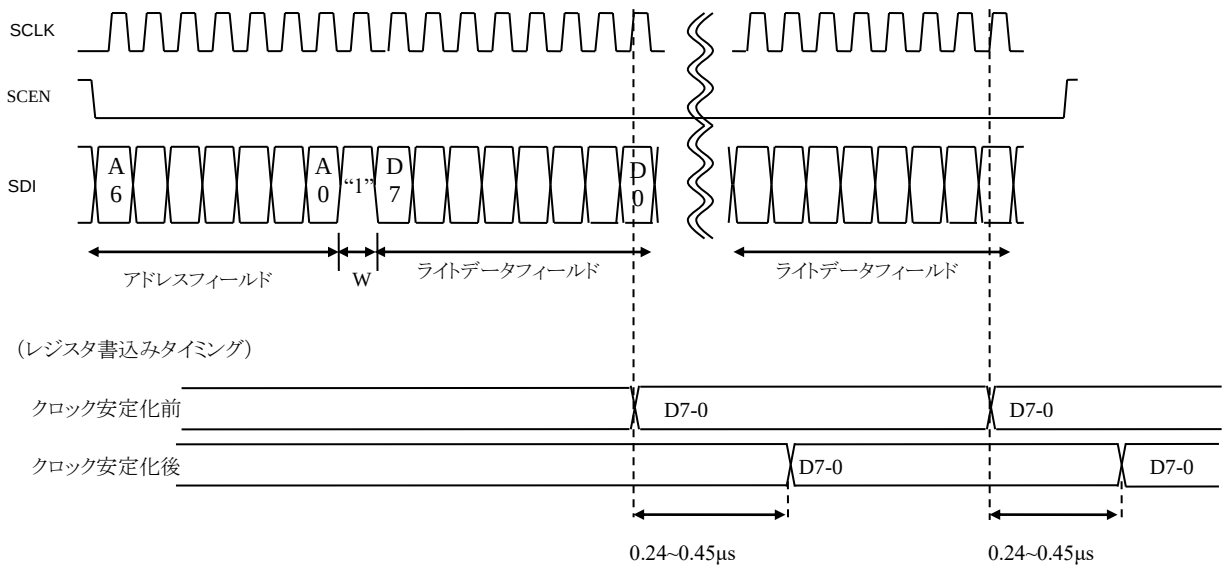
【バーストアクセス　タイムチャート】

SCEN を”L”に維持することで、バーストモードに移行します。バーストモードの解除は SCEN を”H”にすることで行われます。バーストモードでは、アドレスの自動インクリメントが実行され、必要なデータ分 SCLK を入力することで連続して読み書きができます。D0 を取り込むクロックが入力される前に SCEN を”H”にした場合、当該データは破棄されます。

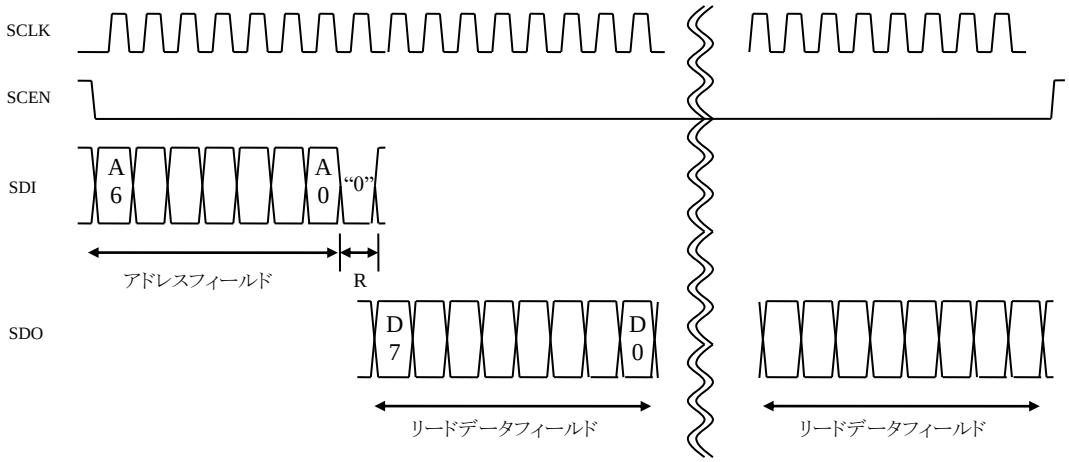
【ご注意】

アクセス先が[WR_TX_FIFO: B0 0x7C]、[RD_FIFO: B0 0x7F]の場合、アドレスのインクリメントが行われず連続して当該 FIFO の読み書きができます。

【ライト時】



【リード時】



●LSI 状態制御

本 LSI は以下のレジスタで LSI 状態を変更することができます。

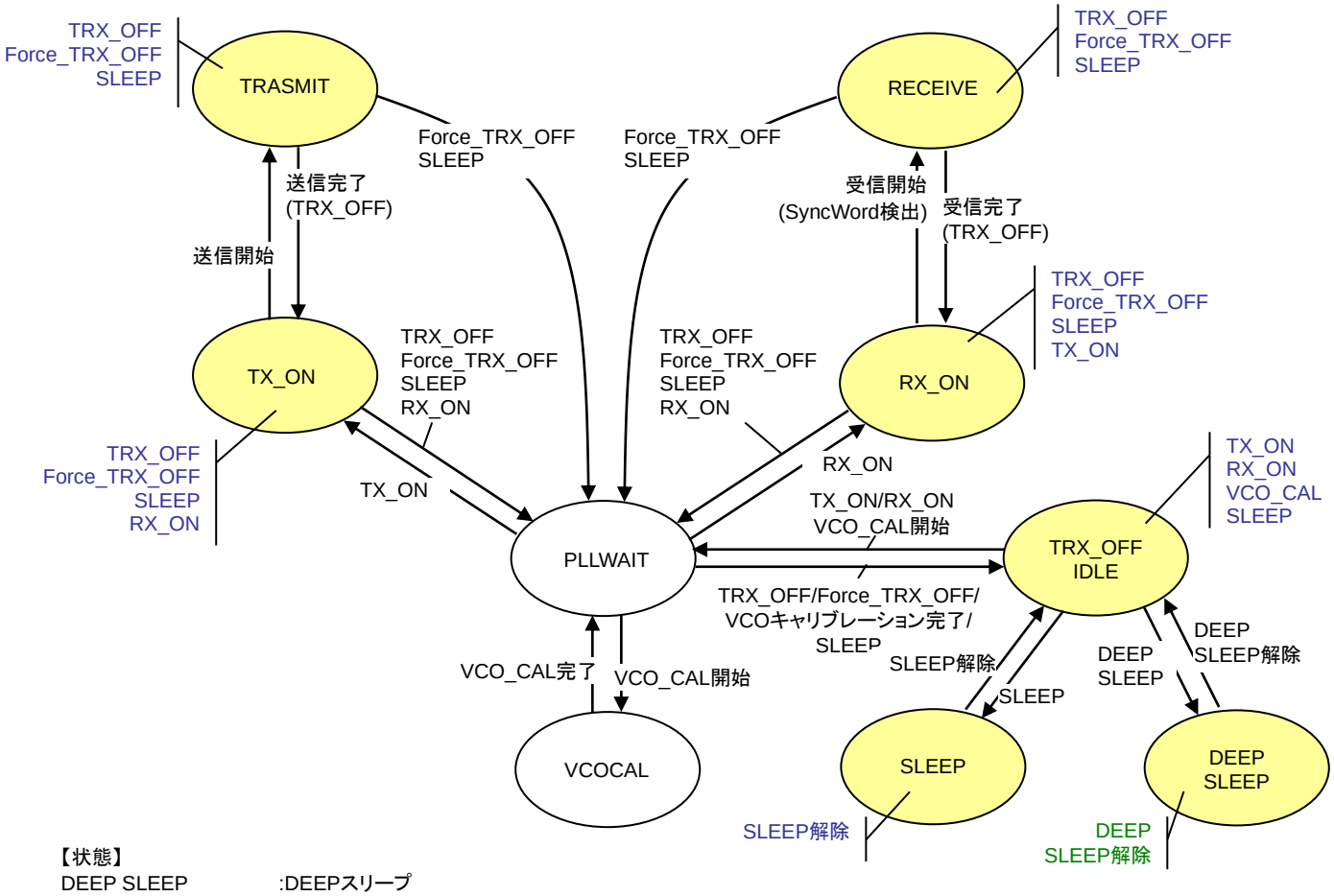
状態遷移命令	レジスタ設定
TX_ON	SET_TRX ([RF_STATUS: B0 0x0B(3-0)]) = 0x9
RX_ON	SET_TRX ([RF_STATUS: B0 0x0B(3-0)]) = 0x6
TRX_OFF	SET_TRX ([RF_STATUS: B0 0x0B(3-0)]) = 0x8
Force_TRX_OFF	SET_TRX ([RF_STATUS: B0 0x0B(3-0)]) = 0x3
SLEEP	SLEEP_EN([SLEEP/WU_SET: B0 0x2D(0)]) = 0b1
VCO_CAL	VCO_CAL_START([VCO_CAL_START: B0 0x6F(0)])= 0b1

また、本 LSI は自立的に LSI の状態を変更する機能があります(下表を参照してください)。それぞれの機能により LSI 状態変更条件を満たした場合、上表のレジスタを LSI が自動で書き換え、状態を変更します。

機能	レジスタ
FIFO ライト完了後自動 TXON	AUTO_TX_EN([RF_STATUS_CTRL: B0 0x0A(4)])
FIFO ライト途中での自動 TXON	FAST_TX_EN([RF_STATUS_CTRL: B0 0x0A(5)])
送信完了時の RF 状態遷移設定	TXDONE_MODE([RF_STATUS_CTRL: B0 0x0A(1-0)])
受信完了時の RF 状態遷移設定	RXDONE_MODE([RF_STATUS_CTRL: B0 0x0A(3-2)])
ウェイクアップタイマ機能動作による自動 RXON/TXON	[SLEEP/WU_SET:B0 0x2D]
SLEEP 復帰後の自動 VCO キャリブレーション	AUTO_VCOCAL_EN([VCO_CAL_START: B0 0x6F(4)])
動作継続タイマ動作による自動 SLEEP	[SLEEP/WU_SET: B0 0x2D]
高速電波チェックモードによる自動 SLEEP	FAST_DET_MODE_EN ([CCA_CTRL:B0 0x39(3)])
高速電波チェックモードによる自動 TX_ON	CCADONE_MODE([ED_CTRL:B0 0x41(6)])
送信中の PLL ロック外れ検出時自動 Force_TRX_OFF	PLL_LD_EN([PLL_LOCK_DETECT: B1 0x0B(7)])

それぞれの LSI 状態遷移制御は以下の状態遷移図に従います。

○LSI 状態遷移図



LSI 状態遷移図

○SLEEP 設定

DEEP_SLEEP 状態は IO 端子以外の全回路の電源が OFF した状態となります。
SLEEP 状態はメインレギュレータと 36MHz 発振回路が OFF し、サブレギュレータが ON している状態となります。
また、SLEEP 中の状態は以下のレジスタで設定できます。

機能	レジスタ
電源制御	PDN_EN([SLEEP/WU_SET: B0 0x2D(1)])
ウェイクアップ設定	WAKEUP_EN([SLEEP/WU_SET: B0 0x2D(4)])
ウェイクアップタイマ用クロックソース設定	WUT_CLK_SOURCE([SLEEP/WU_SET: B0 0x2D(2)])
内蔵 RC 発振回路制御	RC32K_EN ([CLK_SET2: B0 0x03(3)])

DEEP_SLEEP および代表的な SLEEP モードへの設定方法と、内部状態の対応関係は以下の通りとなります。

スリープモード	設定方法	メインレギュレータ	サブレギュレータ	36MHz 発振回路	RC 発振回路	低速タイマ	送信 FIFO
DEEP SLEEP	RESETN 端子="L" REGPDIN 端子="H"	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
SLEEP1	[SLEEP/WU_SET: B0 0x2D(5-0)] = 0b00_0111 [CLK_SET2: B0 0x03(3)] = 0b0	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF
SLEEP2	[SLEEP/WU_SET: B0 0x2D(5-0)] = 0b11_0111 [CLK_SET2: B0 0x03(3)] = 0b1	OFF	ON	OFF	ON	ON	OFF

DEEP_SLEEP ではレジスタ値を保持しません。一方、SLEEP 1 または SLEEP2 ではレジスタ値を保持します。ただし、SLEEP1 と SLEEP2 では送信 FIFO の電源が OFF されるため、送信 FIFO に格納したデータは保持されません。

○RF 状態設定に関する注意事項

本 LSI はレジスタ設定による RF 状態遷移命令以外に、LSI が自立的に RF 状態遷移命令を発行し、RF 状態変更を行う機能があります(「LSI 状態制御」参照)。このとき、レジスタ設定による RF 状態遷移命令と LSI 自立動作による RF 状態変更のタイミングが重なった場合、意図しない RF 状態となります。LSI 自立動作による RF 状態変更は以下のタイミングで行われます。レジスタ設定による RF 状態遷移命令タイミングと重ならないようにご注意ください。

機能	RF 状態変更 (変更前⇒変更後)	LSI 自立動作による RF 状態変更タイミング	推奨処理方法
自動送信	TRX_OFF/RX_ON⇒ TX_ON	送信データ受付完了割込み発生後、 {[TX_RATE_H/L: B1 0x02/03)]設定値 * 2 / 36}[μs]区間	RF 状態遷移完了割り込み発生後、または GET_TRX ([RF_STATUS:B0 0x0B(7-4)]) が期待する状態への変更後、[RF_STATUS:B0 0x0B]にライトアクセスを行う。
FAST_TX モード		FIFO ライト量がトリガレベル+1 以上となった後、 {[RX_RATE1_H/L:B1 0x04/05]設定値 * 5 / 36}[μs]区間	
送信完了後の RF 状態設定	TX_ON⇒TRX_OFF	データ送信完了割込み発生後、 {[TX_RATE_H/L:B1 0x02/03]設定値 * 2 / 36}[μs]区間	
	TX_ON⇒RX_ON		
	TX_ON⇒SLEEP		
受信完了後の RF 状態設定	RX_ON⇒TRX_OFF	データ受信完了割込み発生後、 {[RX_RATE1_H/L:B1 0x04/05]設定値 * 2 / 36}[μs]区間	
	RX_ON⇒TX_ON		
	RX_ON⇒SLEEP		
ウェイクアップタイマ	SLEEP⇒TX_ON	ウェイクアップタイマ満了後、ウェイクアップタイマ用低速クロック 1 周期区間	
	SLEEP⇒RX_ON		
	SLEEP⇒VCO_CAL⇒ TX_ON	ウェイクアップタイマ満了後、 VCO キャリブレーション完了割込みまで	VCO キャリブレーション完了割込み発生後、[RF_STATUS:B0 0x0B]および BANK2 にアクセスを行う
	SLEEP⇒VCO_CAL⇒ RX_ON		
動作継続タイマ	TX_ON⇒SLEEP	動作継続タイマ満了後、ウェイクアップタイマ用低速クロック 1 周期区間	RF 状態遷移完了割り込み発生後、または GET_TRX ([RF_STATUS:B0 0x0B(7-4)]) が期待する状態への変更後、[RF_STATUS:B0 0x0B]にライトアクセスを行う。
	RX_ON⇒SLEEP		
高速電波チェック	RX_ON⇒SLEEP	CCA 完了割込み発生後、6.3[μs]区間	
	RX_ON⇒TX_ON		
PLL ロック外れ検出	TX_ON⇒TRX_OFF	PLL ロック外れ検出割込み発生後、24[μs](*1)区間	割込み発生後、24μs(*1)経過後に[RF_STATUS:B0 0x0B]にライトアクセスを行う。

(*1) ランプダウン時間設定に依存します。

●スペクトラム拡散機能

本 LSI は IEEE802.15.4k に準拠した直接拡散スペクトラム拡散(Direct Sequence Spread Spectrum: DSSS)方式に対応したスペクトラム拡散機能を搭載しております。DSSS 方式は、雑音耐性、妨害耐性に優れている特徴を持ち、高品質データ通信を実現します。スペクトラム拡散機能では、プリアンブル、SyncWord 領域(SHR)とデータ領域(PSDU)に対し、個別に拡散率(8/16/32/64)を設定することができます。また、プリアンブル、SyncWord 領域とデータ領域に対し、個別に拡散符号(ゴールド系列から生成)を設定することが可能です。

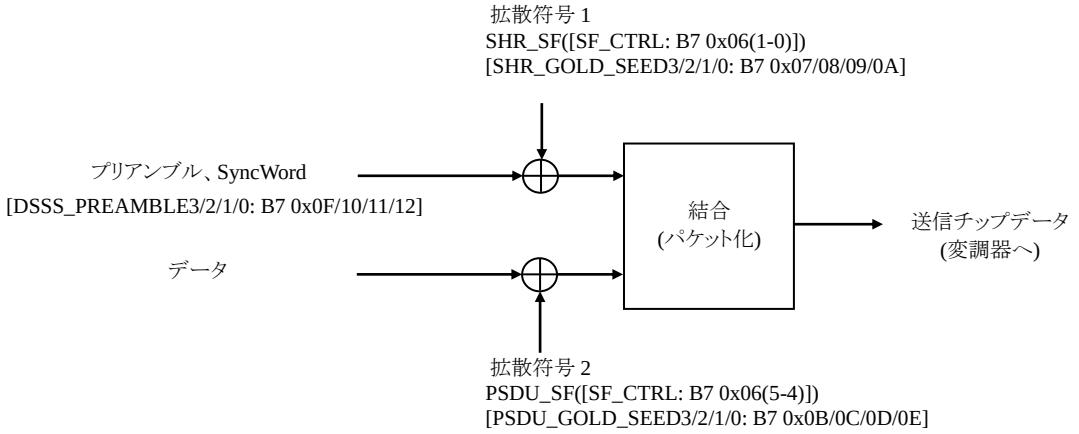
拡散率に応じたデータレートは下式により算出できます。

$$\text{実効データレート}\quad [bps] = \frac{\text{チップレート(Air上のレート)}[\text{cps}]}{\text{拡散率}}$$

なお、FEC 機能を用いた場合、符号化率が 1/2 であるため、上式から求められる実効データレートの 1/2 となります。また、「データレート設定機能」により設定するデータレートは Air 上のレート、すなわちチップレートを設定してください。

スペクトラム拡散機能は下表に示すレジスタにより設定することができます。

機能	レジスタ
DSSS イネーブル設定	DSSS_EN([DSSS_CTRL: B7 0x01(0)])
DSSS プリアンブル設定	DSSS_PR_LEN([DSSS_CTRL: B7 0x01(3)])
DSSS PDSU 長設定	PSDU_SIZE([DSSS_CTRL: B7 0x01(5-4)])
SHR 拡散率設定	SHR_SF([SF_CTRL: B7 0x06(1-0)])
PSDU 拡散率設定	PSDU_SF([SF_CTRL: B7 0x06(5-4)])
SHR ゴールド系列シード設定	[SHR_GOLD_SEED3/2/1/0: B7 0x07/08/09/0A]
PSDU ゴールド系列シード設定	[PSDU_GOLD_SEED3/2/1/0: B7 0x0B/0C/0D/0E]
DSSS プリアンブルパターン設定	[DSSS_PREAMBLE3/2/1/0: B7 0x0F/10/11/12]



※ ⊕ :排他的論理和を示します。

スペクトラム拡散回路

【ご注意】

1. 変調方式は BPSK 変調のみに対応しています。したがって、スペクトラム拡散機能を使用する場合は、MOD_TYPE([MOD_CTRL: B6 0x01(1-0)])を 0b01 に設定してください。
2. Air 上でのチップレートは 4.8～200kcps の範囲で設定可能です。
3. 拡散率(SF)=8、16 使用時、受信レベルが高い場合であっても周波数推定精度が悪く受信できない場合があります。SF=8、16 を使用する場合は、直前に他の SF(32/64)で受信し、周波数ずれ分([SS_AFC_OUT: B7 0x31])を確認してください。他の SF(32/64)で受信し確認した際の周波数ずれを SF=8、16 受信時に補正([SS_AFC_FIX_EN: B7 0x32]=0b1, [SS_AFC_FIX: B7 0x33]に SF=32/64 時の SS_AFC_OUT 値を入力)を行うことにより、SF=8、16 でパケット受信することが可能です。詳細は「フローチャート 受信時 スペクトラム拡散受信（SF=8,16 時）」をご参照ください。

●パケットハンドリング機能

○パケットフォーマット

本 LSI は下記に示すパケットフォーマット(FormatA/B/C/D)をサポートします。FIFO 使用モードまたは DIO モードにおいて以下の通りパケットハンドリングを行います。

・プリアンブル・SyncWord の自動付加（送信時） ・・・DIO/FIFO モード共通
・プリアンブル・SyncWord の自動検出（受信時） ・・・DIO/FIFO モード共通
・プリアンブル・SyncWord の自動削除（受信時） ・・・DIO/FIFO モード共通
・CRC データ付加 ・・・FIFO モードのみ
・CRC チェック、エラー通知 ・・・DIO/FIFO モード共通

パケットフォーマットに関するレジスタは以下の通りです。

機能	レジスタ
パケットフォーマット設定	PKT_FORMAT([PKT_CTRL1: B0 0x04(1-0)])
受信時パケット拡張モードオフ設定	RX_EXTPKT_OFF([PKT_CTRL1: B0 0x04(3)])
データ領域送出順設定	DAT_LF_EN([PKT_CTRL1: B0 0x04(4)])
L-field 送出順設定	LEN_LF_EN([PKT_CTRL1: B0 0x04(5)])
パケット拡張モード設定	EXT_PKT_MODE([PKT_CTRL1: B0 0x04(7-6)]) EXT_PKT_MODE2([DATA_SET2: B0 0x08(7-6)])
Length フィールド長設定	LENGTH_MODE([PKT_CTRL2: B0 0x05(1-0)])

本 LSI がサポートするパケットフォーマット一覧を示します。

パケットフォーマット	規格との対応	
Format A	Wireless M-Bus Format A	通常
		拡張 CI=0x8C
		拡張 CI=0x8D
		拡張 CI=0x8E
		拡張 CI=0x8F
Format B	Wireless M-Bus Format B	通常
		拡張 CI=0x8C
		拡張 CI=0x8D
		拡張 CI=0x8E
		拡張 CI=0x8F
Format C	汎用フォーマット(L-field あり)	
Format D	汎用フォーマット(L-field なし)	

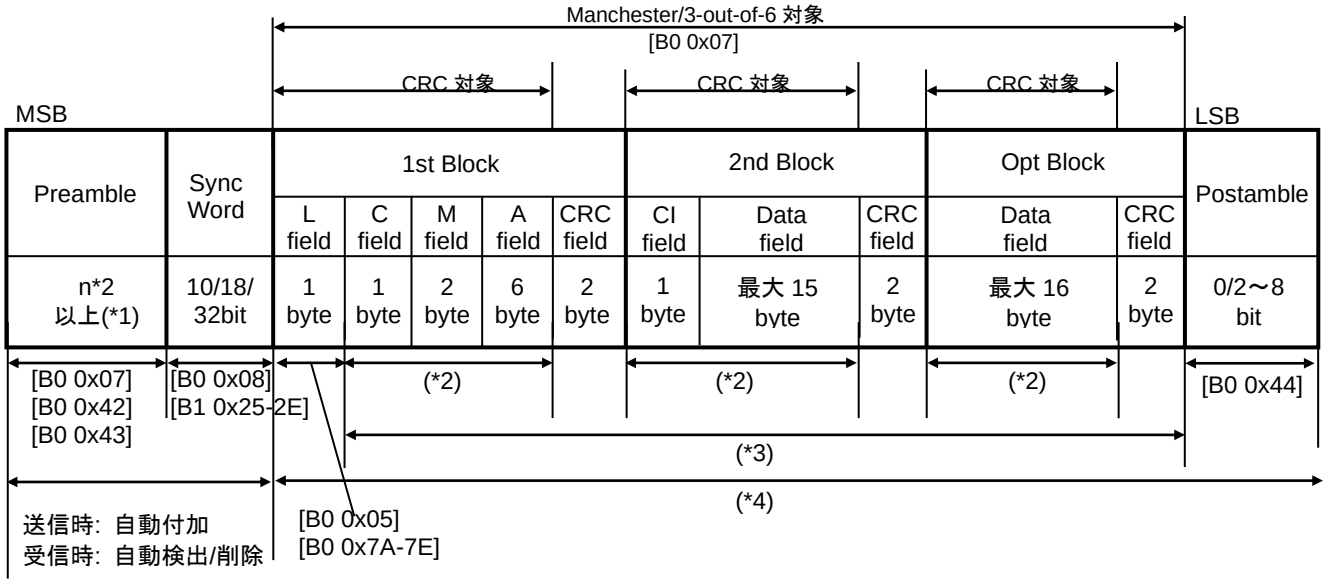
それぞれのパケットフォーマットの詳細は以下の通りです。

(1) Format A(Wireless M-Bus 対応)

Format A を使用する場合は、PKT_FORMAT([PKT_CTRL1: B0 0x04(1-0)])=0b00 を設定してください。

Format A は、1st Block および 2nd Block または Optional Block から構成されます。各 Block 毎に CRC2 バイトが付加されます。1st Block の先頭 1 バイト(L-field)がパケットの Length 値を示し、Length 値は 1st Block の C-field 以降の CRC、Postamble を除くデータのトータルバイト数を示します。また、Length 値に応じて 1st Block 以降の 2nd Block または Optional Block が追加されます。

以下の図で[] は関連するレジスタのアドレス[バンク番号, アドレス]を示します。



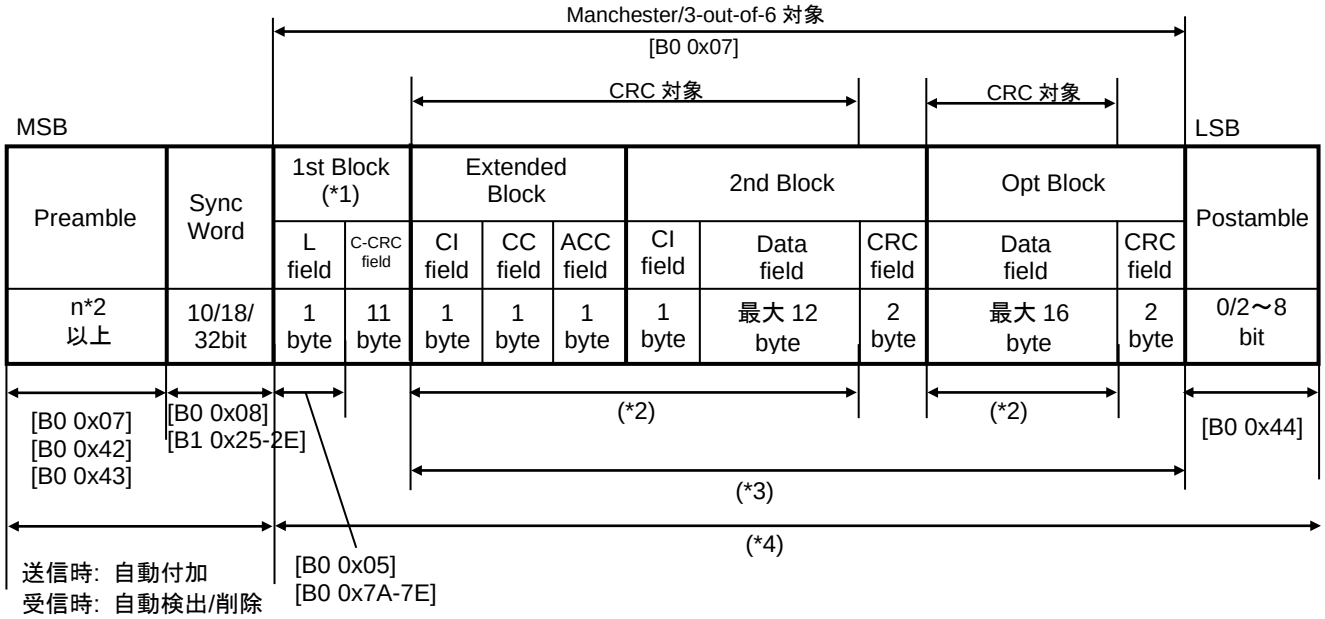
*1 n の最小値は Wireless M-Bus の Mode 毎に異なります。
*2 送信時の送信データ FIFO 格納領域を示します。
*3 受信時の受信データ FIFO 格納領域を示します。
*4 RXDIO_CTRL ([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])=0b10 設定時の DCLK/DIO 出力領域を示します。

Extended Link Layer フォーマットについて

2nd Block の先頭 1 バイト(CI-field)が 0x8C/0x8D/0x8E/0x8F の場合、Extended Link Layer フォーマットが適用され、パケットフォーマットが下記の通り拡張されます。

①CI-field = 0x8C の場合

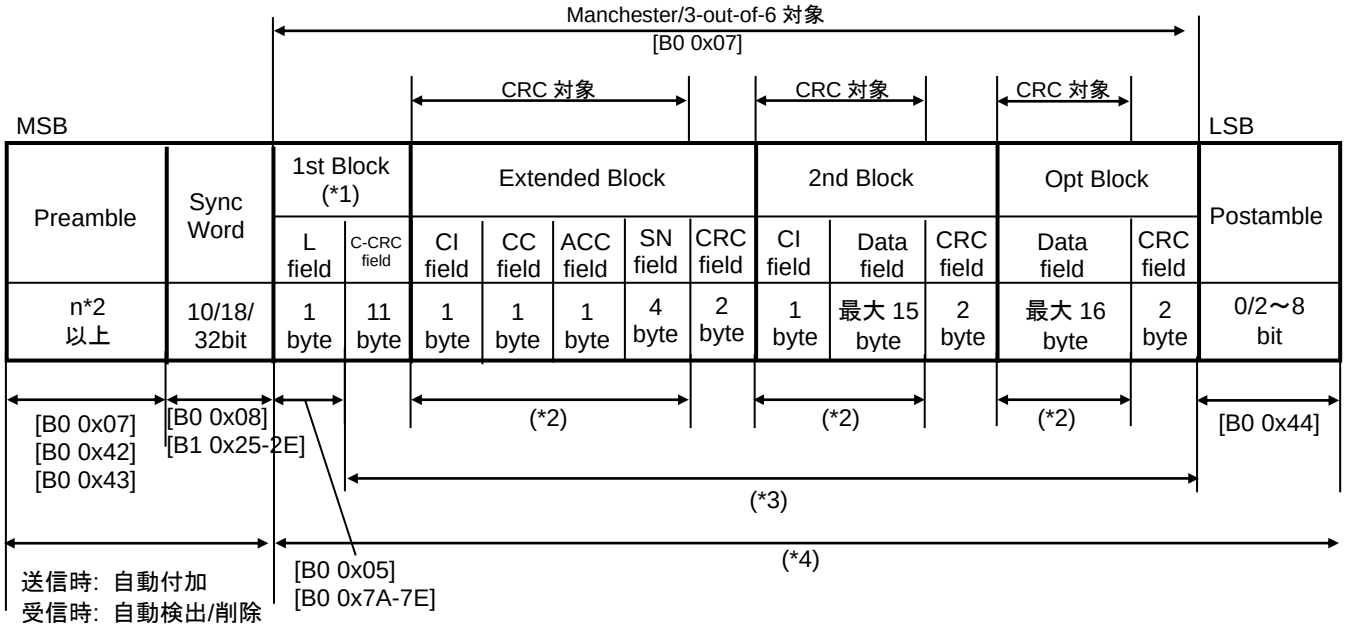
送信時、拡張フォーマットを使用する場合は、EXT_PKT_MODE[PKT_CTRL1: B0 0x04(7-6)])=0b01 および EXT_PKT_MODE2([DATA_SET2: B0 0x08(7-6)])=0b00 を設定してください。受信時、RX_EXTPKT_OFF([PKT_CTRL1: B0 0x04(3)])=0b0 設定した場合、受信パケットが拡張パケットフォーマットかどうかを自動判定し、受信処理を行います。



*1 1st Block は Format A の通常フォーマットと同じです。
*2 送信時の送信データ FIFO 格納領域を示します。
*3 受信時の受信データ FIFO 格納領域を示します。
*4 RXDIO_CTRL ([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])=0b10 設定時の DCLK/DIO 出力領域を示します。

②CI-field = 0x8D の場合

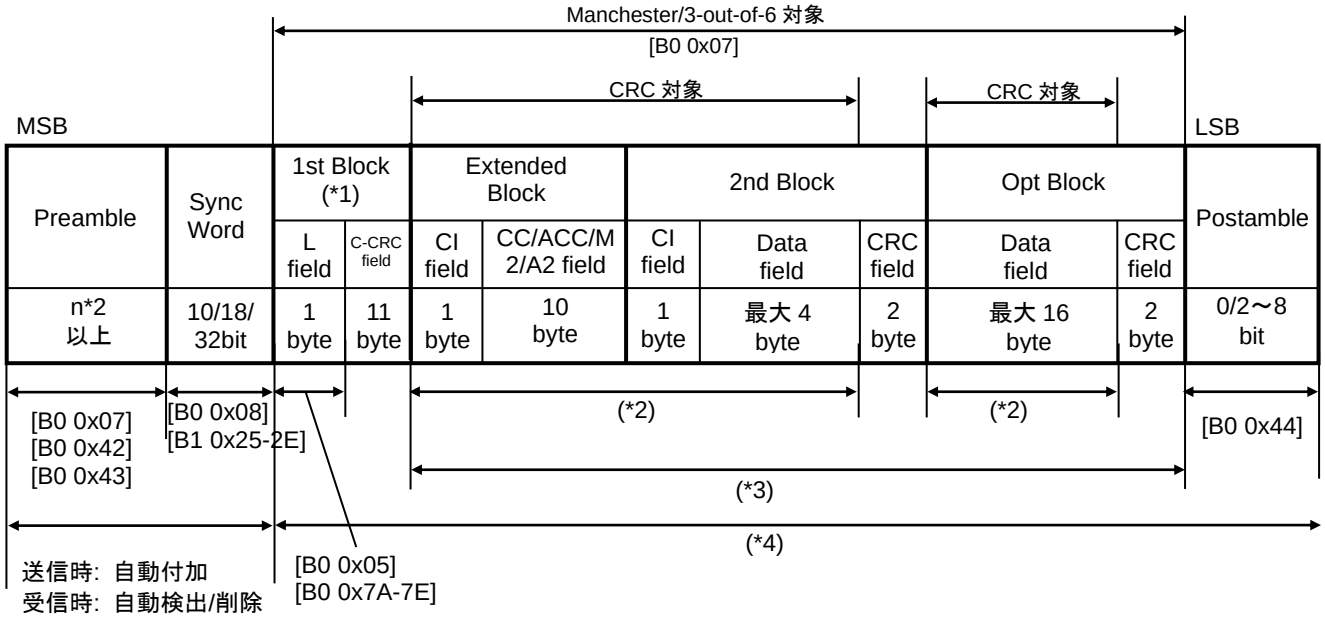
送信時、拡張フォーマットを使用する場合は、EXT_PKT_MODE[PKT_CTRL1: B0 0x04(7-6)])=0b10 および EXT_PKT_MODE2([DATA_SET2: B0 0x08(7-6)])=0b00 を設定してください。受信時、RX_EXTPKT_OFF([PKT_CTRL1: B0 0x04(3)])=0b0 設定した場合、受信パケットが拡張パケットフォーマットかどうかを自動判定し、受信処理を行います。



*1 1st Block は Format A の通常フォーマットと同じです。
*2 送信時の送信データ FIFO 格納領域を示します。
*3 受信時の受信データ FIFO 格納領域を示します。
*4 RXDIO_CTRL ([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])=0b10 設定時の DCLK/DIO 出力領域を示します。

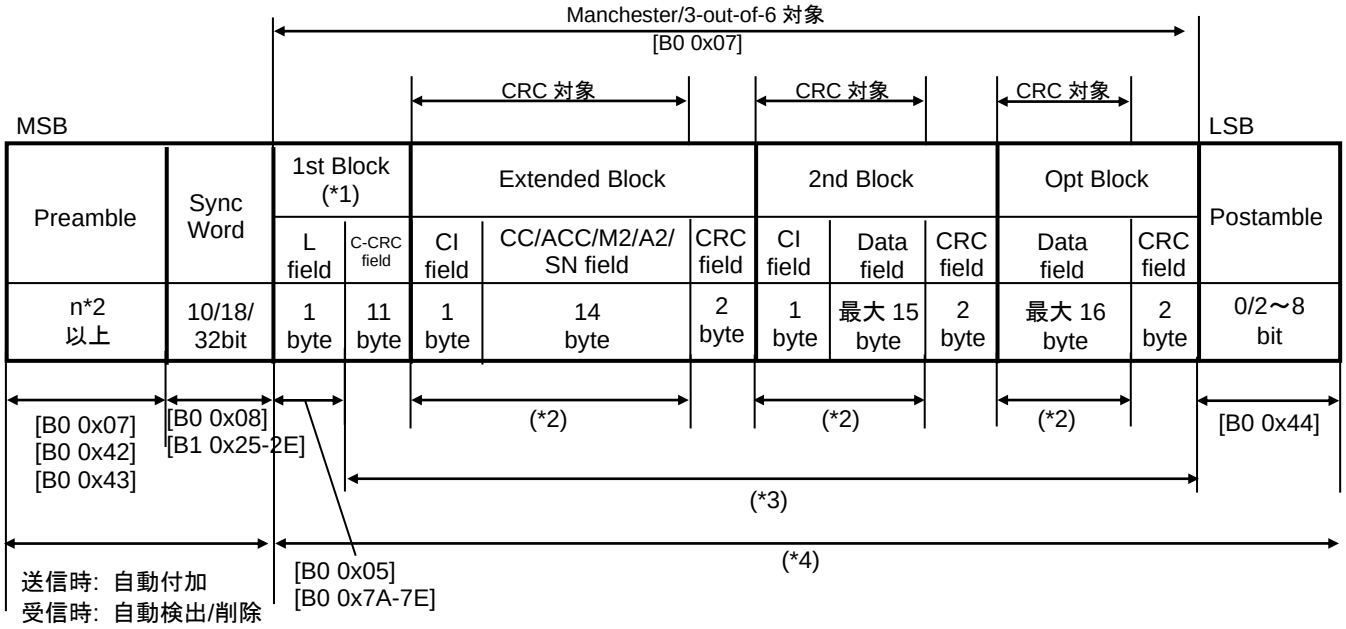
③CI-field = 0x8E の場合

送信時、拡張フォーマットを使用する場合は、EXT_PKT_MODE[PKT_CTRL1: B0 0x04(7-6)])=0b00 および EXT_PKT_MODE2([DATA_SET2: B0 0x08(7-6)])=0b01 を設定してください。受信時、RX_EXTPKT_OFF([PKT_CTRL1: B0 0x04(3)])=0b0 設定した場合、受信パケットが拡張パケットフォーマットかどうかを自動判定し、受信処理を行います。



*1 1st Block は Format A の通常フォーマットと同じです。
*2 送信時の送信データ FIFO 格納領域を示します。
*3 受信時の受信データ FIFO 格納領域を示します。
*4 RXDIO_CTRL ([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])=0b10 設定時の DCLK/DIO 出力領域を示します。

④CI-field = 0x8F の場合
送信時、拡張フォーマットを使用する場合は、EXT_PKT_MODE[PKT_CTRL1: B0 0x04(7-6)])=0b00 および EXT_PKT_MODE2([DATA_SET2: B0 0x08(7-6)])=0b10 を設定してください。受信時、RX_EXTPKT_OFF([PKT_CTRL1: B0 0x04(3)])=0b0 設定した場合、受信パケットが拡張パケットフォーマットかどうかを自動判定し、受信処理を行います。



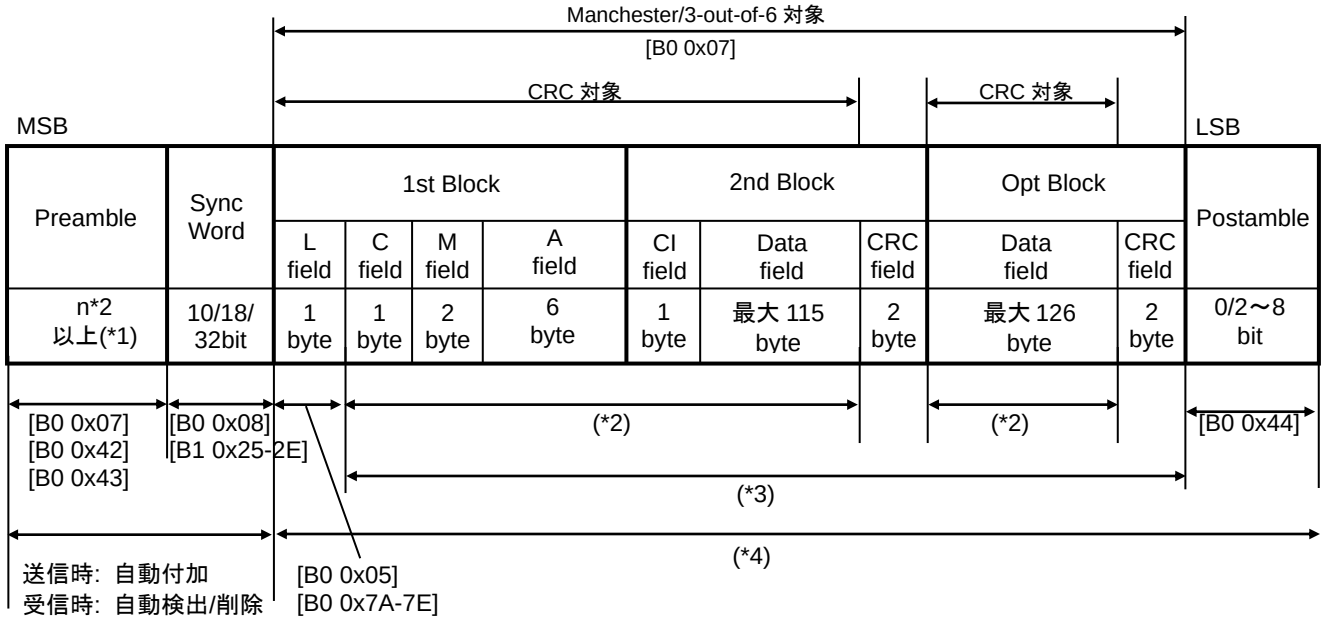
*1 1st Block は Format A の通常フォーマットと同じです。
*2 送信時の送信データ FIFO 格納領域を示します。
*3 受信時の受信データ FIFO 格納領域を示します。
*4 RXDIO_CTRL ([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])=0b10 設定時の DCLK/DIO 出力領域を示します。

(2) Format B(Wireless M-Bus 対応)

Format B を使用する場合は、PKT_FORMAT([PKT_CTRL1: B0 0x04(1-0)])=0b01 を設定してください。

Format B は、1st Block および 2nd Block または Optional Block から構成されます。2nd Block 以降の各 Block 毎に CRC2 バイトが付加されます。1st Block の先頭 1 バイト(L-field)がパケットの Length 値を示し、Length 値は 1st Block の C-field 以降から最終 CRC データまでのトータルバイト数を示します。また、Length 値に応じて 1st Block 以降に 2nd Block または Optional Block が追加されます。

以下の図で[] は関連するレジスタのアドレス[バンク番号, アドレス]を示します。



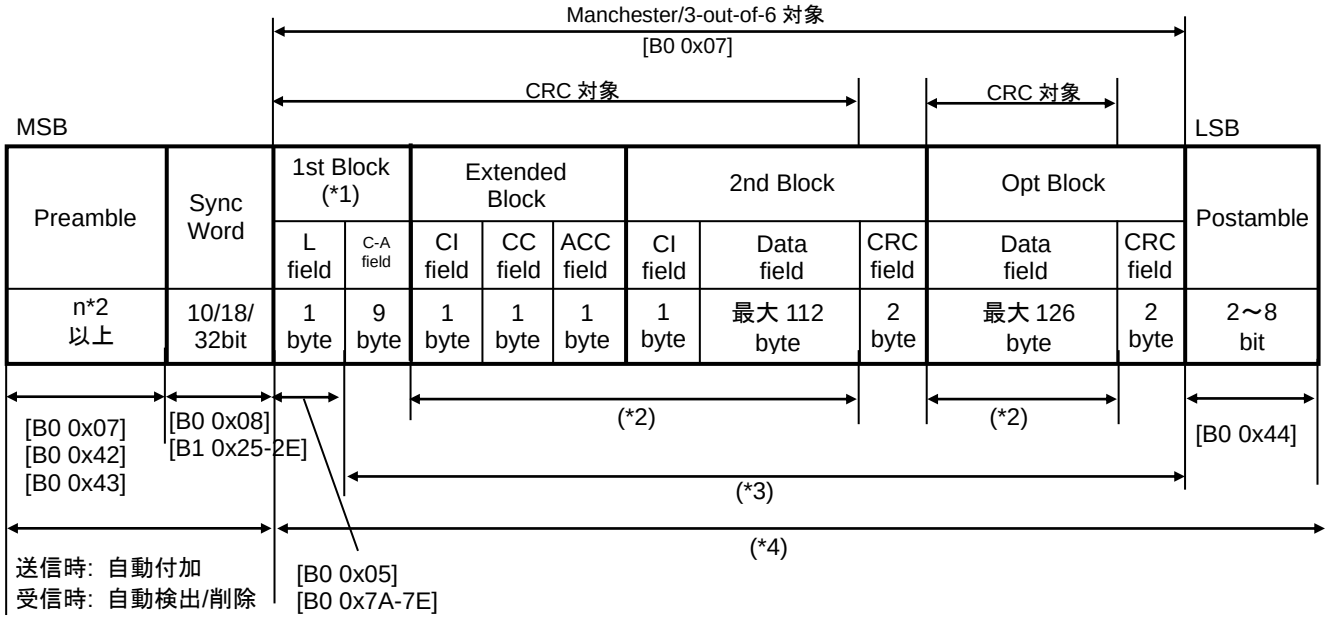
*1 n の最小値は Wireless M-Bus の Mode 毎に異なります。
*2 送信時の送信データ FIFO 格納領域を示します。
*3 受信時の受信データ FIFO 格納領域を示します。
*4 RXDIO_CTRL ([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])=0b10 設定時の DCLK/DIO 出力領域を示します。

Extended Link Layer フォーマットについて

2nd Block の先頭 1 バイト(CI-field)が 0x8C/0x8D/0x8E/0x8 の場合、Extended Link Layer フォーマットが適用され、パケットフォーマットが下記の通り拡張されます。

①CI-field = 0x8C の場合

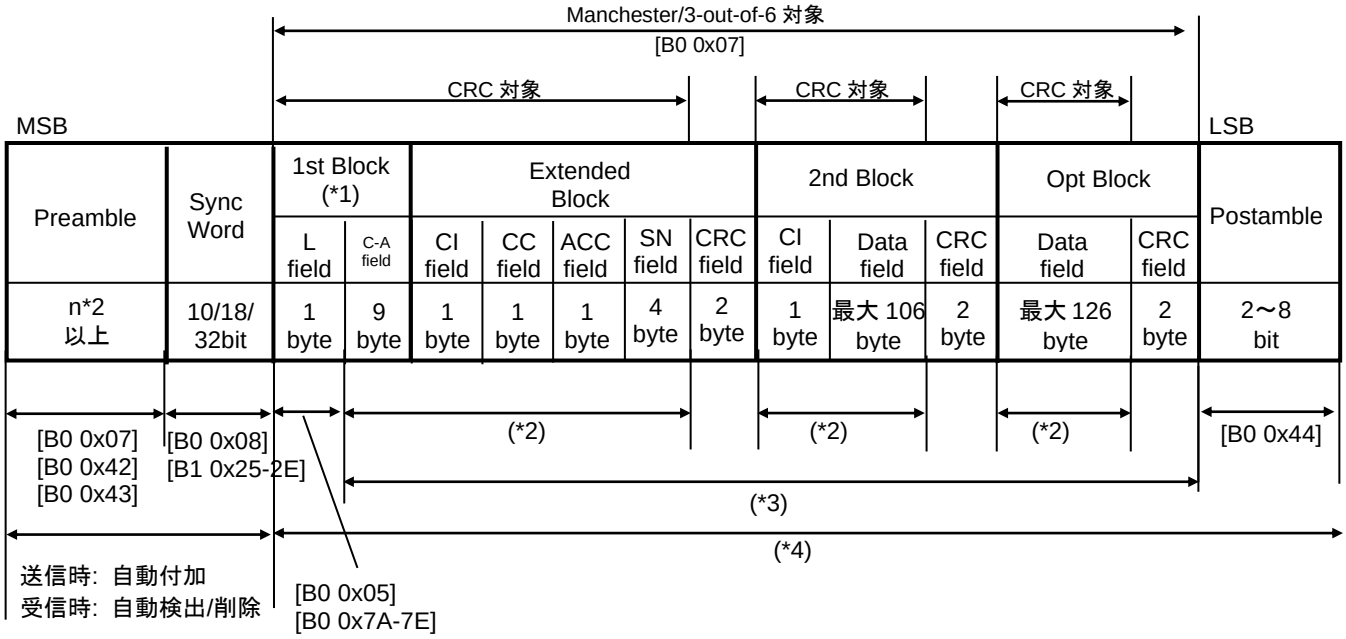
送信時、拡張フォーマットを使用する場合は、EXT_PKT_MODE[PKT_CTRL1: B0 0x04(7-6)])=0b01 および EXT_PKT_MODE2([DATA_SET2: B0 0x08(7-6)])=0b00 を設定してください。受信時、RX_EXTPKT_OFF([PKT_CTRL1: B0 0x04(3)])=0b0 設定した場合、受信パケットが拡張パケットフォーマットかどうかを自動判定し、受信処理を行います。



*1 1st Block は Format B の通常フォーマットと同じです。
*2 送信時の送信データ FIFO 格納領域を示します。
*3 受信時の受信データ FIFO 格納領域を示します。
*4 RXDIO_CTRL ([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])=0b10 設定時の DCLK/DIO 出力領域を示します。

②CI-field = 0x8D の場合

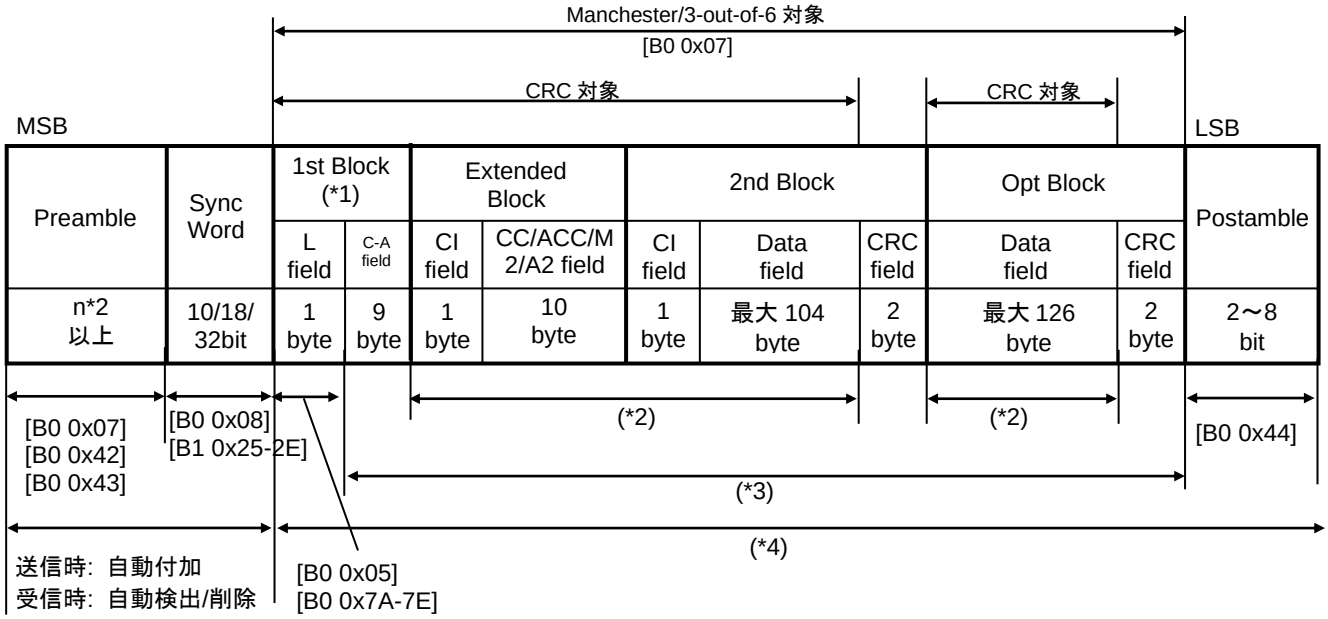
送信時、拡張フォーマットを使用する場合は、EXT_PKT_MODE[PKT_CTRL1: B0 0x04(7-6)])=0b10 および EXT_PKT_MODE2([DATA_SET2: B0 0x08(7-6)])=0b00 を設定してください。受信時、RX_EXTPKT_OFF([PKT_CTRL1: B0 0x04(3)])=0b0 設定した場合、受信パケットが拡張パケットフォーマットかどうかを自動判定し、受信処理を行います。



*1 1st Block は Format B の通常フォーマットと同じです。
*2 送信時の送信データ FIFO 格納領域を示します。
*3 受信時の受信データ FIFO 格納領域を示します。
*4 RXDIO_CTRL ([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])=0b10 設定時の DCLK/DIO 出力領域を示します。

③CI-field = 0x8E の場合

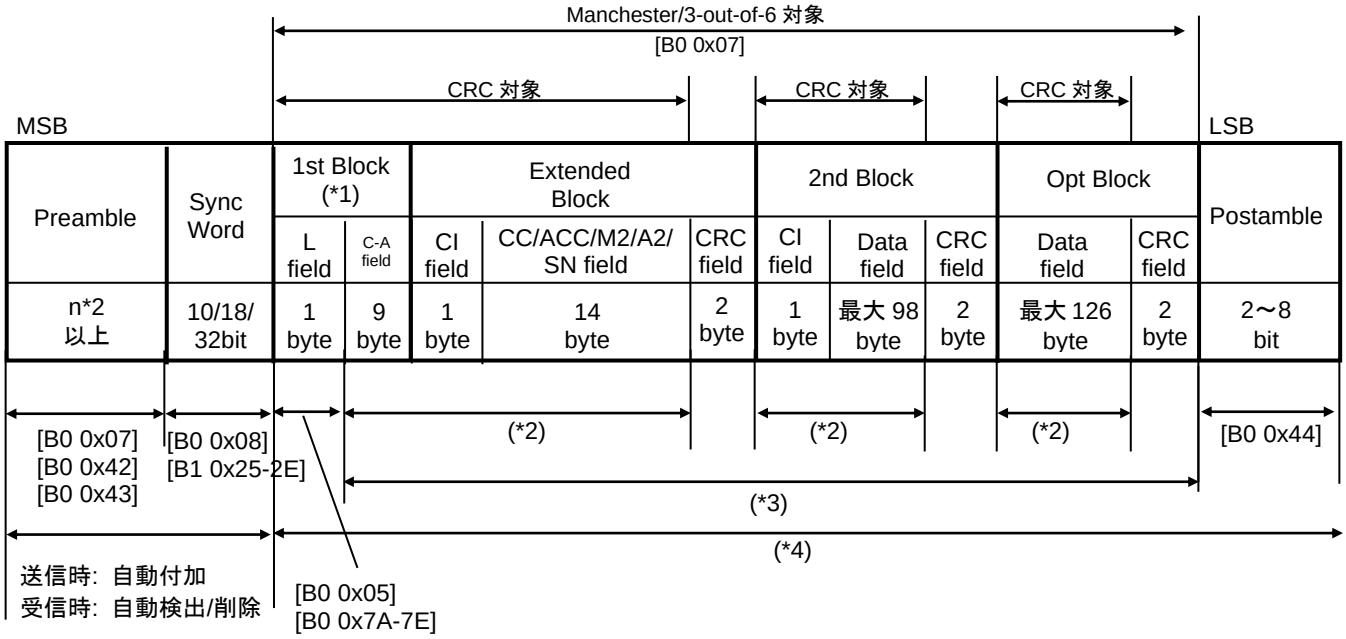
送信時、拡張フォーマットを使用する場合は、EXT_PKT_MODE[PKT_CTRL1: B0 0x04(7-6)])=0b00 および EXT_PKT_MODE2([DATA_SET2: B0 0x08(7-6)])=0b01 を設定してください。受信時、RX_EXTPKT_OFF([PKT_CTRL1: B0 0x04(3)])=0b0 設定した場合、受信パケットが拡張パケットフォーマットかどうかを自動判定し、受信処理を行います。



*1 1st Block は Format B の通常フォーマットと同じです。
*2 送信時の送信データ FIFO 格納領域を示します。
*3 受信時の受信データ FIFO 格納領域を示します。
*4 RXDIO_CTRL ([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])=0b10 設定時の DCLK/DIO 出力領域を示します。

④CI-field = 0x8F の場合

送信時、拡張フォーマットを使用する場合は、EXT_PKT_MODE[PKT_CTRL1: B0 0x04(7-6)])=0b00 および EXT_PKT_MODE2([DATA_SET2: B0 0x08(7-6)])=0b10 を設定してください。受信時、RX_EXTPKT_OFF([PKT_CTRL1: B0 0x04(3)])=0b0 設定した場合、受信パケットが拡張パケットフォーマットかどうかを自動判定し、受信処理を行います。



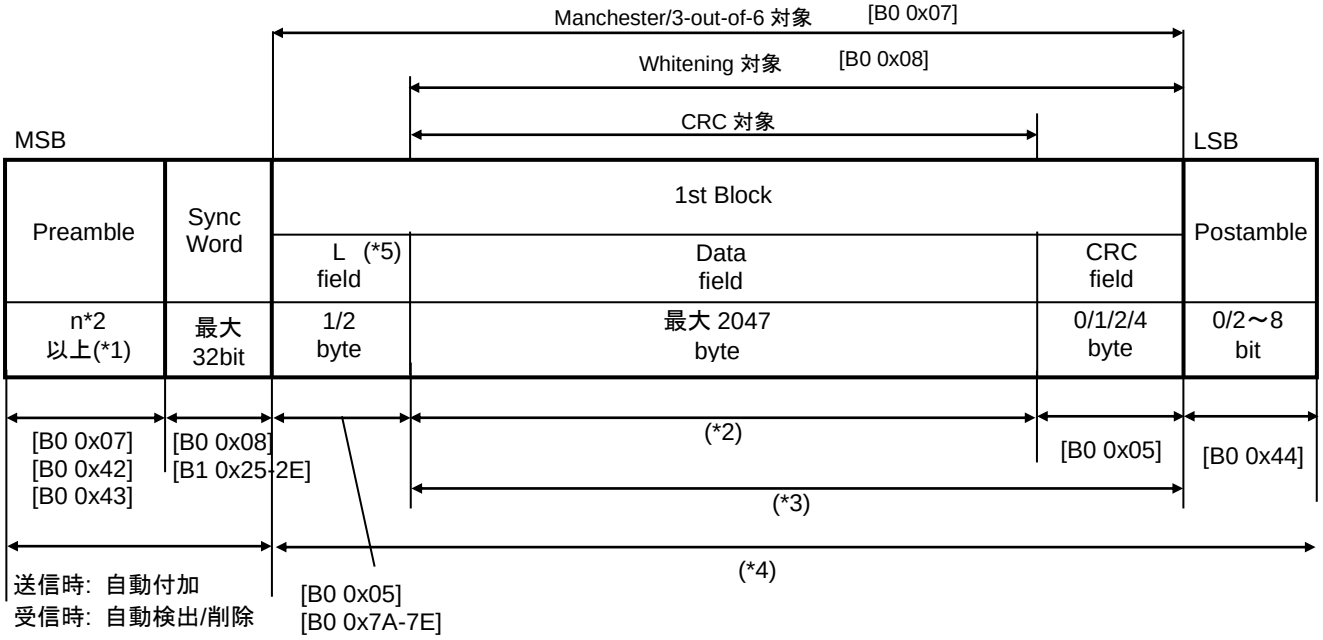
*1 1st Block は Format B の通常フォーマットと同じです。
*2 送信時の送信データ FIFO 格納領域を示します。
*3 受信時の受信データ FIFO 格納領域を示します。
*4 RXDIO_CTRL ([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])=0b10 設定時の DCLK/DIO 出力領域を示します。

(3) Format C(汎用フォーマット)

Format C を使用する場合は、PKT_FORMAT([PKT_CTRL1: B0 0x04(1-0)])=0b10 を設定してください。

Format C は、1st Block のみから構成され、Data-field の後に CRC-field(0/1/2 バイト選択可)が付加されます。1st Block の先頭 1 または 2 バイト(L-field)がパケットの Length 値を示し、Length 値は Data-field 以降から最終 CRC データまでのトータルバイト数を示します。また、Whitening 機能をサポートします。

以下の図で[] は関連するレジスタのアドレス[バンク番号, アドレス]を示します。



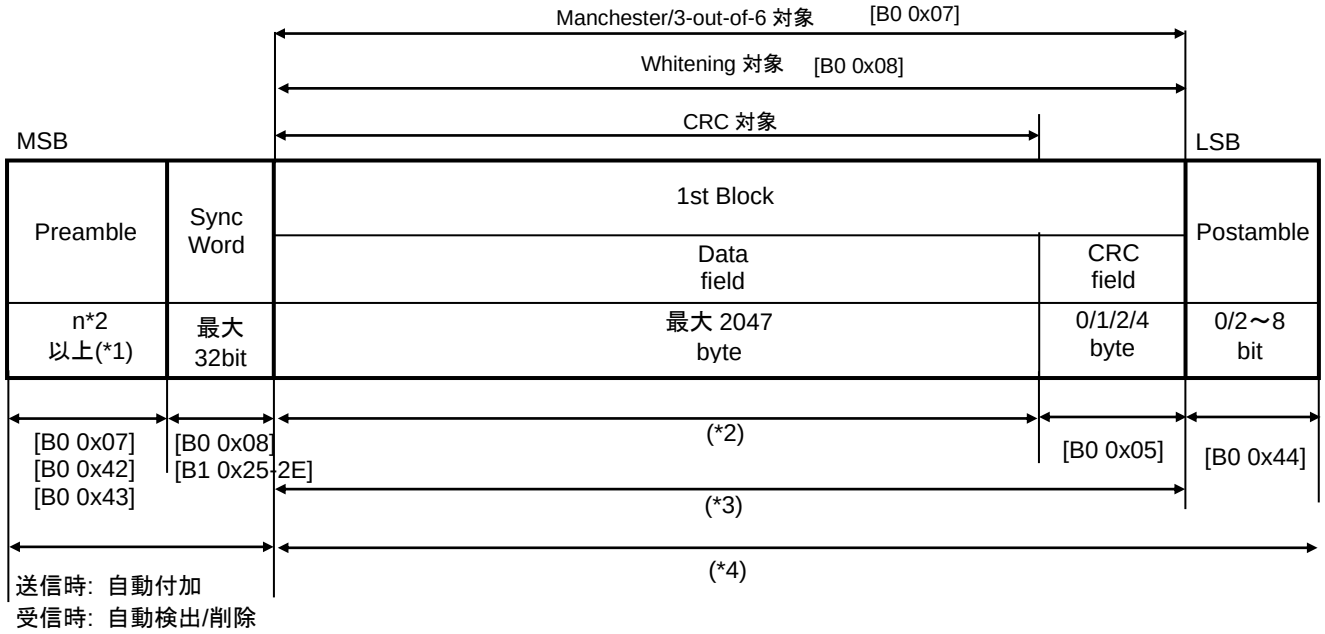
*1 プリアンブル長(n)は任意の値を設定可能です。
*2 送信時の送信データ FIFO 格納領域を示します。
*3 受信時の受信データ FIFO 格納領域を示します。
*4 RXDIO_CTRL ([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])=0b10 設定時の DCLK/DIO 出力領域を示します。
*5 IEEE802.15.4g には、L-field を 2 バイトモード(LENGTH_MODE([PKT_CTRL: B0 0x05(1-0)])=0b01)に設定することにより対応可能です。L-field と IEEE802.15.4g で規定される PHR フォーマットとの対応関係は以下の通りです。その他、IEEE802.15.4g に対応するための設定については、「その他の設定-IEEE802.15.4g モード設定」をご参照ください。なお、ML7404 は Mode Switch 機能に対応しておりません。

L-field		[TX_PKT_LEN: B0 0x7A]					[TX_PKT_LEN: B0 0x7B]
		Bit 7	Bit 6-5	Bit 4	Bit 3	Bit 2-0	Bit 7-0
IEEE802.15.4g PHR	Bits	0	1-2	3	4	5-7	8-15
	Function	Mode Swith	Reserved	FCS Type	Data Whitening	Frame Length(L_{10}-L_0)	

(4) Format D(汎用フォーマット)

Format D を使用する場合は、PKT_FORMAT([PKT_CTRL1: B0 0x04(1-0)])=0b11 を設定してください。
Format D は 1st Block のみから構成されます。1st Block の先頭は Data-field から始まり、Data-field の後に CRC-field(0/1/2 バイト選択可)が付加されます。Length 値は Data-field 以降から最終 CRC データまでのトータルバイト数を示し、[TX_PKT_LENGTH: B0 0x7A/0x7B]または[RX_PKT_LENGTH: B0 0x7D/0x7E]で設定します。

以下の図で[] は関連するレジスタのアドレス[バンク番号, アドレス]を示します。



*1 プリアンブル長(n)は任意の値を設定可能です。
*2 送信時の送信データ FIFO 格納領域を示します。
*3 受信時の受信データ FIFO 格納領域を示します。
*4 RXDIO_CTRL ([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])=0b10 設定時の DCLK/DIO 出力領域を示します。

○CRC 機能

本 LSI は CRC32/CRC16/CRC8 をサポートし、送受信時に CRC 自動付加（送信時）、CRC 自動チェック（受信時）を行います。自動付加および CRC 自動チェックは以下のモードで行います。また、下表に示すレジスタにより設定することができます。

・FIFO モード　･･･RXDIO_CTRL ([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)]) = 0b00
・DIO モード　･･･RXDIO_CTRL ([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)]) = 0b11

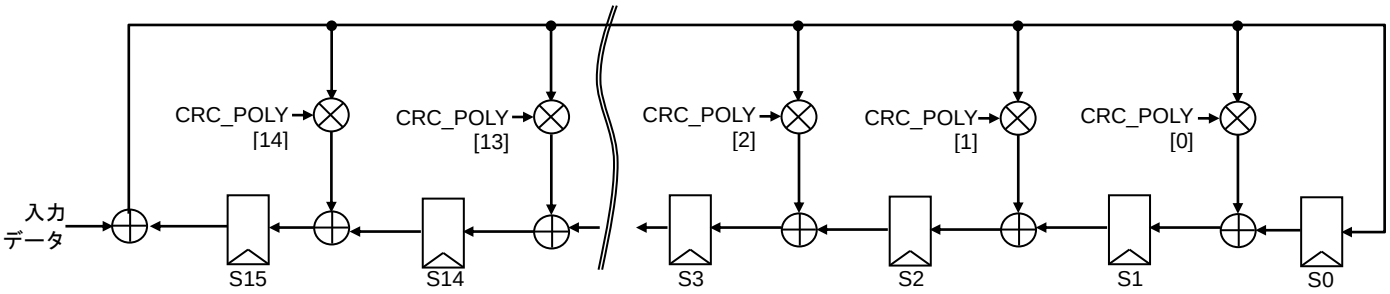
機能	レジスタ
送信 CRC 設定	TX_CRC_EN([PKT_CTRL2: B0 0x05(2)])
受信 CRC 設定	RX_CRC_EN([PKT_CTRL2: B0 0x05(3)])
CRC 長設定	CRC_LEN([PKT_CTRL2: B0 0x05(5-4)])
CRC 補数出力 OFF 設定	CRC_COMP_OFF([PKT_CTRL2: B0 0x05(6)])
CRC 生成多項式設定	[CRC_POLY3/2/1/0: B1 0x16/17/18/19]
CRC エラー表示	[CRC_ERR_H/M/L: B0 0x13/14/15]
CRC 長設定 2 イネーブル	CRC_LEN2_EN([CRC_ERR_H: B0 0x13(7)])
CRC 長設定 2	CRC_LEN2([CRC_ERR_H: B0 0x13(6-5)])

CRC の生成多項式は任意に設定可能です。初期設定は下式の通りです。

CRC16 生成多項式 $= x^{16} + x^{13} + x^{12} + x^{11} + x^{10} + x^{8} + x^{6} + x^{5} + x^{2} + 1$ (初期設定)

※最終 CRC データは反転されます。

CRC データは以下回路によって生成され、[CRC_POLY3/2/1/0]を設定することで任意の CRC 生成多項式に対応します。生成されたデータは左側(S15)のビットから送出されます。CRC 長に満たないデータに対して CRC 機能を使用する場合(CRC32 の 3 バイトデータのみ)は、データ"0"を追加して CRC 演算を行います。CRC チェック結果は[CRC_ERR_H/M/L]に表示します。FormatA/B は FormatC と異なり 1 パケット内に複数の CRC-field を持つ構成です。複数の CRC-field に対しては、L-field に最も近い CRC チェック結果が CRC_ERR[0]に表示され、以降 CRC_ERR の MSB 側に順に表示します。



※ ⊕ :排他的論理和を示します。

CRC16 生成回路例

一般的な生成多項式と[CRC_POLY3/2/1/0]レジスタ設定との対応関係は以下の通りです。CRC 長については CRC_LEN にて設定してください。

CRC 生成多項式		[CRC_POLY3/2/1/0]			
		(B1 0x16)	(B1 0x17)	(B1 0x18)	(B1 0x19)
CRC8	$x^{8} + x^{2} + x + 1$	0x00	0x00	0x00	0x03
CRC16	$x^{16} + x^{12} + x^{5} + 1$	0x00	0x00	0x08	0x10
	$x^{16} + x^{15} + x^{2} + 1$	0x00	0x00	0x40	0x02
	$x^{16} + x^{13} + x^{12} + x^{11} + x^{10} + x^{8} + x^{6} + x^{5} + x^{2} + 1$	0x00	0x00	0x1E	0xB2
CRC32	$x^{32} + x^{26} + x^{23} + x^{22} + x^{16} + x^{12} + x^{11} + x^{10} + x^{8} + x^{7} + x^{5} + x^{4} + x^{2} + x + 1$	0x02	0x60	0x8E	0xDB

また、本 LSI は CRC 演算時の CRC 長とパケットに付加(送信時)またはチェック(受信時)する時の CRC 長を個別に設定することができます。この場合、CRC_LEN2_EN、CRC_LEN2 および CRC_LEN にて設定してください。

CRC 演算時の CRC 長	CRC 付加または チェック時の CRC 長	CRC_LEN2_EN (B0 0x13)	CRC_LEN2 (B0 0x13)	CRC_LEN (B0 0x05)
CRC8	CRC8	0	-	0b00
CRC16	CRC8	1	0b01	0b00
	CRC16	0	-	0b01
CRC32	CRC8	1	0b10	0b00
	CRC16	1	0b10	0b01
	CRC32	0	-	0b10

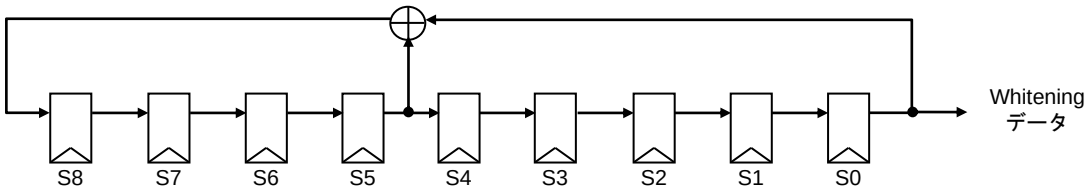
ただし、CRC 演算時の CRC 長とパケットに付加(送信時)またはチェック(受信時)する時の CRC 長を変える場合、「CRC 演算時の CRC 長」≧「パケットに付加(送信時)またはチェック(受信時)する時の CRC 長」になるよう設定する必要があります。

○DataWhitening 機能

本 LSI は DataWhitening 機能をサポートします。パケットフォーマット A/B では C-field 以降、パケットフォーマット C では Data-field 以降が Whitening 対象領域であり、下記 9 ビットの擬似ランダム雑音系列(PN9)生成回路にて生成されたデータを送信直前の送信データ(3-out-of-6 符号化後データ)と XOR 処理を行い、送信します。PN9 生成回路のシフトレジスタ初期値は[WHT_INIT_H/L: B1 0x64/65]にて設定可能です。また、PN9 の生成多項式は、[WHT_CFG: B1 0x66]にて任意の生成多項式に設定可能です。

・DataWhiteing 設定イネーブル ･･･WHT_SET ([DATA_SET2: B0 0x08(0)])
・DataWhiteing 初期値 ･･･[WHT_INIT_H/L: B1 0x64/65]
・Whitening 生成多項式 ･･･[WHT_CFG: B1 0x66]

生成多項式設定機能は、[WHT_CFG: B1 0x66(0)]が 0b1 設定されている場合、シフトレジスタ S1 出力を XOR にフィードバックします。同様に[WHT_CFG: B1 0x66(1)] が 0b1 設定されている場合、シフトレジスタ S2 出力を XOR にフィードバックし、[WHT_CFG: B1 0x66(7-2)]も同様の機能をもっています。また、WHT_CFG に複数ビット 0b1 を設定することも可能であり、任意の生成多項式を設定することができます。



※ ⊕ :排他的論理和を示します。

Whitening データ生成回路例
(生成多項式: $x^9 + x^5 + 1$)

代表的な PN9 生成多項式と[WHT_CFG]設定との対応関係例は以下に示します。

PN9 生成多項式	[WHT_CFG: B1 0x66]
$x^9 + x^4 + 1$	0x08
$x^9 + x^5 + 1$	0x10

○SyncWord 検出機能

本LSIはSyncWordパターンの検出機能を持っています。2面のSyncWordパターン格納エリアを持つことにより、Wireless M-Busで規定される二つのパケットフォーマット(Format A/B)を自動判定可能です(詳細はWireless M-Bus規格書を参照してください)。パケットフォーマットの検出結果を、SW_DET_RSLT([STM_STATE:B0 0x77(5)])で表示します。また、Format C/D にて SyncWord2 面待ち設定をした場合、2 つの SyncWord の待ち受けが可能です。ただし、検出結果は表示しません。

1）送信時

SYNCWORD_SEL ([DATA_SET2: B0 0x08(4)])にて設定されたSyncWordパターンが選択されます。送信するSyncWord長は SYNC_WORD_LEN ([SYNC_WORD_LEN: B1 0x25(5-0)])を設定することで、各 SyncWord パターンの上位ビットから設定する SyncWord 長を送信します。

SYNCWORD_SEL	送信される SyncWord パターン
0	SYNCWORD1_SET[31:0] ([SYNCWORD1_SET3/2/1/0: B1 0x27/28/29/2A])
1	SYNCWORD2_SET[31:0] ([SYNCWORD2_SET3/2/1/0: B1 0x2B/2C/2D/2E])

例) SyncWord パターンと SyncWord 長について

以下レジスタ設定をした場合、SYNCWORD1_SET[17:0]の 18 ビットが上位ビットから順に送信されます。

[SYNC_WORD_LEN: B1 0x25]=0x12
SYNCWORD_SEL ([DATA_SET2: B0 0x08(4)]) = 0b0

以下レジスタ設定をした場合、SYNCWORD2_SET[23:0]の 24 ビットが上位ビットから順に送信されます。

[SYNC_WORD_LEN: B1 0x25]=0x18
SYNCWORD_SEL ([DATA_SET2: B0 0x08(4)]) = 0b1

2）受信時

SYNCWORD_SEL、2SW_DET_EN ([DATA_SET2: B0 0x08(5)])の設定により下表の通り 1 面待ちと 2 面待ち動作を切り替えます。パケットフォーマットの自動判定機能は 2SW_DET_EN=0b1 設定かつ FormatA/B 設定時のみ有効です。2 面待ち時のパケットフォーマット自動判定結果は SW_DET_RSLT[STM_STATE: B0 0x77(5)]に表示します。

2SW_DET_EN	SYNCWORD_SEL	検出時に参照する SyncWord パターン	SyncWord 検出動作	パケットフォーマットの自動判定	SyncWord 以降のデータ処理
0	0	SYNCWORD_SET1[31:0]	1 面待ち	なし	各 Format 設定に従って処理します
0	1	SYNCWORD_SET2[31:0]	1 面待ち	なし	各 Format 設定に従って処理します
1	-	SYNCWORD_SET1[31:0] SYNCWORD_SET2[31:0]	2 面待ち	あり	【FormatA または FormatB 設定】 SYNCWORD1_SET と一致した場合は Format A、SYNCWORD2_SET と一致した場合は Format B にて処理します 【FormatC/D 設定】 FormatC/D にて処理します

検出時に参照するSyncWordパターンのSyncWord長はSYNC_WORD_LEN ([SYNC_WORD_LEN: B1 0x25(5-0)])により変更可能です。このとき、SYNCWORD1_SETまたはSYNCWORD2_SETの下位側からSyncWord長分のSyncWordパターンが参照するパターンとなります。

例) SyncWord長について
以下レジスタ設定をした場合、SYNCWORD1_SET[17:0]またはSYNCWORD2_SET[17:0]の18ビットがSyncWord検出時の参照パターンとなります。このとき、上位ビット(bit31-18)は検出対象となりません。
[SYNC_WORD_LEN: B1 0x25]=0x12
[SYNC_WORD_EN: B1 0x26]=0x0F

また、SyncWordパターンに対し、8ビット毎に検出時の参照ビットとするか否かのイネーブル制御が可能です。イネーブル制御とSyncWord検出時に参照するSyncWordパターンとの関係は以下の通りとなります。ただし、SyncWord長設定がイネーブル制御を行うビットの範囲外である場合、期待するSyncWord検出はできませんのでご注意ください。

[SYNC_WORD_EN] レジスタ (B1 0x26)	SYNCWORD*_SET				SyncWord検出動作
	[31:24]	[23:16]	[15:8]	[7:0]	
0000					設定禁止
0001	D.C.(※1)			ON	[7:0]のみ有効です。 [7:0]検出後SyncWord検出となります。
0010	D.C.		ON	D.C.	[15:8] のみ有効です。 [7:0]検出後SyncWord検出となります。
0011	D.C.		ON	ON	[15:0] のみ有効です。 [7:0]検出後SyncWord検出となります。
0100	D.C.	ON	D.C.		[23:16]のみ有効です。 [7:0]検出後SyncWord検出となります。
0101	D.C.	ON	D.C.	ON	[23:16]と[7:0]のみ有効です。 [7:0]検出後SyncWord検出となります。
0110	D.C.	ON	ON	D.C.	[23:8]のみ有効です。 [7:0]検出後SyncWord検出となります。
0111	D.C.	ON	ON	ON	[23:0]のみ有効です。 [7:0]検出後SyncWord検出となります。
1000	ON	D.C.			[31:24]のみ有効です。 [7:0]検出後SyncWord検出となります。
1001	ON	D.C.		ON	[31:24]と[7:0]のみ有効です。 [7:0]検出後SyncWord検出となります。
1010	ON	D.C.	ON	D.C.	[31:24]と[15:8]のみ有効です。 [7:0]検出後SyncWord検出となります。
1011	ON	D.C.	ON	ON	[31:24]と[15:0]のみ有効です。 [7:0]検出後SyncWord検出となります。
1100	ON	ON	D.C.		[31:16]が有効です。 [7:0]検出後SyncWord検出となります。
1101	ON	ON	D.C.	ON	[31:16]と[7:0]のみ有効です。 [7:0]検出後SyncWord検出となります。
1110	ON	ON	ON	D.C.	[31:8]が有効です。 [7:0]検出後SyncWord検出となります。
1111	ON	ON	ON	ON	[31:0]が有効です。 [7:0]検出後SyncWord検出となります。

※1 表中のD.C.はDon't Careを意味します。
※2 SyncWord検出条件として、SyncWordパターン以外にSyncWordと連続するプリアンブルパターンを含めることができます。プリアンブルパターンを含める場合は、RXPR_LEN([SYNC_CONDITION1: B0 0x45(5:0)])を設定してください。

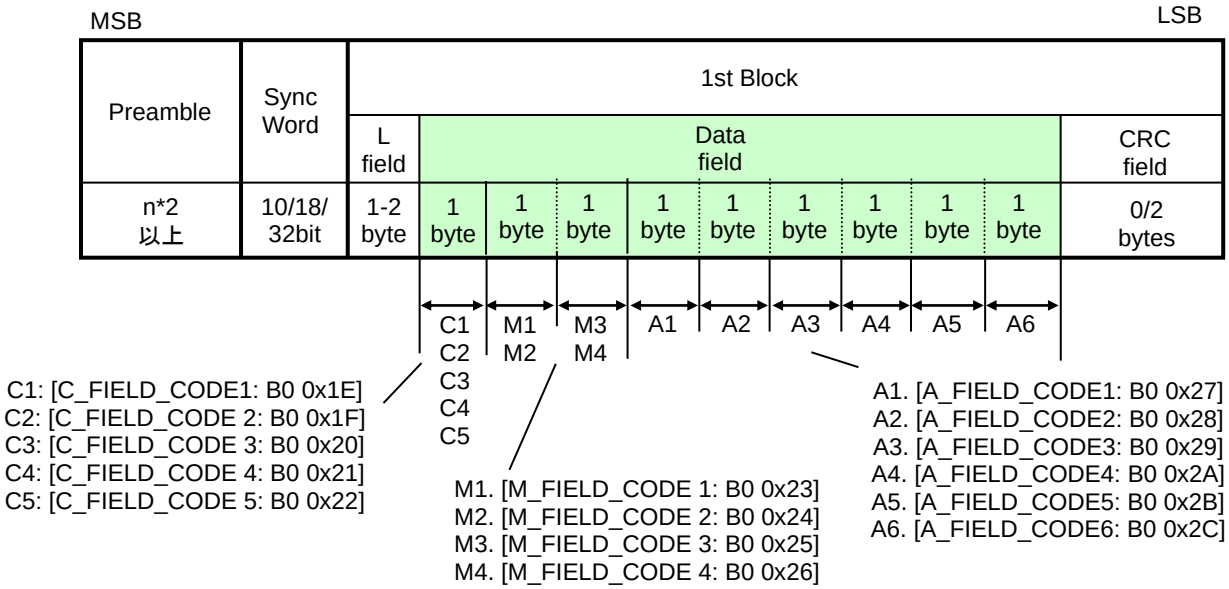
○Field チェック機能

本 LSI は受信パケットの C-field 以降 9 バイト(Format A/B)、または Data-field 以降 9 バイト(Format C)を比較し、一致または不一致時に割込みにて通知する機能(Field チェック機能)を持っています。Field チェック設定は以下レジスタにて設定可能です。Field チェック機能は L-field の判別を行う FIFO モード(RXDIO_CTRL[DIO_SET: B0 0x0C(7-6)]=0b00)および DIO モードのデータ出力モード 2(RXDIO_CTRL[DIO_SET: B0 0x0C(7-6)]=0b11)のみ有効です。また、スペクトラム拡散機能使用時は FEC ディセーブル設定時のみ有効です。

機能	レジスタ
Field チェック不一致時の受信データ処理設定	[C_CHECK_CTRL: B0 0x1B(7)]
Field チェック割込み設定	[C_CHECK_CTRL: B0 0x1B(6)]
C-field 検出イネーブル設定	[C_CHECK_CTRL: B0 0x1B(4-0)]
M-field 検出イネーブル設定	[M_CHECK_CTRL: B0 0x1C(3-0)]
A-field 検出イネーブル設定	[A_CHECK_CTRL: B0 0x1D(5-0)]
C-field コード設定	[C_FIELD_CODE1: B0 0x1E] [C_FIELD_CODE2: B0 0x1F] [C_FIELD_CODE3: B0 0x20] [C_FIELD_CODE4: B0 0x21] [C_FIELD_CODE5: B0 0x22]
M-field コード設定	[M_FIELD_CODE1: B0 0x23] [M_FIELD_CODE2: B0 0x24] [M_FIELD_CODE3: B0 0x25] [M_FIELD_CODE4: B0 0x26]
A-field コード設定	[A_FIELD_CODE1: B0 0x27] [A_FIELD_CODE2: B0 0x28] [A_FIELD_CODE3: B0 0x29] [A_FIELD_CODE4: B0 0x2A] [A_FIELD_CODE5: B0 0x2B] [A_FIELD_CODE6: B0 0x2C]

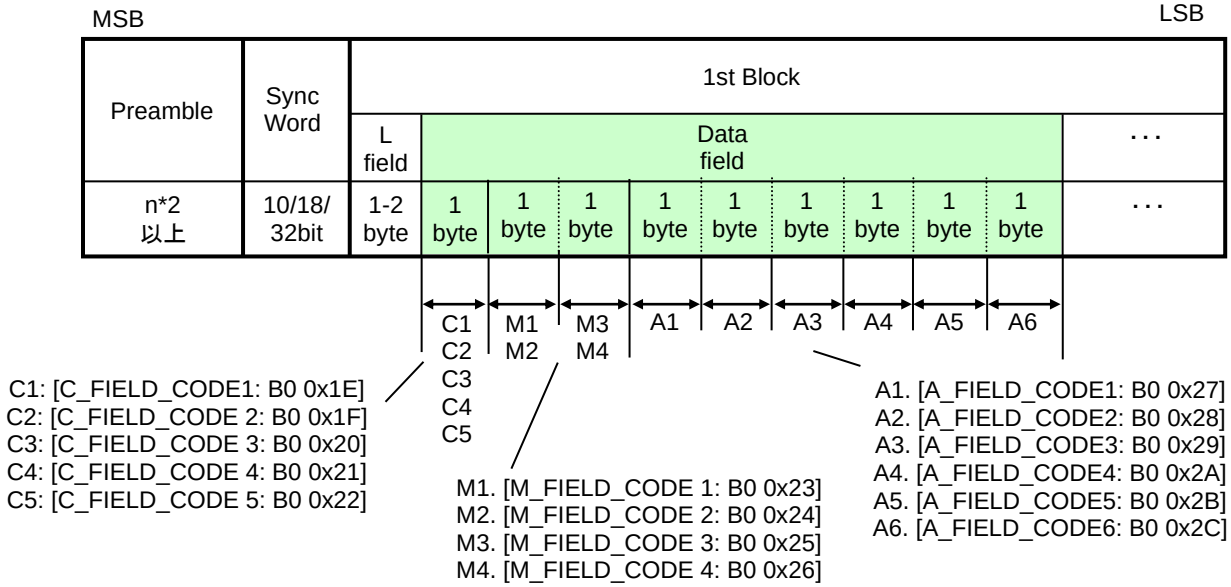
受信データと比較するリファレンスパターンの関係を以下に示します。

【Format A/B(Wireless M-Bus 対応)の場合】
Field チェックはリファレンスパターン毎にイネーブル・ディセーブル設定が可能です。全 Field データ(C-field/M-field/A-field)が下表に示す一致条件を満たした場合、Field チェック結果は一致として結果を通知します。ただし、C-field データと C_FIELD_CODE5 が一致した場合のみ、他の Field データ(M-field/A-field)が不一致であった場合でも Field チェック結果は一致として結果を通知します。



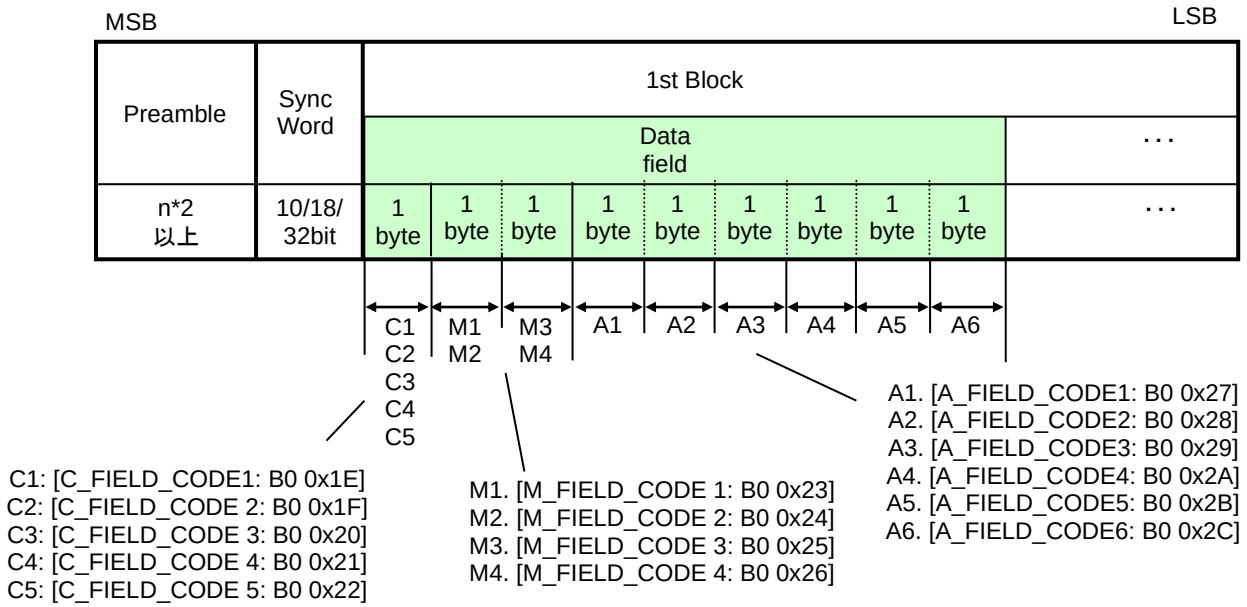
チェック Field	リファレンスパターン	一致の条件
C-field	C_FIELD_CODE1 または C_FIELD_CODE2 または C_FIELD_CODE3 または C_FIELD_CODE4 または C_FIELD_CODE5	5 つのリファレンスパターンのいずれか 1 つ一致した場合、一致となる。
M-field 1 バイト目	M_FIELD_CODE1 または M_FIELD_CODE2	2 つのリファレンスパターンのいずれか 1 つ一致した場合、一致となる。
M-field 2 バイト目	M_FIELD_CODE3 または M_FIELD_CODE4	2 つのリファレンスパターンのいずれか 1 つ一致した場合、一致となる。
A-field	A_FIELD_CODE1/2/3/4/5/6	リファレンスパターンと一致した場合、一致となる。

【Format C の場合】
Field チェックはリファレンスパターン毎にイネーブル・ディセーブル設定が可能です。全 Data-field データが下表に示す一致条件を満たした場合、Field チェック結果は一致として結果を通知します。ただし、Data-field1 バイト目のデータと C_FIELD_CODE5 が一致した場合のみ、他の Field データ(Data-field2 バイト目から 9 バイト目)が不一致であった場合でも Field チェック結果は一致として結果を通知します。



チェック Field	リファレンスパターン	一致の条件
Data-field1 バイト目	C_FIELD_CODE1 または C_FIELD_CODE2 または C_FIELD_CODE3 または C_FIELD_CODE4 または C_FIELD_CODE5	5 つのリファレンスパターンのいずれか 1 つ一致した場合、一致となる。
Data-field2 バイト目	M_FIELD_CODE1 または M_FIELD_CODE2	2 つのリファレンスパターンのいずれか 1 つ一致した場合、一致となる。
Data-field3 バイト目	M_FIELD_CODE3 または M_FIELD_CODE4	2 つのリファレンスパターンのいずれか 1 つ一致した場合、一致となる。
Data-field4 バイト目	A_FIELD_CODE1	リファレンスパターンと一致した場合、一致となる。
Data-field5 バイト目	A_FIELD_CODE2	リファレンスパターンと一致した場合、一致となる。
Data-field6 バイト目	A_FIELD_CODE3	リファレンスパターンと一致した場合、一致となる。
Data-field7 バイト目	A_FIELD_CODE4	リファレンスパターンと一致した場合、一致となる。
Data-field8 バイト目	A_FIELD_CODE5	リファレンスパターンと一致した場合、一致となる。
Data-field9 バイト目	A_FIELD_CODE6	リファレンスパターンと一致した場合、一致となる。

【Format D の場合】
Field チェックはリファレンスパターン毎にイネーブル・ディセーブル設定が可能です。全 Data-field データが下表に示す一致条件を満たした場合、Field チェック結果は一致として結果を通知します。ただし、Data-field1 バイト目のデータと C_FIELD_CODE5 が一致した場合のみ、他の Field データ(Data-field2 バイト目から 9 バイト目)が不一致であった場合でも Field チェック結果は一致として結果を通知します。



チェック Field	リファレンスパターン	一致の条件
Data-field1 バイト目	C_FIELD_CODE1 または C_FIELD_CODE2 または C_FIELD_CODE3 または C_FIELD_CODE4 または C_FIELD_CODE5	5 つのリファレンスパターンのいずれか 1 つ一致した場合、一致となる。
Data-field2 バイト目	M_FIELD_CODE1 または M_FIELD_CODE2	2 つのリファレンスパターンのいずれか 1 つ一致した場合、一致となる。
Data-field3 バイト目	M_FIELD_CODE3 または M_FIELD_CODE4	2 つのリファレンスパターンのいずれか 1 つ一致した場合、一致となる。
Data-field4 バイト目	A_FIELD_CODE1	リファレンスパターンと一致した場合、一致となる。
Data-field5 バイト目	A_FIELD_CODE2	リファレンスパターンと一致した場合、一致となる。
Data-field6 バイト目	A_FIELD_CODE3	リファレンスパターンと一致した場合、一致となる。
Data-field7 バイト目	A_FIELD_CODE4	リファレンスパターンと一致した場合、一致となる。
Data-field8 バイト目	A_FIELD_CODE5	リファレンスパターンと一致した場合、一致となる。
Data-field9 バイト目	A_FIELD_CODE6	リファレンスパターンと一致した場合、一致となる。

・Field チェック結果によるパケット処理方法
CA_RXD_CLR ([C_CHECK_CTRL: B0 0x1B(7)])=0b1 に設定することにより、Field チェックにより不一致が生じたデータパケットを直ちに破棄し、次パケット受信待ち状態とすることが可能です。

・不一致パケット数表示
不一致を検出したパケット総数は、最大 2047 個までカウントし、結果を[ADDR_CHK_CTR_H: B1 0x62]および[ADDR_CHK_CTR_L: B1 0x63]に表示します。このカウント値は STATE_CLR4([STATE_CLR: B0 0x16(4)])にてクリアできます。

○FIFO 制御機能

本 LSI は送信用 FIFO64Byte、受信用 FIFO64Byte を各 1 面ずつ搭載しています。ただし、送受信 FIFO は複数パケットのデータ格納はサポートしていませんので、必ず 1 パケットずつ処理してください。受信 FIFO に受信パケットがある状態で次のパケットを受信した場合は上書きされます。送信 FIFO も同様です。
受信時は受信データをバイト単位で格納し、SPI 経由でホスト MCU より読み出します。送信時はホスト MCU より入力したデータをバイト単位で格納して送信します。
FIFO への書き込み、読み出しは SPI からのバーストアクセスにて行います。送信時は[WR_TX_FIFO: B0 0x7C]へ書き込み、受信時は [RD_FIFO: B0 0x7F]から読み出しを連続して行うことで FIFO 内部カウンタが自動インクリメントし、データを保存、出力します。書き込み、読み出し途中で FIFO アクセスを中断した場合、パケットの処理が完了するまでアドレスは保持されます。従いまして、FIFO アクセス再開時は FIFO アクセス中断時の次データからデータの書き込み、読み出しが可能です。

FIFO 制御に関するレジスタは以下の通りです。

機能	レジスタ
送信 FIFO の Full レベル設定	[TXFIFO_THRH: B0 0x17]
送信 FIFO の Empty レベル設定	[TXFIFO_THRL: B0 0x18]
受信 FIFO の Full レベル設定	[RXFIFO_THRH: B0 0x19]
受信 FIFO の Empty レベル設定	[RXFIFO_THRL: B0 0x1A]
FIFO リード面選択設定	[FIFO_SET: B0 0x78]
受信 FIFO の使用量表示	[RX_FIFO_LAST: B0 0x79]
送信パケット Length 設定	[TX_PKT_LEN_H/L: B0 0x7A/7B]
受信パケット Length 設定	[RX_PKT_LEN_H/L: B0 0x7D/7E]
送信 FIFO	[WR_TX_FIFO: B0 0x7C]
FIFO リード	[RD_FIFO: B0 0x7F]

FIFO を使用して送受信する場合の手順は以下となります。
【送信時】
①送信する L-field の値を[TX_PKT_LEN_H: B0 0x7A]、[TX_PKT_LEN_L: B0 0x7B]に設定します。Length 長が 1 バイト設定時は[TX_PKT_LEN_L]レジスタ値が送信されます。
Length 長設定は LENGTH_MODE([PKT_CTRL: B0 0x05(1-0)])で設定することができます。
②送信データを FIFO に書き込みます。

【ご注意】
1. 送信データの書き込みを途中で止めた場合、必ず送信 FIFO クリア([STATE_CLR: B0 0x16)を実行してください。LSI 内部にてデータを管理するポインタが状態を維持してしまい、この状態では次パケットの FIFO 処理が正常に行われないためです。
   想定される条件としては、送信 FIFO アクセスエラーの割り込み通知（[INT_SOURCE_GRP3: B0 0x0F(4)])を受けて止める場合があります。なお、この割り込み通知は FIFO のオーバーラン(例えば、FIFO に空きがない状態で送信 FIFO にライトした場合)、またはアンダーラン(例えば、FIFO が空きの状態で送信しようとした場合)に発生します。
2. 1 パケットのデータを格納した状態で次の書き込み動作を行うと FIFO は上書きされます。
3. 送信時に設定する Length 値は、パケットフォーマット設定により異なります。
   Format A: Length および CRC 領域を除くデータ長を Length 値として設定します。
   Format B: Length 領域を除くデータ長を Length 値として設定します。
   Format C: Length 領域を除くデータ長を Length 値として設定します。
   Format D: Data-field から CRC-field までのデータ長を Length 値として設定します。

【受信時】
(1) Format A/B/C の場合
①L-field の値(Length)を[RX_PKT_LEN_H: B0 0x7D]、 [RX_PKT_LEN_L: B0 0x7E]から読み出します。
②受信データを FIFO から読み出します。
受信 FIFO をリードする場合は必ず FIFO_R_SEL([FIFO_SET: B0 0x78(0)])を 0b0 に設定してください。
FIFO_R_SEL=0b1 設定時は FIFO リード面として送信 FIFO が選択されます。
また、受信 FIFO のデータ使用量は[RX_FIFO_LAST: B0 0x79]に表示します。

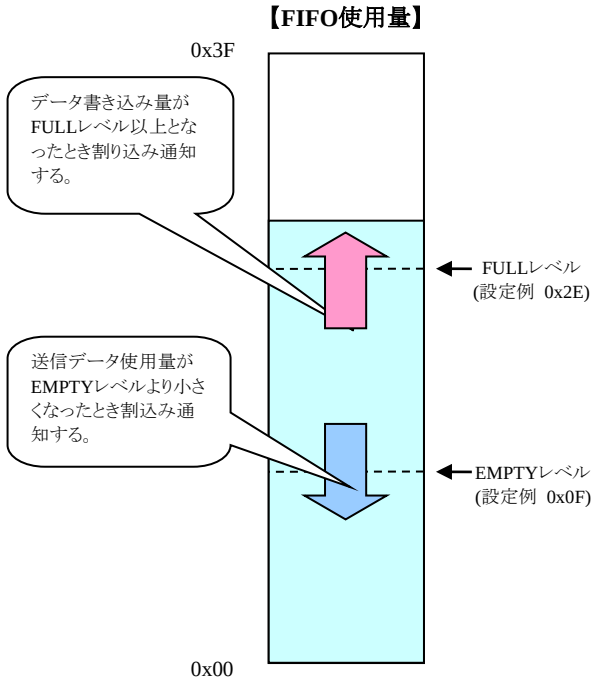
(2) Format D の場合
①データ長(Length 値)を[RX_PKT_LEN_H: B0 0x7D]、 [RX_PKT_LEN_L: B0 0x7E]に設定します。
②受信データを FIFO から読み出します。
受信 FIFO をリードする場合は必ず FIFO_R_SEL([FIFO_SET: B0 0x78(0)])を 0b0 に設定してください。
FIFO_R_SEL=0b1 設定時は FIFO リード面として送信 FIFO が選択されます。
また、受信 FIFO のデータ使用量は[RX_FIFO_LAST: B0 0x79]に表示します。

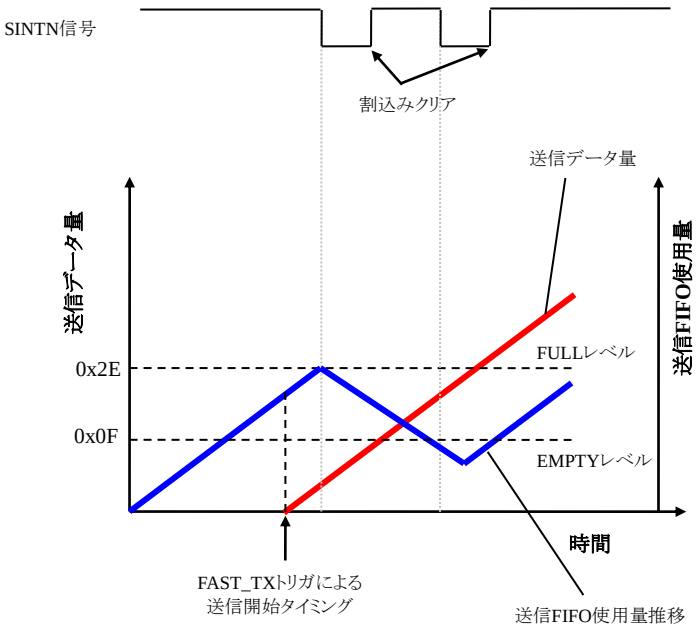
【ご注意】
1. 受信データの読み出しを途中で止めた場合、必ず受信 FIFO クリア([STATE_CLR: B0 0x16)を実行してください。LSI 内部にてデータを管理するポインタが状態を維持してしまい、この状態では次パケットの FIFO 処理が正常に行われないためです。
2. 1 パケットのデータが格納された状態で次のパケットを受信すると FIFO は上書きされます。必要な受信データは次のパケットを受信する前に全て読み出してください。なお、全てのデータを読み出していないにも関わらず次のパケット受信したことを検出する場合、SyncWord 検出割込み(INT[13](INT_SOURCE_GRP2: B0 0x0E(5)))を用いて判断することができます。
3. FIFO のオーバーランまたはアンダーランが発生しないように FIFO 制御を行ってください。
FIFO のオーバーランまたはアンダーランが発生しないように FIFO を制御するためには、以下の方法があります。
①受信 FIFO 使用量([RX_FIFO_LAST: B0 0x79])をリードし、使用量分のデータ量を FIFO から読み出します。
②受信 FIFO の Full レベル([RXFIFO_THRH: B0 0x19])を設定し、FIFO-Full 割込み
(INT[5](INT_SOURCE_GRP1: B0 0x0D(5)))発生後、受信 FIFO の Full レベル相当のデータ量を FIFO から読み出します。

FIFO サイズを超えるパケット長の送受信を行う場合、FIFO の FULL トリガ、EMPTY トリガを使用することで FIFO へのライトまたはリード制御が容易に行うことができます。

(1) 送信 FIFO の使用量告知機能の使用方法

本機能は、送信 FIFO の未送信データ量(FIFO 使用量)を割込み通知信号(SINTN)を使用して MCU に通知する機能です。送信 FIFO の使用量（未送信分）が、[TXFIFO_THRH: B0 0x17]で設定した閾値(FULL レベル)以上となったときに割込みにて通知します。また本 LSI がデータを送信し、送信 FIFO の使用量が[TXFIFO_THRL: B0 0x18]で設定した閾値(EMPTY レベル)より小さくとなった時に割込みにて通知します。割込み通知信号(SINTN)は GPIO*または EXT_CLK から出力できます。出力設定は[GPIO0_CTRL: B0 0x4E]、[GPIO1_CTRL: B0 0x4F]、[GPIO2_CTRL: B0 0x50]、[GPIO3_CTRL: B0 0x51]、[EXTCLK_CTRL: B0 0x52]を参照してください。



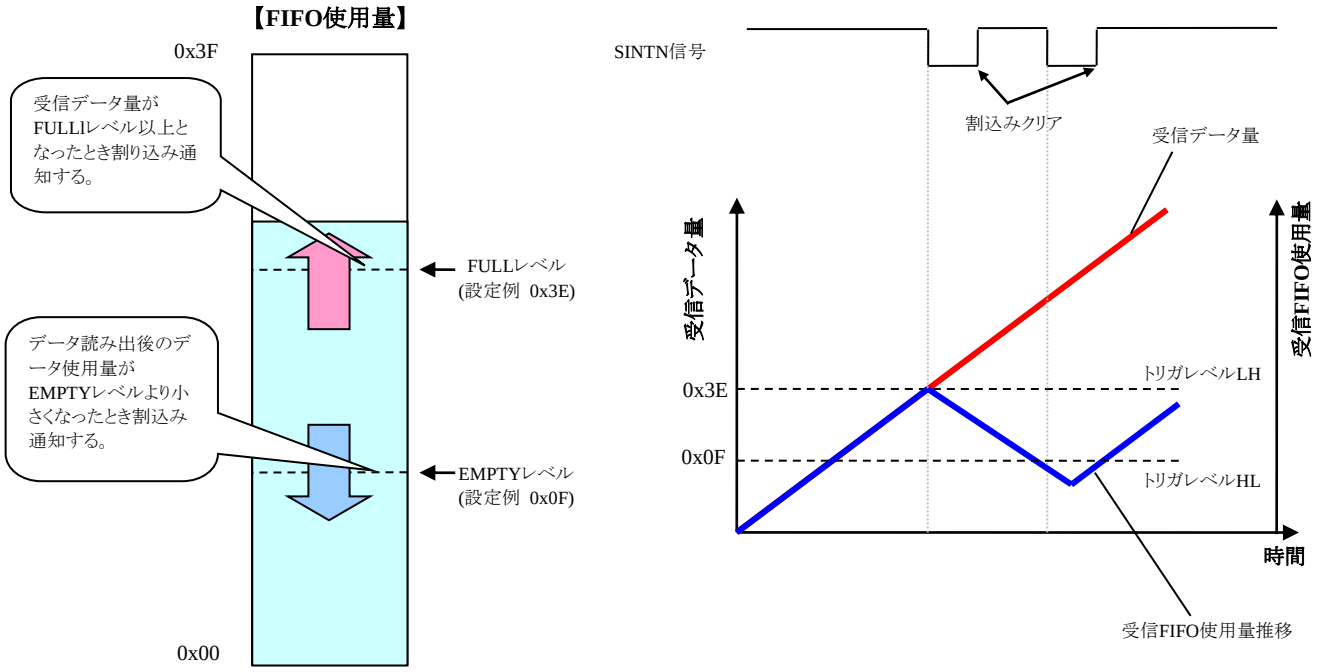


【ご注意】

1. [TXFIFO_THRH]と[TXFIFO_THRL]の告知レベルを同じ値に設定せず、必ず[TXFIFO_THRH]＞[TXFIFO_THRL]となるよう設定してください。
2. LSI 内部の Full 検出状態は Full トリガ([TXFIFO_THRH])＞FIFO 使用量となった場合にクリアされ、次の Full トリガが検出できる状態となります。送信データのリード(PHY)と SPI 経由での FIFO ライトのタイミングによっては、FIFO ライト中に前述クリア条件を満たし、さらに Full トリガを検出する場合がありますのでご注意ください。この状態を防ぐために、Full トリガ検出後、トリガレベル設定をディセーブル設定し、FIFO ライト完了後再度トリガレベル設定をイネーブルとしてください。
3. LSI 内部の Empty 検出状態は FIFO 使用量≧Empty トリガ([TXFIFO_THRL])となった場合にクリアされ、次の Empty トリガが検出できる状態となります。送信データのリード(PHY)と SPI 経由での FIFO ライトのタイミングによっては、FIFO ライト中に前述クリア条件を満たし、さらに Empty トリガを検出する場合がありますのでご注意ください。この状態を防ぐために、Empty トリガ検出後、トリガレベル設定をディセーブル設定し、FIFO ライト完了後再度トリガレベル設定をイネーブルとしてください。

(2) 受信 FIFO の使用量告知機能の使用方法

本機能は、送信 FIFO の未読み出しデータ量(FIFO 使用量)を割込み通知信号(SINTN)を使用して MCU に通知する機能です。受信 FIFO の使用量（未読分）が、[RXFIFO_THRH: B0 0x19]で設定した閾値(FULL レベル)以上となったとき割込みにて通知します。また MCU から受信データの読み出しが行われ、受信 FIFO の未読み出しデータ量(FIFO 使用量)が[RXFIFO_THRL: B0 0x1A]で設定した閾値(EMPTY レベル)より小さくなった時に割込みにて通知します。割込み通知信号(SINTN)は GPIO*または EXT_CLK から出力できます。出力設定は[GPIO0_CTRL: B0 0x4E]、[GPIO1_CTRL: B0 0x4F]、[GPIO2_CTRL: B0 0x50]、[GPIO3_CTRL: B0 0x51]、[EXTCLK_CTRL: B0 0x52]を参照してください。



【ご注意】

1. [RXFIFO_THRH]と[RXFIFO_THRL]の告知レベルを同じ値に設定せず、必ず [RXFIFO_THRH] ＞[RXFIFO_THRL]となるよう設定してください。
2. 内部の Full 検出状態は Full トリガ([RXFIFO_THRH])＞FIFO 使用量となった場合にクリアされ、次の Full トリガが検出できる状態となります。受信データのライト(PHY)と SPI 経由での FIFO リードのタイミングによっては、FIFO リード中に前述クリア条件を満たし、さらに Full トリガを検出する場合がありますのでご注意ください。この状態を防ぐために、Full トリガ検出後、トリガレベル設定をディセーブル設定し、FIFO リード完了後再度トリガレベル設定をイネーブルとしてください。
3. 内部の Empty 検出状態は FIFO 使用量≧Empty トリガ([RXFIFO_THRL])となった場合にクリアされ、次の Empty トリガが検出できる状態となります。受信データのライト(PHY)と SPI 経由での FIFO リードのタイミングによっては、FIFO リード中に前述クリア条件を満たし、さらに Empty トリガを検出する場合がありますのでご注意ください。この状態を防ぐために、Empty トリガ検出後、トリガレベル設定をディセーブル設定し、FIFO リード完了後再度トリガレベル設定をイネーブルとしてください。
4. 本機能はデータ受信中のみ有効です。受信完了後は FIFO-Empty 割込みは通知されません。

○DIO 機能

本 LSI は GPIO0～3、EXT_CLK 端子または SDI/SDO 端子より送受信データを入出力することが可能です。出力端子の制御は[GPIO*_CTRL: B0 0x4E/0x4F/0x50/0x51]、[EXTCLK_CTRL: B0 0x52]および[SPI/EXT_PA_CTRL: B0 0x53]によって行います。送信または受信時に入力または出力するデータは以下の通りです。
送信時･･･(NRZ またはマンチェスタ/3-out-of-6 符号化後の)送信データを入力します。
受信時･･･復号化前の受信データ、または復号化後の受信データを出力します。([DIO_SET: B0 0x0C]にて選択可)

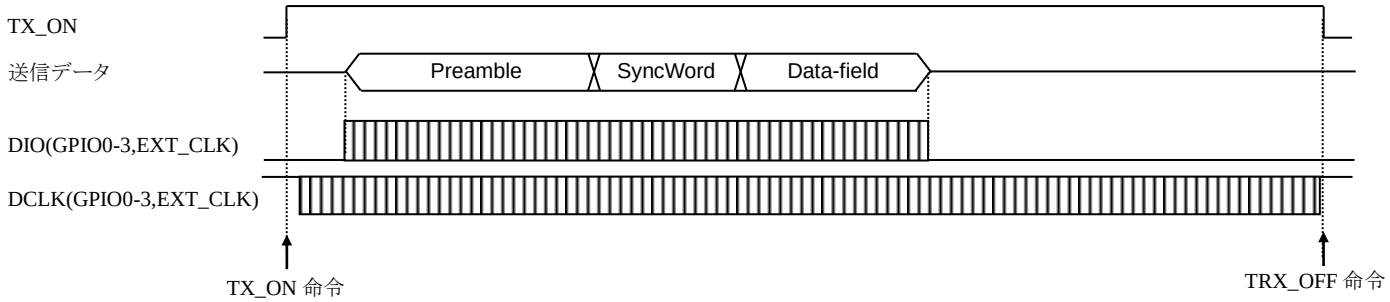
DIO 機能に関するレジスタは以下の通りです。

機能	レジスタ
DIO 受信データ出力開始設定	[DIO_SET: B0 0x0C(0)]
DIO 受信完了設定	[DIO_SET: B0 0x0C(2)]
送信 DIO モード設定	[DIO_SET: B0 0x0C(5-4)]
受信 DIO モード設定	[DIO_SET: B0 0x0C(7-6)]

(1) GPIO*/EXT_CLK 端子使用時

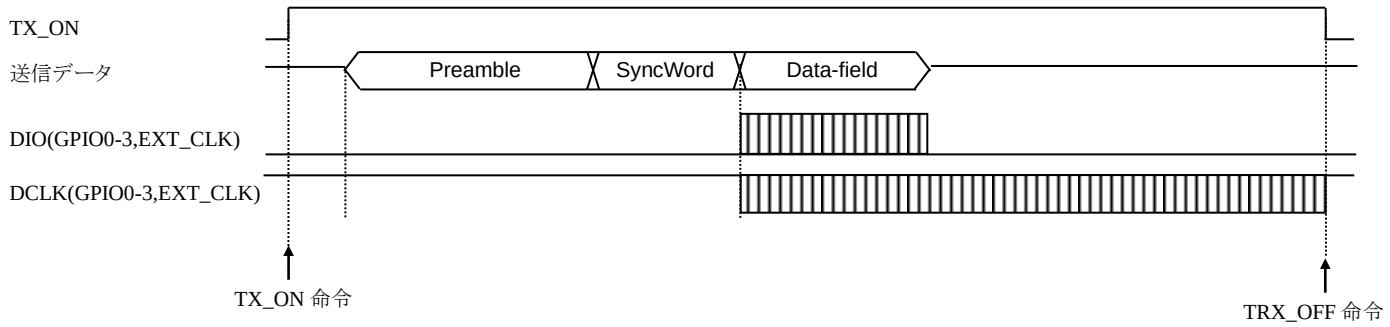
GPIO0～3 端子を使用して送受信データの入出力を行う場合、以下のように DCLK/DIO が制御されます。(図の DIO/DCLK 縦線部分は出力または入力区間を示します。)

【送信時】
① 常時入力モード
TXDIO_CTRL([DIO_SET: B0 0x0C(5-4)])を 0b01 に設定してください。
TX_ON 後送信クロックを出力します。送信クロックの立下りに同期して送信データを DIO 設定端子から入力します。送信データは符号化後のデータを入力してください。



※詳細なタイミングは「送信時タイムチャート」を参照してください。

② データ入力モード
TXDIO_CTRL([DIO_SET: B0 0x0C(5-4)])を 0b10 に設定してください。
TX_ON 後 SyncWord 以降のデータ入力タイミングから送信クロックを出力します。送信クロックの立下りに同期して送信データを DIO 設定端子から入力します。送信データは符号化後のデータを入力してください。プリアンブルおよび SyncWord はそれぞれのレジスタ設定に従い、LSI が自動生成し送信します。



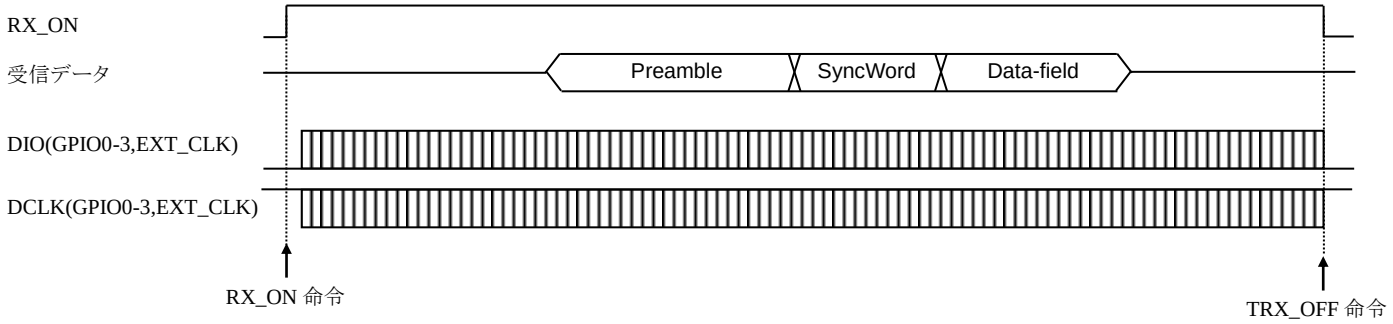
プリアンブルは PB_PAT([DATA_SET1: B0 0x07(7)]、TXPR_LEN([TXPR_LEN_H/L: B0 0x42/43])にて設定できます。また、SyncWord は SYNCWORD_SEL([DATA_SET2: B0 0x08(4))、SYNCWORD_LEN([SYNC_WORD_LEN: B1 0x25)、SYNC_WORD_EN*([SYNC_WORD_EN: B1 0x26)、SYNCWORD1_SET([SYNCWORD1_SET3/2/1/0: B1 0x27/28/29/2A)、SYNCWORD2_SET([SYNCWORD2_SET3/2/1/0: B1 0x2B/2C/2D/2E)にて設定できます。

【受信時】

① 常時出力モード

RXDIO_CTRL([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])を 0b01 に設定してください。

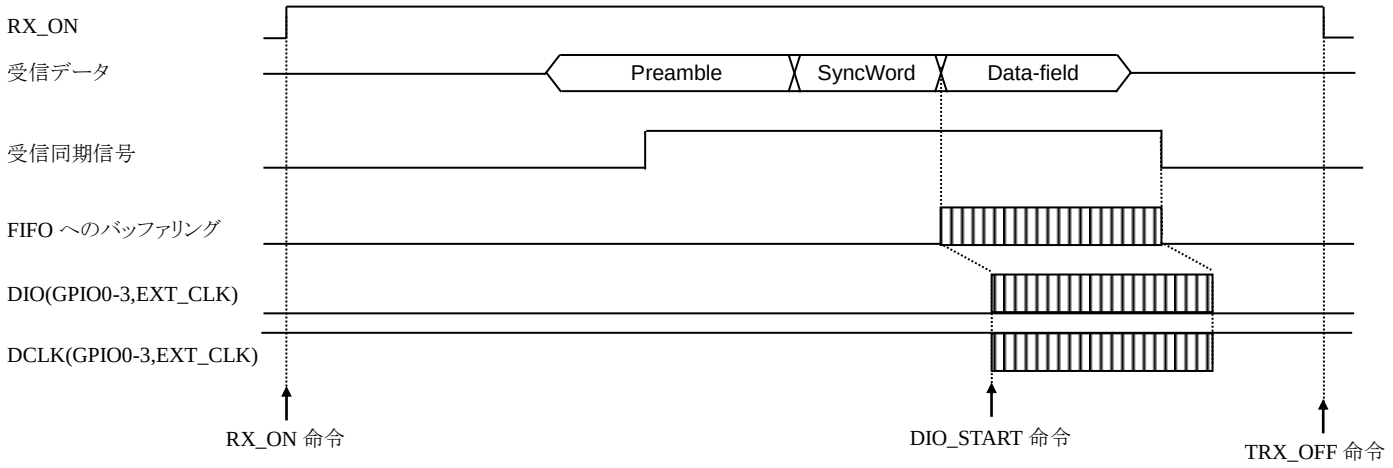
RX_ON 後常時受信クロックが出力されます。受信クロックの立下りに同期して受信データ(復調データ)を DIO 出力設定端子から出力します。FIFO による受信データのバッファリングは行いません。



② データ出力モード 1

RXDIO_CTRL([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])を 0b10 に設定してください。

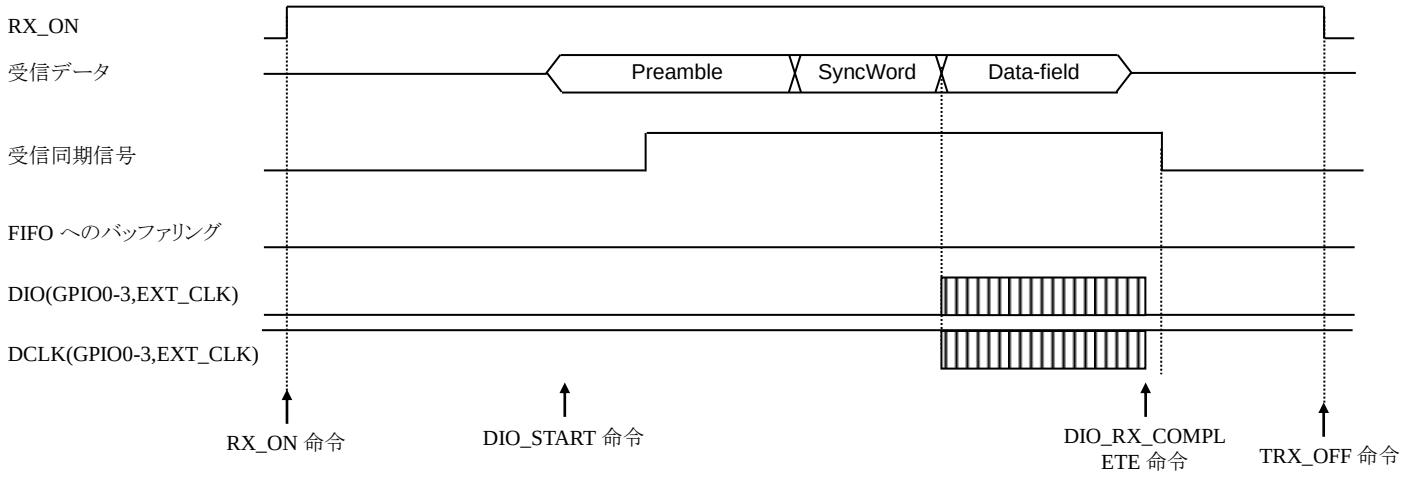
SyncWord 検出後、受信データを FIFO へバッファリング開始し、受信データのバッファリングは受信同期信号(SYNC)が”L”となるまで継続します。受信データ出力設定 DIO_START([DIO_SET: B0 0x0C(0)])により、バッファリングした先頭バイトの受信データから DIO インタフェース(DIO/DCLK)経由で出力されます(受信データは受信クロックの立下りに同期して出力されます)。ただし、64 バイト時間以上経過後に受信データ出力設定した場合、先頭バイトから順に上書きされます。SYNC が”L”となるタイミングまでバッファリングされたデータを全て出力した場合、受信完了とみなし受信完了割込み(INT[8])を発生します。受信完了後、本 LSI は次パケット受信待ち状態へ移行します。



【ご注意】

1. FIFO への受信データバッファリングはバイト単位で行います。DIO_START 命令は SyncWord 検出から 1 バイト以上の時間経過後(1 バイト以上データバッファリング完了後)に発行してください。
2. 本モードは L-field を LSI 内部で判断しないモードであり、Field チェック機能は使用できません。

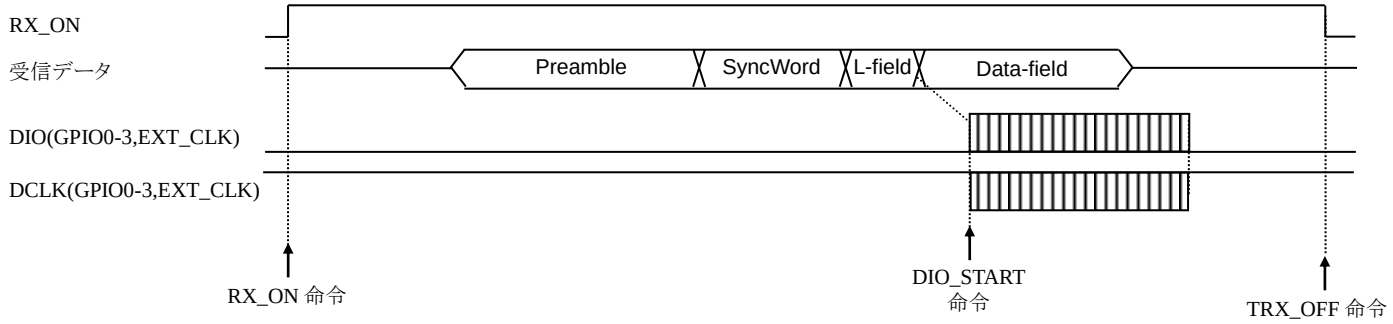
本設定において、SyncWord 検出以前に DIO_START 命令を発行した場合、FIFO でのデータバッファリングはせず、SyncWord 検出以降の受信データ・クロックを出力します。SYNC が"L"となる前に受信を完了する場合、DIO 受信完了設定(DIO_RX_COMPLETE([DIO_SET: B0 0x0C(2)])を設定することで受信完了とすることができます。この場合、DIO_RX_COMPLETE 設定後、本 LSI は次パケット受信待ち状態へ移行します。



③ データ出力モード 2

RXDIO_CTRL([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])を 0b11 に設定してください。

Data-field のみ受信データを FIFO へバッファリングします。FIFO へのバッファリングは L-field が示す Length 分の受信データをバッファリングします。受信データ出力設定(DIO_START([DIO_SET: B0 0x0C(0)])により、バッファリングした先頭バイトの受信データから DIO インタフェース(DIO/DCLK)経由で出力されます。ただし、64 バイト時間以上経過後に受信データ出力設定した場合、先頭バイトから順に上書きされます。L-field が示す Length 分の受信データを全て出力した場合、受信完了とみなし受信完了割込み(INT[8])を発生します。受信完了後、本 LSI は次パケット受信待ち状態へ移行します。受信した Length 情報は[RX_PKT_LEN_H/L: B0 0x7D/7E]に表示します。本モードは FIFO モード同様にパケット構成を考慮した動作を行いますので、Field チェック機能を使用することができます。



【ご注意】

1. FIFO への受信データバッファリングはバイト単位で行います。DIO_START 命令は SyncWord 検出から L-field 長(レジスタ設定値)+1 バイト以上の時間経過後(1 バイト以上データバッファリング完了後)に発行してください。

(2) SDI/SDO 端子使用時

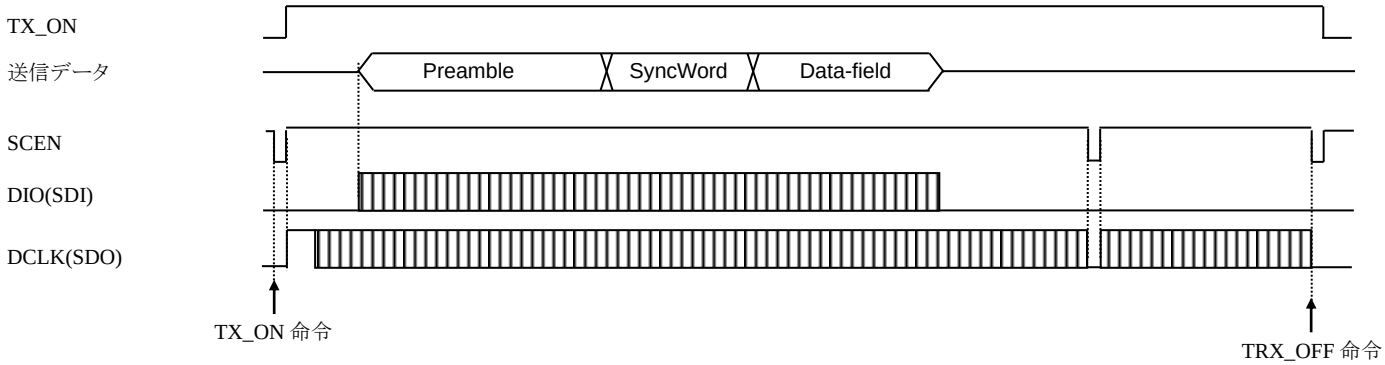
SPI インタフェース(SDI/SDO)を使用して送受信データの入出力を行う場合、以下のように DCLK/DIO が制御されます。(図の DIO/DCLK 縦線部分は出力または入力区間を示します。) 各 DIO モードの動作については前章"(1) GPIO*/EXT_CLK 端子使用時"をご参照ください。

【送信時】

① 常時入力モード

TXDIO_CTRL([DIO_SET: B0 0x0C(5-4)])を 0b01 に設定してください。

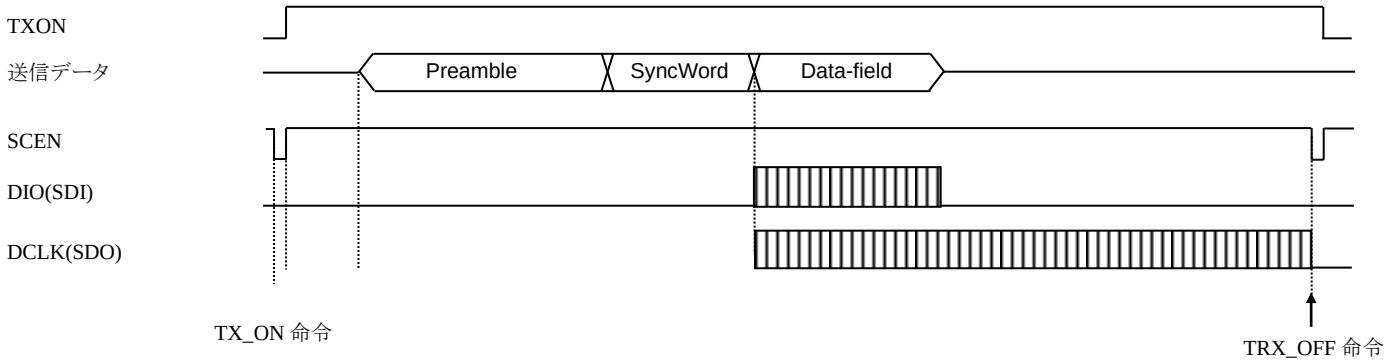
TX_ON 命令発行([RF_STATUS: B0 0x0B(3-0)]=0x9)後、SCEN が"H"区間で SDO 端子から送信クロックを出力します。SDI 端子から送信データの入力してください。TRX_OFF([RF_STATUS: B0 0x0B(3-0)]=0x8)命令発行後は送信データ/クロックの入出力は無効になります。また、DCLK 出力中の場合でも SCEN が L となった場合、送信クロックの出力は停止します(SPI アクセスが優先されます)。



② データ入力モード

TXDIO_CTRL([DIO_SET: B0 0x0C(5-4)])を 0b10 に設定してください。

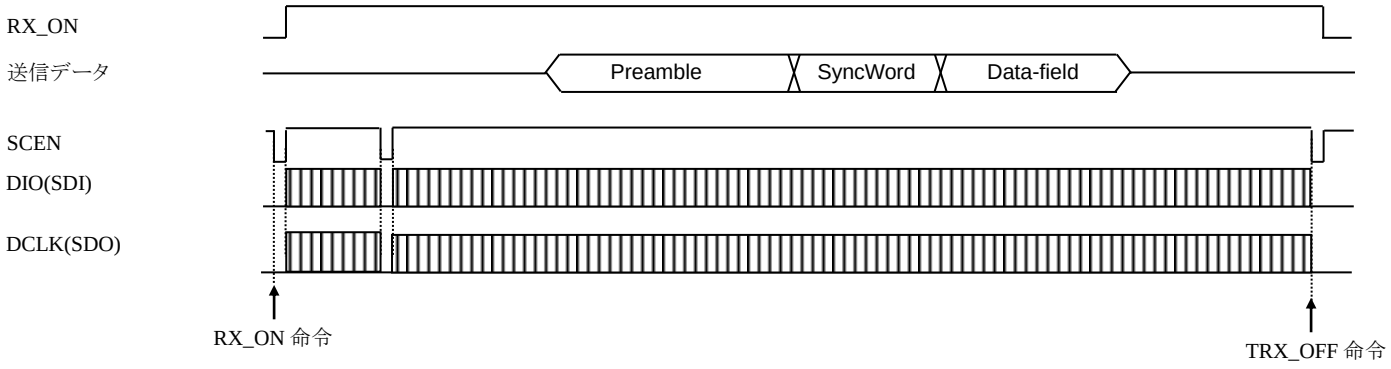
TX_ON 命令発行([RF_STATUS: B0 0x0B(3-0)]=0x9)後、SCEN が"H"区間で SDO 端子から送信クロックを出力します。SDI 端子から送信データの入力してください。TRX_OFF 命令発行後は送信データ/クロックの入出力は無効になります。また、送信クロック出力中の場合でも SCEN が L となった場合、送信クロックの出力は停止します(SPI アクセスが優先されます)。



【ご注意】

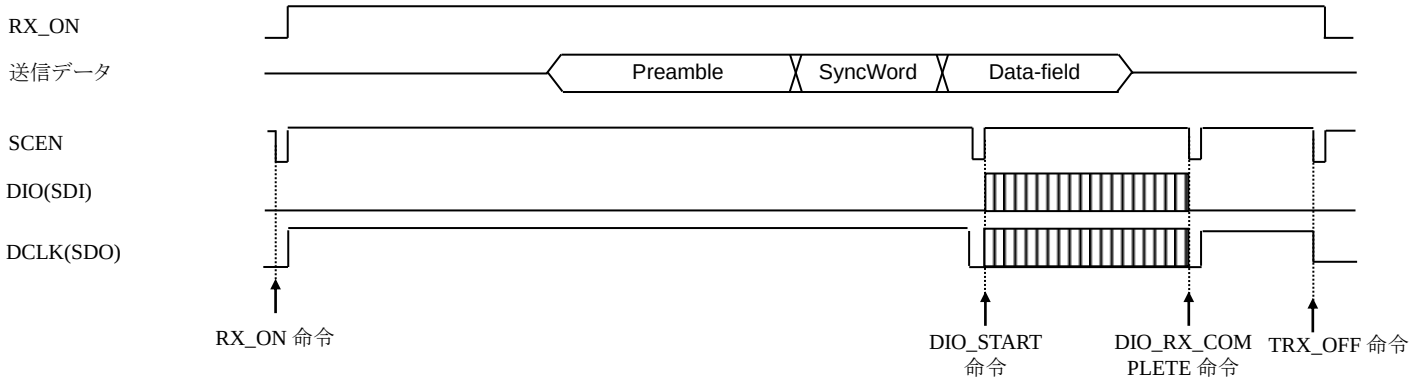
パケット送信中に SPI アクセスを行った場合、SPI アクセスが優先されますが、送信処理は継続します。このとき、送信データのビット抜けが発生しますので、送信完了まで SPI アクセスしないでください。

【受信時】
① 常時出力モード
RXDIO_CTRL([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])を 0b01 設定時
RX_ON 命令発行([RF_STATUS: B0 0x0B(3-0)]=0x6)後、SCEN が”H”区間において SDO 端子から受信クロック、SDI 端子から受信データを出力します。TRX_OFF 命令発行後は受信データ/クロックの出力は無効になります。また、受信データ/クロック出力中の場合でも SCEN が L となった場合、受信データ/クロックの出力は停止します(SPI アクセスが優先されます)。



【ご注意】
パケット受信中に SPI アクセスを行った場合、SPI アクセスが優先されますが、受信処理は継続します。このとき、受信データが出力されずビット抜けが発生しますので、受信完了まで SPI アクセスしないでください。

② データ出力モード 1 またはデータ出力モード 2
RXDIO_CTRL([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])を 0b10/11 設定にしてください。
RX_ON 命令発行([RF_STATUS: B0 0x0B(3-0)]=0x6)後、SCEN が”H”区間において SDO 端子から受信クロック、SDI 端子から受信データを出力します。TRX_OFF 命令発行後は受信データ/クロックの出力は無効になります。また、受信データ/クロック出力中の場合でも SCEN が L となった場合、受信データ/クロックの出力は停止します(SPI アクセスが優先されます)。

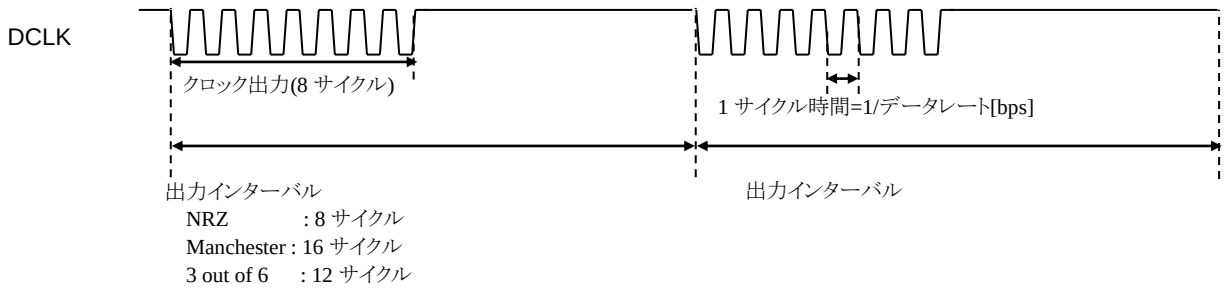


【ご注意】
パケット受信中に SPI アクセスを行った場合、SPI アクセスが優先されますが、受信処理は継続します。このとき、受信データが出力されずビット抜けが発生しますので、受信完了まで SPI アクセスしないでください。

(3) DCLK 出力方法

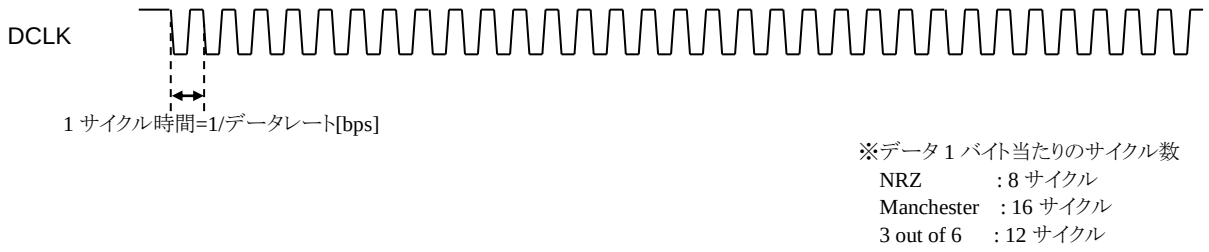
DIO モード設定により DCLK の出力方法が異なります。

①データ出力モード 2(RXDIO_CTRL([DIO_SET: 0x0C(7-6)])=0b11 設定時)
本モードではマンチェスタ、3-out-of-6 復号化後のデータを出力するため、クロック出力インターバルに対するクロック出力区間は符号化方式により異なります。クロック出力区間は以下の通りとなります。

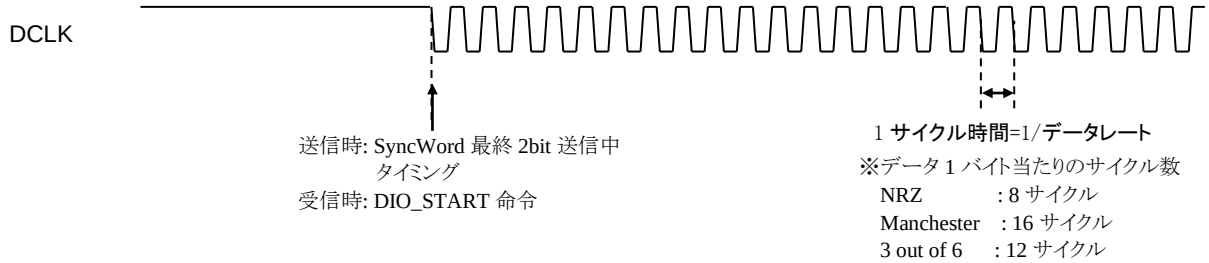


②①以外のモード(受信常時出力モード/データ出力モード 1、送信常時入力モード/データ入力モード)
本モードでは復号前の DIO を入出力するため、符号化方式によらず DCLK が連続して出力されます。

送信常時入力モードまたは受信常時出力モード



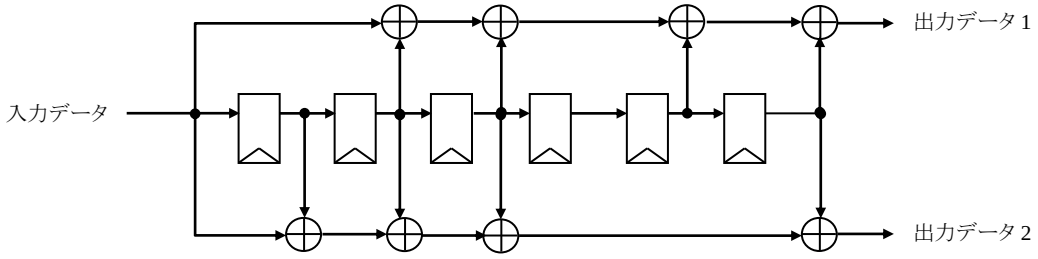
送信データ入力モードまたは受信データ出力モード 1



○FEC(Forward Error Correction)機能

本 LSI は IEEE802.15.4k に準拠した FEC および Pruned bit reversal interleaving アルゴリズムに対応したインタリーバを搭載しております。生成多項式は以下の通りです。

生成多項式: $G_0 = 1 + x^2 + x^3 + x^5 + x^6$
$G_1 = 1 + x + x^2 + x^3 + x^6$
符号化率: 1/2



FEC エンコーダ回路

※ ⊕ :排他的論理和を示します。

FEC に関するレジスタは以下の通りです。

機能	レジスタ
FEC イネーブル設定	FEC_EN([DSSS_CTRL: B7 0x01(1)])
インタリーバイネーブル設定	INTLV_EN([FEC_ENC_CTRL: B7 0x03(0)])
FEC エンコーダ初期状態選択設定	ENC_INIT_SEL([FEC_ENC_CTRL: B7 0x03(1)])
FEC エンコーダバイト送出順設定	ENC_BYTE_MSB([FEC_ENC_CTRL: B7 0x03(2)])
FEC エンコーダビット送出順設定	ENC_BIT_MSB([FEC_ENC_CTRL: B7 0x03(3)])
インタリーババイト送出順設定	INTLV_BYTE_MSB([FEC_ENC_CTRL: B7 0x03(4)])
デインタリーバイネーブル設定	DEINTLV_EN([FEC_DEC_CTRL: B7 0x03(0)])
FEC デコーダ初期復号選択設定	DEC_INIT_SEL([FEC_DEC_CTRL: B7 0x03(1)])
FEC デコーダデータ送出順設定	DEC_BYTE_MSB([FEC_DEC_CTRL: B7 0x03(2)])
FEC デコーダデータ入力順設定	DEC_BIT_MSB([FEC_DEC_CTRL: B7 0x03(3)])
デインタリーバデータ出力順設定	DEINTLV_BYTE_MSB([FEC_DEC_CTRL: B7 0x03(4)])

【ご注意】
1. FEC 機能は PSDU 長が 16/24/32 バイト時のみ対応しています。

●タイマ機能

○ウェイクアップタイマ

本 LSI はウェイクアップタイマによる自動ウェイクアップ機能をサポートしております。ウェイクアップタイマを用いることで下記に示す動作が可能となります。

・タイマ満了後、SLEEP 状態から自動ウェイクアップします。ウェイクアップ後の動作は WAKEUP_MODE([SLEEP/WU_SET: B0 0x2D(6)])で RX_ON 状態または TX_ON 状態のいずれかへの状態変更が選択可能です。

・WUT_1SHOT_MODE（[SLEEP/WU_SET: B0 0x2D(7)]）でウェイクアップ動作を繰り返し行う（インターバル動作）か、または 1 回のみ（1 ショット動作）行うかの選択が可能です。

・インターバル動作設定時にウェイクアップタイマにより TX_ON/RX_ON へ状態遷移したとき、動作継続タイマが動作します。

・ウェイクアップにより RX_ON へ状態遷移後、動作継続タイマ満了時には、自動的に SLEEP 状態へ移行します。ただし、動作継続タイマ動作中に SyncWord を検出した場合、RX_ON 状態を継続します。_このとき自動で SLEEP 状態へは遷移しませんので、SLEEP 設定(SLEEP_EN ([SLEEP/WU_SET: B0 0x2D(0)])=0b1)を行ってください。ただし、RXDONE_MODE[1:0] ([RF_STATUS_ CTRL :B0 0x0A (3-2)])=0b11 に設定している場合は、受信完了した場合に自動で SLEEP 状態へ遷移します。
動作継続タイマ満了時の受信継続判断を RCV_CONT_SEL([M_CHECK_CTRL: B0 0x1C(5:4)])により SyncWord 検出時、Field チェック検出、同期検出時から選択できます。

・ウェイクアップにより TX_ON へ状態遷移後、動作継続タイマ動作が満了した場合であっても、自動的に SLEEP に戻りません。送信処理完了後、SLEEP 状態に遷移させる場合、SLEEP 設定(SLEEP_EN ([SLEEP/WU_SET: B0 0x2D(0)])=0b1)を行ってください。

・高速電波チェックモードとの組み合わせにてウェイクアップ後、CCA を自動発行し、IDLE を検出した場合、即座に SLEEP に移行することが可能です。詳細は(3) 高速電波チェックモードとの組合せを参照してください。

・ウェイクアップタイマ用のクロックソースは、WUT_CLK_SOURCE([SLEEP/WU_SET：B0 0x2D(2]]で EXT_CLK 端子からの入力、もしくは内蔵 RC 発振回路を選択することが可能です。

ウェイクアップ間隔、ウェイクアップタイマ間隔および動作継続タイマの動作時間は下式の通り設定可能です。

ウェイクアップ間隔[s] = ウェイクアップタイマ間隔[s] +動作継続タイマ稼働時間[s]

ウェイクアップタイマ間隔[s] = ウェイクアップタイマ用クロック周期 *
分周設定([WUT_CLK_SET: B0 0x2E(3-0)]) *
(ウェイクアップタイマ間隔設定([WUT_INTERVAL_H/L: B0 0x2F/0x30]) + 1)

動作継続タイマ稼働時間[s] = ウェイクアップタイマ用クロック周期 *
分周設定([WUT_CLK_SET: B0 0x2E(7-4)]) *
(動作継続タイマ稼動時間設定 ([WU_DURATION: B0 0x31]) – 1)

【ご注意】

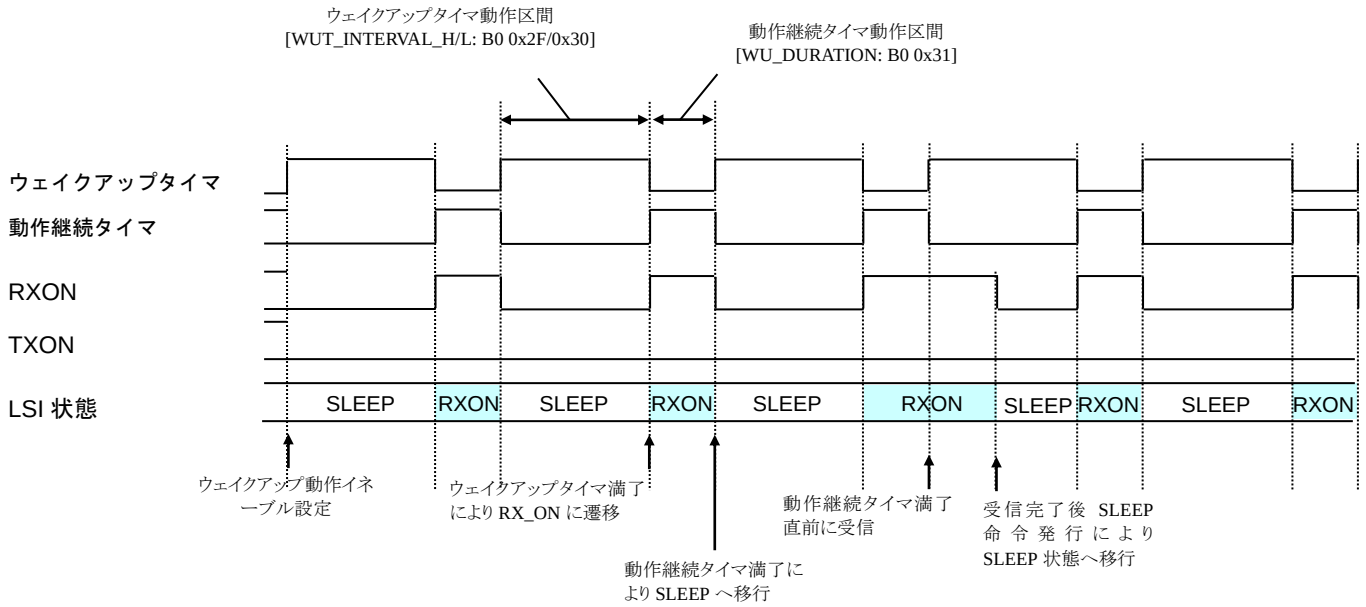
1. ウェイクアップ後 TX_ON へ遷移させる設定時、動作継続タイマ満了時に送信中であった場合には送信中と判断し、送信を継続します。送信完了後は TXDONE_MODE([RF_STATUS_CTRL: B0 0x0A(1-0)])設定に従い、RF 状態遷移を行います。
2. 分周設定の WUDT_CLK_SET ([WUT_CLK_SET: B0 0x2E(7-4)])と WUT_CLK_SET ([WUT_CLK_SET: B0 0x2E(3-0)])は独立して設定可能です。ただし、動作継続タイマを使用する場合は、WUDT_CLK_SET と WUT_CLK_SET は同じ設定にしてください。
3. ウェイクアップタイマ設定間隔([WUT_INTERVAL_H/L: B0 0x2F/0x30])の最小設定は 0x02 となります。また動作継続タイマ稼動時間設定([WU_DURATION: B0 0x31])の最小設定は 0x01 となります。ただし、動作継続タイマ稼働時間設定はウェイクアップによるクロック安定化割込み(INT[0]([INT_SOURCE_GRP1: B0 0x0D(0)]))が通知された後、タイマ満了になるようタイマ値を設定してください。
4. RXDIO_CTRL([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])=0b01 に設定した DIO モードの受信では SyncWord 検出を行わないため、動作継続タイマ満了後 SLEEP 状態へ強制的に移行してしまいます。ご注意ください。
5. タイマ動作により本 LSI が自律的に SLEEP 状態に遷移しますが、SLEEP 遷移タイミングと SPI アクセスが重なった場合、SPI アクセスは無効になります。SLEEP 遷移タイミングと SPI アクセスが重ならないよう制御してください。

(1) インターバル動作

① 受信時

ウェイクアップ後、RX_ON 状態とします。SyncWord 検出前に動作継続タイマが満了した場合、自動で SLEEP に戻ります。SyncWord を検出した場合は、RX_ON を継続します。受信完了後は、RXDONE_MODE[1:0] ([RF_STATUS_CTRL: B0 0x0A(3-2)])に従って動作します。また、SLEEP_EN(SLLEP/WU_SET:B0 0x2D(0)]=0b1 を設定して SLEEP 状態へ遷移させることができます。

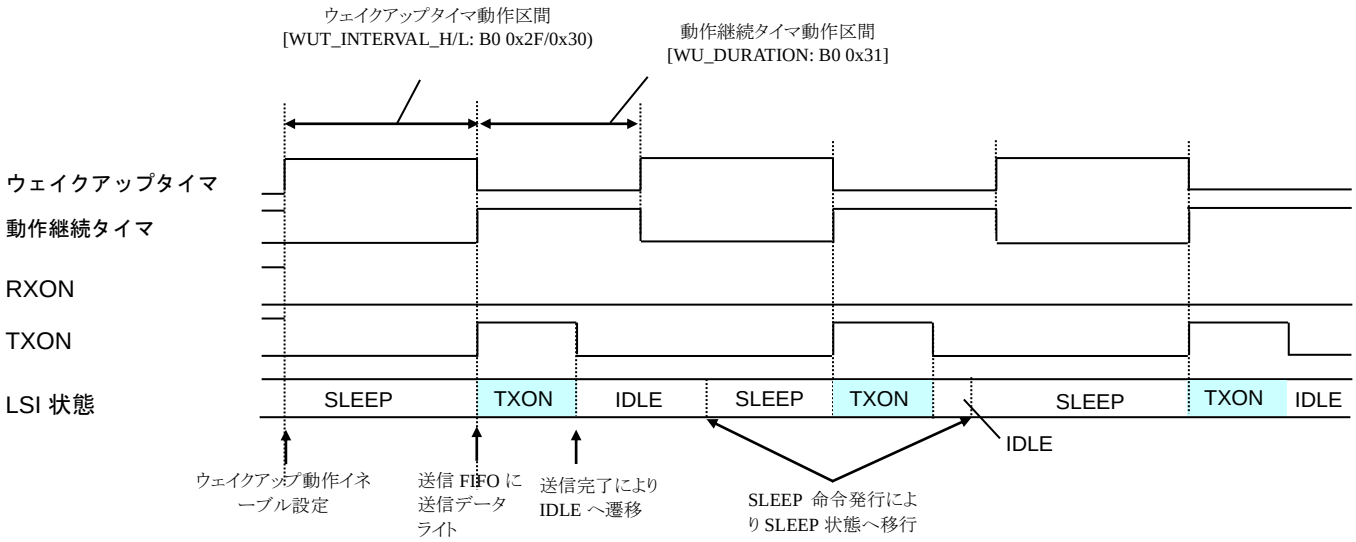
[SLEEPWU_SET: B0 0x2D(6-4)]=0b011 設定時



② 送信時

ウェイクアップ後、TX_ON 状態とします。送信完了後、TXDONE_MODE[1:0] ([RF_STATUS_CTRL: B0 0x0A(1-0)])に従って動作します。動作継続タイマが満了した場合であっても、SLEEP に戻りません。従いまして、送信処理完了後、SLEEP_EN(SLLEP/WU_SET:B0 0x2D(0)]=0b1 を設定して SLEEP 状態へ遷移させてください。

[SLEEPWU_SET: B0 0x2D(6-4)]=0b111 設定時

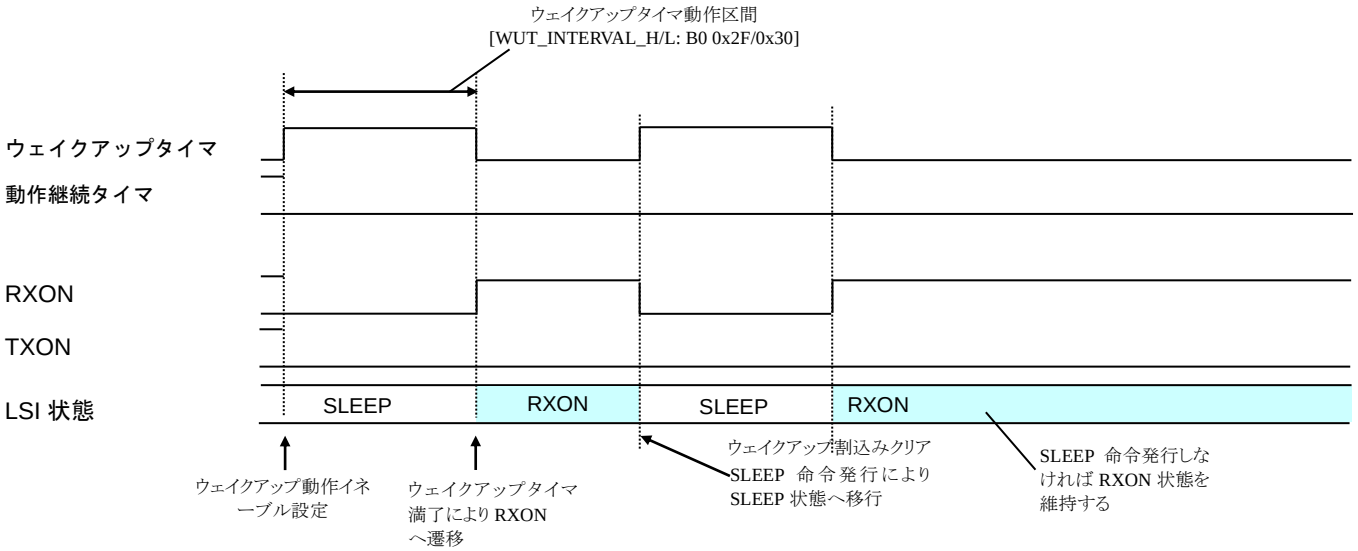


(2) 1 ショット動作

①受信時

ウェイクアップタイマ満了後、RX_ON 状態へ遷移します。その後、RX_ON を継続します。SLEEP 命令発行により SLEEP 状態へ移行します。ウェイクアップタイマ設定間隔([WUT_INTERVAL_H/L: B0 0x2F/0x30])は維持されますので SLEEP 命令発行後、1 ショット動作が再起動いたします。 SLEEP 状態へ移行する前には、ウェイクアップ割込み([INT_SOURCE_GRP1: B0 0x0D(6)])をクリアしてください。 RX_ON 中に受信完了すると RXDONE_MODE[1:0] ([RF_STATUAS_CTRL: B0 0x0A (3-2)])に従って遷移します。送信時も同様の動作となります。

[SLEEP/WU_SET: B0 0x2D(7-4)]=0b1001 設定時

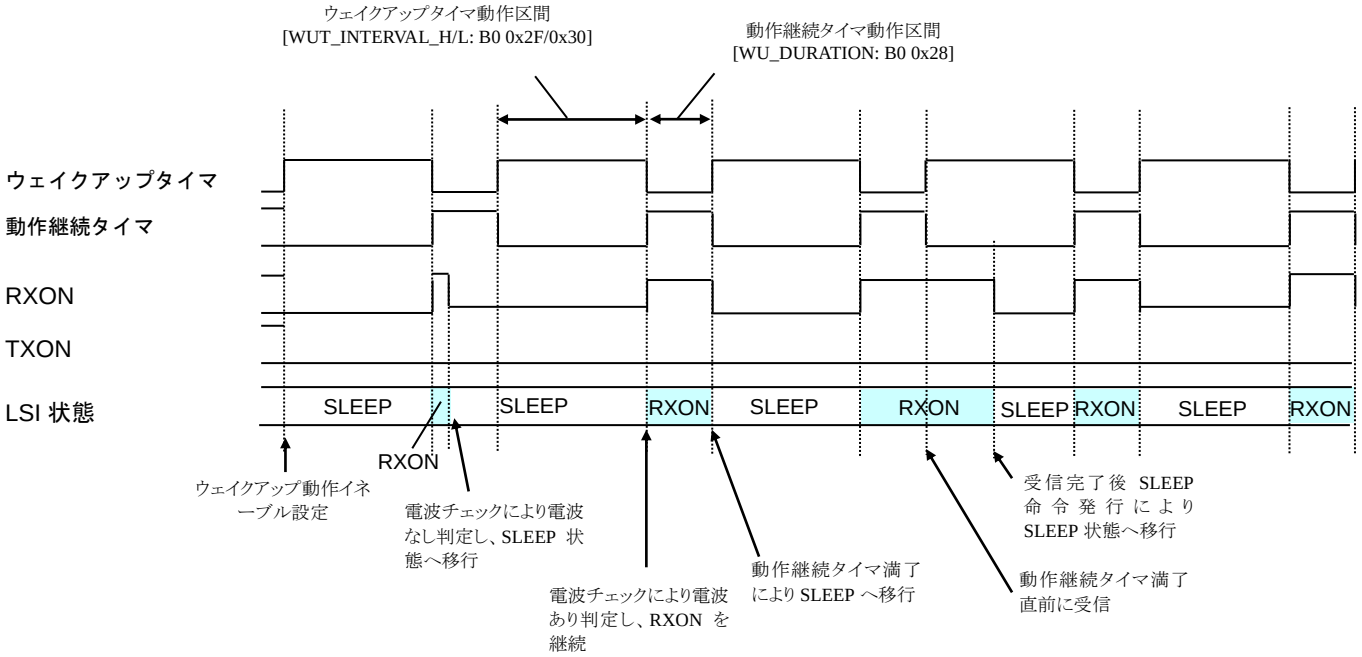


(3) 高速電波チェックモードとの組合せ

①インターバル動作

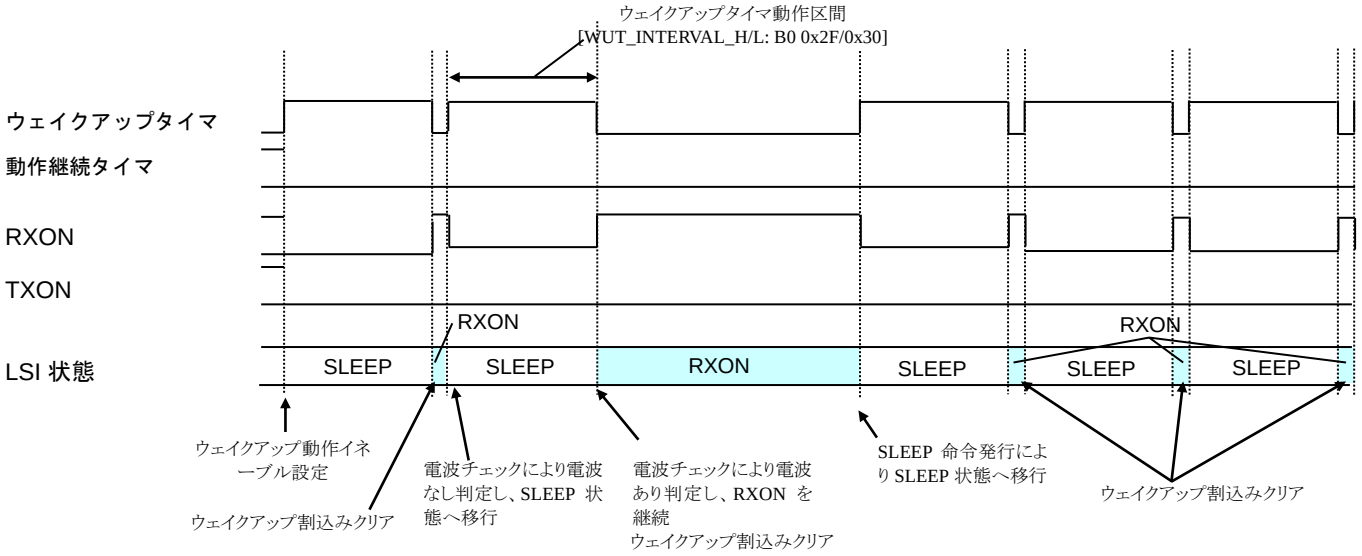
ウェイクアップタイマ満了後、RX_ON 状態へ遷移します。その後、CCA を行い電波チェックを実施します。電波なしと判定した場合、SLEEP 状態へ自動で移行します。電波ありと判定した場合は受信状態を継続し、SyncWord 検出を実施します。SyncWord 検出前に動作継続タイマが満了した場合、自動で SLEEP に戻りますが、SyncWord を検出した場合は、RX_ON を継続します。

[SLEEP/WU_SET: B0 0x2D(7-4)]=0b0011
FAST_DET_MODE_EN([CCA_CTRL: B0 0x39(3)])=0b1 設定時



②1 ショット動作
ウェイクアップタイマ満了後、RX_ON 状態へ遷移します。その後、CCA を行い電波チェックを実施します。電波なしと判定した場合、SLEEP 状態へ自動で移行します。電波なしと判定した場合にウェイクアップタイマ間隔で SLEEP から復帰させる場合、SLEEP へ移行する前にウェイクアップ割込み([INT_SOURCE_GRP1: B0 0x0D(6)])をクリアしてください。電波ありと判定した場合は受信状態を継続します。再度 SLEEP 状態とする場合は、SLEEP 設定を行います。

[SLEEPWU_SET: B0 0x2D(7-4)]=0b1001
FAST_DET_MODE_EN([CCA_CTRL: B0 0x39(3)])=0b1 設定時



○汎用タイマ

本LSIは汎用タイマ機能をサポートします。2系統のタイマを用意し、タイマに使用するクロックソースの選択、タイマ設定が可能です。また、本タイマは 1 ショット動作し、タイマ満了後割込み(INT[22]または INT[23]:割り込みグループ 3)にて通知します。

汎用タイマのタイマ間隔は下式の通り設定可能です。

汎用タイマ間隔[sec] = 汎用タイマ用クロック周期 *
分周設定([GT_CLK_SET: B0 0x33]) *
汎用タイマ間隔設定([GT1_TIMER: B0 0x34]または[GT2_TIMER: B0 0x35])

汎用タイマ用クロックは、GT2/1_CLK_SOURCE [GT_SET: B0 0x32(5,1)]でウェイクアップタイマ用クロック、2MHz から選択可能です。

●周波数設定機能

○チャネル周波数の設定

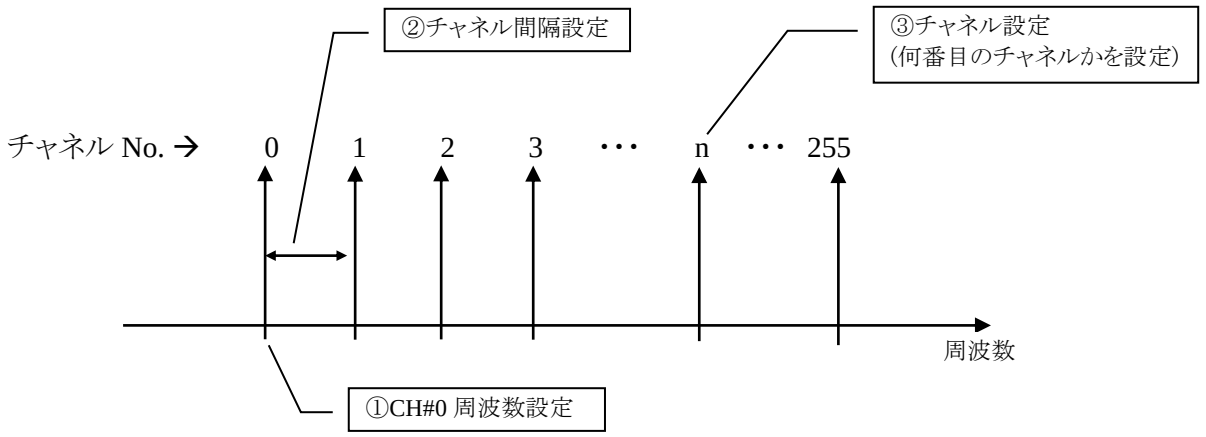
CH#0 から CH#255 までの最大 256 個のチャネル周波数を設定することができます。送受信周波数に関する設定は以下のレジスタにより設定可能です。

設定周波数		レジスタ
CH#0 周波数	送信用	[TXFREQ_I: B1 0x1B]、[TXFREQ_FH: B1 0x1C]、[TXFREQ_FM: B1 0x1D]および[TXFREQ_FL: B1 0x1E]
	受信用	[RXFREQ_I: B1 0x1F]、[RXFREQ_FH: B1 0x20]、[RXFREQ_FM: B1 0x21]および[RXFREQ_FL: B1 0x22]
チャネル間隔		[CH_SPACE_H: B1 0x23]および[CH_SPACE_L: B1 0x24]
チャネル設定		[CH_SET: B0 0x09]
PLL 分周設定		[PLL_DIV_SET: B1 0x1A]

【チャネル周波数設定】
上記レジスタ設定より、チャネル周波数は下式により決定されます。

チャネル周波数 = CH#0 周波数 + チャネル間隔 * チャネル設定

【チャネル周波数設定のイメージ】



RF 周波数(各周波数帯毎)に応じて PLL 分周設定を以下の通り設定して下さい。

PLL 分周設定 [PLL_DIV_SET: B1 0x1A]	
315～510MHz 帯	900MHz 帯
0x02 (2 分周)	0x00 (1 分周)

【ご注意】

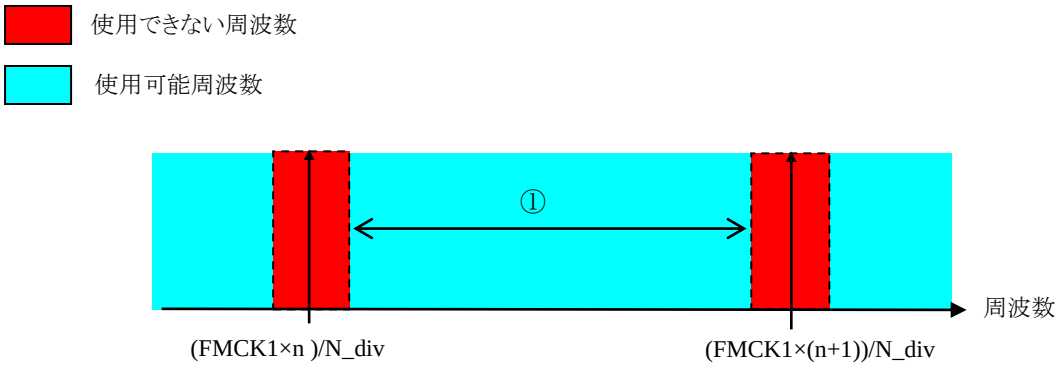
(1) 使用するチャネル周波数は以下の条件を満足しなければなりません。次式を満足しない場合はチャネル#0 周波数設定を変更するか、または他のチャネルを使用してください。なお、上式を満足しない状態では期待するチャネル周波数とならない、または PLL がロックせず正常動作しませんのでご注意ください。

F_{MCK1}:マスタークロック周波数

N_{div} = 1,2

$$(F_{MCK1}*n + 1MHz) / N_{div} \leqq \text{使用チャネル周波数} \leqq (F_{MCK1}*(n+1) - 1MHz) / N_{div} \quad ※n=\text{整数}$$

イメージ図



(上記①の範囲の計算例)

1 分周モード(N_div=1)、マスタークロック 36MHz、n=25 の場合

(36MHz×25+1)MHz ≦ 使用チャネル周波数 ≦(36MHz×(25+1)-1)

⇒ 901MHz ≦ 使用チャネル周波数 ≦935MHz

となります。

(2) CH#0 周波数およびチャネル間隔設定はそれぞれ誤差を含むため、チャネル周波数は次式で示す周波数誤差を生じます。

チャネル周波数誤差[Hz] = CH#0 周波数誤差[Hz] + チャネル間隔設定誤差[Hz] * チャネル設定

CH#0 周波数を変更せずチャネル設定のみを大きくした場合、チャネル周波数誤差が大きくなります。チャネル周波数誤差が大きくなった場合、CH#0 周波数を変更してください。

(3) チャネル周波数(=CH#0 周波数+チャネル間隔×チャネル設定)設定値が、整数部よび小数部(「チャネル#0 周波数の設定」参照)からなる計 26bit が、最大値 0x3FF_FFFF を超えた場合、期待するチャネル周波数は得られません。最大値を考慮し、チャネル#0 周波数、チャネル間隔、チャネル設定の値を決定してください。

(1) チャネル#0 周波数の設定
[TXFREQ_I: B1 0x1B]、[TXFREQ_FH: B1 0x1C]、[TXFREQ_FM: B1 0x1D]および[TXFREQ_FL: B1 0x1E] にて送信周波数周波数を、[RXFREQ_I: B1 0x1F]、[RXFREQ_FH: B1 0x20]、[RXFREQ_FM: B1 0x21]および[RXFREQ_FL: B1 0x22]にて受信周波数を設定することができます。

N_{div} の値については、「チャネル周波数の設定」をご参照ください。

チャネル#0 周波数設定は次式にて求められます。

$$I = \frac{f_{rf}}{f_{ref} / N_{div}} \quad \text{の整数部分}$$

$$F = \left\{ \frac{f_{rf}}{f_{ref} / N_{div}} - I \right\} \cdot 2^{20} \quad \text{の整数部分}$$

ここで、

f_{rf} :チャネル#0 周波数
f_{ref} :PLL リファレンス周波数（=マスタークロック周波数:F_{MCK1}）
I :整数部周波数設定
F :小数部周波数設定
N_{div} :分周設定(1 or 2)

I を 16 進に変換した値を[TXFREQ_I: B1 0x1B]、[RXFREQ_I: B1 0x1F]に設定します。また、F を 16 進に変換した値を次のようにレジスタに設定します。
送信では MSB から[TXFREQ_FH: B1 0x1C]、[TXFREQ_FM: B1 0x1D]、[TXFREQ_FL: B1 0x1E]の順で設定します。
受信では MSB から[RXFREQ_FH: B1 0x20]、[RXFREQ_FM: B1 0x21]、[RXFREQ_FL: B1 0x22]の順で設定します。

周波数誤差 f_{err} は下式で求められます。

$$f_{err} = \left\{ I + \frac{F}{2^{20}} \right\} \cdot (f_{ref} / N_{div}) - f_{rf}$$

例）CH#0 送信周波数 f_{rf} =920MHz を設定する場合（マスタークロック 36MHz、N_{div}=1 時）、以下のようになります。

$$I = \frac{920MHz}{(36MHz/1)} \text{ の整数部 } = 25(0x19)$$

$$F = \left\{ \frac{920MHz}{(36MHz/1)} - 25 \right\} \cdot 2^{20} \text{ の整数部} = 582542(0x8E38E)$$

[TXFREQ_I: B1 0x1B] = 0x19
[TXFREQ _FH: B1 0x1C] = 0x08
[TXFREQ _FM: B1 0x1D] = 0xE3
[TXFREQ _FL: B1 0x1E] = 0x8E

となります。
周波数誤差 f_{err} は次のようになります。

$$f_{err} = \left\{ 25 + \frac{582542}{2^{20}} \right\} \cdot (36MHz/1) - 920MHz = 0Hz$$

(2) チャネル間隔の設定
[CH_SPACE_H: B1 0x23]と[CH_SPACE_L: B1 0x24]を使用してチャネル間隔を設定することができます。以下の式で計算されるチャネル間隔を 16 進に変換し MSB から[CH_SPACE_H: B1 0x23]、[CH_SPACE_L: B1 0x24]の順で設定します。
チャネル間隔とは、あるチャネルの中心周波数とそのチャネルと隣接するチャネルの中心周波数の間隔です。

N_{div} の値については、「チャネル周波数の設定」をご参照ください。

[CH_SPACE_H: B1 0x23]、[CH_SPACE_L: B1 0x24]の設定値は、下記の式で求められます。

$$CH_SPACE = \left\{ \frac{f_{sp}}{f_{ref} / N_{div}} \right\} \cdot 2^{20} \text{ の整数部分}$$

ここで

CH_SPACE : チャネルスペース設定

f_{sp} : チャネルスペース[MHz]

f_{ref} : PLL リファレンス周波数（=マスタークロック周波数 : F_{MCK1}）

N_{div} : 分周設定(1 or 2)

例）CH 間隔 400kHz の設定の場合（マスタークロック 36MHz、N_{div}=1 時）、以下のようになります。

$$CH_SPACE = \left\{ \frac{0.4MHz}{36MHz/1} \right\} \cdot 2^{20} \text{ の整数部分} = 11650(0x2D82)$$

[CH_SPACE_H: B1 0x23] = 0x2D
[CH_SPACE_L: B1 0x24] = 0x82
となります。

○IF 周波数の設定

IF 周波数は[IF_FREQ: B0 0x61]にて設定します。IF 周波数設定値と IF 周波数との関係は下表の通りとなります。
なお、通常受信時と CCA 時で個別に設定可能です。

IF_FREQ([IF_FREQ: B0 0x61(2-0)] IF_FREQ_CCA([IF_FREQ: B0 0x61(6-4)]	IF 周波数(*1)
0b000	225kHz
0b001	150kHz
0b010	設定禁止
0b011	112.5kHz
0b100	設定禁止
0b101	75kHz
0b110	設定禁止
0b111	0kHz

(*1) IF 周波数はマスタークロック 36MHz 使用時の値です。36MHz 以外のマスタークロック使用時は、36MHz からの周波数変化量に応じて IF 周波数が変わります。

●変調機能

○FSK 変調

FSK 変調を使用する場合、MOD_TYPE([MOD_CTRL: B6 0x01(1-0)])=0b00 に設定してください。

(1) GFSK 変調の設定

GFSK モードを使用する場合は、GFSK_EN([DATA_SET1: B0 0x07(4)])=0b1 を設定してください。GFSK 変調では周波数偏位を[GFSK_DEV_H: B1 0x30]と[GFSK_DEV_L: B1 0x31]レジスタで、またガウシアンフィルタのフィルタ係数を[FSK_DEV0_H/ GFIL0: B1 0x32]から[FSK_DEV3_H: B1 0x38]のレジスタを使用して設定することができます。2 値 FSK/4 値 FSK は FSK_SEL[DATA_SET2: B0 0x08(5)]により選択可能です。

N_{div} の値については、「チャネル周波数の設定」をご参照ください。

① GFSK 周波数偏位の設定
F_DEV の設定値は、下記の式で求められます。

$$F_DEV = \left\{ \frac{f_{dev}}{f_{ref} / N_{div}} \right\} \cdot 2^{20} \text{ の整数部分}$$

ここで

f_{dev} :周波数偏位 [Hz]

f_{ref} : PLL リファレンス周波数(=マスタークロック周波数:F_{MCK1})

N_{div} :分周設定(1 or 2)

4 値 GFSK の場合は、最大周波数偏位の値を設定してください。

例) 周波数偏位=50kHz を設定する場合、f_{REF} = 36MHz、N_{div}=1 時の設定値は以下のようになります。
F_DEV = {0.05MHz ÷ (36MHz/1)} ×2^{20} の整数部分 = 1456(0x05B0)
この場合、[GFSK_FDEV_H/L: B1 0x30/31]には以下のように設定してください。
[GFSK_DEV_H: B1 0x30] = 0x05
[GFSK_DEV_L: B1 0x31] = 0xB0

② ガウシアンフィルタの設定

GFSK モードは GFSK_EN([DATA_SET1: B0 0x07(4)])=0b1 にて設定することができます。
ガウシアンフィルタの BT 値は以下レジスタにて設定可能です。

BT 値とレジスタ設定と関係を以下に示します。

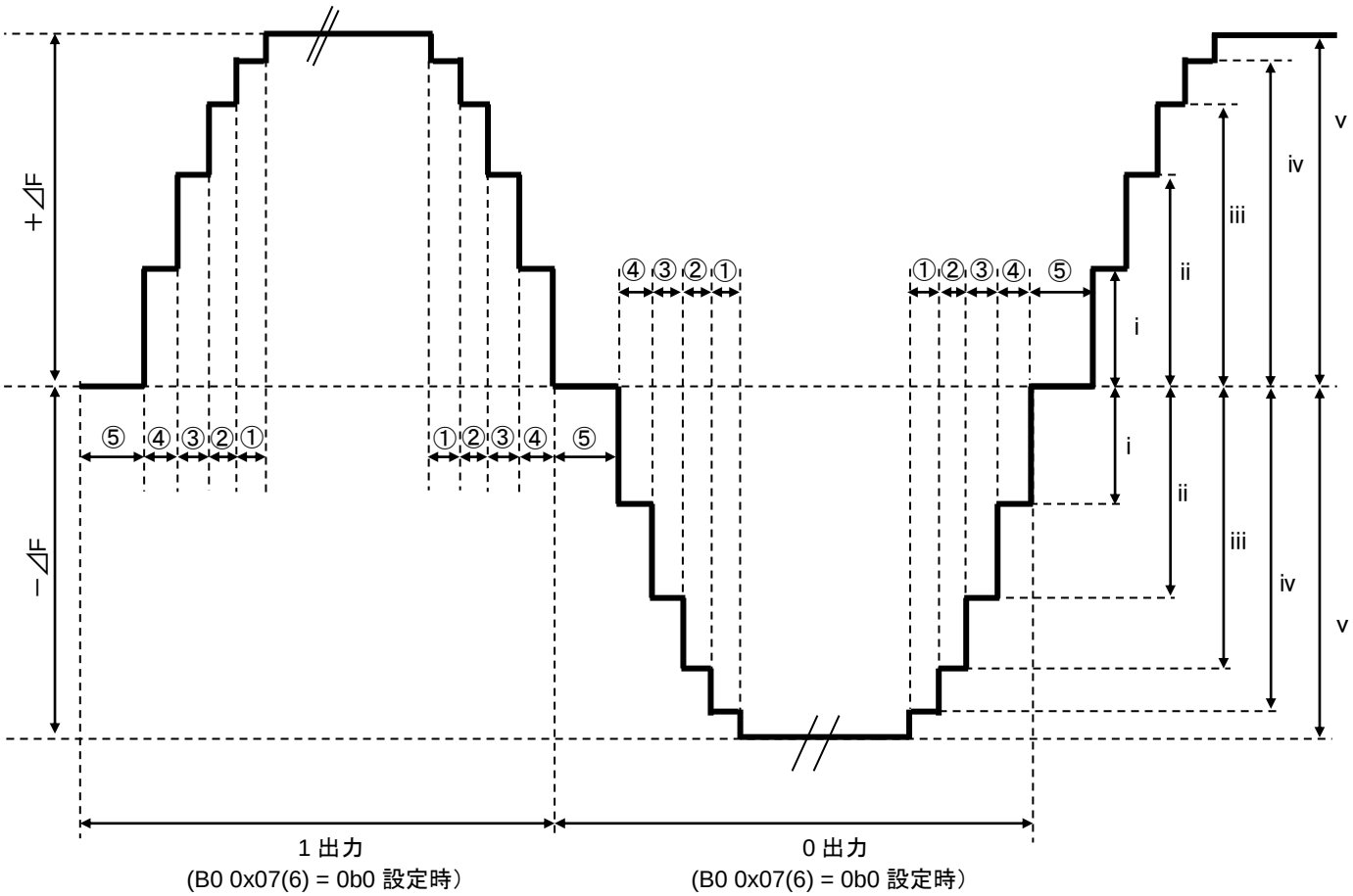
レジスタ	BT 値	
	0.5	1.0
[FSK_DEV0_H/GFIL0: B1 0x32]	0x24	0x00
[FSK_DEV0_L/GFIL1: B1 0x33]	0xD6	0x00
[FSK_DEV1_H/GFIL2: B1 0x34]	0x19	0x02
[FSK_DEV1_L/GFIL3: B1 0x35]	0x29	0x0C
[FSK_DEV2_H/GFIL4: B1 0x36]	0x3A	0x31
[FSK_DEV2_L/GFIL5: B1 0x37]	0x48	0x74
[FSK_DEV3_H/GFIL6: B1 0x38]	0x4C	0x9A

【ご注意】
GFSK のフィルタ係数設定レジスタと FSK 周波数偏位設定レジスタは共通です。GFSK モード時にはフィルタ係数を、FSK モード時は周波数偏位を適切に設定してください。

(2) FSK 変調の設定

FSK モードは GFSK_EN([DATA_SET1: B0 0x07(4)])=0b0 により設定することが可能です。また、 [FSK_DEV0_H/GFIL0: B1 0x32]から[FSK_DEV4_L: B1 0x3B]を設定することで詳細な周波数偏位量を設定できます。また、[FSK_TIM_ADJ4: B1 0x3C]から[FSK_TIM_ADJ0: B1 0x40]の設定値を変えることで、FSK の時間方向の詳細なタイミングを設定できます。2 値 FSK/4 値 FSK は FSK_SEL[DATA_SET2: B0 0x08(5)]により選択可能です。

[2FSK の場合]

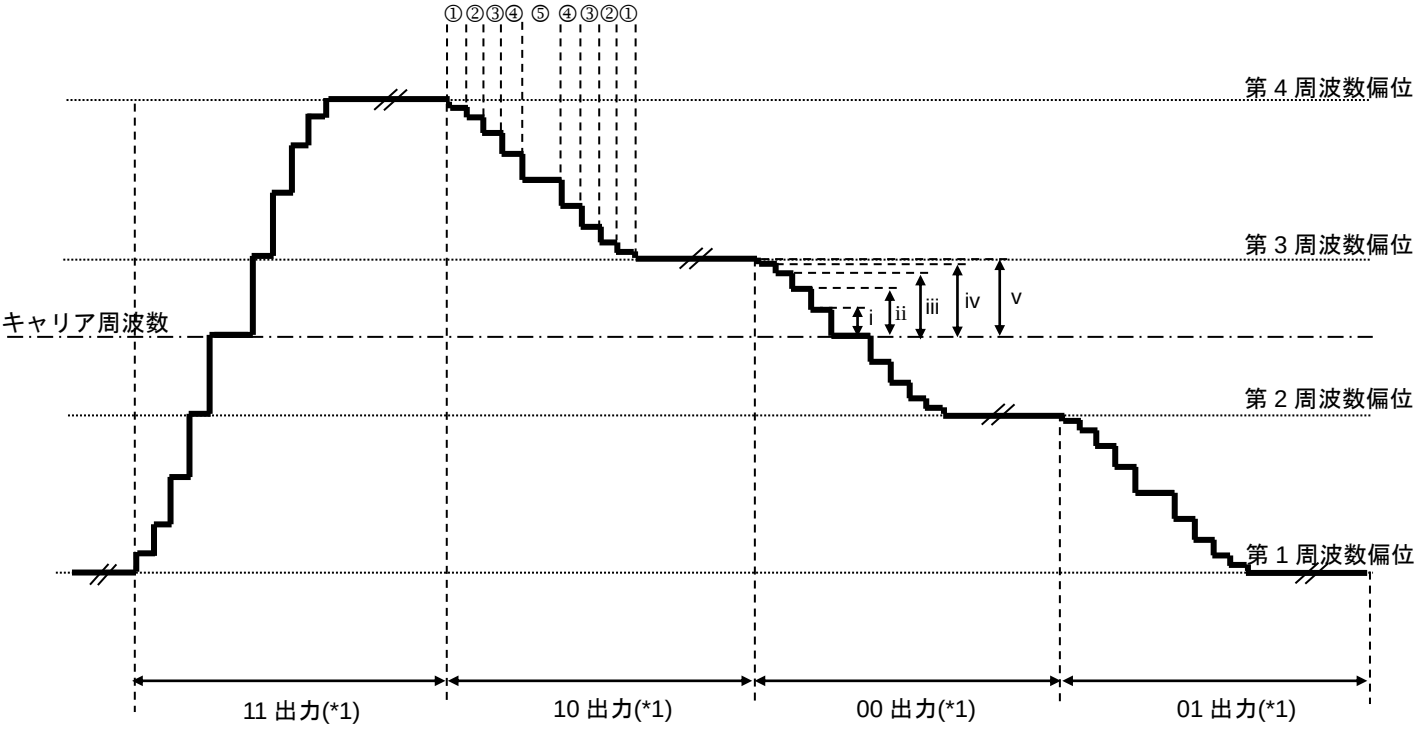


周波数偏位設定				時間設定			
記号	レジスタ名	アドレス	機能	記号	レジスタ名	アドレス	機能
i	FSK_FDEV0_H/GFIL0 FSK_FDEV0_L/GFIL1	B1 0x32/33	周波数偏位 約 34(Hz)	①	FSK_TIM_ADJ4	B1 0x3C	変調タイミング 4MHz/12MHz カウンタ値 (*1)
ii	FSK_FDEV1_H/GFIL2 FSK_FDEV1_L/GFIL3	B1 0x34/35		②	FSK_TIM_ADJ3	B1 0x3D	
iii	FSK_FDEV2_H/GFIL4 FSK_FDEV2_L/GFIL5	B1 0x36/37		③	FSK_TIM_ADJ2	B1 0x3E	
iv	FSK_FDEV3_H/GFIL6 FSK_FDEV3_L	B1 0x38/39		④	FSK_TIM_ADJ1	B1 0x3F	
v	FSK_FDEV4_H FSK_FDEV4_L	B1 0x3A/3B		⑤	FSK_TIM_ADJ0	B1 0x40	

(*1) 変調タイミング分解能の切替は、FSK_CLK_SET ([FSK_CTRL: B1 0x2F(0)])にて設定できます。

【ご注意】
GFSK のフィルタ係数設定レジスタと FSK 周波数偏位設定レジスタは共通です。GFSK モード時にはフィルタ係数を、FSK モード時は周波数偏位を適切に設定してください。

[4FSK の場合]



(*1) 各周波数偏位(第 1～第 4)に対するデータ(00/01/10/11)のマッピングは、[4FSK_DATA_MAP: B1 0x40]により変更できます。

(*2) 第 1 周波数偏位から第 3 周波数偏位などへ 2 段階周波数が変化する場合、各周波数変化量は i~v の 2 倍となります。第 1 周波数偏位から第 4 周波数偏位などへ 3 段階周波数が変化する場合、各周波数変化量は i~v の 3 倍となります。

周波数偏位の設定を表に示します。算出式のパラメータはレジスタのビット名です。

周波数偏位設定			
記号	算出式	アドレス	機能
i	FSK_FDEV4 - FSK_FDEV3	B1 0x3A/3B, B1 0x38/39	周波数偏位 約 34(Hz)
ii	FSK_FDEV4 - FSK_FDEV2	B1 0x3A/3B, B1 0x36/37	
iii	FSK_FDEV4 - FSK_FDEV1	B1 0x3A/3B, B1 0x34/35	
iv	FSK_FDEV4 - FSK_FDEV0	B1 0x3A/3B, B1 0x32/33	
v	FSK_FDEV4	B1 0x3A/3B	

時間設定			
記号	レジスタ名	アドレス	機能
①	FSK_TIM_ADJ4	B1 0x3C	変調タイミング 4MHz/12MHz カウンタ値 (*1)
②	FSK_TIM_ADJ3	B1 0x3D	
③	FSK_TIM_ADJ2	B1 0x3E	
④	FSK_TIM_ADJ1	B1 0x3F	
⑤	FSK_TIM_ADJ0	B1 0x40	

(*1) 変調タイミング分解能の切替は、FSK_CLK_SET ([FSK_CTRL: B1 0x2F(0)])にて設定できます。

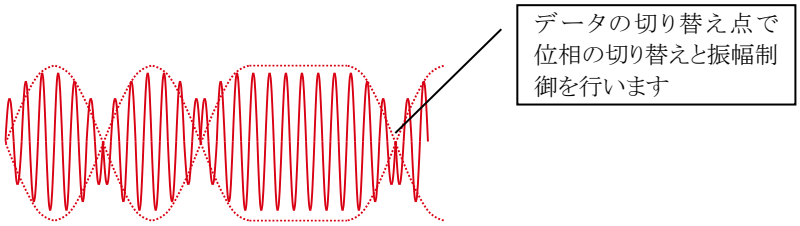
【ご注意】
GFSK のフィルタ係数設定レジスタと FSK 周波数偏位設定レジスタは共通です。GFSK モード時にはフィルタ係数を、FSK モード時は周波数偏位を適切に設定してください。

○BPSK 変調

本 LSI は BPSK 変調において以下の 2 方式を備えています。

・位相切替方式
　送信データに応じてキャリア信号の位相(0°/180°)を切り替えます。

・周波数制御方式
　送信データに応じてキャリア信号の周波数を制御し、位相を切り替えます。



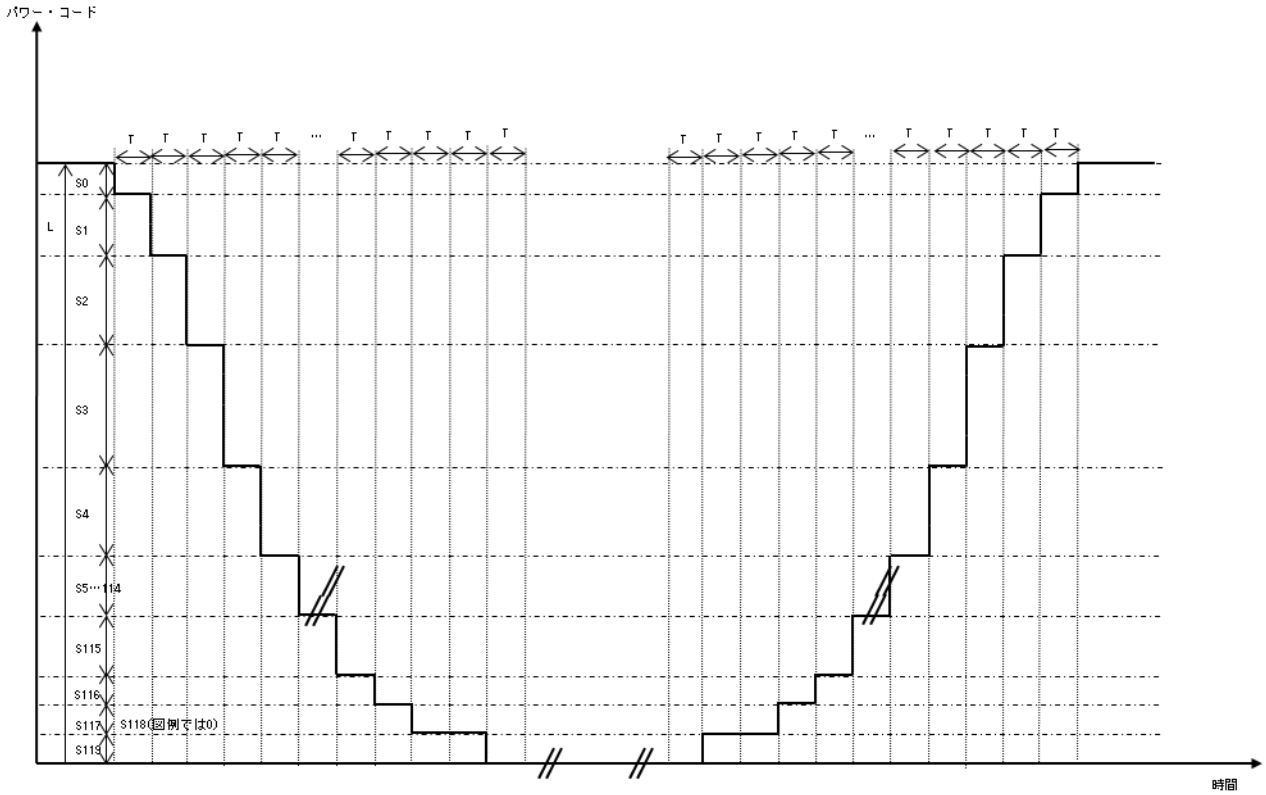
BPSK 変調波形 (PA 出力イメージ)
位相の切り替えと PA 制御 (振幅制御)にて変調を行います

BPSK 方式/PA 制御設定において下記レジスタの設定が必要となります。設定値は「初期設定レジスタ」に示す値を設定してください。

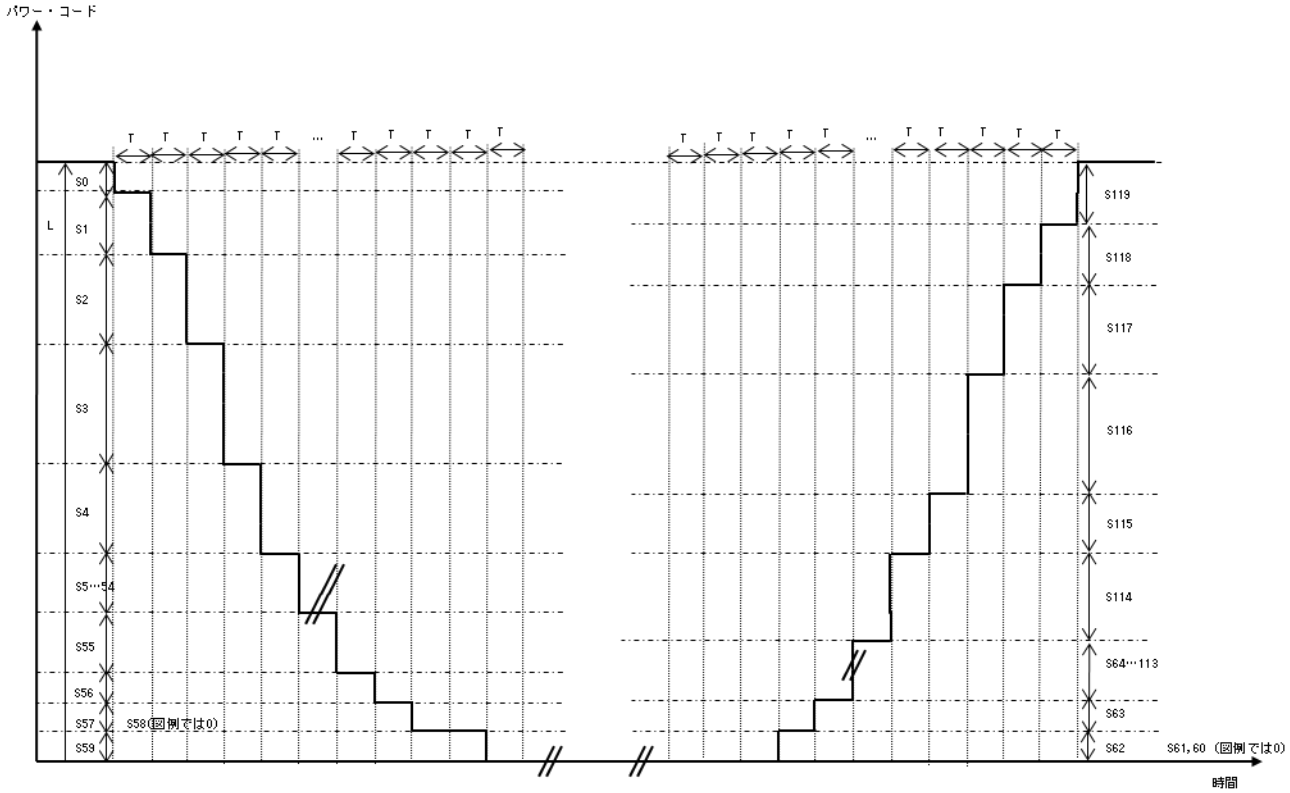
ビット名	アドレス	BPSK 方式	
		位相切替	周波数制御
MOD_TYPE[1:0]	[MOD_CTRL: B6 0x01(1-0)]	✔(0b01)	✔(0b01)
BPSK_PLL_CTRL	[BPSK_PLL_CTRL: B0 0x7B(0)]	✔(0b0)	✔(0b1)
GFSK_EN	[DATA_SET1: B0 0x07(4)]	✔(0b1)	✔(0b1)
BPSK_P_CLKEL	[BPSK_PLL_CTRL: B6 0x7B(1)]	-	✔
BPSK_P_START[10:0]	[BPSK_P_START_H/L: B6 0x7C(2-0)/7D(7-0)]	-	✔
BPSK_P_HOLD[11:0]	[BPSK_P_HOLD_H/L: B6 0x7E(3-0)/7F(7-0)]	-	✔
BPSK_STEP_EN	[BPSK_STEP_CTRL:B10 0x01(4)]	✔(0b1)	✔(0b1)
BPSK_STEP_SEL	[BPSK_STEP_CTRL:B10 0x01(5)]	✔	✔
BPSK_CLK_SEL	[BPSK_STEP_CTRL:B10 0x01(6)]	✔	✔
BPSK_CLK_SET[8:0]	[BPSK_STEP_CTRL:B10 0x01(0)] [BPSK_STEP_CLK_SET:B10 0x02(7-0)]	✔	✔
STEP0[3:0]-STEP119[3:0]	[BPSK_STEP_SET0:B10 0x04(3-0)] [BPSK_STEP_SET0:B10 0x04(7-4)] … [BPSK_STEP_SET59:B10 0x3F(3-0)] [BPSK_STEP_SET59:B10 0x3F(7-4)]	✔	✔

また、位相切替時または周波数切替時に生じる高周波スプリアスを抑制するため、位相切替または周波数切替前後で PA による送信出力パワー制御を行います。この PA 制御は上記 2 方式に対し、下表に示す PA 制御が可能です。
①PA パワーダウン・アップ共通設定
②PA パワーダウン・アップ個別設定

①PA パワーダウン・アップ共通設定(BPSK_STEP_SEL([BPSK_STEP_CTLR: B10 0x01(5)]) = 0b1)



②PA パワーダウン・アップ個別設定(BPSK_STEP_SEL([BPSK_STEP_CTLR: B10 0x01(5)]) = 0b0)



BPSK 変調における PA 制御に関するレジスタは以下の通りです。

シンボル	ビット名	アドレス	機能	備考
S0	STEP0[3:0]	[B10 0x04(3-0)]	BPSK ステップ制御 0	
S1	STEP1[3:0]	[B10 0x04(7-4)]	BPSK ステップ制御 1	
S2	STEP2[3:0]	[B10 0x05(3-0)]	BPSK ステップ制御 2	
S3	STEP3[3:0]	[B10 0x05(7-4)]	BPSK ステップ制御 3	
S4	STEP4[3:0]	[B10 0x06(3-0)]	BPSK ステップ制御 4	
S5	STEP5[3:0]	[B10 0x06(7-4)]	BPSK ステップ制御 5	
S6	STEP6[3:0]	[B10 0x07(3-0)]	BPSK ステップ制御 6	
S7	STEP7[3:0]	[B10 0x07(7-4)]	BPSK ステップ制御 7	
S8	STEP8[3:0]	[B10 0x08(3-0)]	BPSK ステップ制御 8	
S9	STEP9[3:0]	[B10 0x08(7-4)]	BPSK ステップ制御 9	
S10	STEP10[3:0]	[B10 0x09(3-0)]	BPSK ステップ制御 10	
S11	STEP11[3:0]	[B10 0x09(7-4)]	BPSK ステップ制御 11	
S12	STEP12[3:0]	[B10 0x0A(3-0)]	BPSK ステップ制御 12	
S13	STEP13[3:0]	[B10 0x0A(7-4)]	BPSK ステップ制御 13	
S14	STEP14[3:0]	[B10 0x0B(3-0)]	BPSK ステップ制御 14	
S15	STEP15[3:0]	[B10 0x0B(7-4)]	BPSK ステップ制御 15	
S16	STEP16[3:0]	[B10 0x0C(3-0)]	BPSK ステップ制御 16	
S17	STEP17[3:0]	[B10 0x0C(7-4)]	BPSK ステップ制御 17	
S18	STEP18[3:0]	[B10 0x0D(3-0)]	BPSK ステップ制御 18	
S19	STEP19[3:0]	[B10 0x0D(7-4)]	BPSK ステップ制御 19	
S20	STEP20[3:0]	[B10 0x0E(3-0)]	BPSK ステップ制御 20	
S21	STEP21[3:0]	[B10 0x0E(7-4)]	BPSK ステップ制御 21	
S22	STEP22[3:0]	[B10 0x0F(3-0)]	BPSK ステップ制御 22	
S23	STEP23[3:0]	[B10 0x0F(7-4)]	BPSK ステップ制御 23	
S24	STEP24[3:0]	[B10 0x10(3-0)]	BPSK ステップ制御 24	
S25	STEP25[3:0]	[B10 0x10(7-4)]	BPSK ステップ制御 25	
S26	STEP26[3:0]	[B10 0x11(3-0)]	BPSK ステップ制御 26	
S27	STEP27[3:0]	[B10 0x11(7-4)]	BPSK ステップ制御 27	
S28	STEP28[3:0]	[B10 0x12(3-0)]	BPSK ステップ制御 28	
S29	STEP29[3:0]	[B10 0x12(7-4)]	BPSK ステップ制御 29	
S30	STEP30[3:0]	[B10 0x13(3-0)]	BPSK ステップ制御 30	
S31	STEP31[3:0]	[B10 0x13(7-4)]	BPSK ステップ制御 31	
S32	STEP32[3:0]	[B10 0x14(3-0)]	BPSK ステップ制御 32	
S33	STEP33[3:0]	[B10 0x14(7-4)]	BPSK ステップ制御 33	
S34	STEP34[3:0]	[B10 0x15(3-0)]	BPSK ステップ制御 34	
S35	STEP35[3:0]	[B10 0x15(7-4)]	BPSK ステップ制御 35	
S36	STEP36[3:0]	[B10 0x16(3-0)]	BPSK ステップ制御 36	
S37	STEP37[3:0]	[B10 0x16(7-4)]	BPSK ステップ制御 37	
S38	STEP38[3:0]	[B10 0x17(3-0)]	BPSK ステップ制御 38	
S39	STEP39[3:0]	[B10 0x17(7-4)]	BPSK ステップ制御 39	
S40	STEP40[3:0]	[B10 0x18(3-0)]	BPSK ステップ制御 40	
S41	STEP41[3:0]	[B10 0x18(7-4)]	BPSK ステップ制御 41	
S42	STEP42[3:0]	[B10 0x19(3-0)]	BPSK ステップ制御 42	
S43	STEP43[3:0]	[B10 0x19(7-4)]	BPSK ステップ制御 43	
S44	STEP44[3:0]	[B10 0x1A(3-0)]	BPSK ステップ制御 44	
S45	STEP45[3:0]	[B10 0x1A(7-4)]	BPSK ステップ制御 45	
S46	STEP46[3:0]	[B10 0x1B(3-0)]	BPSK ステップ制御 46	
S47	STEP47[3:0]	[B10 0x1B(7-4)]	BPSK ステップ制御 47	
S48	STEP48[3:0]	[B10 0x1C(3-0)]	BPSK ステップ制御 48	
S49	STEP49[3:0]	[B10 0x1C(7-4)]	BPSK ステップ制御 49	
S50	STEP50[3:0]	[B10 0x1D(3-0)]	BPSK ステップ制御 50	
S51	STEP51[3:0]	[B10 0x1D(7-4)]	BPSK ステップ制御 51	
S52	STEP52[3:0]	[B10 0x1E(3-0)]	BPSK ステップ制御 52	
S53	STEP53[3:0]	[B10 0x1E(7-4)]	BPSK ステップ制御 53	

PA 制御レジスター一覧(続き)

シンボル	ビット名	アドレス	機能	備考
S54	STEP54[3:0]	[B10 0x1F(3-0)]	BPSK ステップ制御 54	
S55	STEP55[3:0]	[B10 0x1F(7-4)]	BPSK ステップ制御 55	
S56	STEP56[3:0]	[B10 0x20(3-0)]	BPSK ステップ制御 56	
S57	STEP57[3:0]	[B10 0x20(7-4)]	BPSK ステップ制御 57	
S58	STEP58[3:0]	[B10 0x21(3-0)]	BPSK ステップ制御 58	
S59	STEP59[3:0]	[B10 0x21(7-4)]	BPSK ステップ制御 59	
S60	STEP60[3:0]	[B10 0x22(3-0)]	BPSK ステップ制御 60	
S61	STEP61[3:0]	[B10 0x22(7-4)]	BPSK ステップ制御 61	
S62	STEP62[3:0]	[B10 0x23(3-0)]	BPSK ステップ制御 62	
S63	STEP63[3:0]	[B10 0x23(7-4)]	BPSK ステップ制御 63	
S64	STEP64[3:0]	[B10 0x24(3-0)]	BPSK ステップ制御 64	
S65	STEP65[3:0]	[B10 0x24(7-4)]	BPSK ステップ制御 65	
S66	STEP66[3:0]	[B10 0x25(3-0)]	BPSK ステップ制御 66	
S67	STEP67[3:0]	[B10 0x25(7-4)]	BPSK ステップ制御 67	
S68	STEP68[3:0]	[B10 0x26(3-0)]	BPSK ステップ制御 68	
S69	STEP69[3:0]	[B10 0x26(7-4)]	BPSK ステップ制御 69	
S70	STEP70[3:0]	[B10 0x27(3-0)]	BPSK ステップ制御 70	
S71	STEP71[3:0]	[B10 0x27(7-4)]	BPSK ステップ制御 71	
S72	STEP72[3:0]	[B10 0x28(3-0)]	BPSK ステップ制御 72	
S73	STEP73[3:0]	[B10 0x28(7-4)]	BPSK ステップ制御 73	
S74	STEP74[3:0]	[B10 0x29(3-0)]	BPSK ステップ制御 74	
S75	STEP75[3:0]	[B10 0x29(7-4)]	BPSK ステップ制御 75	
S76	STEP76[3:0]	[B10 0x2A(3-0)]	BPSK ステップ制御 76	
S77	STEP77[3:0]	[B10 0x2A(7-4)]	BPSK ステップ制御 77	
S78	STEP78[3:0]	[B10 0x2B(3-0)]	BPSK ステップ制御 78	
S79	STEP79[3:0]	[B10 0x2B(7-4)]	BPSK ステップ制御 79	
S80	STEP80[3:0]	[B10 0x2C(3-0)]	BPSK ステップ制御 80	
S81	STEP81[3:0]	[B10 0x2C(7-4)]	BPSK ステップ制御 81	
S82	STEP82[3:0]	[B10 0x2D(3-0)]	BPSK ステップ制御 82	
S83	STEP83[3:0]	[B10 0x2D(7-4)]	BPSK ステップ制御 83	
S84	STEP84[3:0]	[B10 0x2E(3-0)]	BPSK ステップ制御 84	
S85	STEP85[3:0]	[B10 0x2E(7-4)]	BPSK ステップ制御 85	
S86	STEP86[3:0]	[B10 0x2F(3-0)]	BPSK ステップ制御 86	
S87	STEP87[3:0]	[B10 0x2F(7-4)]	BPSK ステップ制御 87	
S88	STEP88[3:0]	[B10 0x30(3-0)]	BPSK ステップ制御 88	
S89	STEP89[3:0]	[B10 0x30(7-4)]	BPSK ステップ制御 89	
S90	STEP90[3:0]	[B10 0x31(3-0)]	BPSK ステップ制御 90	
S91	STEP91[3:0]	[B10 0x31(7-4)]	BPSK ステップ制御 91	
S92	STEP92[3:0]	[B10 0x32(3-0)]	BPSK ステップ制御 92	
S93	STEP93[3:0]	[B10 0x32(7-4)]	BPSK ステップ制御 93	
S94	STEP94[3:0]	[B10 0x33(3-0)]	BPSK ステップ制御 94	
S95	STEP95[3:0]	[B10 0x33(7-4)]	BPSK ステップ制御 95	
S96	STEP96[3:0]	[B10 0x34(3-0)]	BPSK ステップ制御 96	
S97	STEP97[3:0]	[B10 0x34(7-4)]	BPSK ステップ制御 97	
S98	STEP98[3:0]	[B10 0x35(3-0)]	BPSK ステップ制御 98	
S99	STEP99[3:0]	[B10 0x35(7-4)]	BPSK ステップ制御 99	
S100	STEP100[3:0]	[B10 0x36(3-0)]	BPSK ステップ制御 100	
S101	STEP101[3:0]	[B10 0x36(7-4)]	BPSK ステップ制御 101	
S102	STEP102[3:0]	[B10 0x37(3-0)]	BPSK ステップ制御 102	
S103	STEP103[3:0]	[B10 0x37(7-4)]	BPSK ステップ制御 103	
S104	STEP104[3:0]	[B10 0x38(3-0)]	BPSK ステップ制御 104	
S105	STEP105[3:0]	[B10 0x38(7-4)]	BPSK ステップ制御 105	
S106	STEP106[3:0]	[B10 0x39(3-0)]	BPSK ステップ制御 106	

PA 制御レジスター一覧(続き)

シンボル	ビット名	アドレス	機能	備考
S107	STEP107[3:0]	[B10 0x39(7-4)]	BPSK ステップ制御 107	
S108	STEP108[3:0]	[B10 0x3A(3-0)]	BPSK ステップ制御 108	
S109	STEP109[3:0]	[B10 0x3A(7-4)]	BPSK ステップ制御 109	
S110	STEP110[3:0]	[B10 0x3B(3-0)]	BPSK ステップ制御 110	
S111	STEP111[3:0]	[B10 0x3B(7-4)]	BPSK ステップ制御 111	
S112	STEP112[3:0]	[B10 0x3C(3-0)]	BPSK ステップ制御 112	
S113	STEP113[3:0]	[B10 0x3C(7-4)]	BPSK ステップ制御 113	
S114	STEP114[3:0]	[B10 0x3D(3-0)]	BPSK ステップ制御 114	
S115	STEP115[3:0]	[B10 0x3D(7-4)]	BPSK ステップ制御 115	
S116	STEP116[3:0]	[B10 0x3E(3-0)]	BPSK ステップ制御 116	
S117	STEP117[3:0]	[B10 0x3E(7-4)]	BPSK ステップ制御 117	
S118	STEP118[3:0]	[B10 0x3F(3-0)]	BPSK ステップ制御 118	
S119	STEP119[3:0]	[B10 0x3F(7-4)]	BPSK ステップ制御 119	
T	BPSK_STEP_CLK_SEL	[B10 0x01(5)]	ステップ制御クロック選択設定 0: マスタークロック周波数/2 (18MHz) 1: マスタークロック周波数/4 (9MHz)	ステップ制御クロック周期 T = ステップ制御用クロック周期×ステップ制御クロック選択設定
	CLK_SET[8:0]	[B0 0x02(0), B0 0x03(7-0)]	ステップ制御クロック周期設定	
L	PA_REG_ADJ[8:0]	[b0 0x67(0), b0 68(7:0)]	PA レギュレータの出力電圧調整設定	

●受信関連機能

○AFC 機能

本 LSI は受信時の AFC 機能を持っています。送信相手と本 LSI 内部のローカル信号のそれぞれの周波数偏差（最大±20ppm）を本機能で補正します。本機能により周波数偏差内で一定の受信感度や妨害波特性が得られます。
本機能は、AFC_EN([AFC/GC_CTRL: B1 0x15(7)])に 0b1 を書き込むことで有効にできます。ただし、スペクトラム拡散機能(DSSS モード)使用時はローカル信号を補正する AFC は機能しません。

○電力検出値(ED 値)取得機能

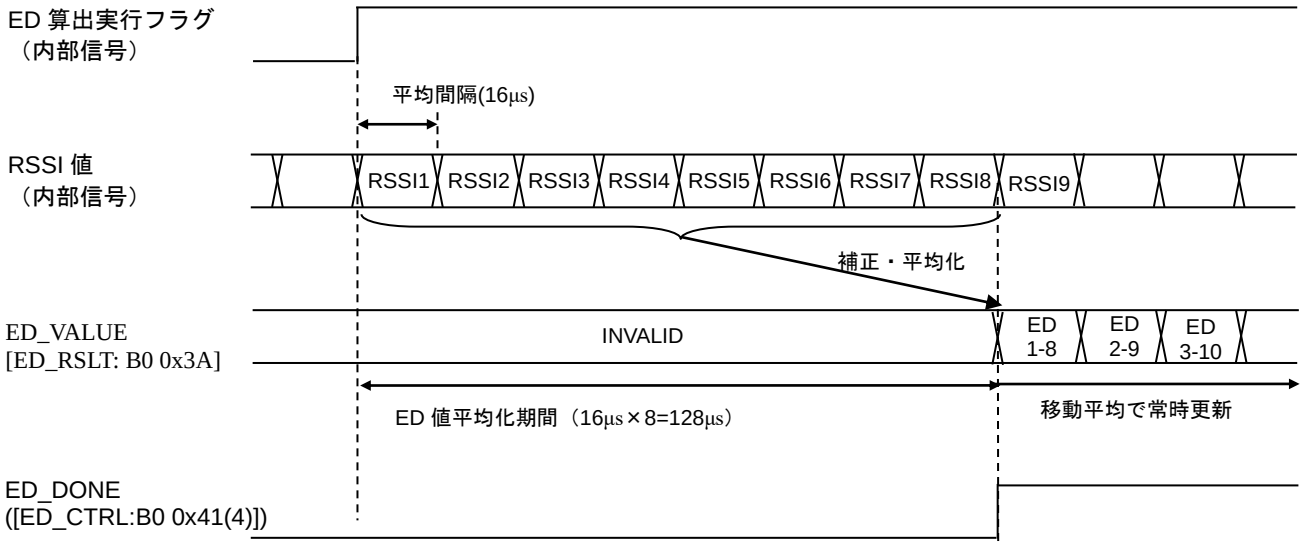
本 LSI は受信電界強度(RSSI)を電力検出値(以降 ED 値)として表示する機能を搭載しております。
ED 値は ED_CALC_EN ([ED_CTRL: B0 0x41(7)])を 0b1 に設定し、RX_ON 状態に移行すると、自動的に取得を開始し, RX_ON 状態中は常に最新の値に更新されます。
ED 値は、ある瞬間の RSSI 値ではなく平均化された値で表示されます。平均化する回数は ED_AVG([ED_CTRL: B0 0x41(2-0)])で設定されます。また、ダイバーシティの時は 2DIV_ED_AVG([2DIV_MODE: B1 0x48(2-0)])で設定されます。平均化回数分 ED 値を取得した時点で ED_DONE([ED_CTRL: B0 0x41(4)])に”1”が設定されるとともに、ED_VALUE([ED_RSLT: B0 0x3A])が更新されます。

ED_DONE ビットは、以下のいずれかの条件が成立するとクリアされます。
① アンテナが切り替わった場合
② ゲインが切り替わった場合
③ 一度 ED 値取得を停止し、再開した場合

ED 値の算出開始から、ED 値が表示されるまでにかかる時間は次式で算出できます。
ED 値平均化時間 = 平均間隔(16μs) * ED 値平均回数

以下に、タイミングチャートを示します。

【条件】
ED_AVG[2:0]=0b011 (ED 値 8 回平均)　[ED_CTRL: B0 0x41(2-0)]



○チャネルフィルタ帯域幅可変機能

チャネルフィルタ帯域幅は CHFIL_BW_ADJ([CHFIL_BW: B0 0x54(6-0)])、CHFIL_WIDE_SET([CHFIL_BW: B0 0x54(7)]))および CHFIL_BW_OPTION([CHFIL_BW_OPTION: B0 0x6B])にて設定することができます。設定値とチャネルフィルタ帯域幅の関係は下式の通りとなります。

チャネルフィルタ帯域幅[Hz] = {マスタークロック周波数[Hz] *（CHFIL_WIDE_SET+1）} / { CHFIL_BW_ADJ* 180} * 倍率設定(CHFIL_BW_OPTION)

それぞれに設定値に対するチャネルフィルタ帯域幅を下表に示します。なお、通常受信時と CCA 時で個別にチャネルフィルタ帯域幅を設定可能です。CCA 時のチャネルフィルタ帯域幅は CHFIL_BW_ADJ_CCA([CHFIL_BW_CCA: B0 0x6A(6-0)])および CHFIL_WIDE_SET_CCA([CHFIL_BW_CCA: B0 0x6A(7)]))の設定値が適用されます。

(1) CHFIL_WIDE_SET=0b0、CHFIL_BW_OPTION=0b000 設定時

CHFIL_BW_ADJ [dec]	チャネルフィルタ帯域幅 [kHz]	CHFIL_BW_ADJ [dec]	チャネルフィルタ帯域幅 [kHz]
0	設定禁止	16	12.5
1	200	17	11.8
2	100	18	11.1
3	66.7	19	10.5
4	50	20	10
5	40	21	9.5
6	33.3	22	9.1
7	28.6	23	8.7
8	25	24	8.3
9	22.2	25	8
10	20	26	7.7
11	18.2	27	7.4
12	16.7	28	7.1
13	15.4	・・・	・・・
14	14.3	126	1.59
15	13.3	127	1.57

(2) CHFIL_WIDE_SET=0b1、CHFIL_BW_OPTION=0b000 設定時

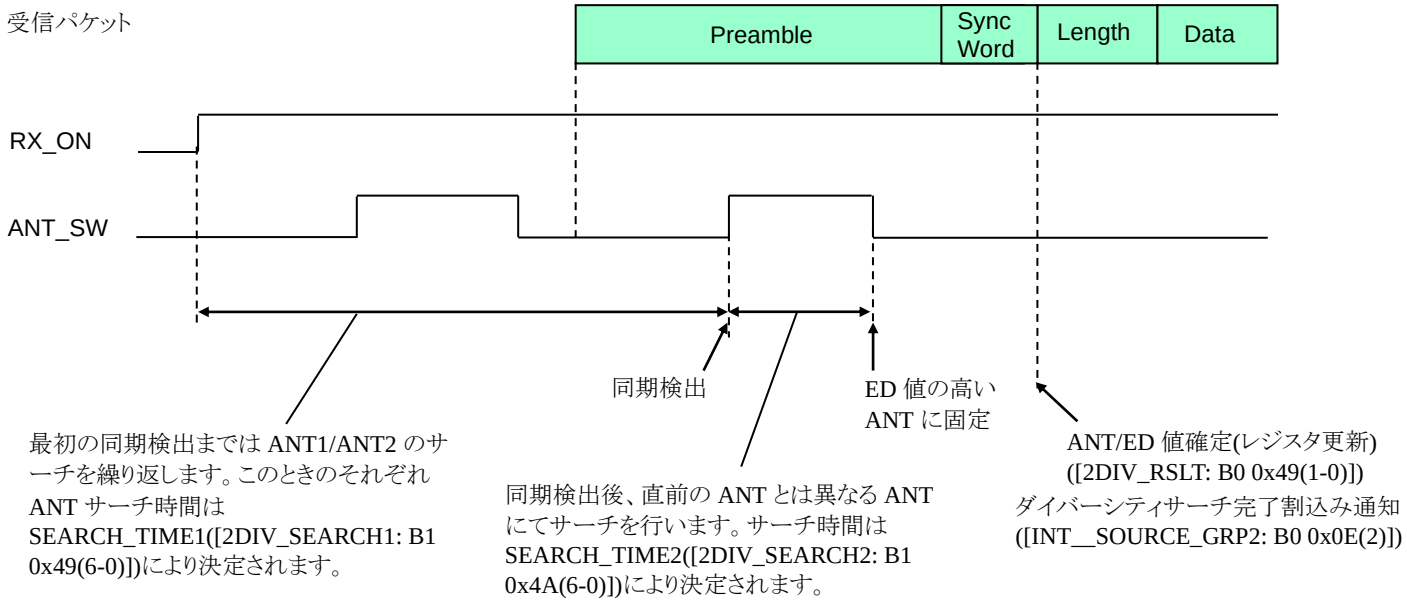
CHFIL_BW_ADJ [dec]	チャネルフィルタ帯域幅 [kHz]	CHFIL_BW_ADJ [dec]	チャネルフィルタ帯域幅 [kHz]
0	設定禁止	16	25
1	400	17	23.5
2	200	18	22.2
3	133.3	19	21.1
4	100	20	20
5	80	21	19
6	66.7	22	18.2
7	57.1	23	17.4
8	50	24	16.7
9	44.4	25	16
10	40	26	15.4
11	36.4	27	14.8
12	33.3	28	14.3
13	30.8	・・・	・・・
14	28.6	126	3.18
15	26.7	127	3.14

データレート、最大周波数偏位に応じてチャネルフィルタ帯域幅の最適化設定が必要です。

○ダイバーシティ機能

本 LSI は 2 アンテナダイバーシティ機能(FSK モードのみ対応)を搭載しております。
2DIV_EN([2DIV_CTRL: B0 0x48(0)])を 0b1 にセットした状態で RF を受信状態（RX_ON）に設定するとダイバーシティモードが起動いたします。ダイバーシティモードが起動すると、受信データ検出時にアンテナを切り替えてそれぞれの ED 値を取得し、高いほうのアンテナを使用するよう制御します。ダイバーシティ機能はプリアンブルデータの ED 値を取得するため送信側のプリアンブルデータ長は十分に長い値である必要があります。プリアンブルデータ長が短いと正確な ED 値の取得が出来ませんのでご注意ください。

以下にタイムチャートを示します。



ダイバーシティにより取得した ED 値([ANT1_ED: B0 0x4A])または[ANT2_ED: B0 0x4B])およびダイバーシティアンテナ結果([2DIV_RSLT: B0 0x49(1-0)])は、SyncWord 検出時に上書き更新します。
ED 値算出時の検出回数は、2DIV_ED_AVG([2DIV_MODE: B1 0x48(2:0)])にて設定可能です。
サーチ時間([SEARCH_TIME1]および[SEARCH_TIME2])の時間分解能は、SEARCH_TIME_SET([2DIV_SEARCH1: B1 0x49(7)])にて設定可能です。

また、ダイバーシティサーチ完了割込み INT[10]([INT__SOURCE_GRP2: B0 0x0E(2)])をクリアした場合、ダイバーシティにより取得した ED 値([ANT1_ED: B0 0x4A])または[ANT2_ED: B0 0x4B])およびダイバーシティアンテナ結果([2DIV_RSLT: B0 0x49(1-0)])は 0 クリアされます。

【ご注意】
本機能では、誤検出から引き起こされた誤ったダイバーシティ完了であると判断した場合、アンテナサーチを再自動実行しますが、誤検出によって発生したダイバーシティサーチ完了後～誤検出判定までに希望波を受信した場合、取得した ED 値([ANT1_ED: B0 0x4A])または[ANT2_ED: B0 0x4B])は、希望波の入力レベルとは異なる低い ED 値を表示します。
本事象の発生可否は、希望波の SyncWord 検出割込み INT[13]([INT_SOURCE_GRP2: B0 0x0E(5)])発生後、[ED_RSLT: B0 0x41]で表示される ED 値を読み出すことで確認することができます。

(1) アンテナスイッチ制御

[2DIV_CTRL: B0 0x48]、[ANT_CTRL: B0 0x4C]、[EXT_PA_CTRL: B0 0x53]にて、送受信切替え信号(TRX_SW)、アンテナ切替え信号(ANT_SW)、外部 PA 制御信号(DCNT)の各種の制御が可能です。

[2DIV_CTRL: B0 0x48(3-1)]および[ANT_CTRL: B0 0x4C])にて、2 種類のアンテナスイッチ(SPDT スイッチ/DPDT スイッチ)制御が可能です。それぞれのアンテナスイッチ制御時の ANT_SW 端子および TRX_SW 端子の出力状態と[2DIV_CTRL: B0 0x48(2-1)]との関係を以下に示します。

①DPDT スイッチ使用時
2PORT_SW([2DIV_CTRL: B0 0x48(1)])＝0b1、ANT_CTRL1([2DIV_CTRL: B0 0x48(5)])=0b0 に設定します。アイドル、送信時、受信時での ANT_SW、TRX_SW
は以下の通り出力されます(デフォルト設定)。INV_TRX_SW([2DIV_CTRL: B0 0x48(2)])を 0b1 に設定した場合、ANT_SW と TRX_SW の極性が反転します。

送受信状態	INV_TRX_SW([2DIV_CTRL: B0 0x48(2)])=0 (デフォルト設定)		INV_TRX_SW([2DIV_CTRL: B0 0x48(2)])=1 (極性反転時)		説明
	ANT_SW	TRX_SW	ANT_SW	TRX_SW	
アイドル	H	L	L	H	アイドル時の状態です。
送信時	L	H	H	L	送信時の状態です。
受信時	H	L	L	H	ダイバーシティディセーブル([2DIV_CTRL: B0 0x48(0)]を 0b0 に設定)時の初期状態およびダイバーシティイネーブル([2DIV_CTRL: B0 0x48(0)]を 0b1 に設定)時のダイバーシティ開始時は本状態となります。
	L/H	H/L	H/L	L/H	ダイバーシティイネーブル (2DIV_CTRL: B0 0x48(0)]を 0b1 に設定)時は、サーチ中(ANT_SW=H、TRX_SW=L)と(ANT_SW=L、TRX_SW=H)を繰り返し、ダイバーシティ完了後、どちらかの状態に固定されます。

②SPDT スイッチ使用時
2PORT_SW([2DIV_CTRL: B0 0x48(1)])を 0b0 に設定します。アイドル、送信時、受信時での ANT_SW、TRX_SW は以下の通り出力されます(デフォルト設定)。INV_TRX_SW([2DIV_CTRL: B0 0x48(2)])を 0b1 に設定した場合、TRX_SW の極性が反転します。

送受信状態	INV_TRX_SW([2DIV_CTRL: B0 0x48(2)])=0 (デフォルト設定)		INV_TRX_SW([2DIV_CTRL: B0 0x48(2)])=1 (極性反転時)		説明
	ANT_SW	TRX_SW	ANT_SW	TRX_SW	
アイドル	L	L	L	H	アイドル時の状態です。
送信時	L	H	L	L	送信時の状態です。
受信時	L	L	L	H	ダイバーシティディセーブル([2DIV_CTRL: B0 0x48(0)]を 0b0 に設定)時の初期状態およびダイバーシティイネーブル([2DIV_CTRL: B0 0x48(0)]を 0b1 に設定)時のダイバーシティ開始時は本状態となります。
	H/L	L	H/L	H	ダイバーシティイネーブル (2DIV_CTRL: B0 0x48(0)]を 0b1 に設定)時は、サーチ中(ANT_SW=H、TRX_SW=L)と(ANT_SW=L、TRX_SW=H)を繰り返し、ダイバーシティ完了後、どちらかの状態に固定されます。

上記デフォルト設定に対し、INV_ANT_SW([2DIV_CTRL: B0 0x48(3)])を 0b1、ANT_CTRL1([2DIV_CTRL: B0 0x48(5)])を 0b1 に設定することにより、ANT_SW 端子の極性が反転します。

送受信状態	INV_ANT_SW([2DIV_CTRL: B0 0x48(3)])=0 ANT_CTRL1([2DIV_CTRL: B0 0x48(5)])=0 (デフォルト設定)		INV_ANT_SW([2DIV_CTRL: B0 0x48(3)])=1 ANT_CTRL1([2DIV_CTRL: B0 0x48(5)])=1		説明
	ANT_SW	TRX_SW	ANT_SW	TRX_SW	
アイドル	L	L	H	L	アイドル時の状態です。
送信時	L	H	H	H	送信時の状態です。
受信時	L	L	H	L	ダイバーシティディセーブル([2DIV_CTRL: B0 0x48(0)]を 0b0 に設定)時の初期状態およびダイバーシティイネーブル([2DIV_CTRL: B0 0x48(0)]を 0b1 に設定)時のダイバーシティ開始時は本状態となります。
	H/L	L	L/H	L	ダイバーシティイネーブル (2DIV_CTRL: B0 0x48(0)]を 0b1 に設定)時は、サーチ中(ANT_SW=H、TRX_SW=L)と(ANT_SW=L、TRX_SW=H)を繰り返し、ダイバーシティ完了後、どちらかの状態に固定されます。

(2) アンテナスイッチ強制設定

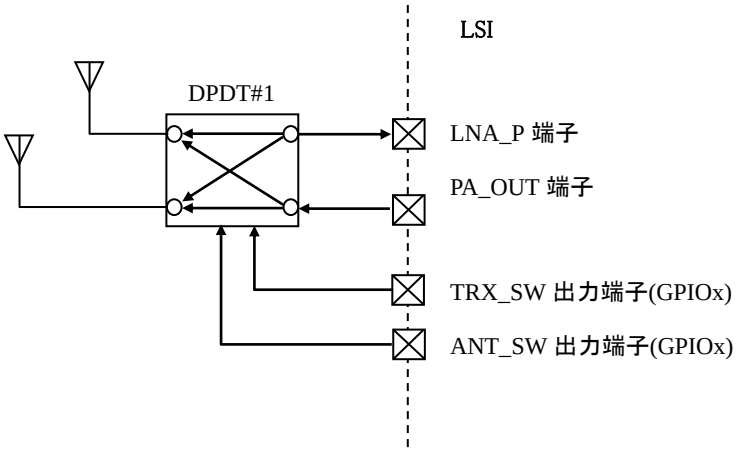
[ANT_CTRL: B0 0x4C]により、ANT_SW 端子の出力状態の強制設定が可能です。

送信時：TX_ANT_EN([ANT_CTRL: B0 0x4C(0)])を 0b1 に設定することにより TX_ANT([ANT_CTRL: B0 0x4C(1)])の設定値が出力されます。
受信時：RX_ANT_EN([ANT_CTRL: B0 0x4C(4)])を 0b1 に設定することにより RX_ANT([ANT_CTRL: B0 0x4C(5)])の設定値が出力されます。

但し、[GPIIO*_CTRL: B0 0x4E～0x51]にて出力時強制設定された場合は、[GPIIO*_CTRL:B0 0x4E～0x51]レジスタ設定が優先されます。

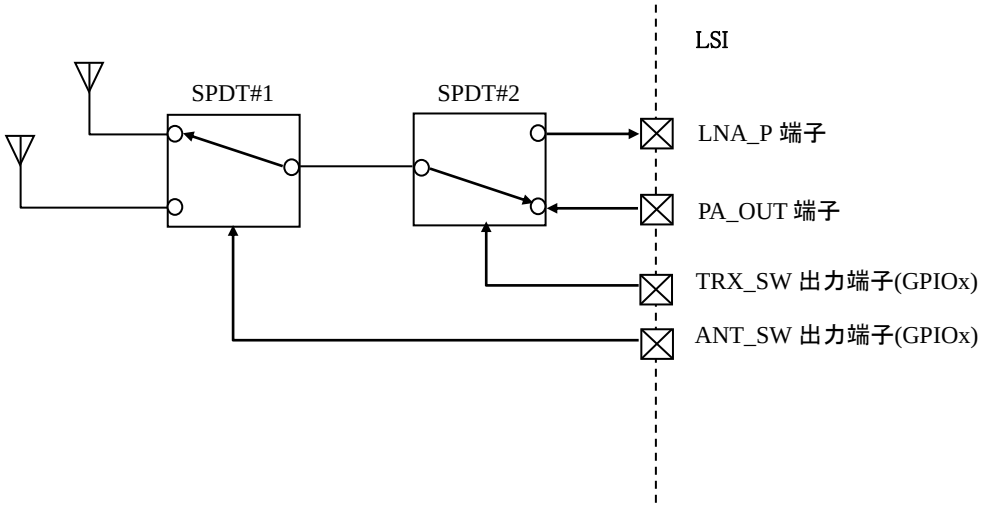
なお、アンテナスイッチ制御信号を以下のように使用することができます。

使用例 1） DPDT スイッチ 1 個を使用する場合
2PORT_SW([2DIV_CTRL: B0 0x48(1)])を 0b1 に設定してください。



(※)もう1つ GPIO を外部 PA に割り当てることにより、DPDT SW と外部 PA を両方制御可能です。
(※)LNA_P 端子および PA_OUT 端子とアンテナスイッチ(DPDT#1)間の外付け回路は省略しています。

使用例 2）SPDT スイッチ 2 個使用した場合
2PORT_SW([2DIV_CTRL: B0 0x48(1)])を 0b0 に設定してください。



(※)もう1つ GPIO を外部 PA に割り当てることにより、DPDT SW と外部 PA を両方制御可能です。
(※)LNA_P 端子および PA_OUT 端子とアンテナスイッチ(SPDT#2)間の外付け回路は省略しています。

○CCA(Clear Channel Assessment)機能

本 LSI は CCA 機能を搭載しております。CCA はある周波数チャネルを受信して、そのチャネルが現在使用されているか、空いているかを判定する機能です。本 LSI では通常モード、無限実行モードと IDLE 検出モードの 3 種類のモードがあります。3 種類のモードは下記により設定できます。

[CCA モードの設定】

	[CCA_CTRL: B0 0x39]		
	Bit4 (CCA_EN)	Bit5 (CCA_CPU_EN)	Bit6 (CCA_IDLE_EN)
通常モード	0b1	0b0	0b0
無限実行モード	0b1	0b1	0b0
IDLE 検出モード	0b1	0b0	0b1

(1) 通常モード

通常モードは IDLE/BUSY を判定するモードです。CCA_EN(CCA_CTRL: B0 0x39(4)])=0b1、CCA_CPU_EN(CCA_CTRL: B0 0x39(5)])=0b0 かつ CCA_IDLE_EN(CCA_CTRL: B0 0x39(6)])=0b0 を設定している状態で RX_ON をすることで CCA(通常モード)が実行されます。

CCA の判定は[ED_RSLT: B0 0x3A]レジスタで表示される ED 値の平均値と[CCA_LVL: B0 0x37]で設定される CCA の閾値との大小比較で行われます。[ED_RSLT: B0 0x3A]で表示される ED 値の平均値が CCA 閾値を超えた場合は BUSY と判定し、CCA_RSLT[1:0]([CCA_CTRL: B0 0x39(1-0)])に 0b01 を設定します。ED 値の平均値が CCA 閾値以下の状態が、[IDLE_WAIT_L: B0 0x3C]、[IDLE_WAIT_H: B0 0x3B]の IDLE_WAIT[9:0]で設定される IDLE 検出期間継続した場合、IDLE と判定し、CCA_RSLT[1:0]に 0b00 を設定します。IDLE_WAIT[9:0]の詳細動作は”長時間の IDLE 検出について”をご参照下さい。

BUSY または IDLE を検出すると CCA 完了割り込み(割り込みグループ 3 の INT[18])が通知され、CCA_EN ビットが 0b0 に自動クリアされます。

CCA 完了割込みをクリアすると CCA_RSLT[1:0]は初期化(0b00)されます。CCA_RSLT[1:0]は CCA 完了割込みをクリアする前に読み出して下さい。

ED 値が[CCA_IGNORE_LVL: B0 0x36]で設定される値を越えた場合、対象の ED 値が平均化対象である間は IDLE 判定を行いません。この時、ED 値の平均値が[CCA_LVL: B0 0x37]よりも大きい場合は BUSY 判定して CCA を完了しますが、ED 値の平均値が[CCA_LVL: B0 0x37]よりも小さい場合は IDLE 判定せずに CCA_RSLT[1:0]([CCA_CTRL: B0 0x39(1-0)])に 0b11 を表示し、BUSY 判定されるかまたは対象の ED 値が平均化対象から外れて IDLE 判定されるまで CCA を継続します。ED 値が[CCA_IGNORE_LVL: B0 0x36]を越えた場合の詳細動作は”強入力発生時の IDLE 判定除外について”をご参照下さい。

CCA 実行指示してから CCA 完了するまでの時間は下式で算出されます。

[IDLE 判定の場合]
CCA 実行時間 = (ED 値平均回数 + IDLE_WAIT 設定) × 平均間隔(16us)

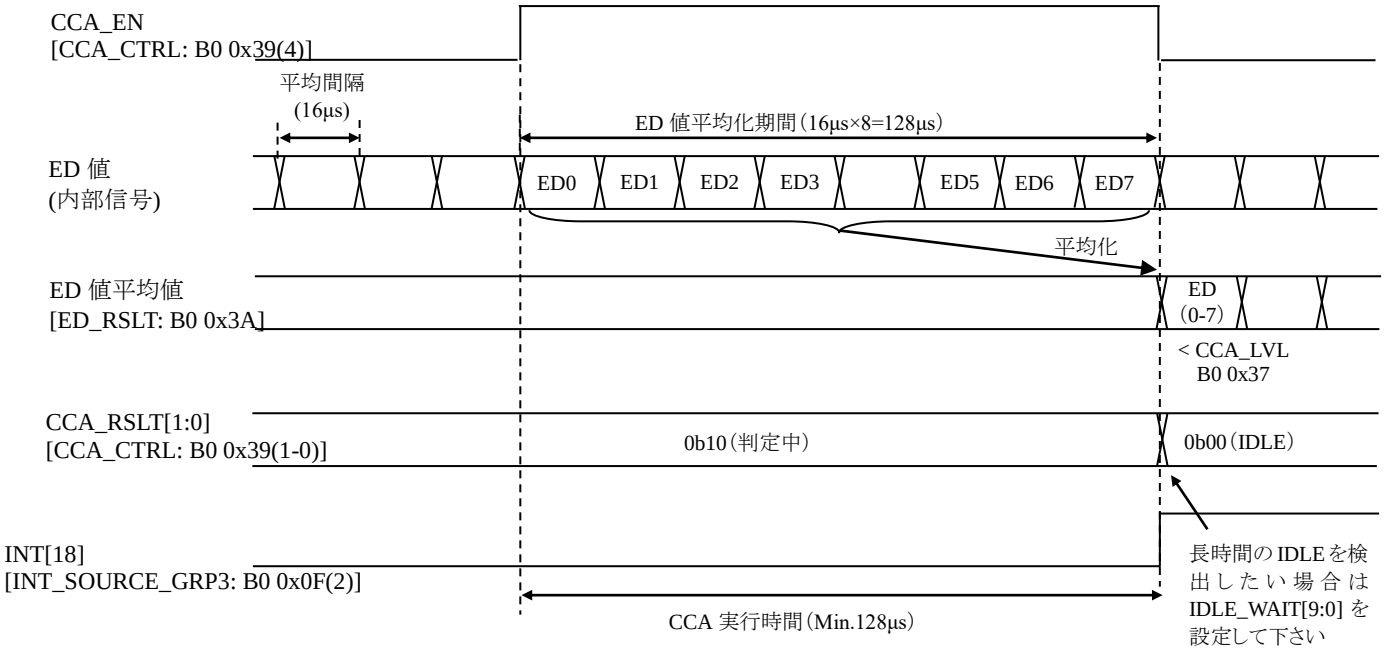
[BUSY 判定の場合]
CCA 実行時間 = ED 値平均回数 × 平均間隔(16us)

※ 上式は[CCA_IGNORE_LVL: B0 0x36]による IDLE 判定除外を考慮しておりません。[CCA_IGNORE_LVL: B0 0x36]動作詳細は”強入力発生時の IDLE 判定除外について” をご参照下さい。

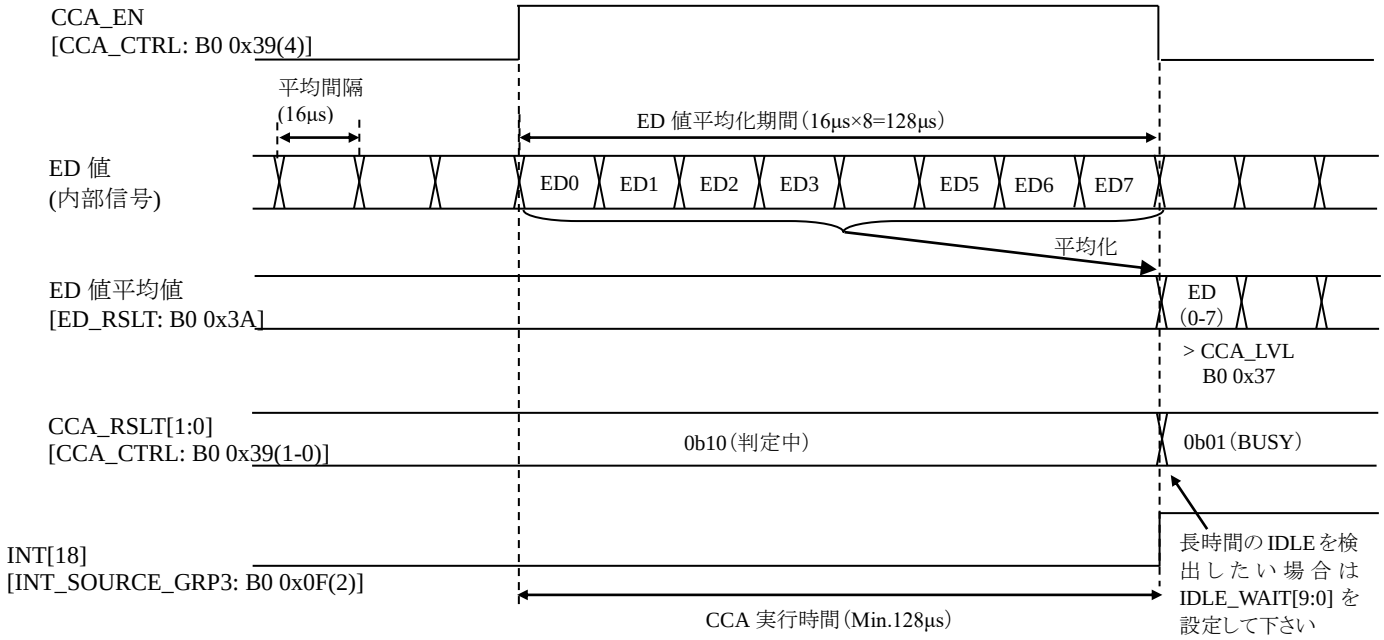
以下に通常モード時のタイムチャートを示します。

【条件】
ED_AVG[2:0]=0b011 (ED 値 8 回平均) [ED_CTRL: B0 0x41(2-0)]
IDLE_WAIT[9:0]=0b00_0000_0000 (IDLE 検出期間 0μs) [IDLE_WAIT_L: B0 0x3C]、[IDLE_WAIT_H: B0 0x3B(1-0)]

[IDLE 判定したケース]



[BUSY 判定したケース]



(2) 無限実行モード

無限実行モードはホスト CPU からの停止命令があるまで CCA を継続するモードです。CCA_EN(CCA_CTRL: B0 0x39(4)])=0b1、CCA_CPU_EN(CCA_CTRL: B0 0x39(5)])=0b1 かつ CCA_IDLE_EN(CCA_CTRL: B0 0x39(6)])=0b0 を設定している状態で RX_ON をすることで CCA(無限実行モード)が実行されます。

通常モードと同様に CCA の判定は[ED_RSLT: B0 0x3A]レジスタで表示される ED 値の平均値と[CCA_LVL: B0 0x37]で設定される CCA の閾値との大小比較で行われます。ED_VALUE([ED_RSLT: B0 0x3A])で表示される ED 値の平均値が CCA 閾値を超えた場合は BUSY と判定し、CCA_RSLT[1:0]に 0b01 を設定します。ED 値の平均値が CCA 閾値以下の状態が、[IDLE_WAIT_L:B0 0x3C]、[IDLE_WAIT_H: B0 0x3B(1-0)]の IDLE_WAIT[9:0]で設定される IDLE 検出期間継続した場合、IDLE と判定し、CCA_RSLT[1:0]に 0b00 を設定します。IDLE_WAIT[9:0]の詳細動作は”長時間の IDLE 検出について”をご参照下さい。

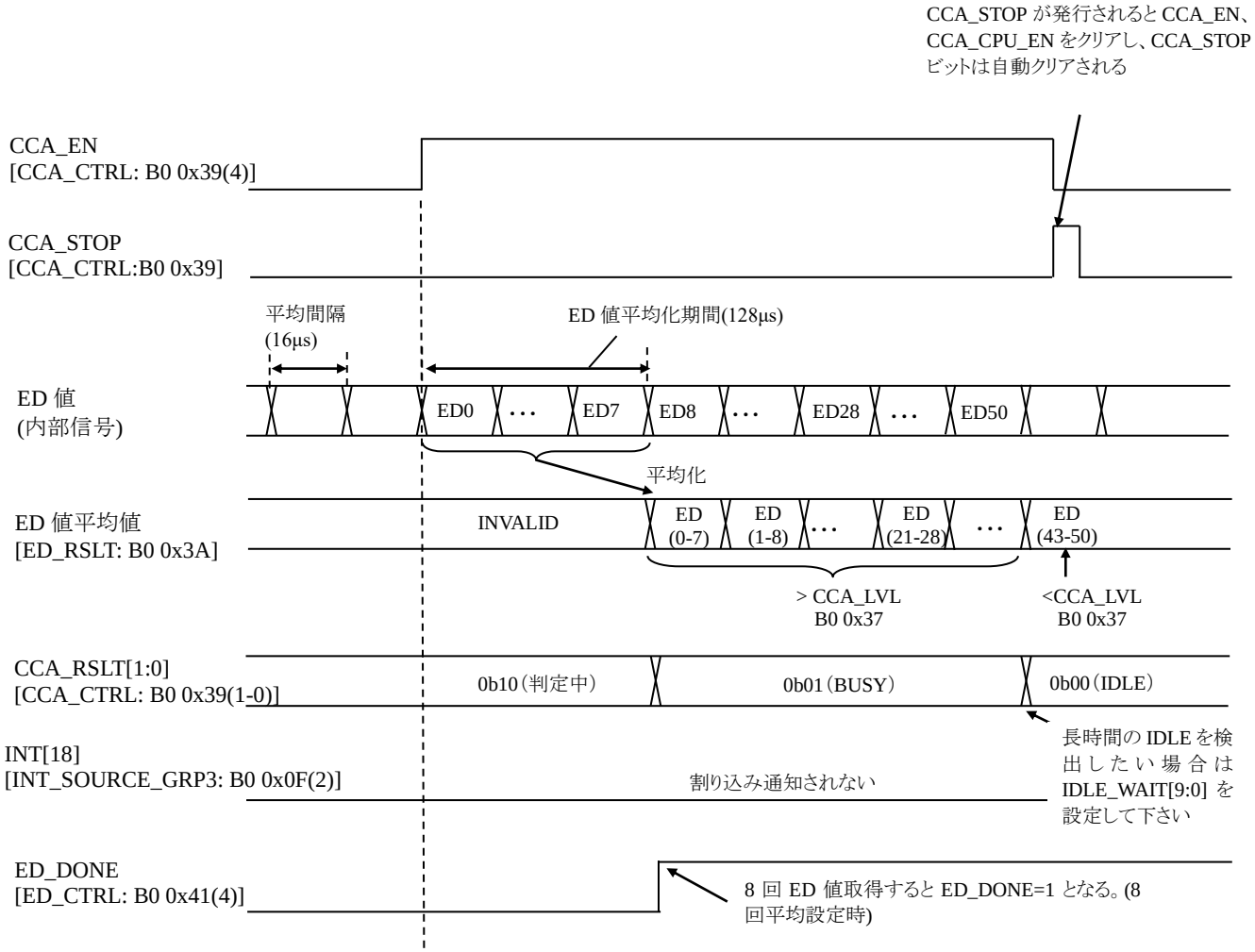
ED 値が[CCA_IGNORE_LVL: B0 0x36]で設定される値を越えた場合、対象の ED 値が平均化対象である間は IDLE 判定を行いません。この時、ED 値の平均値が[CCA_LVL: B0 0x37]よりも大きい場合は BUSY 判定して CCA_RSLT[1:0]に 0b01 を設定しますが、ED 値の平均値が[CCA_LVL: B0 0x37]よりも小さい場合は IDLE 判定せずに CCA_RSLT[1:0]に 0b11 を設定します。ED 値が[CCA_IGNORE_LVL: B0 0x36]を越えた場合の詳細動作は”強入力発生時の IDLE 判定除外について”をご参照下さい。

無限実行モードでは、BUSY または IDLE を検出しても自動停止せず、CCA_STOP([CCA_CTRL: B0 0x39(7)])に 0b1 が書き込まれるまで CCA 動作を継続し、結果は ED 値取得される度に更新されます。このとき、CCA 完了割り込み INT[18]([INT_SOURCE_GRP2:B0 0x0F(2)])は通知されません。

以下に無限実行モード時のタイムチャートを示します。

【条件】
ED_AVG[2:0]=0b011 (ED 値 8 回平均) [ED_CTRL: B0 0x41(2-0)]
IDLE_WAIT[9:0]=0b00_0000_0000 (IDLE 検出期間 0μs) [IDLE_WAIT_L: B0 0x3C]、[IDLE_WAIT_H: B0 0x3B(1-0)]

[BUSY→IDLE と遷移し、CCA_STOP で終了するケース]



(3) IDLE 検出モード

IDLE 検出モードは IDLE を検出するまで CCA を継続するモードです。CCA_EN(CCA_CTRL: B0 0x39(4)])=0b1、CCA_CPU_EN(CCA_CTRL: B0 0x39(5)])=0b0 かつ CCA_IDLE_EN(CCA_CTRL: B0 0x39(6)])=0b1 を設定している状態で RX_ON をすることで CCA(IDLE 検出モード)が実行されます。

通常モードと同様に CCA の判定は[ED_RSLT: B0 0x3A]レジスタで表示される ED 値の平均値と[CCA_LVL: B0 0x37]で設定される CCA の閾値との大小比較で行われます。ED 値の平均値が CCA 閾値を超えた場合は BUSY と判定し、CCA_RSLT[1:0]([CCA_CTRL: B0 0x39(1-0)])に 0b01 を設定します。ED 値の平均値が CCA 閾値以下の状態が、[IDLE_WAIT_L]、[IDLE_WAIT_H]: B0 0x3B,0x3C]の IDLE_WAIT[9:0]で設定される IDLE 検出期間継続した場合、IDLE と判定し、CCA_RSLT[1:0]に 0b00 を設定します。IDLE_WAIT[9:0]の詳細動作は”長時間の IDLE 検出について”をご参照下さい。

IDLE 検出モードでは、IDLE を検出した場合のみ CCA 完了割り込み INT[18]([INT_SOURCE_GRP3: B0 0x0F(2)])が通知されます。また、CCA_EN 設定により CCA を実行した場合は CCA_EN(CCA_CTRL: B0 0x39(4)])および CCA_IDLE_EN(CCA_CTRL: B0 0x39(6)])が 0b0 に自動クリアされます。

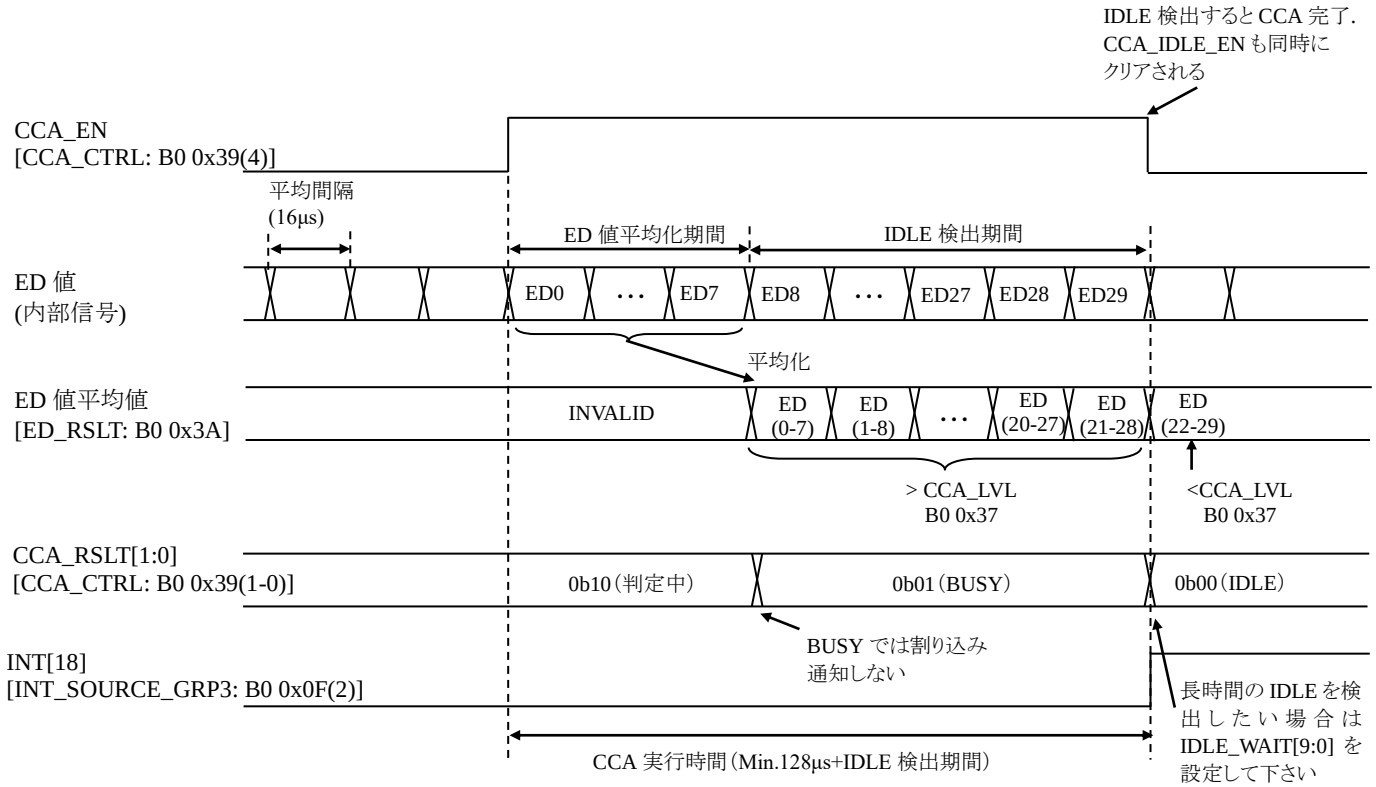
IDLE 検出モードでは、BUSY を検出している間は、CCA 完了割り込み INT[18]([INT_SOURCE_GRP3: B0 0x0F(2)])を通知せず、IDLE 検出を継続します。CCA 完了割込み INT[18]([INT_SOURCE_GRP3: B0 0x0F(2)])をクリアすると、CCA_RSLT[1:0]([CCA_CTRL: B0 0x39(1-0)])は初期化(0b00)されます。CCA_RSLT[1:0]は CCA 完了割込み INT[18]([INT_SOURCE_GRP3: B0 0x0F(2)])をクリアする前に読み出して下さい。

ED 値が[CCA_IGNORE_LVL: B0 0x36]で設定される値を越えた場合、対象の ED 値が平均化対象である間は IDLE 判定を行いません。この時、ED 値の平均値が[CCA_LVL: B0 0x37]よりも小さい場合においても IDLE 判定せず、CCA_RSLT[1:0]に 0b11 を表示し、対象の ED 値が平均化対象から外れて IDLE 判定されるまで CCA を継続します。ED 値が[CCA_IGNORE_LVL: B0 0x36]を越えた場合の詳細動作は”強入力発生時の IDLE 判定除外について”をご参照下さい。

以下に IDLE 検出モード時のタイムチャートを示します。

[BUSY 検出後、CCA 継続して IDLE 判定したケース]

【条件】
ED_AVG[2:0]=0b011 (ED 値 8 回平均) [ED_CTRL: B0 0x41(2-0)]
IDLE_WAIT[9:0]=0b00_0000_0000 (IDLE 検出期間 0μs) [IDLE_WAIT_L: B0 0x3C]、[IDLE_WAIT_H: B0 0x3B(1-0)]



(4) 強入力発生時の IDLE 判定除外について

取得した ED 値が、[CCA_IGNORE_LVL: B0 0x36]で設定される値を超えた場合は、その ED 値が平均化対象である間は IDLE 判定を行いません。この強入力の ED 値を含む[ED_RSLT: B0 0x39]で表示される ED 値の平均値が[CCA_LVL: B0 0x37]で設定される CCA 閾値を超えた場合は"キャリアあり(BUSY)"と判定し、CCA_RSLT[1:0]([CCA_CTRL: B0 0x39(1-0)])に 0b01 を設定します。また、この ED 値の平均値が CCA 閾値以下の場合、"判定中(判定除外の ED 値取得"とし、CCA_RSLT[1:0]に 0b11 を設定します。

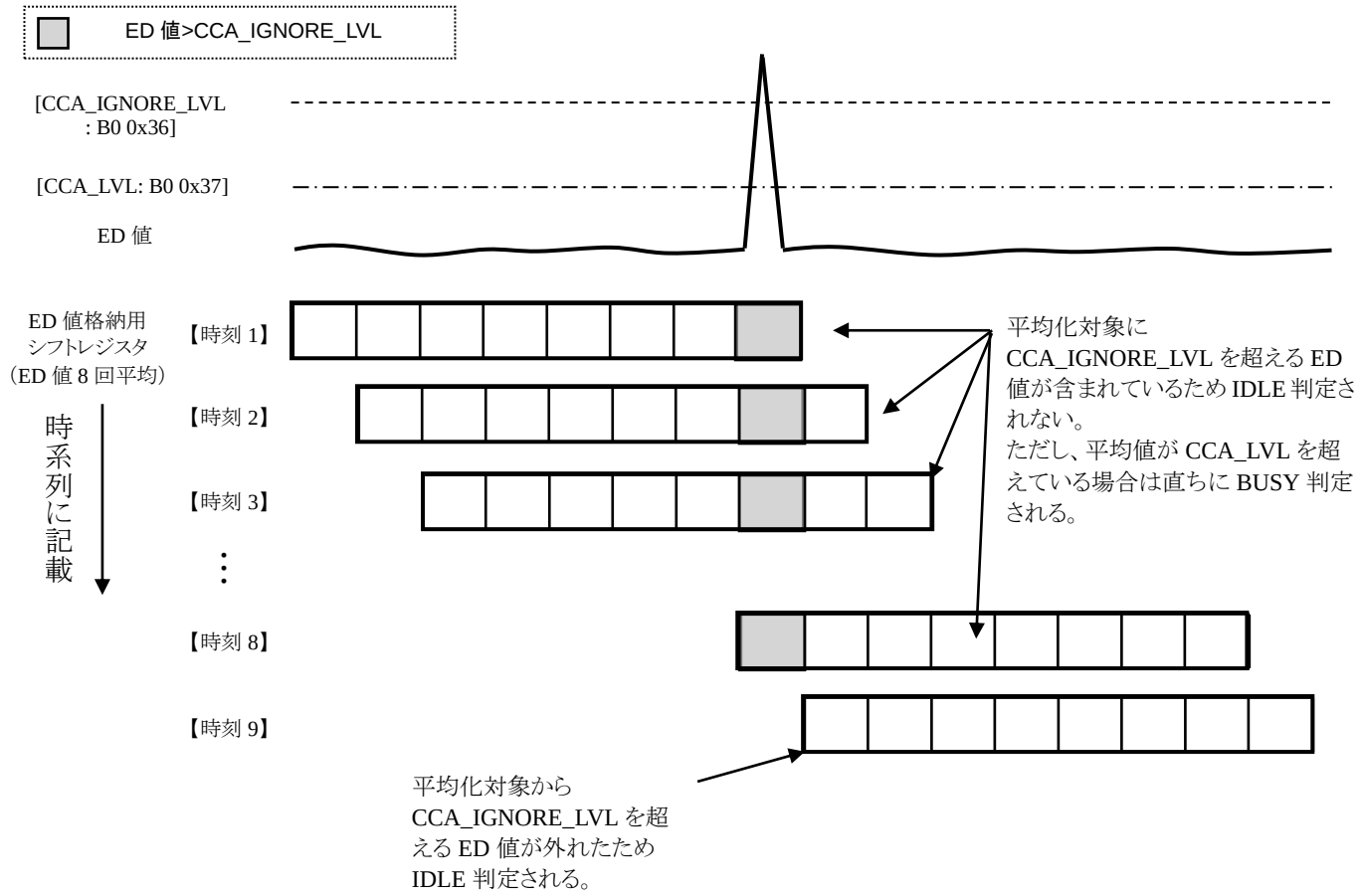
ED 値の移動平均値が[CCA_LVL: B0 0x37]以下の場合でも、その移動平均化対象の ED 値に[CCA_IGNORE_LVL: B0 0x36]を超えるものが含まれていた場合、IDLE 判定を行いません。この時、CCA_RSLT[1:0]には 0b11(判定中)を表示し、IDLE または BUSY 判定されるまで CCA を継続します(IDLE 検出モードの場合は IDLE 判定されるまで、無限実行モードの場合は CCA_STOP([CCA_CTRL: B0 0x39(7)])が発行されるまで CCA を継続します)。

ED 値の移動平均値が[CCA_LVL: B0 0x37]を超えている場合は[CCA_IGNORE_LVL: B0 0x36]の比較結果に関わらず直ちに BUSY 判定します。

【ご注意】

CCA 完了割込みは CCA 結果が IDLE または BUSY 判定された場合にのみ通知されます。従いまして、CCA_IGNORE_LVL を超えるデータが断続的に入力されるような環境下においては、IDLE とも BUSY とも判定されずに CCA が継続されることがあります。

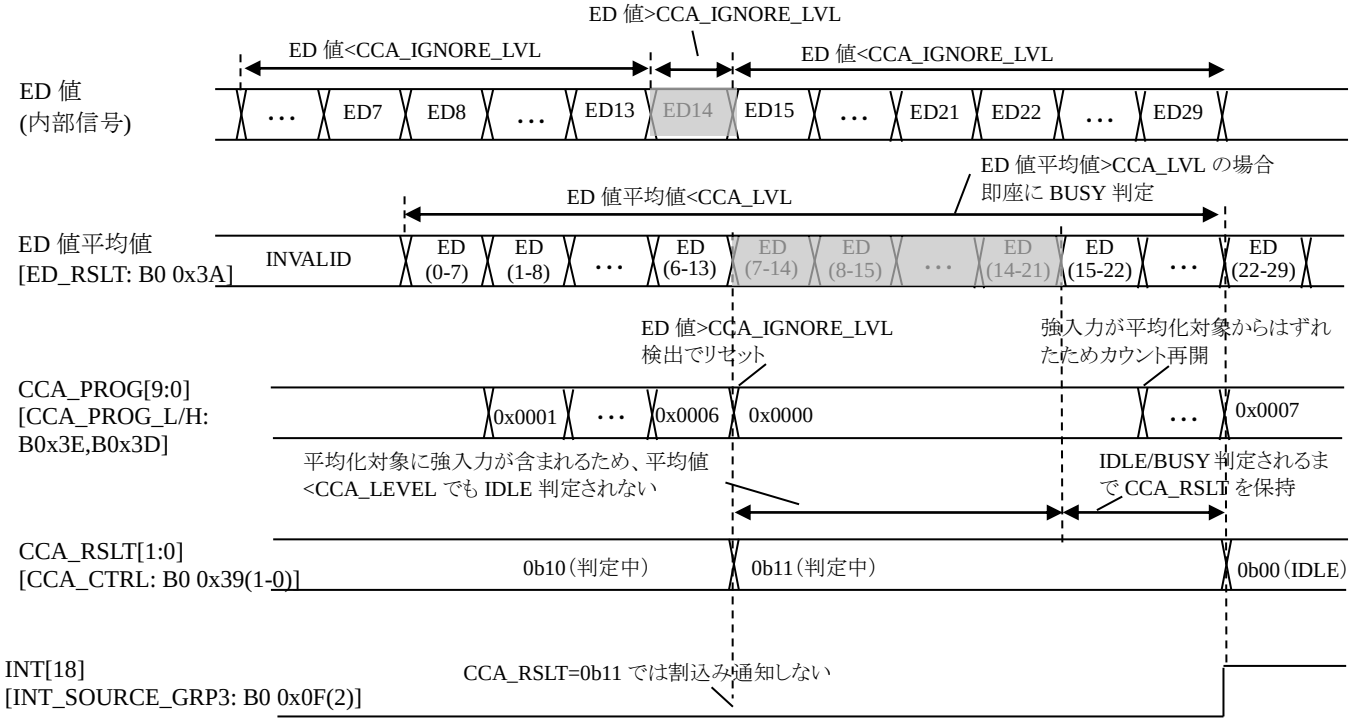
[強入力 ED 値取得時のイメージ図]



以下に強入力 ED 値取得時のタイムチャートを示します。

[IDLE_WAIT カウント中に強入力検出し、平均化対象から強入力が外れた後に IDLE 判定したケース]

【条件】
CCA モード　　通常モード
ED_AVG[2:0]=0b011 (ED 値 8 回平均)　　[ED_CTRL: B0 0x41(2-0)]
IDLE_WAIT[9:0]=0b00_0000_0111(IDLE 検出期間 112μs) [IDLE_WAIT_L: B0 0x3C]、[IDLE_WAIT_H: B0 0x3B(1-0)]



(5) 長時間の IDLE 検出について

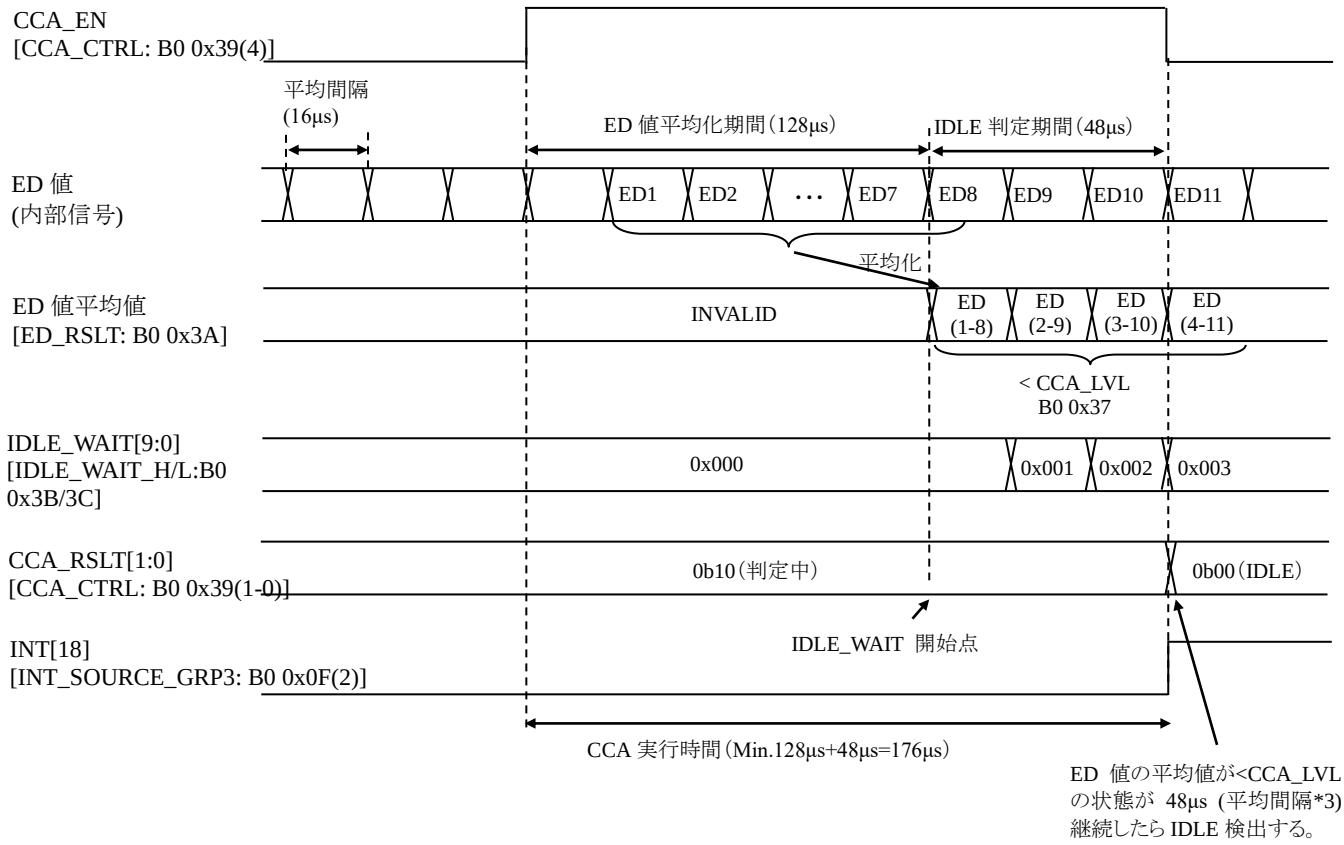
長時間で CCA の IDLE 判定を行う場合は、[IDLE_WAIT_L:B0 0x3C]、[IDLE_WAIT_H: B0 0x3B(1-0)]の IDLE_WAIT [9:0]で設定することができます。

[IDLE_WAIT_L:B0 0x3C]、[IDLE_WAIT_H: B0 0x3B(1-0)]の IDLE_WAIT [9:0]を使用することで、平均化期間(平均間隔 16μs、8 回平均設定の場合 128μs)よりも長い期間の IDLE を検出することが可能です。本機能は、ED 値の移動平均値が[CCA_LVL: B0 0x37]以下の状態が何度継続したかカウントし、継続回数が IDLE_WAIT [9:0]以上となった場合に IDLE 判定する機能です。本機能を使用している場合でも、ED 値の移動平均値が[CCA_LVL: B0 0x37]を越えた場合は IDLE_WAIT [9:0]期間を待たずに直ちに BUSY 判定します。

以下に IDLE_WAIT[9:0]を設定した時のタイムチャートを示します。

[ED 値 8 回平均で IDLE 判定したケース]

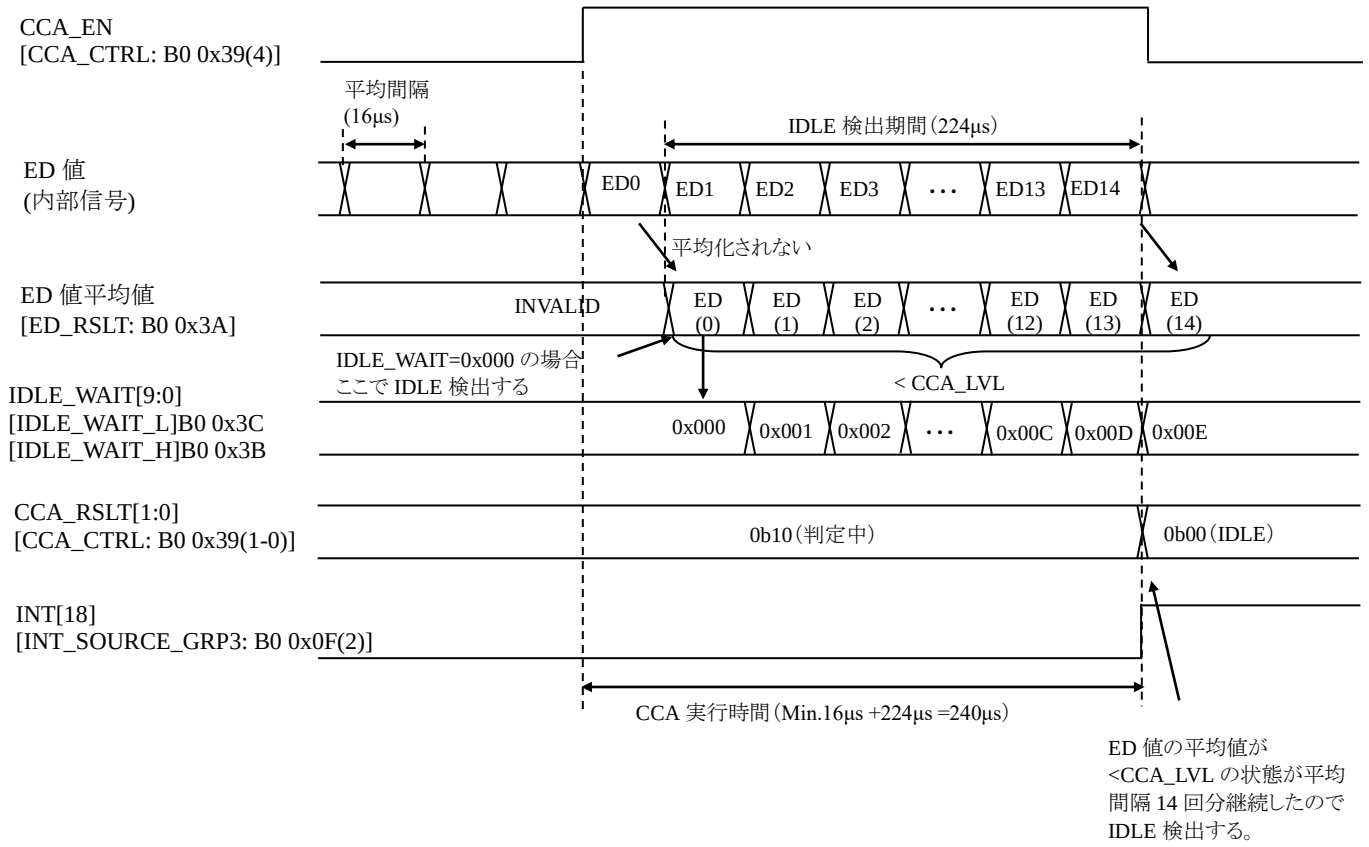
【条件】	
CCA モード	通常モード
ED_AVG[2:0]=0b011 (ED 値 8 回平均)	[ED_CTRL: B0 0x41(2-0)]
IDLE_WAIT[9:0]=0b00_0000_0011 (IDLE 検出期間 48μs)	[IDLE_WAIT_L: B0 0x3C]、[IDLE_WAIT_H: B0 0x3B(1-0)]



[ED 値 1 回平均で IDLE 判定したケース]

【条件】

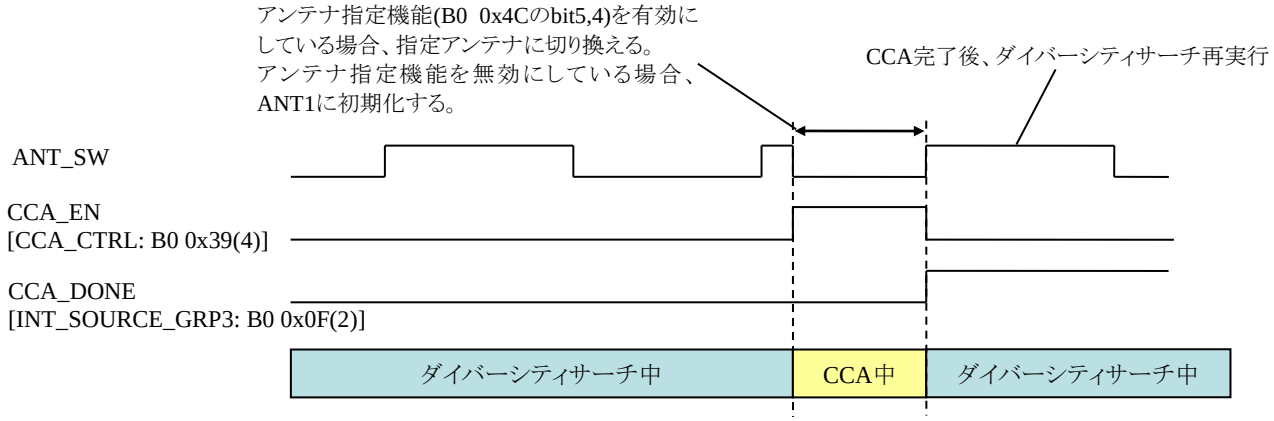
CCA モード	通常モード
ED_AVG[2:0]=0b000 (ED 値 1 回平均)	[ED_CTRL: B0 0x41(2-0)]
IDLE_WAIT[9:0]=0b00_0000_1110(IDLE 検出期間 224μs)	[IDLE_WAIT_L: B0 0x3C]、[IDLE_WAIT_H: B0 0x3B(1-0)]



(6) ダイバーシティ使用時の CCA 実行について

①ダイバーシティサーチ中の CCA 実行動作

ダイバーシティサーチ中に CCA 実行指示した場合、ダイバーシティサーチを中止し、CCA が動作します。
CCA が動作すると、アンテナは初期値（※1）に固定され、次にダイバーサーチされるまで保持されます。ただし、アンテナ指定機能([ANT_CTRL: B0 0x4C(5-4)])を有効にしている場合はアンテナは同レジスタ機能で指定したアンテナに固定されます。CCA 完了後は、ダイバーシティサーチが再実行されます。
※1： “機能説明ダイバーシティ機能 ANT_SW / TRX_SW 設定“の各表”受信時”欄上段の設定になります。

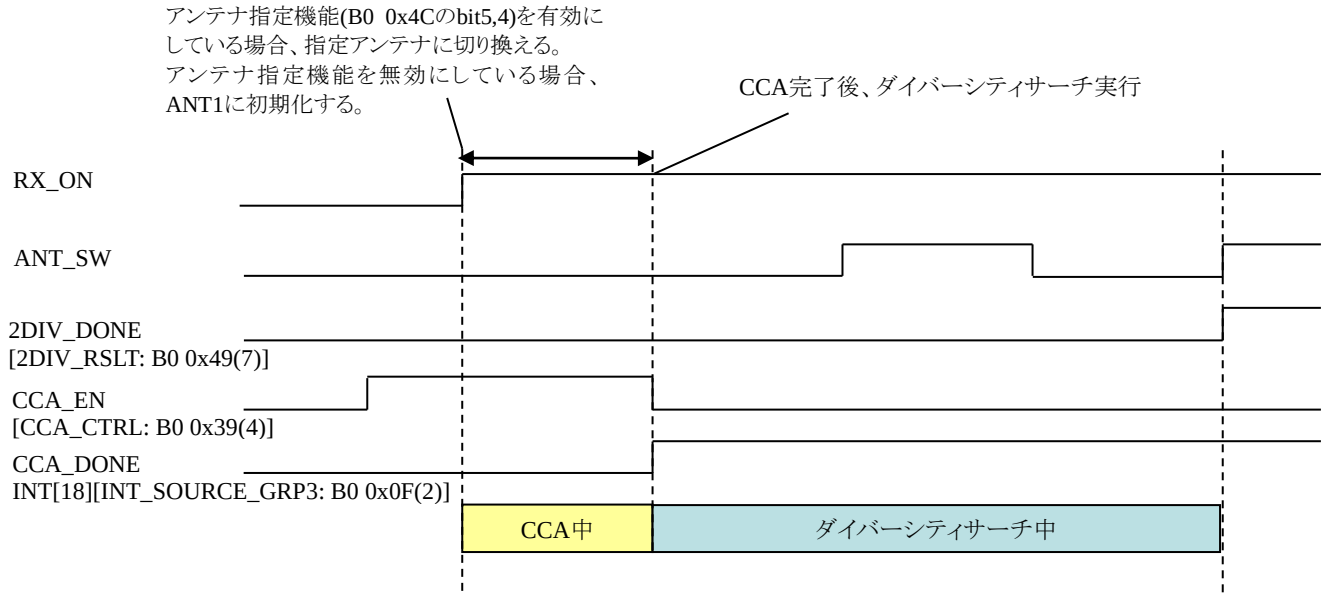


【ご注意】
CCA 中は受信動作が並行していますので、CCA 完了割込みが通知されない場合でも、SyncWord 検出割り込み([INT_SOURCE_GRP2: B0 0x0E(5)])、FIFO-Full トリガ割込み([INT_SOURCE_GRP1: B0 0x0D(5)])、受信完了割込み([INT_SOURCE_GRP3: B0 0x0E(0)])、CRC 検出エラー割込み([INT_SOURCE_GRP3: B0 0x0E(1)])が通知されることがあります。

ダイバーシティ機能詳細につきましては、”ダイバーシティ機能”をご参照下さい。

② ダイバーシティ ON 時、RX_ON 前に CCA 実行設定した場合の動作

RX_ON 遷移前にダイバーシティ ON 設定および CCA 実行設定した場合、RX_ON 遷移後、ダイバーシティサーチ動作せずに CCA が動作します。CCA 完了後、ダイバーシティサーチが実行されます。



(7) CCA 閾値設定方法について

CCA 閾値（[CCA_LVL: B0 0x37]）には検出したい入力レベルに相当する ED 値に、バラツキ（IC の個体バラツキ、温度変動）やその他損失（アンテナ、整合回路での損失等）を考慮し設定する必要があります。入力レベルと ED 値の関係は標準的には以下の式で表されます。

[2.4k/4.8kbps 時]
ED 値 = 255/80 * (120 + 入力レベル[dBm] - バラツキ - その他損失)

CCA 閾値が妥当かどうかの検証は、入力レベルを変化させる毎に CCA 実行し IDLE から BUSY になるレベルを確認することでできます。

●送信関連機能

○ランプ制御機能

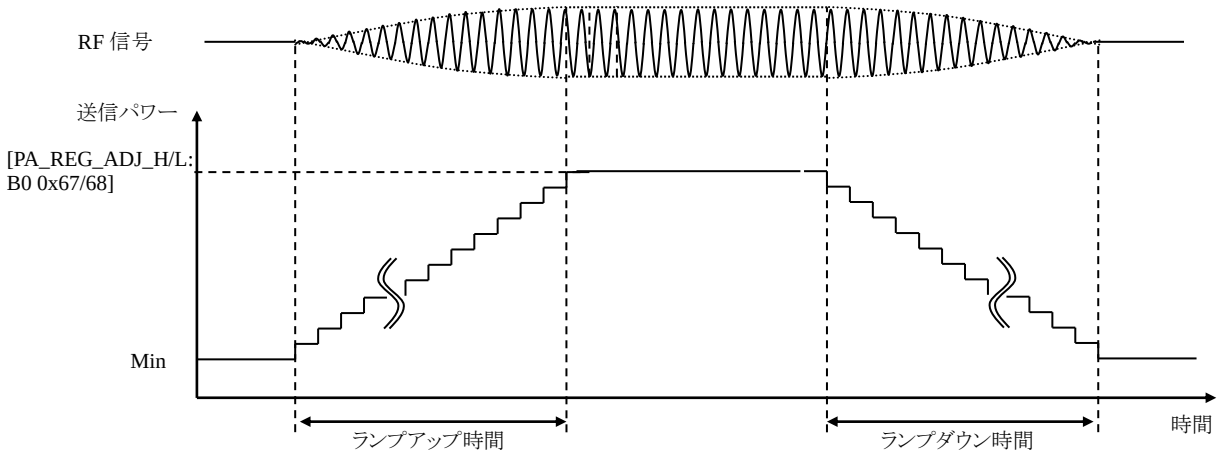
ランプ制御機能により送信起動時および送信停止時のスプリアス発射を低減します。
ランプ制御は以下のレジスタで制御することができます。

設定	レジスタ
ランプ制御カウンタインクリメント設定	RAMP_INC([RAMP_CTRL1: B3 0x41(1-0)])
ランプ制御基準クロック周期設定	RAMP_CLK_STEP([RAMP_CTRL1: B3 0x41(2)])
ランプアップ時間設定	RAMP_CLK_SET_R([RAMP_CTRL2: B3 0x42])
ランプダウン時間設定	RAMP_CLK_SET_F([RAMP_CTRL3: B3 0x43])

ランプアップ時間・ランプダウン時間はそれぞれ下式にて算出することができます。

ランプアップ時間[s] = ランプ制御基準クロック周期設定(RAMP_CLK_STEP([RAMP_CTRL1: B3 0x41(2)])) *
ランプアップ時間設定(RAMP_CLK_SET_R[6:0]([RAMP_CTRL2: B3 0x42(6-0)]))} *
最大振幅設定([PA_REG_ADJ: B0 0x67(0), B0 0x68]) /
ランプ制御カウンタインクリメント設定(RAMP_INC[1:0]([RAMP_CTRL1: B3 0x41(1-0)]))

ランプダウン時間[s] = ランプ制御基準クロック周期設定(RAMP_CLK_STEP([RAMP_CTRL1: B3 0x41(2)])) *
ランプダウン時間設定(RAMP_CLK_SET_F[6:0]([RAMP_CTRL3: B3 0x43(6-0)]))} *
最大振幅設定([PA_REG_ADJ: B0 0x67(0), B0 0x68)]) /
ランプ制御カウンタインクリメント設定(RAMP_INC[1:0]([RAMP_CTRL1: B3 0x41(1-0)]))



ここで、リセット時、最大設定時および Sigfox 向け設定した場合(PA 出力パワー+13dBm 設定時)のランプアップ・ダウン時間(例)は以下となります。

設定レジスタ	リセット時 (最小)	Sigfox 向け 設定時	最大 設定時
RAMP_INC([RAMP_CTRL1: B3 0x41(1-0)])	0x0	0x0	0x0
RAMP_CLK_STEP([RAMP_CTRL1: B3 0x41(2)])	0x0	0x1	0x1
RAMP_CLK_SET_R[6:0] ([RAMP_CTRL2: B3 0x42(6-0)])	0x01	0x3F	0x7F
RAMP_CLK_SET_F[6:0] ([RAMP_CTRL3: B3 0x43(6-0)])	0x01	0x3F	0x7F
[PA_REG_ADJ: B0 0x67/68]	0x0E4	0x0E4	0x0E4
ランプアップ・ダウン時間	12.7us	12.8ms	25.7ms

●その他の機能

○データレート設定機能

(1)データレート変更方法
本 LSI は以下のレジスタ設定する任意のデータレートにて送受信可能です。
送信時･･･[TX_RATE_H: B1 0x02]および[TX_RATE_L: B1 0x03]
受信時･･･[RX_RATE1_H: B1 0x04]、[RX_RATE1_L: B1 0x05]および[RX_RATE2: B1 0x06]

送信･受信時のデータレート設定は以下の式に従い設定されます。

【送信時】

送信データレート[bps] = round (マスタークロック周波数[Hz] / 10/ [TX_RATE])

各データレートに対する推奨設定値を以下の表に示します。以下のレジスタ設定値は TX_DRATE([DRATE_SET: B0 0x06(3-0)])を設定することにより、自動的に[TX_RATE_H: B1 0x02]および[TX_RATE_L: B1 0x03]に設定されます。

送信データレート[kbps]	[TX_RATE_H][TX_RATE_L] 設定値(10 進)	データレート偏差 [%] *1
1.2	3000	0.00
2.4	1500	0.00
4.8	750	0.00
9.6	375	0.00
10.0	360	0.00
19.2	188	-0.27
15.0	240	0.00
32.768	110	-0.12
50	72	0.00
100	36	0.00
200	18	0.00

*1 データレート偏差は、本 LSI に接続するマスタークロックの周波数偏差が 0ppm 時の値です。

上式により算出される送信データレートにおいて、データレート偏差が大きくなる場合、[TX_RATE2_H: B1 0x7C]および[TX_RATE2_L: B1 0x7D]を用いることにより、データレート偏差をより小さく調整することが可能です。

TX_RATE2[13:0] = round [[{1/データレート(bps)} -
{1 / (マスタークロック周波数(Hz) / TX_RATE[11:0]) × 9}] /
{1/マスタークロック周波数(Hz)}]

【受信時】

受信データレート[bps] = round ({マスタークロック周波数[Hz] / N} / {[RX_RATE1] * [RX_RATE2])})
※N=1(LOW_RATE_EN=0 設定時)
N=2(LOW_RATE_EN=1 設定時)

各データレートに対する推奨設定値（LOW_RATE_EN([CLK_SET2: B0 0x03(0)])=0b1 設定時）を以下の表に示します。以下のレジスタ設定値は RX_DRATE([DRATE_SET: B0 0x06(7-4)])を設定することにより、自動的に[RX_RATE1_H: B1 0x04]、[RX_RATE1_L: B1 0x05]および[RX_RATE2: B1 0x06]に設定されます。

受信データレート[kbps]	[RX_RATE1_H][RX_RATE1_L] 設定値(10 進)	[RX_RATE2] 設定値(10 進)
1.2	120	125
2.4	60	125
4.8	30	125
9.6	15	125
10.0	15	120
19.2	8	117
15.0	12	100
20	9	100
32.768	5	110
40	5	90
50	3	120
100	2	90
200	9	10

【ご注意】
1. LOW_RATE_EN([CLK_SET2: B0 0x03(0)])=0b0 設定した場合、上式に従って受信データレートを算出してください。また、LOW_RATE_EN=0b0 設定時、送受信のデータレート設定レジスタ([DRATE_SET: B0 0x06])を設定しても自動で[RX_RATE1_H: B1 0x04][RX_RATE1_L: B1 0x05]および[RX_RATE2: B1 0x06]に最適値は設定されませんのでご注意ください。

(2)データレート変更に伴う設定

データレートを変更する場合、初期設定レジスタに従いレジスタを変更してください。

【ご注意】
1. 必ず TRX_OFF 状態で設定を変更してください。

○割り込み通知機能

本 LSI は割り込み通知機能を搭載しております。割り込みが発生すると割込み通知信号(SINTN)を Low にして通知します。割り込み要因は[INT_SOURCE_GRP1: B0 0x0D] [INT_SOURCE_GRP2: B0 0x0E] [INT_SOURCE_GRP3: B0 0x0F]の 3 つのグループに分かれています。また、各割り込みは[INT_EN_GRP1: B0 0x10] [INT_EN_GRP2: B0 0x11] [INT_EN_GRP3: B0 0x12]でマスクすることができます。割込み通知信号(SINTN)は GPIO*または EXT_CLK から出力できます。出力設定は[GPIO1_CTRL: B0 0x4E]、[GPIO1_CTRL: B0 0x4F]、[GPIO2_CTRL: B0 0x50]、[GPIO3_CTRL: B0 0x51]、[EXTCLK_CTRL: B0 0x52]を参照してください。

【ご注意】
マスクされていない割込み要因がひとつでも発生している場合、SINTN は Low を維持します。

(1) 割り込み要因表

各グループの割り込み要因を下記にまとめます。

レジスタ	割り込み名	機能
INT_SOURCE_GRP1	INT[0]	クロック安定化完了割込み
	INT[1]	VCO キャリブレーション完了割込み　または Fuse アクセス完了割込み　または IQ 調整完了割込み
	INT[2]	PLL ロック外れ割込み　または VCO 調整電圧範囲外検出割込み
	INT[3]	RF 状態遷移完了割込み
	INT[4]	FIFO-EMPTY 割込み
	INT[5]	FIFO-FULL 割込み
	INT[6]	ウェイクアップ割込み
	INT[7]	クロックキャリブレーション完了割込み
INT_SOURCE_GRP2	INT[8]	データ受信完了割込み
	INT[9]	CRC エラー割込み
	INT[10]	ダイバーシティサーチ完了割込み
	INT[11]	受信 Length エラー割込み
	INT[12]	予約
	INT[13]	SyncWord 検出割込み
	INT[14]	Field チェック割込み
	INT[15]	Sync エラー割込み
INT_SOURCE_GRP3	INT[16]	データ送信　完了割込み
	INT[17]	データ送信要求受付完了割込み
	INT[18]	CCA 完了割込み
	INT[19]	送信 Length エラー割込み
	INT[20]	送信 FIFO アクセスエラー割込み
	INT[21]	予約
	INT[22]	汎用タイマ 1 割込み
	INT[23]	汎用タイマ 2 割込み

(2) 割り込み発生タイミング

各割込み通知において、各基点から割込み発生までの時間、または割込み発生タイミングを以下に示します。割込み通知待ちのタイムアウト処理は以下を参照してください。

【ご注意】
(1)下表中の数値は 100kbps 時の値となります。任意のシンボルレートの場合、下表中のシンボル時間と記載される数値がシンボル周期に置き換えた数値となります。
(2)下表中の数値は下記フォーマットの送受信データを用いた場合です。

10 バイト	2 バイト	1 バイト	24 バイト	2 バイト
プリアンブル	SyncWord	Length	ユーザデータ	最終 CRC

(3)各割込み通知を OFF 設定した場合でも本 LSI 内部に割込みを保持した状態となります。よって、割込みをクリアせずに割込み通知 OFF 設定から ON 設定とした場合は割り込みが通知されます。割込みが発生した場合は、割込み通知 OFF 後に割込みクリアすることを推奨いたします。

割込み通知			基点	基点から割込み発生までの時間 または、割込み発生タイミング
INT[0]	クロック 安定化完了	水晶発振 回路使用時	RESETN 解除 (電源投入時)	300～500μs
			SLEEP 解除 （SLEEP 復帰時）	300～500μs
		TCXO 使用時	TCXO_EN 設定時 (電源投入時)	10～500μs
			SLEEP 解除 （SLEEP 復帰時）	10～500μs
INT[1]	VCO キャリブレーション 完了		VCO キャリブレーション実行開始	9ms
INT[2]	PLL ロック外れ検出		-	(送信時) PA_ON 以降の送信中 (受信時) RX イネーブル以降の受信中
	VCO 調整電圧範囲外検出		-	(送信時) PA_ON の立ち上がりタイミング (受信時) RX イネーブルの立ち上がりタイミング
INT[3]	RF 状態遷移完了		TX_ON 命令	(IDLE 時) 143μs (受信時) 24μs
			RX_ON 命令	(IDLE 時) 118μs (送信時)　25μs
			TRX_OFF 命令	(送信時)　24μs (受信時)　5μs
			Force_TRX_OFF 命令	(送信時)　24μs (受信時)　5μs
INT[4]	FIFO-EMPTY		TX_ON 命令 (送信) (※1)	Empty トリガレベルを 0x02 と設定していた場合 (符号化 NRZ 時) RF 起動(210μs)+(プリアンブル～データ 22 バイト)×10(ビット時間)=3010μs)
			-(受信)	FIFO リードにより FIFO 使用量がトリガレベルを下回った時
INT[5]	FIFO-FULL		-(送信)	FIFO ライトにより FIFO 使用量がトリガレベルを超した時
			SyncWord 検出 (受信)	Full トリガレベルを 0x05 と設定していた場合 (符号化 NRZ 時) 500μs(データ 5 バイト×10μs(ビット時間))
INT[6]	ウェイクアップ完了		SLEEP 設定	ウェイクアップタイマ満了時 詳細は「ウェイクアップタイマ」を参照してください。
INT[7]	クロックキャリブレーション 完了		キャリブレーション 開始	キャリブレーションタイマ満了時 詳細は「低速クロック補正補助機能」を参照してください。
INT[8]	データ受信完了		SyncWord 検出	L-field が 1 バイト、NRZ 符号化の場合、2160μs 後 (L-field 長(8bit)×10(シンボル時間)=80μs、データ長((Data～CRC：bit)×10(シンボル時間)=2080μs))
INT[9]	CRC エラー		SyncWord 検出	(FormatA/B)各 CRC 演算ブロック受信完了時

割込み通知		基点	基点から割込み発生までの時間 または、割込み発生タイミング
			(FormatC)受信完了時
INT[10]	ダイバーシティサーチ完了	-	ダイバーシティイネーブル設定状態での SyncWord 検出時
INT[11]	受信 Length エラー	SyncWord 検出	80µs(L-field 1 バイト時) 160µs(L-field 2 バイト時)
INT[12]	予約	-	-
INT[13]	SyncWord 検出	-	SyncWord 検出時
INT[14]	Field チェック	-	Field チェックにより一致または不一致を検出した時
INT[15]	Sync エラー	-	SyncWord 検出以降の受信中に同期が外れた時 （RXDIO_CTRL([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])に 0b00 または 0b11 設定時)
INT[16]	データ送信完了	TX_ON 命令 (*1)	RF 起動+[送信データ数+3](ビット)後 =210µs+315 ビット x 10µs (ビット時間)=3360µs 後
INT[17]	データ送信要求受付完了	-	Length 分のデータを全て送信 FIFO にライト完了したとき (FAST_TX モードを使用し、FIFO トリガによりデータ書き足しを行う場合は送信中になります)
INT[18]	CCA 完了	CCA 実行開始	(1)通常モード (ED 値平均回数+ IDLE_WAIT 設定)×平均間隔 (2) IDLE 検出モード ○IDLE 判定の場合 (ED 値平均回数+ IDLE_WAIT 設定)×平均間隔 ○BUSY 判定の場合 ED 値平均回数×平均間隔 平均間隔は 16µs となります。
INT[19]	送信 Length エラー	-	[TX_PKT_LEN_H/L: B0 0x7A/0x7B]への Length 設定時
INT[20]	送信 FIFO アクセスエラー	-	(1)FIFO に空きがない状態でデータ書き込みを行った時 (2)FIFO の書き足し時にオーバーフローが発生した時 (3)送信中に送信すべきデータがなくなった時
INT[21]	予約	-	-
INT[22]	汎用タイマ 1	タイマ開始	汎用タイマ 1 満了時 汎用タイマ用クロック周期 *分周設定([GT_CLK_SET: B0 0x33]) *汎用タイマ間隔設定([GT1_TIMER: B0 0x34])後
INT[23]	汎用タイマ 2	タイマ開始	汎用タイマ 2 満了時 汎用タイマ用クロック周期 *分周設定([GT_CLK_SET: B0 0x33]) *汎用タイマ間隔設定([GT2_TIMER: B0 0x35])後

(*1)FIFO に Length 分の送信データを書き込み完了した後、TX_ON 命令を発行し送信する場合

(2) 割り込みクリア条件

割込み通知		推奨割込みクリアタイミング
INT[0]	クロック安定化終了	
INT[1]	VCO キャリブレーション完了 VCO 調整電圧範囲外検出	
INT[2]	PLL ロック外れ検出	
INT[3]	RF 状態遷移完了	
INT[4]	FIFO-EMPTY	次の EMPTY トリガ発生タイミングまでにクリア
INT[5]	FIFO-FULL	次の FULL トリガ発生タイミングまでにクリア
INT[6]	ウェイクアップ完了	
INT[7]	クロックキャリブレーション	
INT[8]	データ受信完了	次のパケット受信前までにクリア
INT[9]	CRC エラー	次のパケット受信前までにクリア
INT[10]	ダイバーシティサーチ完了	割込み発生後
INT[11]	受信 Length エラー	
INT[12]	予約	
INT[13]	SyncWord 検出	
INT[14]	Field チェック	
INT[15]	Sync エラー	
INT[16/]	データ送信完了	次のパケット送信前までにクリア
INT[17]	データ送信要求受付完了	次のパケット受信前までにクリア
INT[18]	CCA 完了	次の CCA 実行までにクリア ※ただし、割り込みクリアにより CCA 結果もクリアされます。
INT[19]	送信 Length エラー	
INT[20]	送信 FIFO アクセスエラー	次のパケット送信前までにクリア
INT[21]	予約	
INT[22]	汎用タイマ 1	
INT[23]	汎用タイマ 2	

○低速クロック補正補助機能

本 LSI は、ウェイクアップタイマ用クロック(外部入力、内蔵 RC 発振回路出力)の周波数を調整するための補助機能として、低速クロック周波数のずれを検出する機能を持っています。本機能は以下のレジスタにより設定、使用することができます。本機能により検出したウェイクアップタイマ用クロック周波数のずれを考慮し、ウェイクアップタイマ間隔設定([WUT_INTERVAL_H/L: B0 0x2F/0x30])または動作継続タイマ間隔設定([WU_DURATION: B0 0x31])を調整することで、より正確なタイマ動作をさせることが可能となります。

設定	レジスタ
周波数ずれ検出用 クロック周波数設定	[CLK_CAL_SET: B0 0x70]
キャリブレーション時間	[CLK_CAL_TIME: B0 0x71]
キャリブレーション結果表示	[CLK_CAL_H: B0 0x72]および[CLK_CAL_L: B0 0x73]

本機能は、ウェイクアップタイマ用低速クロック周期間を LSI 内部の高精度、高速クロックによりカウントを行い、カウント結果を[CLK_CAL_H/L: B0 0x72/0x73]レジスタに表示します。上記設定とカウント数との関係は以下の通りとなります。

高速クロックカウント数 = {ウェイクアップタイマ用クロック周期([SLEEP/WU_SET:B0 0x2D(2)]) *
キャリブレーション時間設定([CLK_CAL_TIME：B0 0x71(5-0)])} /
{マスタークロック周期(36MHz) / クロック分周設定値([CLK_CAL_SET: B0 0x70(7-4)])}

このときの、キャリブレーション時間は下式となります。

クロックキャリブレーション時間[sec] = ウェイクアップタイマ用クロック周期 * キャリブレーション時間設定

(ウェイクアップタイマ補正例)
内部高速クロックの分周設定なし、キャリブレーション時間 10 サイクル、ウェイクアップタイマ設定 1000(0x3E8)を設定した場合

条件: ウェイクアップタイマ用クロック周波数 = 32.768kHz
検出用クロック分周設定 CLK_CAL_DIV[3:0] ([CLK_CAL_SET: B0 0x70(7-4)])= 0b0000
キャリブレーション時間設定 [CLK_CAL_TIME] = 0x0A
ウェイクアップタイマ設定 [WUT_INTERVAL:B0 0x2F,30] = 0x03E8(1000)

理想的な高速クロックカウント数は、

高速クロックカウント数 = (1/32.768kHz) * 10 / (1/36MHz)
= 10986(0x2AEA)

ここで、[CLK_CAL_H/L:B0 0x72,73]レジスタで 0x2A03(10755)を得た場合、
カウンタズレ値＝ 10755 - 10986 ＝-231
周波数ズレ＝1/[{1/32.768kHz + (- 231) / 10 * 1/36MHz}]- 32.768kHz = 703.78Hz
となり、低速クロック周波数誤差が+2.18%であることが分かります。この場合、ウェイクアップタイマ用カウンターの補正値（C）は、

C= ウェイクアップタイマ設定値（[WU_INTERVAL_H/L:B0 0x2F,30]） * 周波数ズレ / 32.768kHz
= 1000 * 703.78Hz / 32.768kHz
= 21

ウェイクアップタイマ設定値＝1000 + 21 = 1021 = 0x03FD を設定することで、32.768kHz で設定しようとしたタイマ時間に近づきます。

【ご注意】

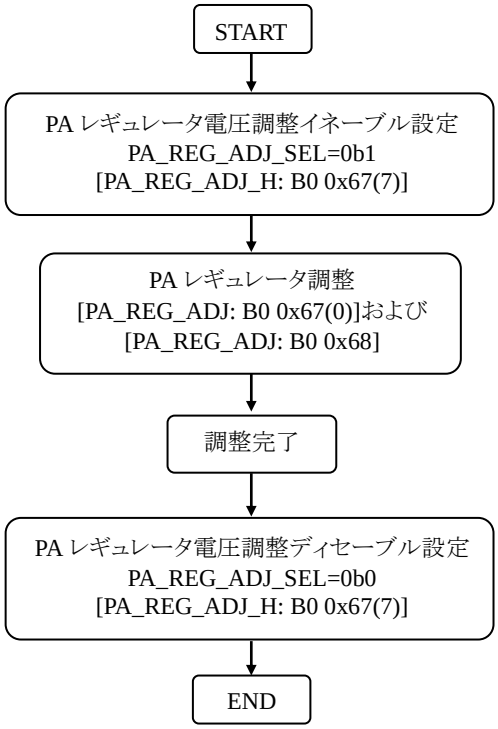
1. キャリブレーション時間が短い場合やクロック分周設定値が大きく、高速クロックカウントの時間分解能が粗い場合、キャリブレーション精度が低くなります。
2. マスタークロックが 36MHz 時、[CLK_CAL_TIME: B0 0x71]=0x3F 設定した場合、クロックキャリブレーション結果表示値([CLK_CAL_H/L: B0 0x72/73])の上限を超えるため、0x3E 以下の値を設定してください。

■LSI 調整項目と調整方法

●PA の調整

本 LSI は最大 50mW 出力回路を有しており、PA レギュレータ電圧を調整することにより出力パワーを調整することが可能です。PA レギュレータ電圧は PA_REG_ADJ([PA_REG_ADJ_H/L: B0 0x67/68]) 全 511 階調)にて調整可能です。
ただし、PA レギュレータ電圧値は、[VDD_PA 印加電圧 - 0.3V] 以下となるように設定してください。

【出力電力調整のフロー】
〇FSK の場合
PA レギュレータ電圧調整イネーブル設定(PA_REG_ADJ_SEL([PA_REG_ADJ_H: B0 0x67(7)]))を 0b1 に設定することにより、PA レギュレータ出力電圧設定(PA_REG_ADJ[8:0]([PA_REG_ADJ_H/L: B0 0x67/68]))が出力パワーに反映されます。



〇BPSK の場合
FSK の場合と同様、PA_REG_ADJ[8:0]([PA_REG_ADJ_H/L: B0 0x67/68])を調整します。さらに調整した PA_REG_ADJ に従い、[BPSK_STEP_SET0: B10 0x04]～[BPSK_STEP_SET59: B10 0x3F]を変更する必要があります。[BPSK_STEP_SET0: B10 0x04]～[BPSK_STEP_SET59: B10 0x3F]の変更方法については「ML7404_InitializationTable_vX.XX.xlsm」を元に調整値を算出し、該当レジスタに調整値をライトしてください。

●I/Q の調整

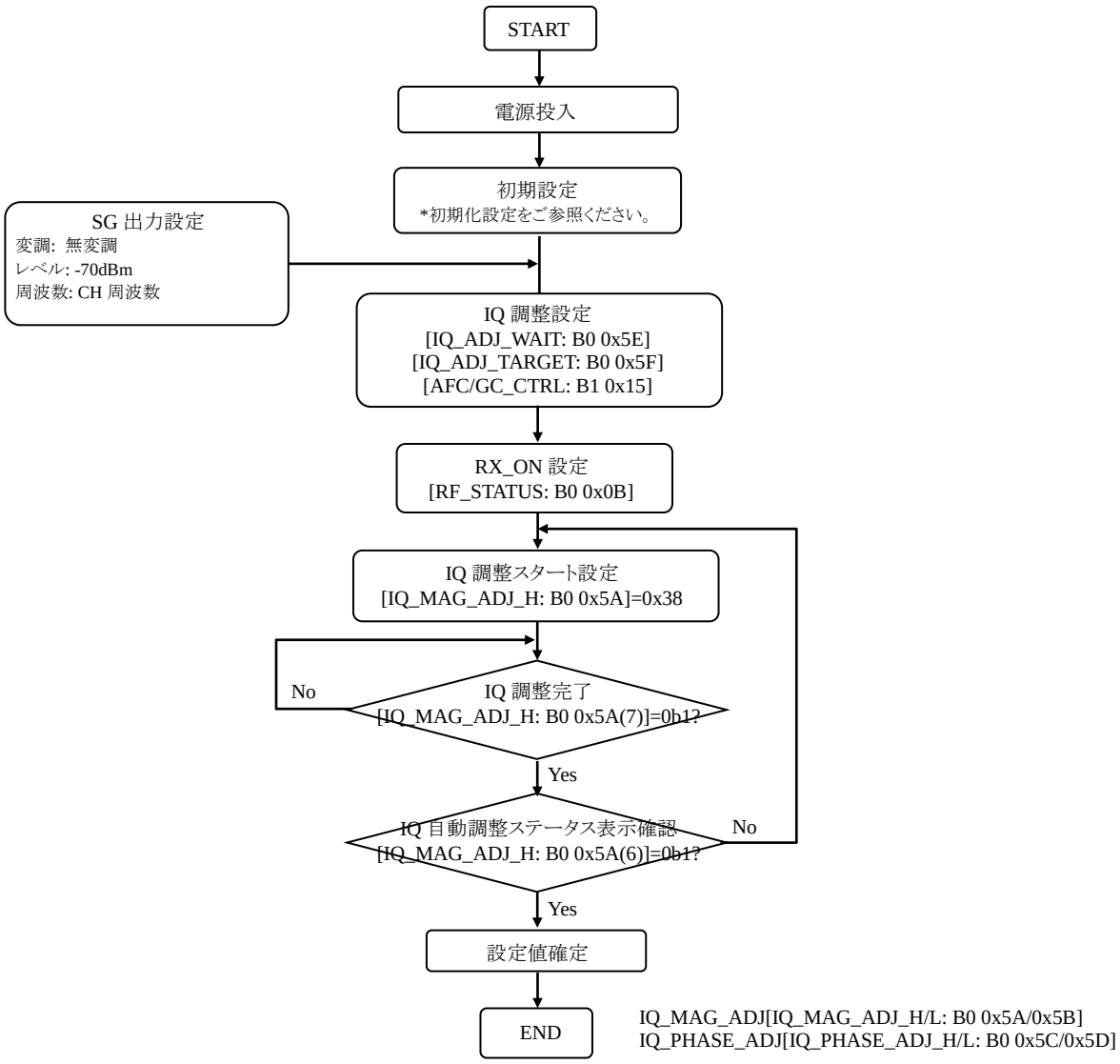
内部 IQ 信号のバランスを調整することによりイメージ除去比を調整することができます。調整は以下の手順で実施することができます。

1. SG よりチャネル周波数の信号を ANT 端子から入力します。
   入力信号源: 無変調波
   入力周波数: チャネル周波数
   入力レベル: -70dBm
2. IQ 調整時の設定として、下記レジスタを設定します。

レジスタ名	設定値
[CHFIL_BW: B0 0x54]	0x14
[DEC_GAIN: B0 0x60]	0x0C
[IQ_ADJ_WAIT: B0 0x5E]	0x00
[IQ_ADJ_TARGET: B0 0x5F]	ご使用の条件に合わせて調整ください
[AFC/AGC_CTRL: B1 0x15]	0x00

3. RX_ON 後、IQ_ADJ_START([IQ_MAG_ADJ_H: B0 0x5A(4)])=0b1 および LOCAL_SEL([IQ_MAG_ADJ_H: B0 0x5A(5)])=0b1(Upper Local 設定)に設定し、調整開始します。
4. 調整完了を IQ_ADJ_DONE([IQ_MAG_ADJ_H: B0 0x5A(7)])=0b1 にて示します。調整完了後、調整値が確定し IQ_MAG_ADJ([IQ_MAG_ADJ_H/L: B0 0x5A/0x5B])および IQ_PHASE_ADJ([IQ_PHASE_ADJ_H/L: B0 0x5C/0x5D])に格納されます。また、IQ 自動調整の結果、調整後の RSSI 値と IQ 自動調整 RSSI 判定閾値との比較結果を IQ_ADJ_RSLT([IQ_MAG_ADJ_H: B0 0x5A(6)])に表示されます。IQ_ADJ_RSLT=0b0 を示し調整後の RSSI 値が IQ 自動調整 RSSI 判定閾値より大きい場合は、再度 IQ 調整を実施してください。
   ただし、IQ 調整機構を繰り返し実施した場合であっても、必ず IQ 自動調整 RSSI 判定閾値以下となる IQ 調整値を探索できるというものではございませんのでご注意ください。

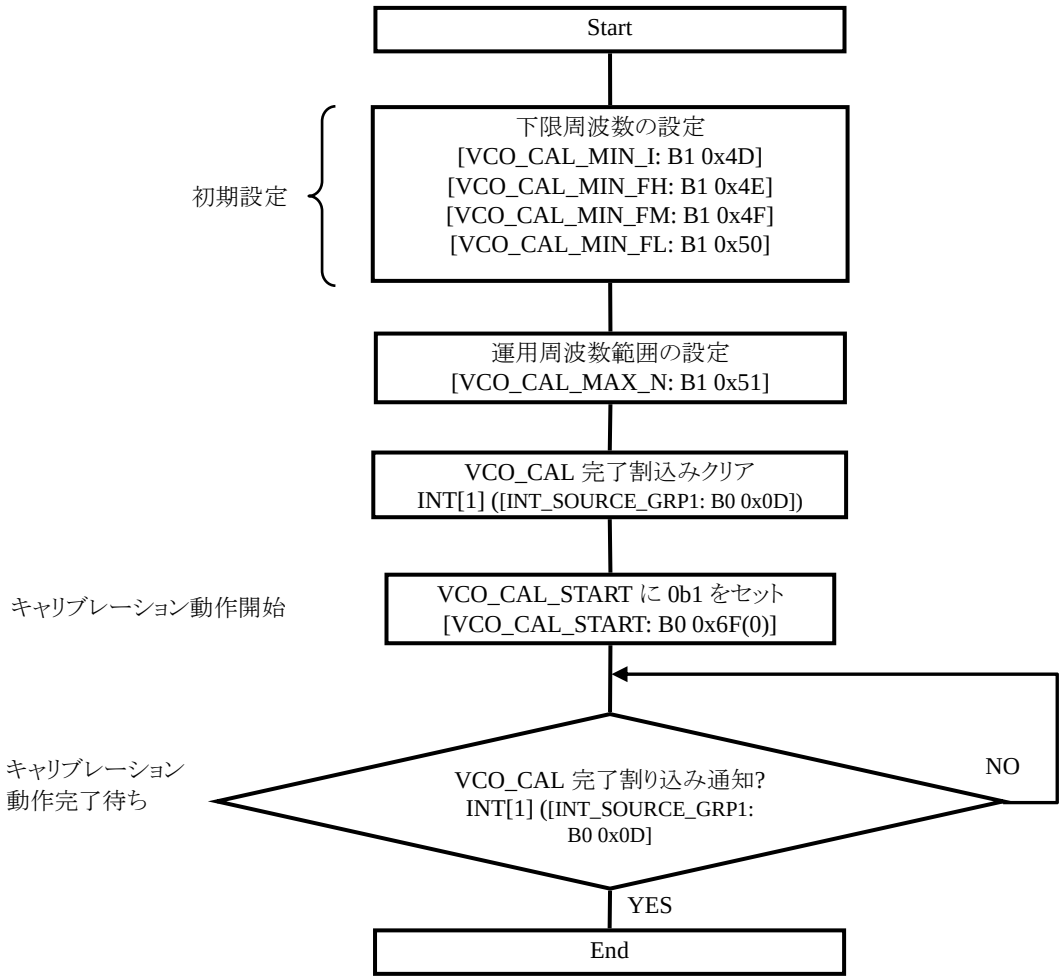
【I/Q 調整フロー】


START
電源投入
初期設定
*初期化設定をご参照ください。
SG 出力設定
変調: 無変調
レベル: -70dBm
周波数: CH 周波数
IQ 調整設定
[IQ_ADJ_WAIT: B0 0x5E]
[IQ_ADJ_TARGET: B0 0x5F]
[AFC/GC_CTRL: B1 0x15]
RX_ON 設定
[RF_STATUS: B0 0x0B]
IQ 調整スタート設定
[IQ_MAG_ADJ_H: B0 0x5A]=0x38
No
IQ 調整完了
[IQ_MAG_ADJ_H: B0 0x5A(7)]=0b1?
Yes
IQ 自動調整ステータス表示確認
[IQ_MAG_ADJ_H: B0 0x5A(6)]=0b1?
No
Yes
設定値確定
END
IQ_MAG_ADJ[IQ_MAG_ADJ_H/L: B0 0x5A/0x5B]
IQ_PHASE_ADJ[IQ_PHASE_ADJ_H/L: B0 0x5C/0x5D]

●VCO の調整

VCO 動作マージンを補償するために、設定周波数毎に最適な容量補正値を設定する必要があります。この容量補正値は VCO キャリブレーションの実行により取得することができます。
起動時やリセット時等にあらかじめ VCO キャリブレーションを実行することで、送信/受信毎に運用周波数範囲の下限/上限における 2 点の容量補正値を取得しておき、運用時にはこれらの容量補正値を元に、設定周波数での最適な容量補正値を LSI 内部で自動計算して使用します。

【VCO 調整フロー】
起動時およびリセット時の容量補正値の取得の流れを下記に示します。



【ご注意】
VCO キャリブレーションの実行は必ず IDLE 状態で行ってください。

VCO キャリブレーションの実行には 2.6ms～8.8ms 必要です。
完了後は以下のレジスタにそれぞれの条件の容量補正値が保存されます。
下限周波数での容量補正値： [VCAL_MIN: B1 0x52]
上限周波数での容量補正値： [VCAL_MAX: B1 0x53]

実際の運用時には、送受信それぞれ二つの容量補正値から、設定された周波数（チャネル）に最適な容量補正値を計算して適用されます。計算後の値は[VCO_CAL: B0 0x6E]に表示されます。

なお、事前の評価段階で以下のレジスタの値を MCU 側のメモリで保持し、起動時やリセット時に保持した値をレジスタに設定することで、キャリブレーション動作を省略することができます。

・保持しておくべきレジスタ
[VCO_CAL_MIN_I: B1 0x4D]
[VCO_CAL_MIN_FH: B1 0x4E]
[VCO_CAL_MIN_FM: B1 0x4F]
[VCO_CAL_MIN_FL: B1 0x50]]
[VCO_CAL_MAX_N: B1 0x51]
[VCAL_MIN: B1 0x52]
[VCAL_MAX: B1 0x53]

VCO キャリブレーションを行った場合であっても、キャリブレーション実行時からの温度変化により VCO 調整電圧値が VCO の最適動作範囲から外れる場合があります。本 LSI は VCO 調整電圧値が最適動作範囲外であるか否かを検出し、レジスタ表示する機能および割込みとして MCU に通知する機能を持っています。本機能は VTUNE_COMP_ON[VTUNE_COMP_ON: B2 0x40(5)]= 0b1 に設定することにより有効となります。

VCO 調整電圧下限閾値比較結果表示： VTUNE_COMP_L[VCO_VTRSLT: B0 0x40(0)]
VCO 調整電圧上限閾値比較結果表示： VTUNE_COMP_H[VCO_VTRSLT: B0 0x40(1)]
VCO 調整電圧範囲外検出割込み通知設定： VTUNE_INT_ENB[VCO_VTRSLT: B0 0x40(2)]
PLL ロック判定設定： PLL_LD_EN[PLL_LOCK_DETECT:B1 0x0B(7)]

VTUNE_COMP_L [VCO_VTRSLT: B0 0x40(0)]	VTUNE_COMP_H [VCO_VTRSLT: B0 0x40(1)]	VCO 調整電圧値の状態
0	0	最適動作範囲内
0	1	最適動作範囲外(上限以上)
1	0	最適動作範囲外(下限未満)
1	1	異常状態

VCO 調整電圧範囲外検出時の割込み通知は、PLL ロック外れ検出割込み(INT2[INT_SOURCE_GRP1: B0 0x0D(2)])にて通知します。

【ご注意】
1. 下限周波数には、実際に運用する下限周波数に対して 400kHz 以上低い値を設定してください。
2. 上限値の設定は、実際に運用する周波数範囲が完全に含まれるように設定してください。
3. チャネル設定の変更などで、キャリブレーション実行時に設定した周波数範囲外の周波数を使用する場合は、再度適切な周波数範囲を設定して、キャリブレーションを再実行してください。
4. VCO が最適動作範囲から外れた場合、すなわち VTUNE_COMP_L/VTUNE_COMP_H のいずれかが 0b1 を示した時、その状態で RF 動作を行いますと VCO の動作マージンがなくなり、PLL ロック外れを引き起こす可能性があります。必ずキャリブレーションを再実行するか、VCO 動作マージンを確保するようキャリブレーション値を変更してください。
5. PLL ロック外れ検出割込み(INT2[INT_SOURCE_GRP1: B0 0x0D(2)])は以下の 2 つの要因により発生します。そのときの PLL ロック判定設定(PLL_LD_EN[PLL_LOCK_DETECT:B1 0x0B(7)])、それぞれの要因の検出タイミングと割込み発生後の LSI 動作の関係は以下の通りとなります。

・PLL ロック外れが発生した場合

LSI 状態	PLL ロック外れ 監視期間	PLL ロック判定設定と PLL ロック外れ検出割込み発生後の LSI 動作	
		PLL_LD_EN[PLL_LOCK_DETECT:B1 0x0B(7)]=0b1	PLL_LD_EN[PLL_LOCK_DETECT:B1 0x0B(7)]=0b0
送信	PA_ON=”H”の期間	割込み発生し、強制送信停止	割込み発生し、送信継続
受信	RX イネーブル=”H”の 期間	割込み発生し、受信継続	割込み発生し、受信継続

・VCO 調整電圧値が最適動作範囲外となった場合

LSI 状態	VCO 調整電圧値 判定タイミング	PLL ロック判定設定と PLL ロック外れ検出割込み発生後の LSI 動作	
		PLL_LD_EN[PLL_LOCK_DETECT:B1 0x0B(7)]=0b1	PLL_LD_EN[PLL_LOCK_DETECT:B1 0x0B(7)]=0b0
送信	PA_ON の立上り時	割込み発生し、強制送信停止	割込み発生し、送信継続
受信	RX イネーブルの 立上り時	割込み発生し、受信継続	割込み発生し、受信継続

○VCO 下限周波数の設定

VCO 下限周波数は「チャネル周波数の設定」で示した I を[VCO_CAL_MIN_I: B0 0x4D]レジスタで設定し、F を MSB から[VCO_CAL_MIN_FH: B1 0x4E]、[VCO_CAL_MIN_FM: B1 0x4F]、[VCO_CAL_MIN_FL: B1 0x50]レジスタの順で設定します。

N_{div} の値については、「チャネル周波数の設定」をご参照ください。

VCO 下限周波数設定は次式にて求められます。

$$I = \frac{f_{rf}}{f_{ref} / N_{div}} \text{ の整数部分}$$

$$F = \left\{ \frac{f_{rf}}{f_{ref} / N_{div}} - I \right\} \cdot 2^{20} \text{ の整数部分}$$

ここで、

f_{rf} :VCO 下限周波数(チャネル#0 周波数 - 400kHz)
f_{ref} :PLL リファレンス周波数（=マスタークロック周波数：F_{MCK1}）
I :整数部周波数設定
F :小数部周波数設定
N_{div} :分周設定(1 or 2)

例）運用下限周波数(チャネル#0 周波数)を 920MHz で使用する場合、設定値はそれよりも 400kHz 以上低い値とする必要があるため、例では下限周波数 919.6MHz、マスタークロック周波数 36MHz、N_{div}=1 とします。

$$I = \frac{919.6MHz}{(36MHz/1)} \text{ の整数部 } =25(0x19)$$

$$F = \left\{ \frac{919.6MHz}{(36MHz/1)} - 25 \right\} \cdot 2^{20} \text{ の整数部}=570891(0x08B60B)$$

それぞれのレジスタへの設定値は以下の通りです。

[VCO_CAL_MIN_I: B1 0x1B] = 0x19
[VCO_CAL_MIN_FH: B1 0x1C] = 0x08
[VCO_CAL_MIN_FM: B1 0x1D] = 0xB6
[VCO_CAL_MIN_FL: B1 0x1E] = 0x0B

となります。

○VCO 上限周波数の設定

VCO 上限周波数は、下限周波数設定値と VCO_CAL_MAX_N[3:0]([VCO_CAL_MAX_N: B1 0x51(3-0)])により、下記に示す計算式にて算出されます。下式を満たす上限周波数を選択してください。

[PLL_DIV_SET: B1 0x1A]で分周設定をした場合、以下の算出式で fref を F_{MCK1}/N_{div} として計算してください。
N_{div} の値については、「チャネル周波数の設定」をご参照ください。

VCO 上限周波数 = {運用上限周波数 – (運用下限周波数 – 400kHz)} × N_{div}

VCO 上限周波数(VCO_CAL_MAX_N[3:0])は以下の通り設定されます。

VCO_CAL_MAX_N[3:0]	VCO 上限周波数[MHz]
0b0000	0
0b0001	1.125
0b0010	2.25
0b0011	4.5
0b0100	9
0b0101	18
0b0110	36
0b0111	72
上記以外	設定禁止

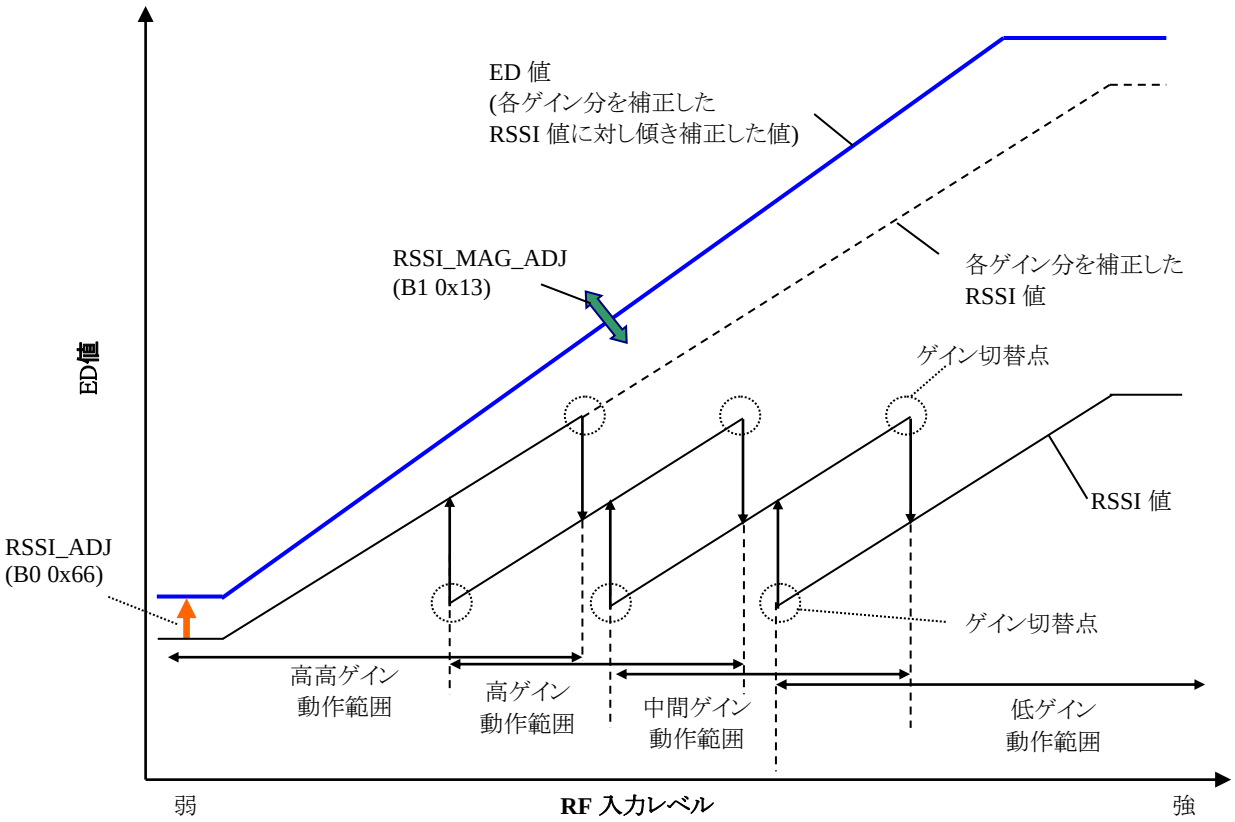
●電力検出値（ED 値）の調整

RF 信号から、本節で説明する演算を行い、ED 値として算出致します。
本調節を行うことで、個体間のバラツキを補正することが可能となります。

広い入力レンジをカバーするため、4 つのゲイン状態を切り替え、RF 入力レベルに応じた ED 値(下図の青線)を算出します。ED 値を得るため、レジスタにより以下の調整が可能です。

調整項目		レジスタ	備考
ゲイン切替点	高高ゲイン⇒高ゲイン	[GAIN_HHTOH: B2 0x76]	-
	高ゲイン⇒高高ゲイン	[GAIN_HTOHH: B2 0x77]	-
	高ゲイン⇒中間ゲイン	[GAIN_HTOM: B2 0x78]	-
	中間ゲイン⇒高ゲイン	[GAIN_MTOH: B2 0x79]	-
	中間ゲイン⇒低ゲイン	[GAIN_MTOL: B2 0x7A]	-
	低ゲイン⇒中間ゲイン	[GAIN_LTOM: B2 0x7B]	-
線形性	-	[RSSI_ADJ_H: B2 0x7C]	-
	-	[RSSI_ADJ_M: B2 0x7D]	-
	-	[RSSI_ADJ_L: B2 0x7E]	-
RSSI 傾き	-	[RSSI_MAG_ADJ: B1 0x13]	-
ED 値バラつき (同一入力レベル)	-	[RSSI_ADJ: B0 0x66]	-

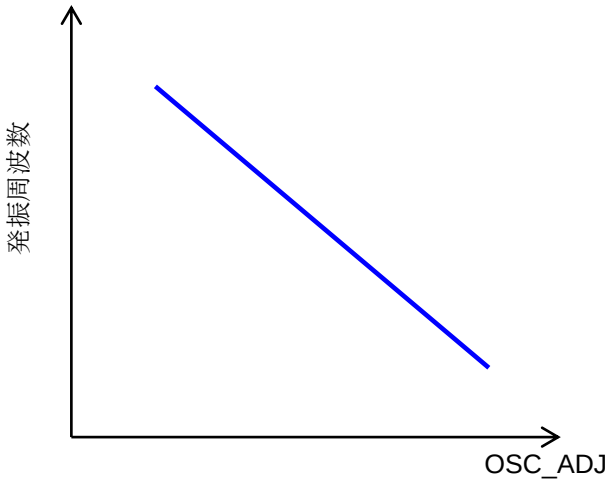
[RSSI_ADJ: B0 0x66]では、同一入力レベルに対する上下バラツキを調整します。ただし、[RSSI_MAG_ADJ: B1 0x13]による傾き設定前の値に対する補正となります。なお、正の値を設定すると低入力レベル時に ED 値が 0x00 まで下がらなくなります。また、負の値を設定すると高入力レベル時に 0xFF まで上がらなくなることがあります。
RSSI_ADJ の値はチャネルフィルタ帯域幅および内部ゲイン設定によって変わります。従いまして、データレートまたはチャネルフィルタ帯域設定毎に調整が必要です。なお、データレート毎の初期値については初期設定レジスタで指定する値を推奨します。ゲイン切替点については正常にゲインが切り替わらなくなる恐れがあるため、“初期設定レジスタ”で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。



●発振回路の調整

水晶振動子を使用する場合、XIN 端子(ピン#5)と XOUT 端子(ピン#6)に付く付加容量を調整することで水晶振動子の偏差を調整することができます。付加容量の調整は[OSC_ADJ1: B0 0x62]と[OSC_ADJ2: B0 0x63]を変更することで可能です。[OSC_ADJ1: B0 0x62]が粗調、[OSC_ADJ2: B0 0x63]が微調になります。

調整レジスタの値と発振周波数の関係は下図の通りです。



●送受信周波数の調整

マスタークロック偏差による送受信周波数のずれは FREQ_ADJ_SIGN([FREQ_ADJ_H: B1 0x42(7)])および FREQ_ADJ [9:0]([FREQ_ADJ_H/L: B1 0x42(1-0)/0x43])にて調整することができます。

N_{div} の値については、「チャネル周波数の設定」をご参照ください。

FREQ_ADJ [9:0]の設定値は、下記の式で求められます。

$$FREQ_ADJ = round\left[\left\{\frac{f_{adj}}{f_{ref}/N_{div}}\right\}\cdot 2^{20}\right]$$

ここで

$FREQ_ADJ$: 周波数ずれ調整設定

f_{adj} : 周波数ずれ調整周波数[MHz]

f_{ref} : PLL リファレンス周波数（=マスタークロック周波数 : F_{MCK1}）

N_{div} : 分周設定(1 or 2)

$round[\ ]$: 一番近い整数への丸め

例）周波数ずれ調整周波数+1kHz の場合（マスタークロック 36MHz、N_{div}=1 時）、以下のようになります。

$$FREQ_ADJ = round\left[\left\{\frac{0.001MHz}{36MHz/1}\right\}\cdot 2^{20}\right] = 29\ (0x01D)$$

[FREQ_ADJ_H: B1 0x42] = 0x80
[FREQ_ADJ_L: B1 0x43] = 0x1D
となります。

マスタークロック偏差の調整は「発振回路の調整」によって調整することもできます。

■その他の設定

●初期化設定

初期化に必要なレジスタ設定値については、”ML7404_初期設定レジスタ”と”ML7404_RegisterSettingTool”をご参照ください。

●BER 測定時の設定

本 LSI で BER を測定する際には、被試験器（受信）側で以下のレジスタを設定変更する必要があります。

[DIO_SET: B0 0x0C]に 0x40 を設定
[MON_CTRL: B0 0x4D]に 0x80 を設定
[GPIO0_CTRL: B0 0x4F]～[GPIO3_CTRL: B0 0x52]にて DCLK/DIO 出力設定を行う
[GAIN_HOLD: B1 0x0E]に 0x00 を設定

BER 測定を完了し、受信を停止する場合は Force_TRX_OFF(SET_TRX[RF_STATUS: B0 0x0B(3-0)]を 0b0011 に設定) を実行してください。

【ご注意】
BER 測定は FSK モードのみ対応しています。スペクトラム拡散機能(DSSS モード)使用時は対応しておりませんので、受信特性を評価する場合は、パケットエラーレート(PER)で確認してください。

●Wireless M-Bus モード設定

Wireless M-Bus に規定されるモード(S/T/C/R/F)設定については、”ML7404_InitializationTable_vX.XX.xlsm”をご参照ください。

●IEEE802.15.4g モード設定

IEEE802.15.4g に規定されるパケットフォーマットに対し、本 LSI で設定が必要なレジスタは以下の通りです。

○送受共通

パラメータ	レジスタ		設定値
	名称	アドレス	
同期ワード長設定	SYNCWORD_LEN	B1 0x25	0x10
同期ワードパターン設定 1	SYNCWORD1_SET0	B1 0x27	0x00
	SYNCWORD1_SET1	B1 0x28	0x00
	SYNCWORD1_SET2	B1 0x29	0x90
	SYNCWORD1_SET3	B1 0x2A	0x4E
同期ワードパターン設定 2	SYNCWORD2_SET0	B1 0x2B	0x00
	SYNCWORD2_SET1	B1 0x2C	0x00
	SYNCWORD2_SET2	B1 0x2D	0x7A
	SYNCWORD2_SET3	B1 0x2E	0x0E
Whitening 初期状態設定 1	WHT_INIT_H	B1 0x64	0x00
Whitening 初期状態設定 2	WHT_INIT_L	B1 0x65	0xF0
Whitening 生成多項式設定	WHT_CFG	B1 0x66	0x10

○送信

(1) CRC16, Whitening なしの場合

パラメータ	レジスタ		設定値
	名称	アドレス	
パケットフォーマット設定	PKT_CTRL1	B0 0x04	0x16
CRC/Length 長設定	PKT_CTRL2	B0 0x05	0x5D
Whitening 設定	DATA_SET2	B0 0x08	0x00
PHR 設定(bit15-11)	TX_PKT_LEN_H(bit7-3)	B0 0x7A	0b0_0010
CRC 生成多項式	CRC_POLY3	B1 0x16	0x00
	CRC_POLY2	B1 0x17	0x00
	CRC_POLY1	B1 0x18	0x08
	CRC_POLY0	B1 0x19	0x10

(2) CRC16, Whitening ありの場合

パラメータ	レジスタ		設定値
	名称	アドレス	
パケットフォーマット設定	PKT_CTRL1	B0 0x04	0x16
CRC/Length 長設定	PKT_CTRL2	B0 0x05	0x5D
Whitening 設定	DATA_SET2	B0 0x08	0x01
PHR 設定(bit15-11)	TX_PKT_LEN_H(bit7-3)	B0 0x7A	0b0_0011
CRC 生成多項式	CRC_POLY3	B1 0x16	0x00
	CRC_POLY2	B1 0x17	0x00
	CRC_POLY1	B1 0x18	0x08
	CRC_POLY0	B1 0x19	0x10

(3) CRC32, Whitening なしの場合

パラメータ	レジスタ		設定値
	名称	アドレス	
パケットフォーマット設定	PKT_CTRL1	B0 0x04	0x16
CRC/Length 長設定	PKT_CTRL2	B0 0x05	0xAD
Whitening 設定	DATA_SET2	B0 0x08	0x00
PHR 設定(bit15-11)	TX_PKT_LEN_H(bit7-3)	B0 0x7A	0b0_0000
CRC 生成多項式	CRC_POLY3	B1 0x16	0x02
	CRC_POLY2	B1 0x17	0x60
	CRC_POLY1	B1 0x18	0x8E
	CRC_POLY0	B1 0x19	0xDB

(4) CRC32, Whitening ありの場合

パラメータ	レジスタ		設定値
	名称	アドレス	
パケットフォーマット設定	PKT_CTRL1	B0 0x04	0x16
CRC/Length 長設定	PKT_CTRL2	B0 0x05	0xAD
Whitening 設定	DATA_SET2	B0 0x08	0x01
PHR 設定(bit15-11)	TX_PKT_LEN_H(bit7-3)	B0 0x7A	0b0_0001
CRC 生成多項式	CRC_POLY3	B1 0x16	0x02
	CRC_POLY2	B1 0x17	0x60
	CRC_POLY1	B1 0x18	0x8E
	CRC_POLY0	B1 0x19	0xDB

○受信

IEEE802_15_4G_EN[PKT_CTRL1: B0 0x04(2)]=0b1 設定することで、受信した PHR から FCS 情報、Whiteing 情報を自動判定し受信します。

パラメータ	レジスタ		設定値
	名称	アドレス	
パケットフォーマット設定	PKT_CTRL1	B0 0x04	0x16
CRC/Length 長設定	PKT_CTRL2	B0 0x05	0x5D/0xAD
Whitening 設定	DATA_SET2	B0 0x08	0x01/0x00

■フローチャート

カテゴリ	条件 1	条件 2	フロー名
電源投入時	-	-	(1) 初期化フロー
送信受信共通	RF 状態遷移待ち	-	(1) RF 状態遷移待ち
送信時	DIO モード	-	送信時(1) DIO モード
	FIFO モード	64 バイト以下	送信時(2) FIFO モード
		65 バイト以上(FAST_TX)	送信時(3) FIFO モード
	自動送信	-	送信時(4) 自動送信時
	Sigfox 送信	-	送信時(5) Sigfox 送信時
受信時	DIO モード	-	受信時(1) DIO モード
	FIFO モード	64 バイト以下	受信時(2) FIFO モード
		65 バイト以上	受信時(3) FIFO モード
	ACK 送信	-	受信時(4) ACK 送信
	Field チェック	-	受信時(5) Field チェック
	CCA	通常モード	受信時(6) CCA 通常モード
		無限実行モード	受信時(6) CCA 無限実行モード
		IDLE 検出モード	受信時(6) CCA IDLE 検出モード
	高速電波チェック	-	受信時(7) 高速電波チェック
	ED-SCAN	-	受信時(8) ED-SCAN
	アンテナダイバーシティ	ダイバーシティ実行	受信時(9) アンテナダイバーシティ
	スペクトラム拡散受信	SF=8,16 時	受信時(10) スペクトラム拡散受信
SLEEP	SLEEP	-	(1) SLEEP
	ウェイクアップタイマ	-	(2) ウェイクアップタイマ
エラー発生時	Sync エラー	-	(1) CRC/Sync エラー
	送信 FIFO アクセスエラー	-	(2) 送信 FIFO アクセスエラー
	PLL ロック外れ	-	(3) PLL ロック外れ
データレート変更時	-	-	(1)データレート変更

●電源投入時

(1) 初期化フロー

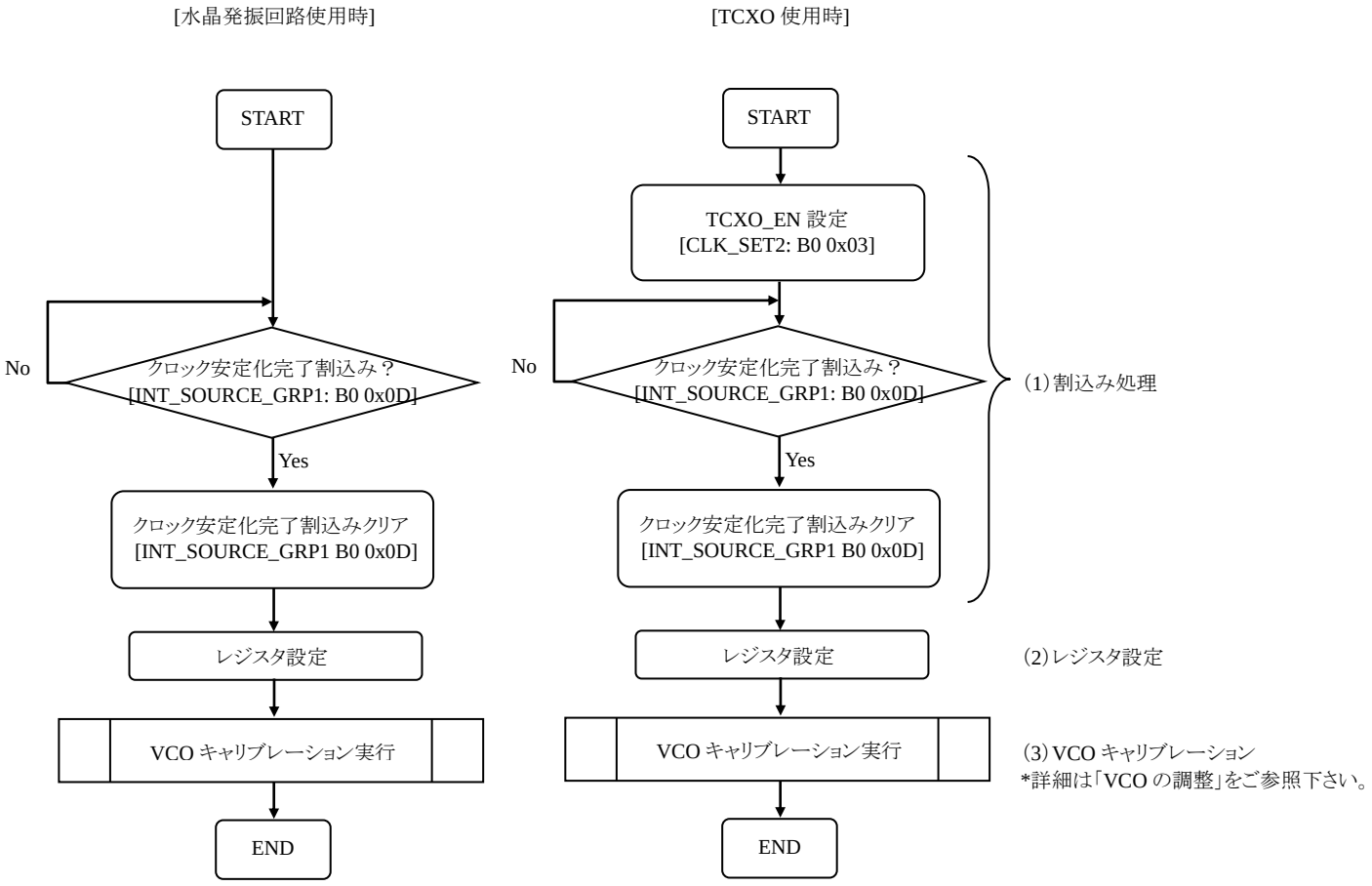
初期化フローでは割り込み処理、レジスタ設定、VCO キャリブレーションが必要です。

(1) 割込み処理
初期値ではクロック安定化完了割込み通知設定（INT_EN[0]([INT_EN_GRP1: B0 0x10(0)]）のみイネーブル設定となっております。ハードリセット解除後はクロック安定化完了割込み（INT[0]:割り込みグループ 1）が検出されます。

(2) レジスタ設定
① 水晶発振回路使用時
FIFO アクセスレジスタ([WR_TX_FIFO: B0 0x7C]、[RD_FIFO: B0 0x7F])を除く BANK0 および BANK1 の全レジスタはクロック安定化完了割込みが通知されるまで十分時間経過後に INT0[INT_SOURCE_GRP1: B0 0x0D(0)]をリードし、クロック安定化完了割込み INT[0]の通知確認後、レジスタアクセスしてください。初期化に必要なレジスタ設定の詳細は、「初期設定レジスタ」をご参照ください。

② TCXO 使用時
TCXO_EN([CLK_SET2: B0 0x03(6)])=0b1 設定後、FIFO アクセスレジスタ([WR_TX_FIFO: B0 0x7C]、[RD_FIFO: B0 0x7F])を含む全レジスタは INT[0]の通知後、レジスタアクセスが可能です。初期化に必要なレジスタ設定の詳細は、「初期設定レジスタ」をご参照ください。

(3) VCO キャリブレーション
運用周波数の下限周波数と上限周波数を設定し、VCO キャリブレーションを実行します。
VCO キャリブレーションの実行方法については「VCO の調整」をご参照下さい。



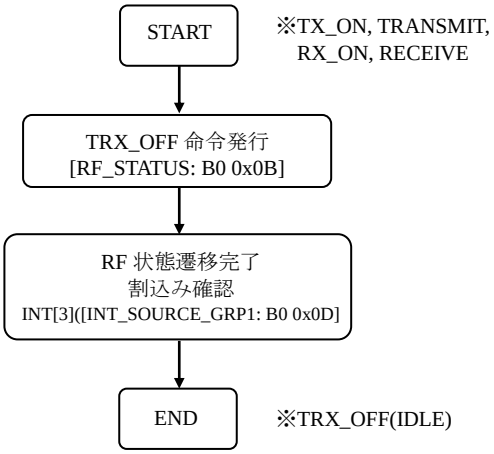
●送信/受信共通

(1) RF 状態遷移待ち

以下の RF 状態が変更する設定を行った場合、その後 RF 状態遷移が完了したことを RF 状態遷移完了割込み(INT[3]: 割り込みグループ 1)にて確認を行ってください。

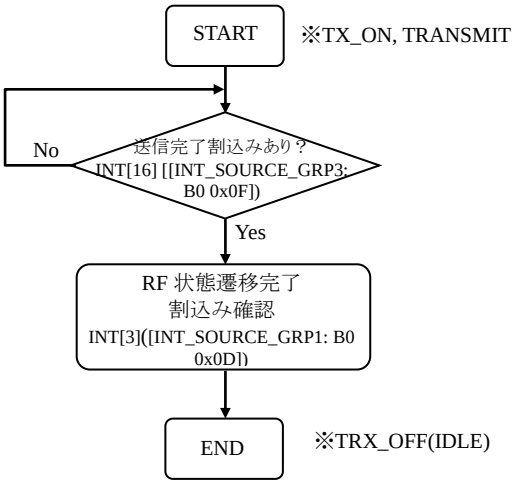
○[RF_STATUS: B0 0x0B]により RF 状態変更
○[RF_STATUS_CTRL: B0 0x0A]による RF 状態変更
・FAST_TX モード設定
・自動送信設定
・送信完了後の RF 状態設定
・受信完了後の RF 状態設定
○ウェイクアップタイマ設定による RF 状態変更

①TRX_OFF フロー
[RF_STATUS: B0 0x0B]により RF 状態変更
SET_TRX[3:0]=0b1000

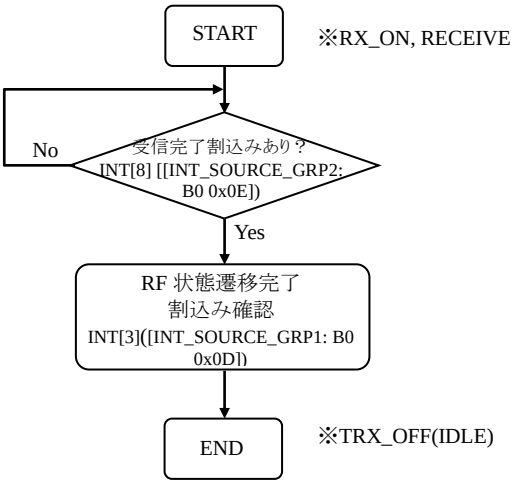


[RF_STATUS_CTRL: B0 0x0A]による RF 状態変更

TXDONE_MODE[1:0]=0b00

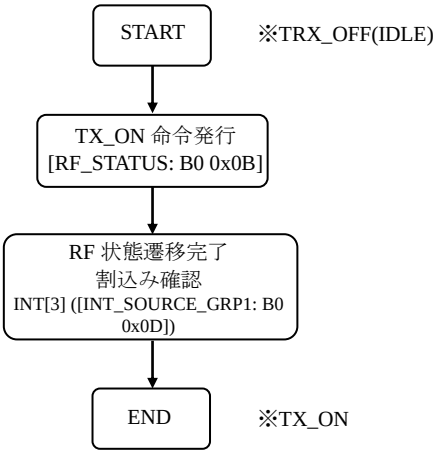


RXDONE_MODE[1:0]=0b00



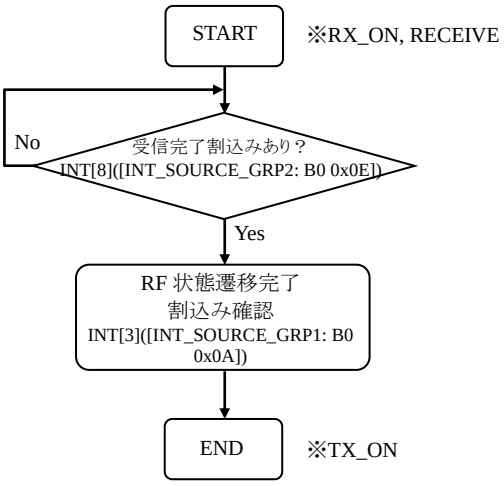
②TX_ON フロー
[RF_STATUS: B0 0x0B]により RF 状態変更

SET_TRX[3:0]=0b1001

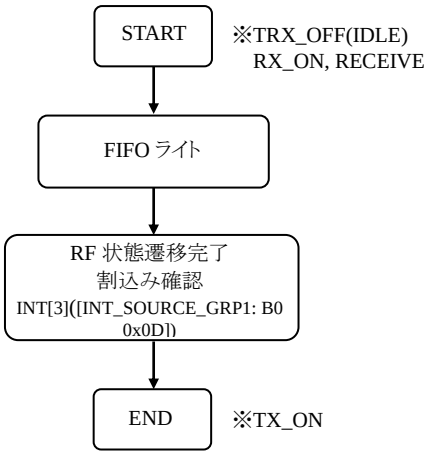


[RF_STATUS_CTRL: B0 0x0A]による RF 状態変更

RXDONE_MODE[1:0]=0b10



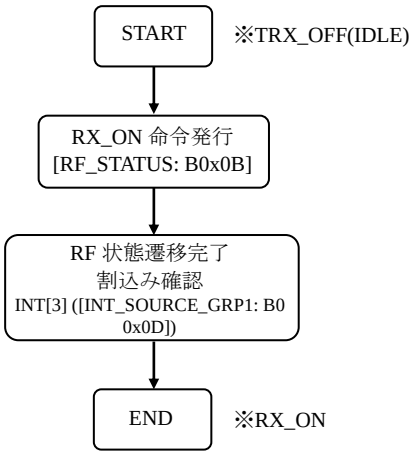
FAST_TX_EN=0b1 かつ
AUTO_TX_EN=0b1



③RX_ON フロー

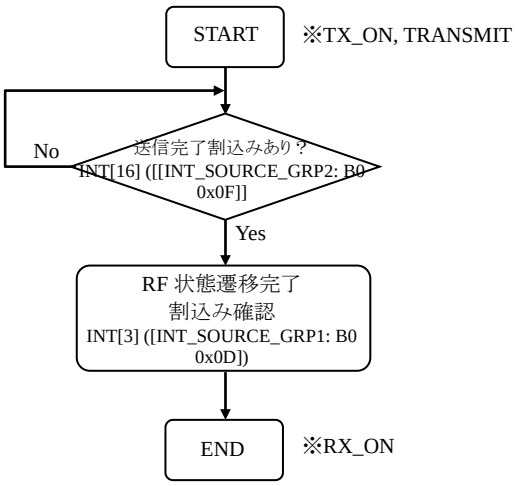
[RF_STATUS: B0 0x0B]により RF 状態変更

SET_TRX[3:0]=0b0110



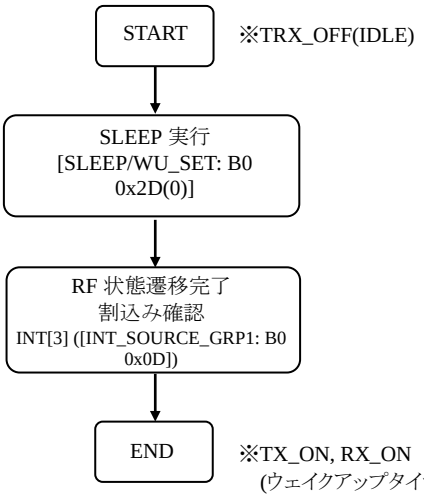
[RF_STATUS_CTRL: B0 0x0A]による RF 状態変更

TXDONE_MODE[1:0]=0b10



④ウェイクアップフロー

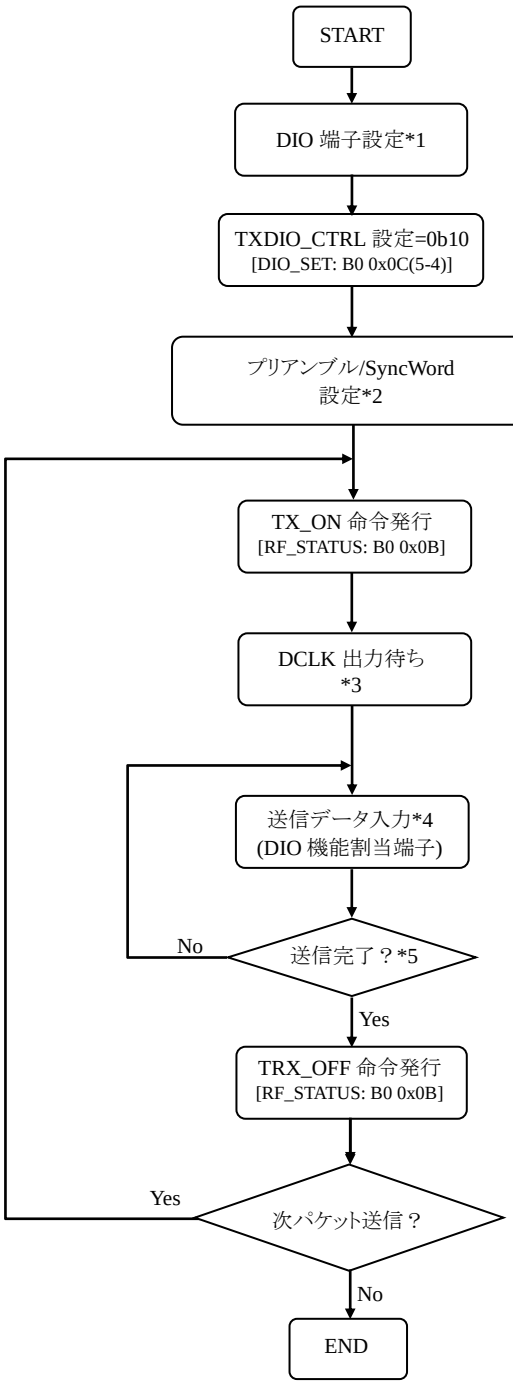
ウェイクアップ後割り込みグループ 2 の INT[13]（SyncWord 検出割込み）を待つ場合は以下の限りではありません)



●送信時

(1) DIO モード

DIO(送信)モードは、TXDIO_CTRL[1:0]([DIO_SET: B0 0x0C(5-4)])=0b01 または 0b10 を書き込むことで設定できます。DIO モードで[RF_STATUS:B0 0x0B]レジスタで TX_ON 命令を発行すると、DIO 機能を割り当てた端子から入力されたデータを送信データとして Air に出力します。送信完了時は[RF_STATUS:B0 0x0B]レジスタで TRX_OFF 命令を発行します。



*1 DIO/DCLK 機能を割り当てる端子を設定します。
[GPIO0_CTRL: B0 0x4E]
[GPIO1_CTRL: B0 0x4F]
[GPIO2_CTRL: B0 0x50]
[GPIO3_CTRL: B0 0x51]
[EXT_CLK_CTRL: B0 0x52]
[SPI/EXT_PA_CTRL: B0 0x53]

*2 プリアンブル/SyncWord は以下レジスタで設定されるデータ、設定値により送信されます。
プリアンブル･･･[DATA_SET1: B0 0x07]
[TXPR_LEN_H/L: B0 0x42~43]
SyncWord･･･[SYNCWORD1_SET0~3: B1 0x27~2A]
[SYNCWORD2_SET0~3: B1 0x2B~2E]
[SYNC_WORD_LEN: B1 0x25]
[DATA_SET2: B0 0x08]

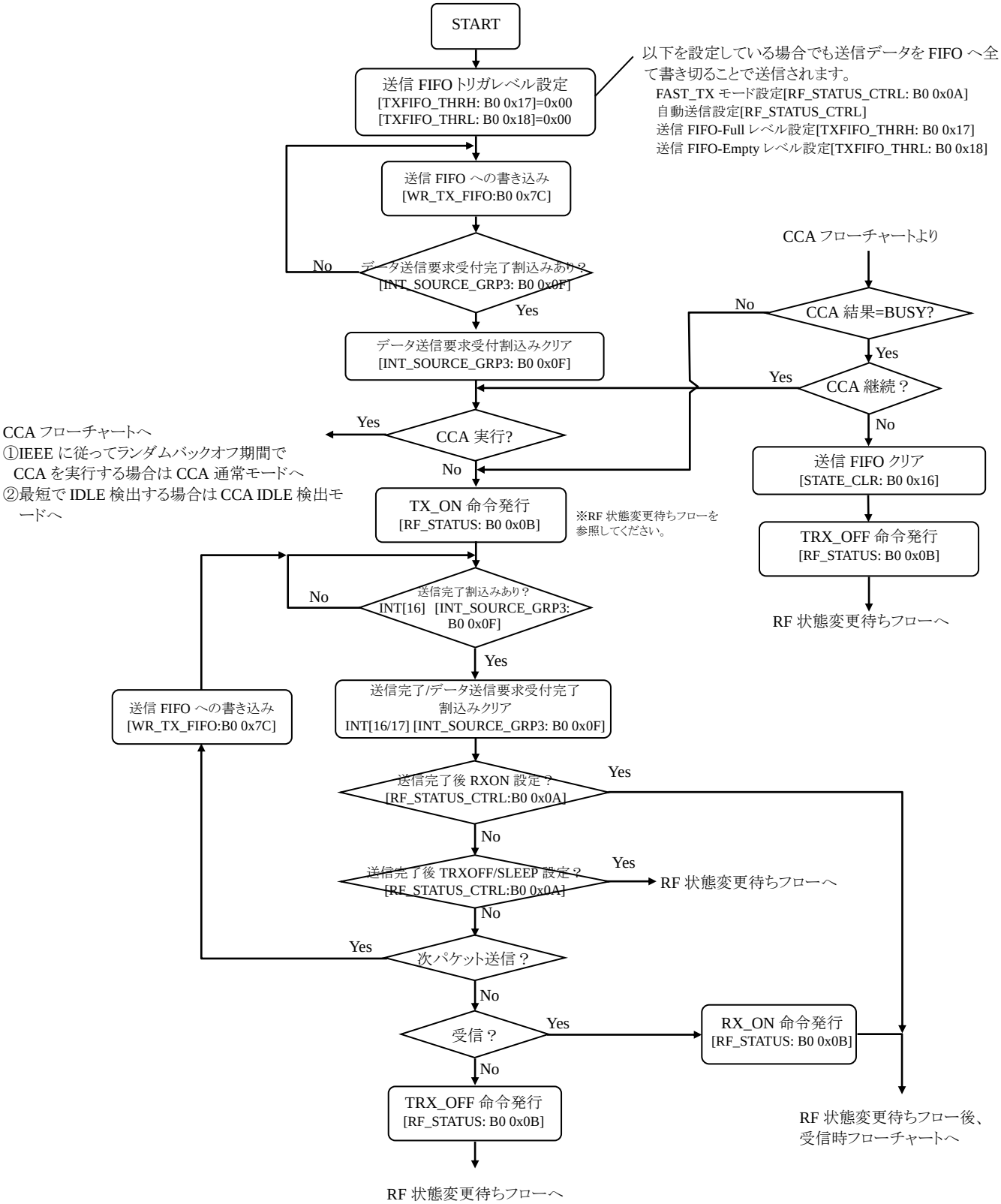
*3 DCLK 出力までの時間は送信プリアンブル長、SyncWord 長およびデータレートにより異なります。

*4 DCLK の立下りに同期して送信データ入力してください。

*5 RF 状態変更待ちフローを参照してください。

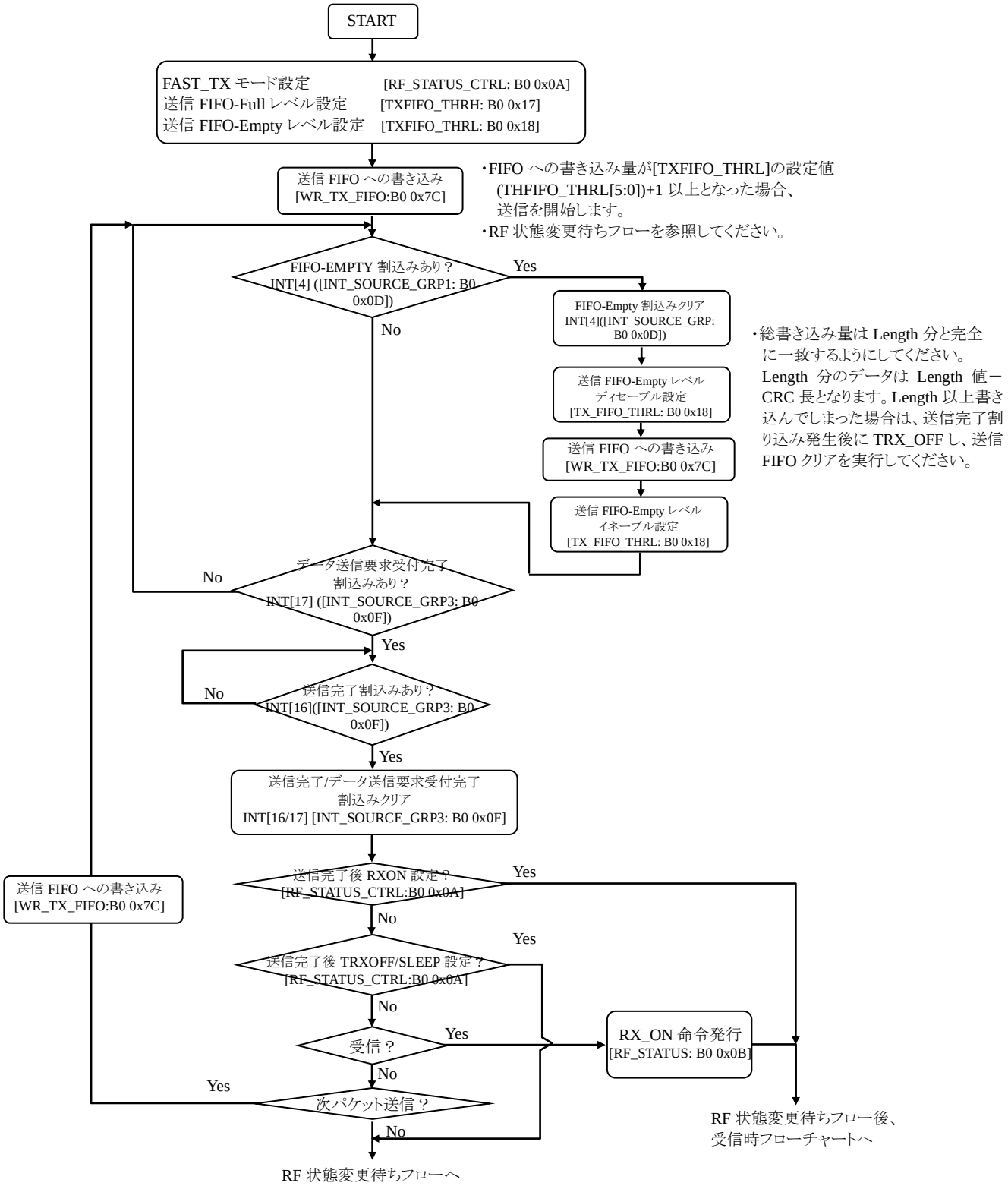
(2) FIFO モード (64byte 以下の場合)

FIFO モードは、TXDIO_CTRL[1:0]([DIO_SET: B0 0x0C(5-4)])=0b00 を書き込むことで設定できます。FIFO モードではパケット毎に[WR_TX_FIFO:B0 0x7C]レジスタでデータを送信 FIFO へ書き込みます。1 パケット分のデータを送信 FIFO へ書き込み後、[RF_STATUS: B0 0x0B]レジスタで TX_ON 命令を発行します。プリアンブル/SyncWord に続き、送信 FIFO データが送信されます。送信完了割り込み(INT[16]:割り込みグループ 3)が発生したら、割り込みをクリアします。次の送信パケットを送信する場合は送信データを送信 FIFO へ書き込みます。また、送信後に受信を行う場合は[RF_STATUS: B0 0x0B]レジスタで RX_ON 命令を発行します。送信を終了する場合は TRX_OFF を発行します。



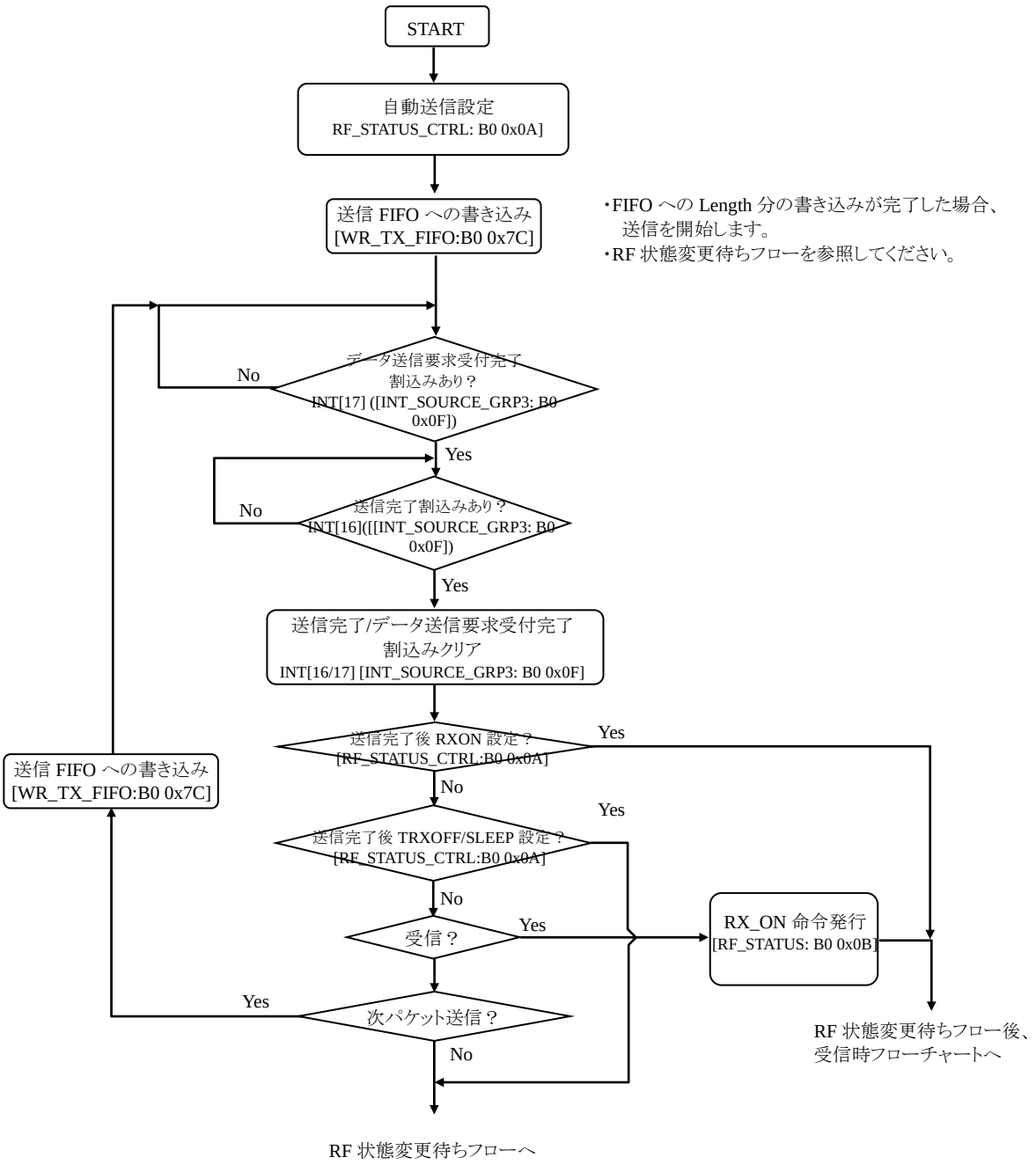
(3) FIFO モード（65byte 以上の場合）

TX_FIFO がオーバーランまたはアンダーランしないように割り込みグループ 1 の INT[5] (FIFO-Full 割込み)と INT[4] (FIFO-Empty 割込み)を確認しながら TX_FIFO へ送信データを書き込みます。その他動作は FIFO モード 64byte 以下の場合と同様です。 FAST_TX_EN ([RF_STATUS_CTRL: B0 0x0A(5)] に 0b1 を書き込み FAST_TX モードを設定している場合は、FIFO へのデータ書き込み量が[TXFIFO_THRL: B0 0x18]レジスタで設定されるバイト数+1 バイト以上となってから、送信動作を開始します。



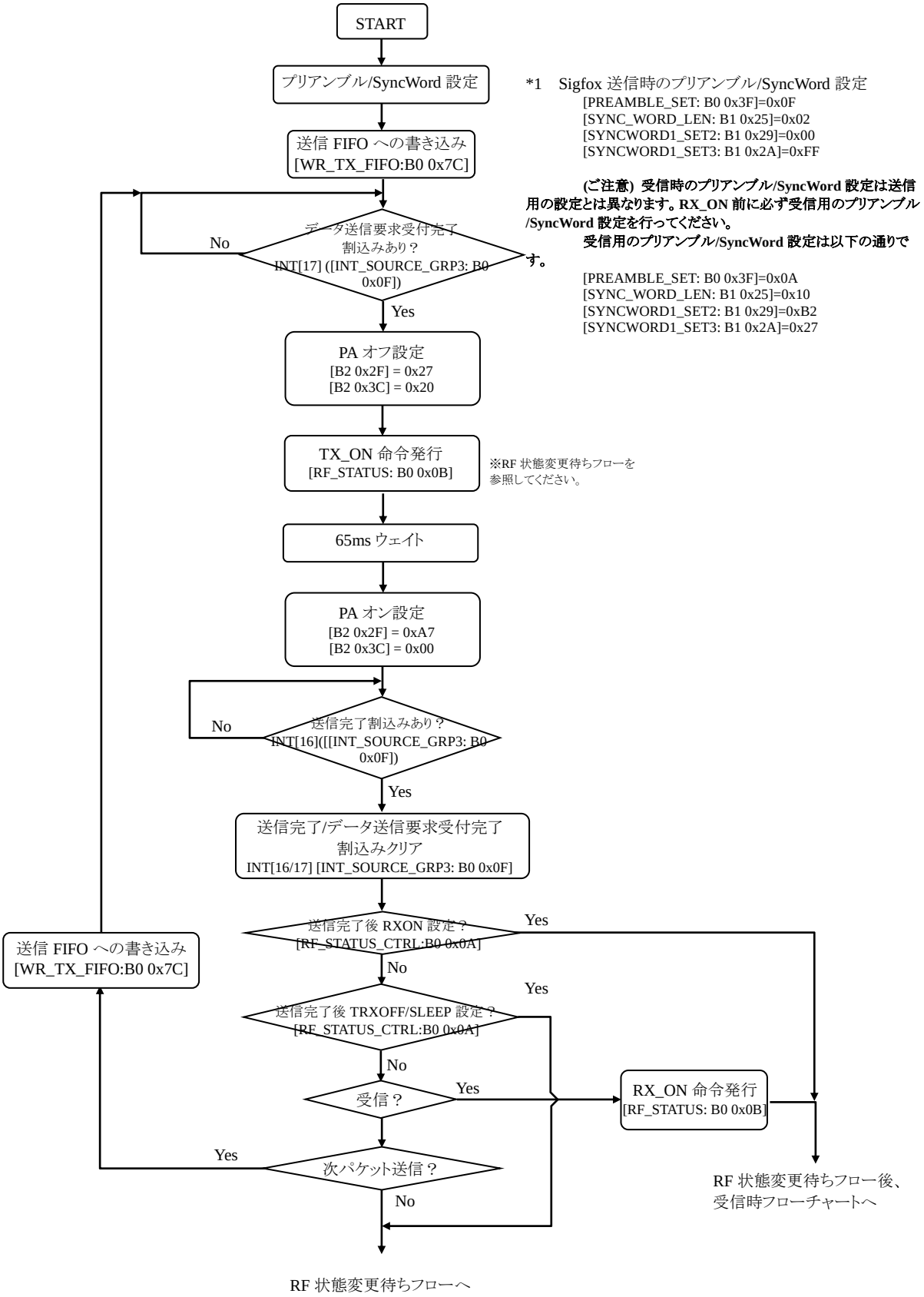
(4) 自動送信時（64byte 以下の場合）

AUTO_TX_EN([RF_STATUS_CTRL: B0 0x0A(4)]に 0b1 を書き込んだ場合は、FIFO に Length 分のデータを書き込み完了した場合、送信動作を開始します。送信完了後の RF 状態遷移設定は TXDONE_MODE ([RF_STATUS_CTRL: B0 0x0A(1-0)])により設定します。



(5) Sigfox 送信時

FIFO に Length 分のデータを書き込み完了した後、PA オフ設定([B2 0x2F]=0x27, [B2 0x3C]=0x20)を行い TX_ON 命令を発行します。TX_ON 命令発行から 65ms のウェイト後、PA オン設定([B2 0x2F]=0xA7, [B2 0x3C]=0x00)を行います。その後のフローは他の送信時フローと同様です。



*1 Sigfox 送信時のプリアンブル/SyncWord 設定
[PREAMBLE_SET: B0 0x3F]=0x0F
[SYNC_WORD_LEN: B1 0x25]=0x02
[SYNCWORD1_SET2: B1 0x29]=0x00
[SYNCWORD1_SET3: B1 0x2A]=0xFF

(ご注意) 受信時のプリアンブル/SyncWord 設定は送信用の設定とは異なります。RX_ON 前に必ず受信用のプリアンブル/SyncWord 設定を行ってください。
受信用のプリアンブル/SyncWord 設定は以下の通りです。

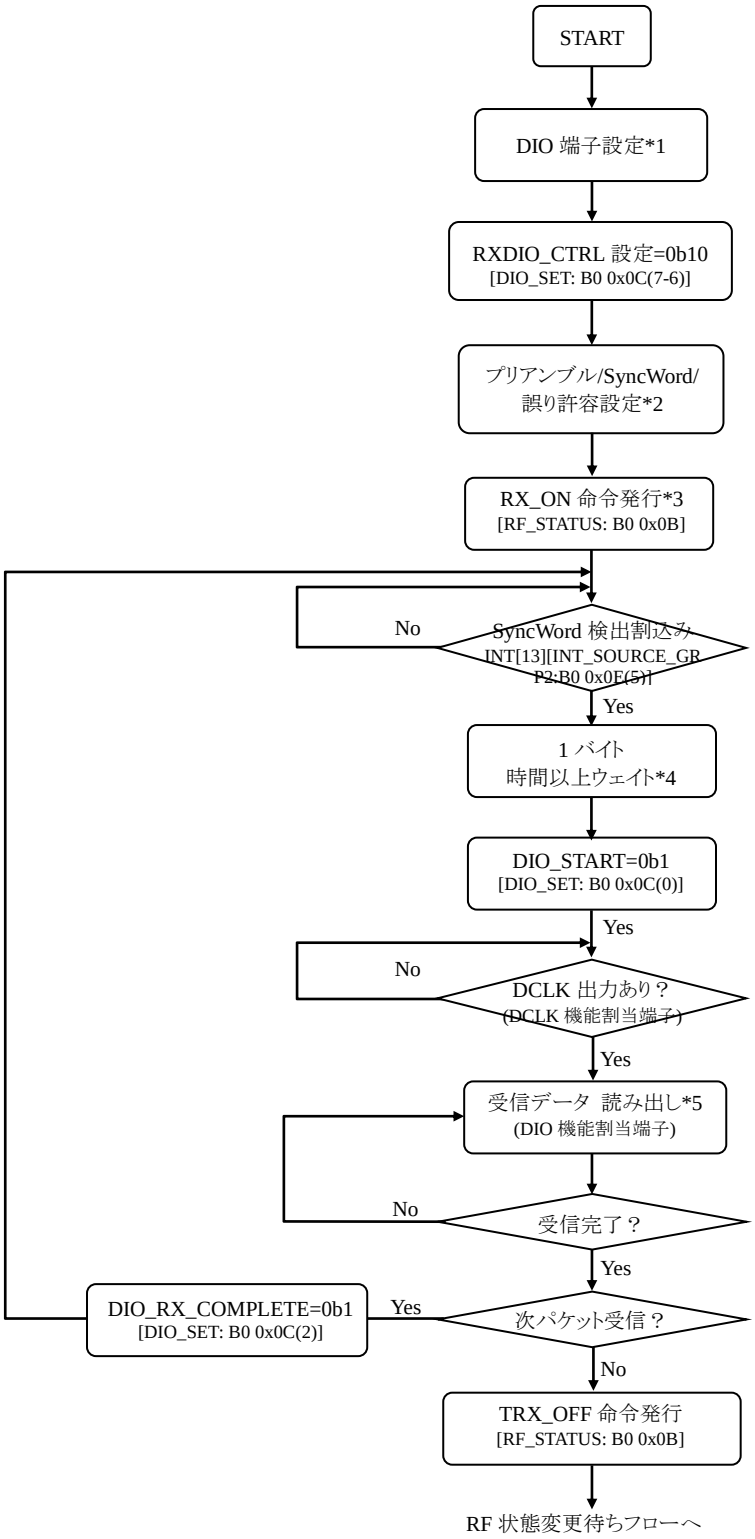
[PREAMBLE_SET: B0 0x3F]=0x0A
[SYNC_WORD_LEN: B1 0x25]=0x10
[SYNCWORD1_SET2: B1 0x29]=0xB2
[SYNCWORD1_SET3: B1 0x2A]=0x27

●受信時

(1) DIO モード

RXDIO_CTRL[1:0]([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])=0b10/0b11を書き込むことで設定できます。DIOモード設定後、RX_ON命令発行後、SyncWordパターン検出を開始します。

①データ出力モード1設定時
RXDIO_CTRL[1:0]=0b10 設定します。SyncWordパターン検出後、受信データを受信FIFOへバッファリングします。
DIO_START ([DIO_SET: B0 0x0C(0)])を0b1に設定すると、受信FIFOにバッファリングされた受信データをDIO端子より出力します。受信完了後、続けて受信する場合はDIO_RX_COMPLETE([DIO_SET: B0 0x0C(2)])に0b1(DIO受信完了設定)を設定することで次パケット受信待ち状態となります。TRX_OFFする場合は[RF_STATUS:B0 0x0B]レジスタでTRX_OFF命令を発行します。



*1 DIO/DCLK 機能を割り当てる端子を設定します。
[GPIO0_CTRL: B0 0x4E]
[GPIO1_CTRL: B0 0x4F]
[GPIO2_CTRL: B0 0x50]
[GPIO3_CTRL: B0 0x51]
[EXT_CLK_CTRL: B0 0x52]
[SPI/EXT_PA_CTRL: B0 0x53]

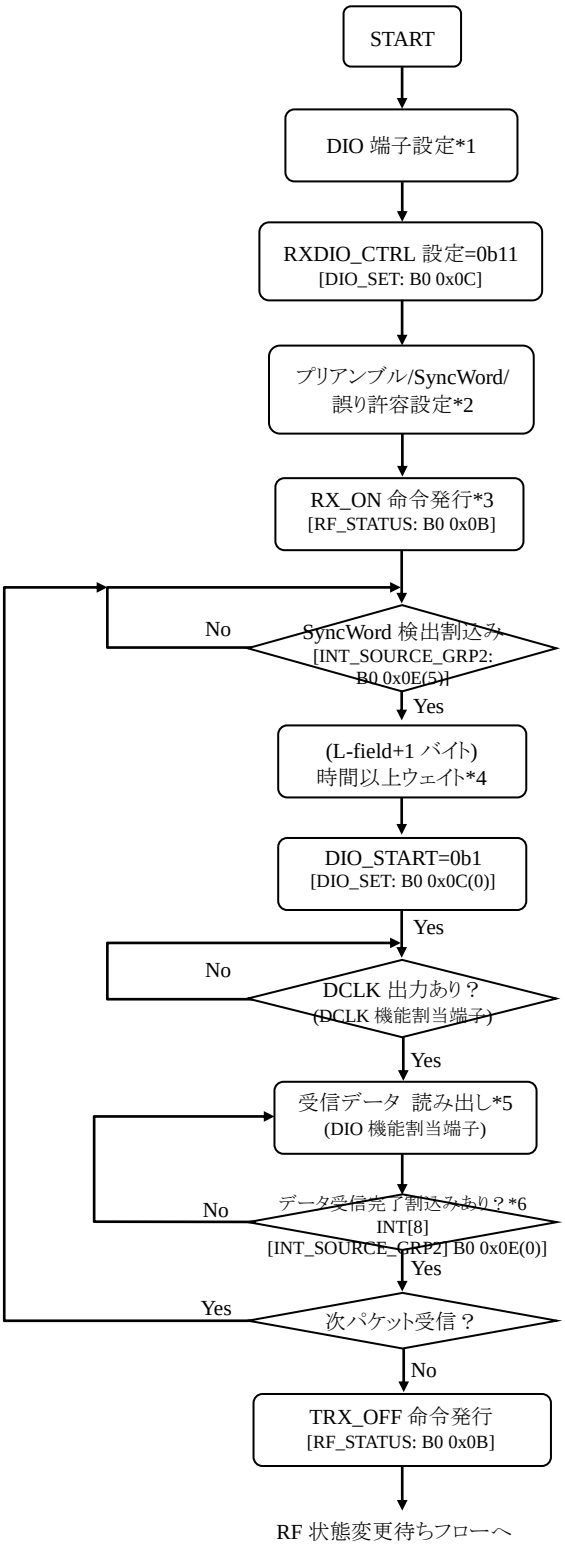
*2 DIO 受信時のプリアンブルおよび SyncWord 設定は FIFO モードと同様に設定してください。
プリアンブル･･･[DATA_SET1: B0 0x07]
[SYNC_CONDITION1~3: B0 0x45-47]
SyncWord･･･[SYNCWORD1_SET0~3: B1 0x27-2A]
[SYNCWORD2_SET0~3: B1 0x2B-2E]
[SYNC_WORD_LEN: B1 0x25]
[DATA_SET2: B0 0x08]

*3 RF 状態変更待ちフローを参照してください。

*4 1 バイト時間経過後、1 バイト目のデータが FIFO に格納されます。必ず、1 バイト時間以上経過後、DIO データ出力設定を行ってください。

*5 DCLK の立ち上りに同期して受信データを取り込んでください。

②データ出力モード 2 設定時
RXDIO_CTRL[1:0]=0b11 設定では L-field 以降の受信データを受信 FIFO へバッファリングします。DIO_START ([DIO_SET: B0 0x0C(0)])に 0b1 を設定すると、受信 FIFO にバッファリングされた受信データを DIO 端子より出力します。Length 分のデータを出力した時点で受信完了となり、受信完了割り込み(INT[8]: 割込みグループ 2)を発生します。TRX_OFF する場合は[RF_STATUS:B0 0x0B]レジスタで TRX_OFF 命令を発行します。



*1 DIO/DCLK 機能を割り当てる端子を設定します。
[GPIO0_CTRL: B0 0x4E]
[GPIO1_CTRL: B0 0x4F]
[GPIO2_CTRL: B0 0x50]
[GPIO3_CTRL: B0 0x51]
[EXT_CLK_CTRL: B0 0x52]
[SPI/EXT_PA_CTRL: B0 0x53]

*2 DIO 受信時のプリアンブルおよび SyncWord 設定は FIFO モードと同様に設定してください。
プリアンブル･･･[DATA_SET1: B0 0x07]
[SYNC_CONDITION1~3: B0 0x45-47]
SyncWord･･･[SYNCWORD1_SET0~3: B1 0x27-2A]
[SYNCWORD2_SET0~3: B1 0x2B-2E]
[SYNC_WORD_LEN: B1 0x25]
[DATA_SET2: B0 0x08]

*3 RF 状態変更待ちフローを参照してください。

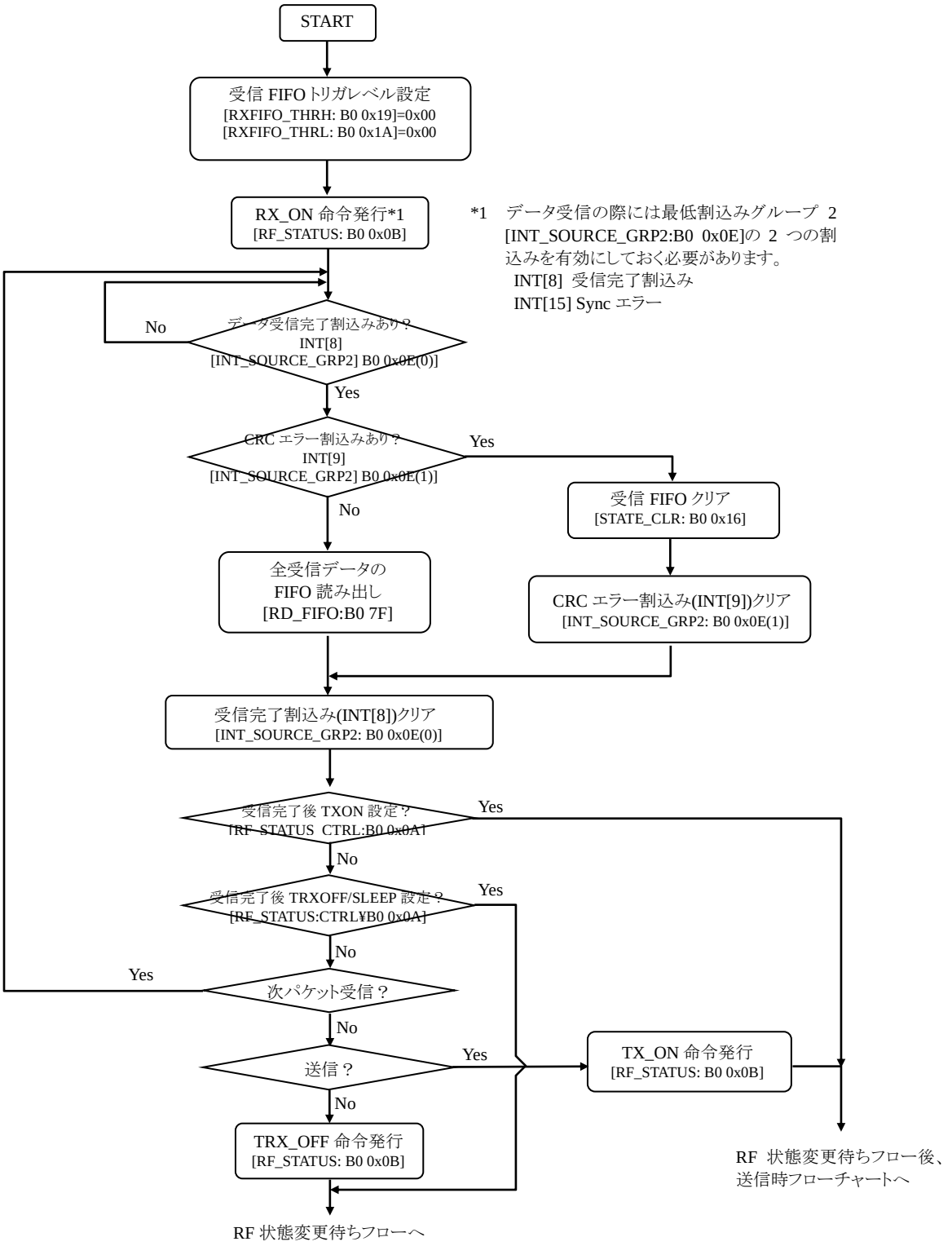
*4 L-field 長分の時間経過後、パケットの Length 値が[RX_PKT_LENGTH_H/L: B0 0x7D/7E]に格納されます。さらに(L-field 長+1 バイト)時間経過後、1 バイト目のデータが FIFO に格納されます。必ず、(L-field 長+1 バイト)時間以上経過後、DIO データ出力設定を行ってください。ここでの 1 バイト時間は符号化後の 1 バイト時間となります。100kbps でマンチェスタ符号化された場合の 1 バイト時間は 160μs となります。

*5 DCLK の立ち上りに同期して受信データを取り込んでください。

*6 Length 分のデータを全て読み出した時点で受信完了となります。

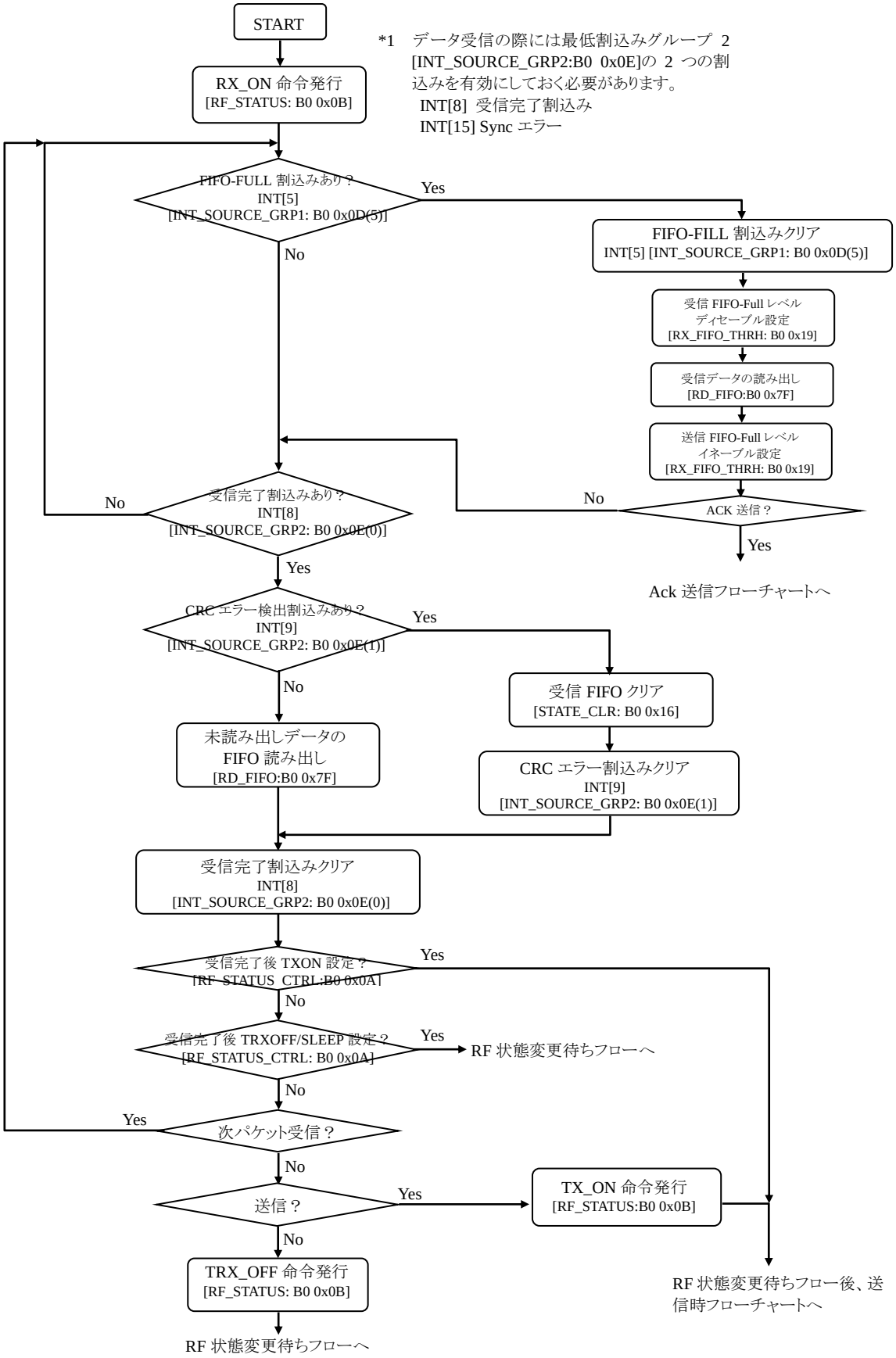
(2) FIFO モード（64byte 以下の場合）

FIFO モードは、RXDIO_CTRL[1:0]([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])=0b00 を書き込むことで設定できます。SyncWord 検出後、受信データを RX_FIFO へ格納します。データ受信完了割り込み(INT[8]:割り込みグループ 2)後、受信データを[RD_FIFO:B0 0x7F]レジスタから読み出します。また、CRC エラー割り込み(INT[9]:割り込みグループ 2)が発生した場合は STATE_CLR1 [STATE_CLR: B0 0x16（1）]（受信 FIFO クリア)でクリアすることで、受信データを全て読み出すことなく次パケットを受信できます。受信 FIFO-Full トリガおよび FIFO-Empty トリガを使用しない場合は、RXFIFO_THRH_EN([RXFIFO_THRH: B0 0x19(7)])および RXFIFO_THRL_EN([RXFIFO_THRH: B0 0x1A(7)])を 0b0 に設定して下さい。



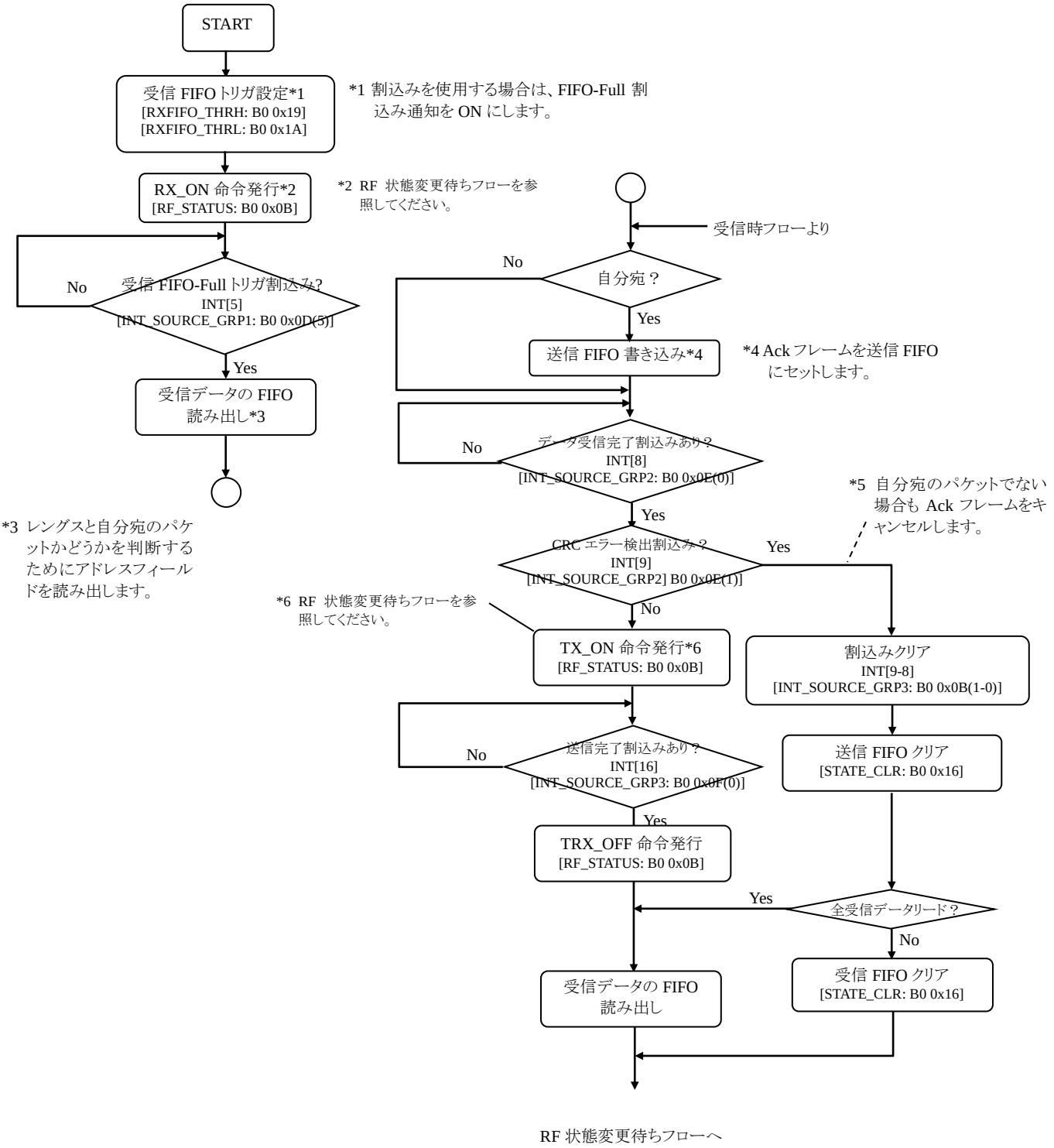
(3) FIFO モード（65byte 以上の場合）

RX_FIFO がオーバーランまたはアンダーランしないように割り込みグループ 1 の INT[5] (FIFO-Full 割込み)と INT[4] (FIFO-Empty 割込み)を確認しながら RX_FIFO から受信データを読み出します。その他動作は(2)と同様です。



(4) ACK 送信

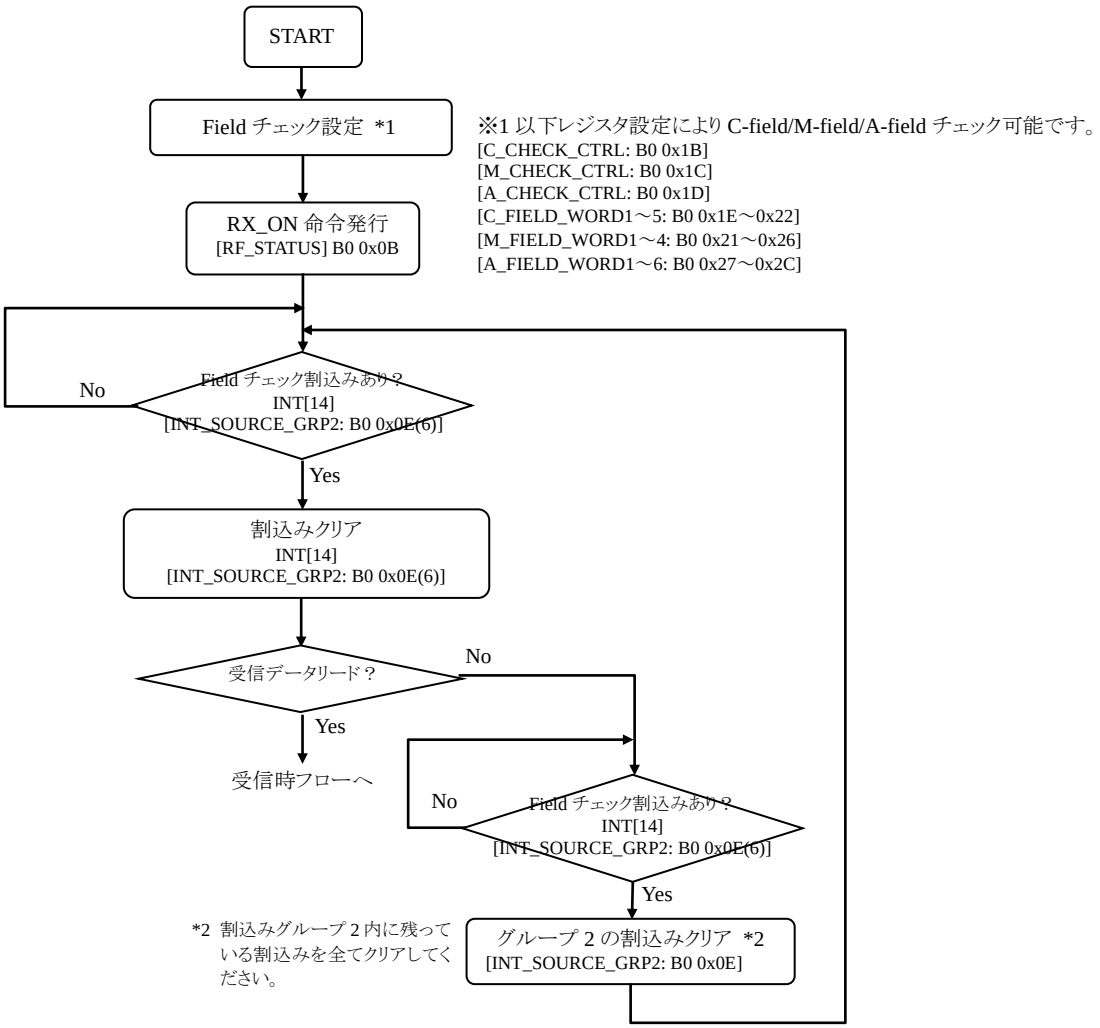
ACK 送信フローを以下に示します。受信 FIFO トリガを使用して受信中に送信 FIFO に ACK フレームをセットし、受信完了後、送信 FIFO にセットした ACK フレームを送信します。



【ご注意】
[RF_STATUS_CTRL:B0 0x0A]レジスタで、FAST_TX モード、自動送信、パケット受信完了後の TX 状態遷移設定を有効に設定している場合は、上記のフローで受信完了後に自動で送信状態へ移行します。割り込みグループ 2 の CRC エラー割込み(INT[9])と受信完了割込み(INT[8])は、ほぼ同時期に発生するため、CRC エラーが発生した場合は、受信から送信への以降期間（1.188ms）内で、[RF_STATUS:B0 0x0B]レジスタで Forece_TRX_OFF を行い、[STATE_CLR:B0 0x16]レジスタで送信 FIFO のクリアをする必要があります。ホスト MCU の処理能力上、期間内の送信停止が難しい場合は、FAST_TX モード、自動送信、パケット受信完了後の TX 状態遷移設定を非有効に設定してください。(FAST_TX モードは[TXFIFO_THRL:B0 0x18]レジスタの設定によります。)

(5) Field チェック

Filed チェック機能をイネーブルとし、[RF_STATUS:B0 0x0B]レジスタで RX_ON 命令を発行します。CA_INT_CTRL ([C_CHECK_CTRL:B0 0x1B(6)]の設定に従い、 Filed チェックの一致または不一致で、割り込みグループ 2 の INT[14] ([INT_SOURCE_GRP2: B0 0x0E(6)])にて通知します。なお、Field チェックの結果、不一致であったパケット数をカウントし、[ADDR_CHK_CTR_H/L: B1 0x62/0x63])に表示します。このカウンタは STATE_CLR4[STATE_CLR: B0 0x16(4)](アドレスチェックカウンタクリア)にてクリアできます。



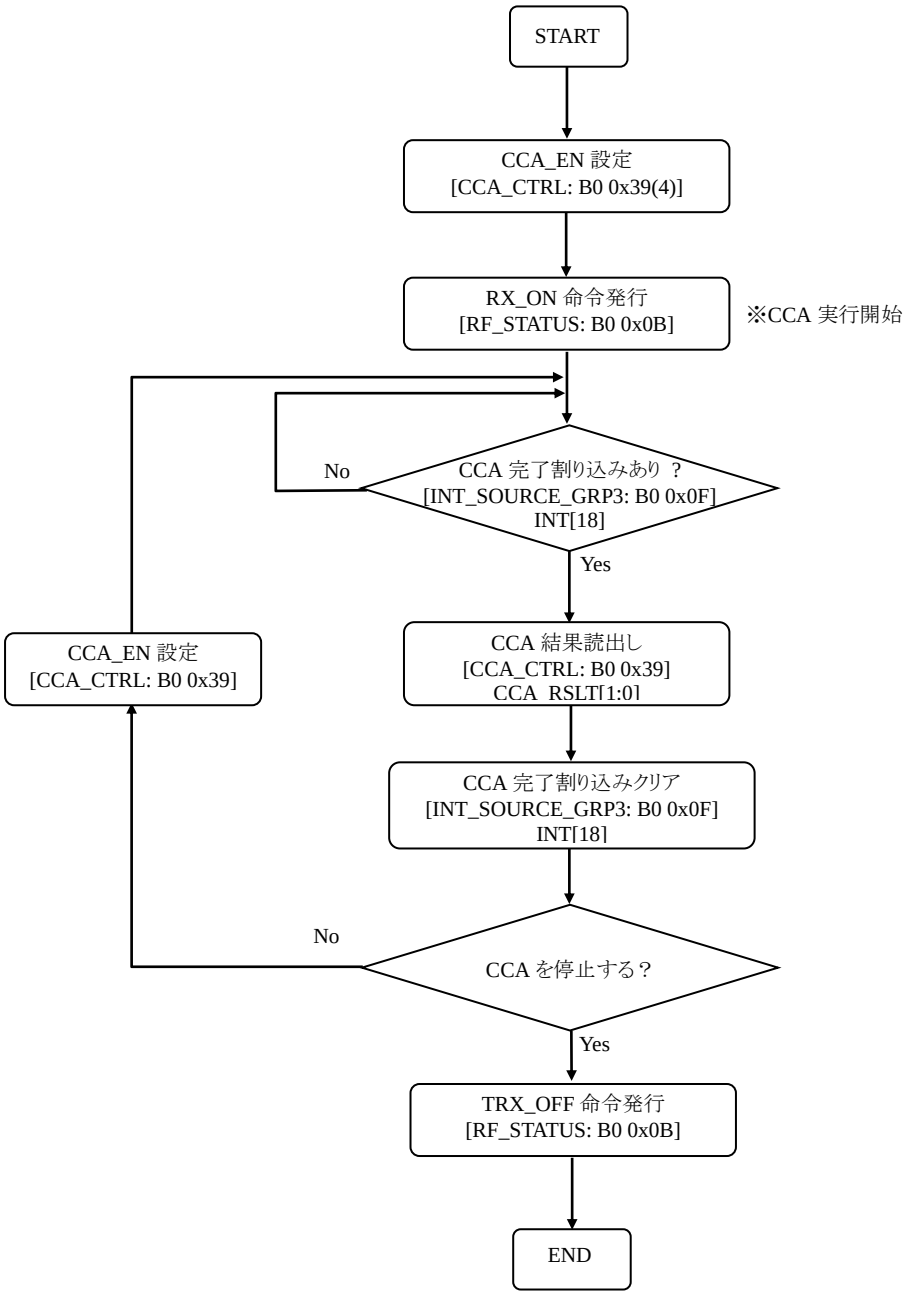
(6) CCA の実行

○通常モード

CCA_EN([CCA_CTRL: B0 0x39(4)])に 0b1 を設定し、[RF_STATUS:B0 0x0B]レジスタで RX_ON 状態に設定すると取得した ED 値の平均値と[CCA_LVL: B0 0x37]に設定した CCA_閾値の大小比較を実行し、結果を通知します。CCA 実行後、CCA_EN はディセーブルにセットされ RF は RX_ON 状態を維持します。

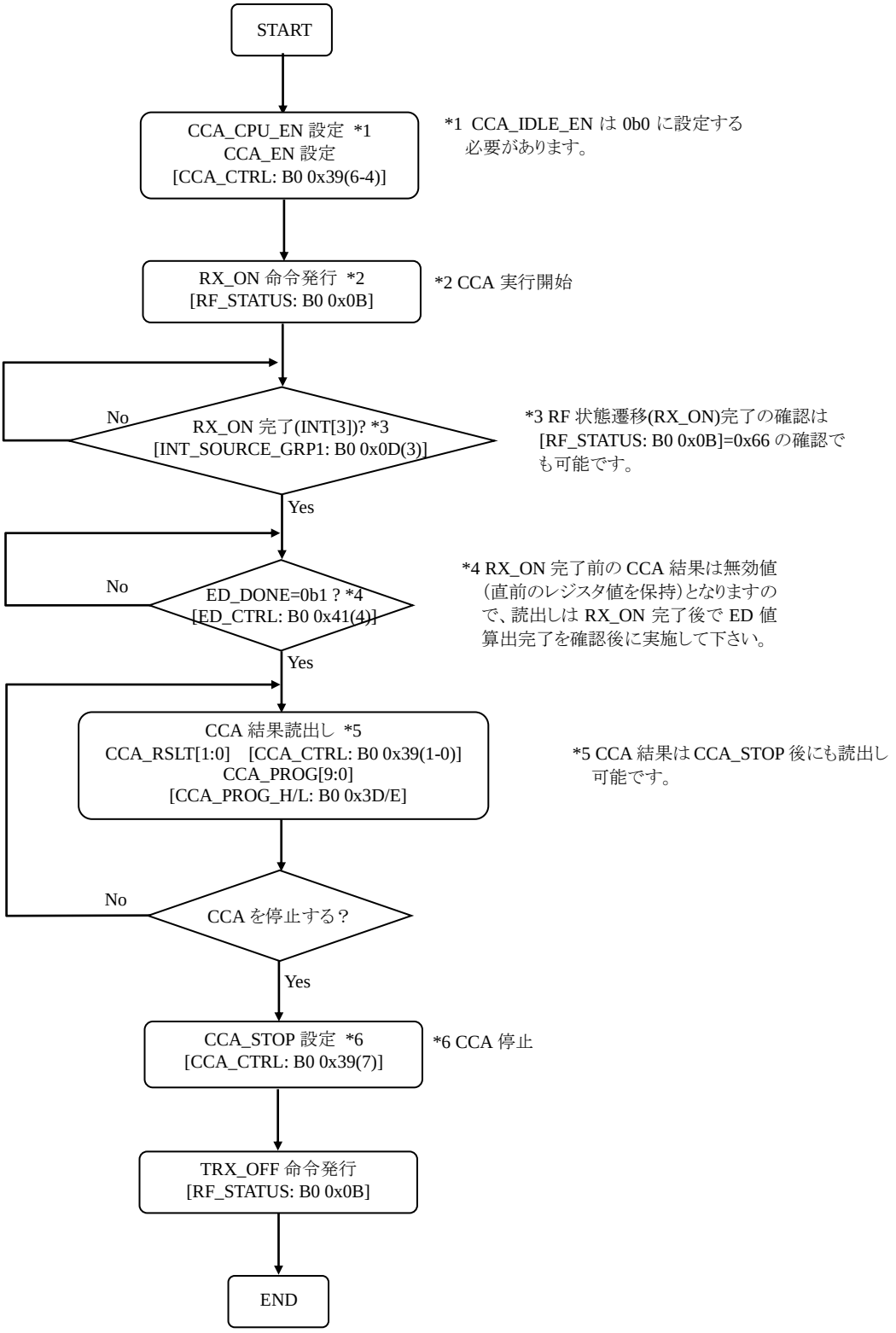
RX_ON 状態で CCA_EN に 0b1 を設定した場合でも CCA 実行可能です。

また、ダイバーシティサーチ中もCCA実行可能です。この場合、CCA完了後、自動でダイバーシティサーチが再開します。



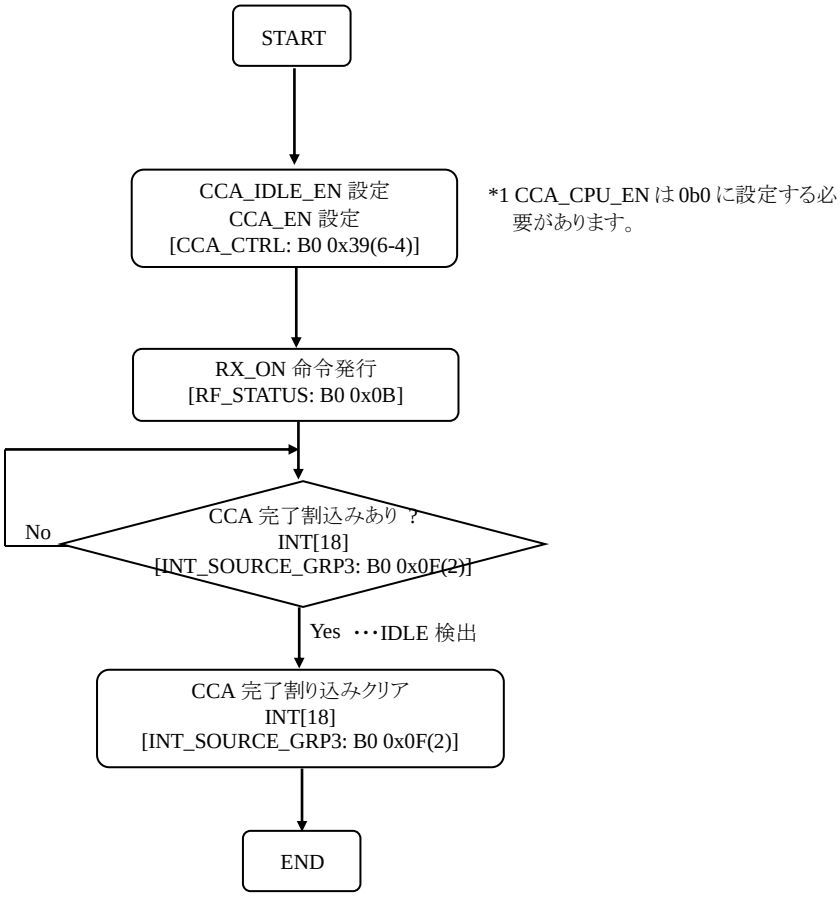
○無限実行モード

CCA_EN([CCA_CTRL: B0 0x39(4)])に 0b1 および CCA_CPU_EN([CCA_CTRL: B0 0x39(5)])に 0b1 を設定し、[RF_STATUS:B0 0x0B]レジスタで RX_ON 状態に設定すると CCA の無限実行モードが実行されます。本モードでは、自動停止せずに CCA_STOP([CCA_CTRL: B0 0x39(7)])に 0b1 をセットするまで CCA 継続します。本モードでは CCA 完了割込み（INT[18]:割り込みグループ 3）は通知されません。CCA 実行中、CCA_RSLT([CCA_CTRL: B0 0x39(1-0)])、[CCA_PROG_L: B0 0x3E]、[CCA_PROG_H: B0 0x3D] は常に更新され、CCA_STOP([CCA_CTRL: B0 0x39(7)])に 0b1 がセットされると値を保持します。



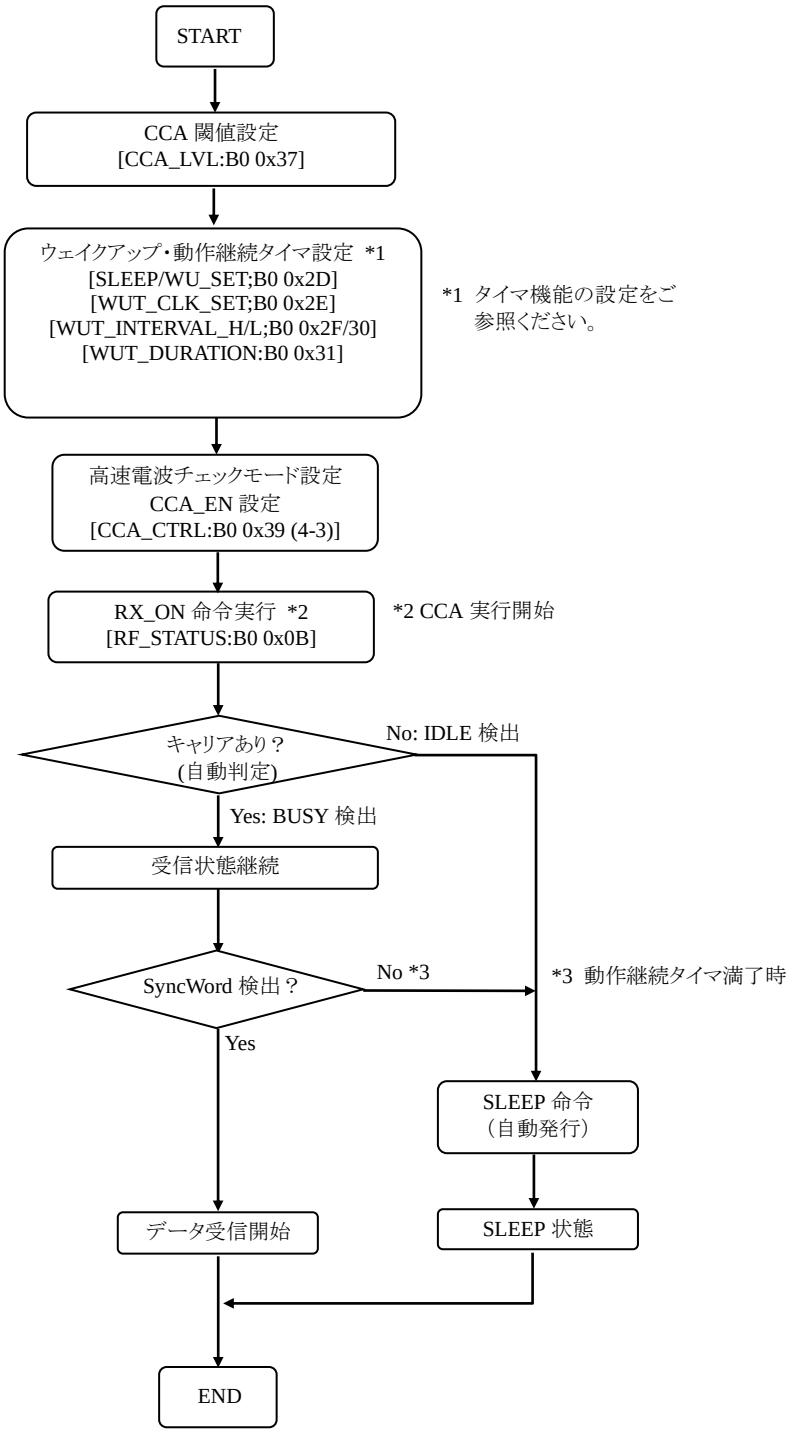
○IDLE 検出モード

IDLE 検出するまで CCA を継続するモードです。CCA_EN([CCA_CTRL: B0 0x39(4)])=0b1、CCA_IDLE_EN([CCA_CTRL: B0 0x39(6)])=0b1 を設定し、RF を受信状態(RX_ON)に設定すると CCA(IDLE 検出モード)が実行されます。



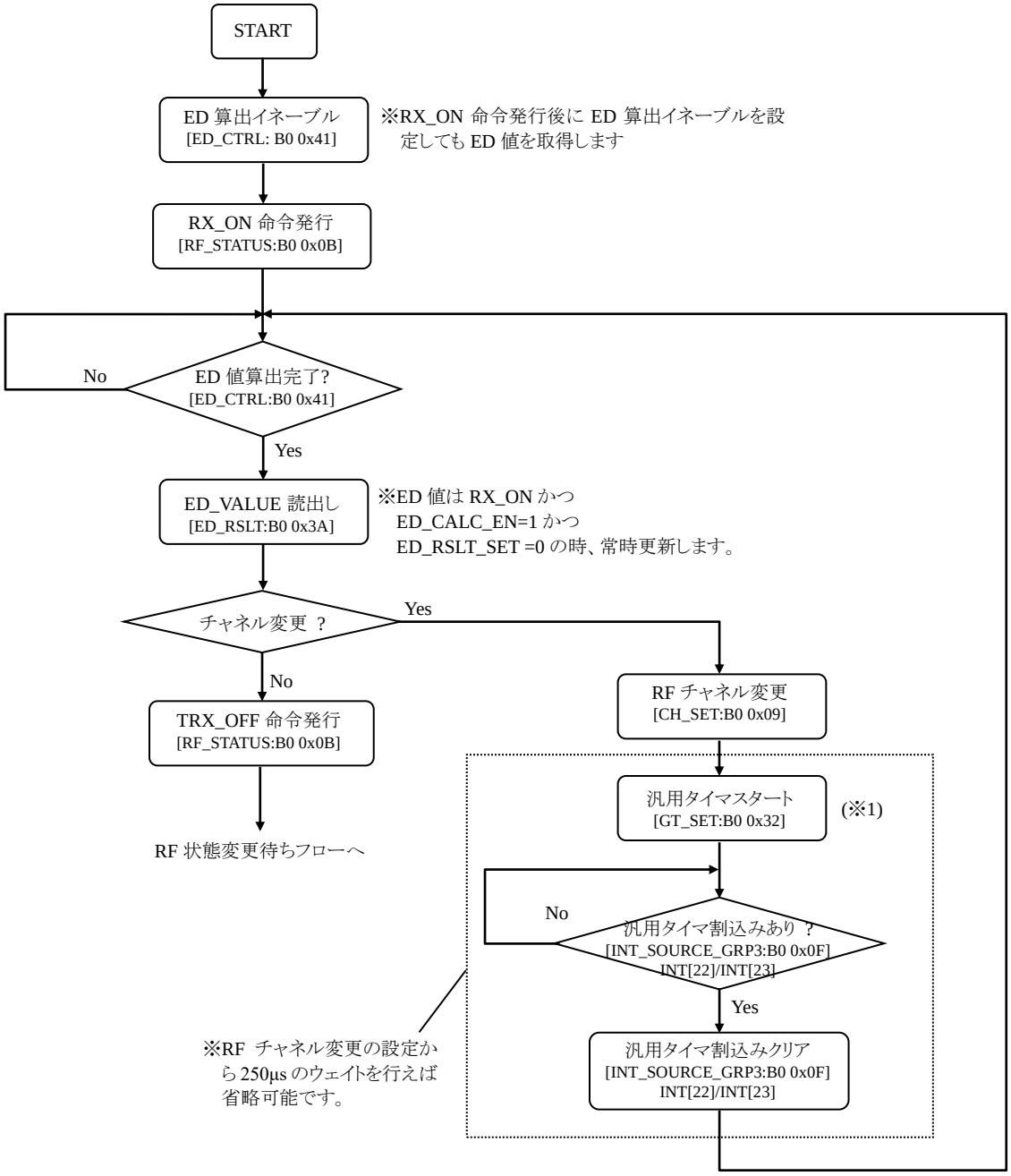
(7) 高速電波チェックモード

本モードは受信状態へ移行後、RSSI レベルと SyncWord 検出までの時間について判定を行い、受信状態の継続または中止を行います。RSSI レベル判定には[CCA_LVL:B0 0x37]レジスタに設定した閾値を使用し、SyncWord 検出時間判定は動作継続タイマ機能を使用します。判定後の動作は自動で切り替わる為、最終状態は SLEEP 状態か受信中のどちらかになります。



(8) ED-SCAN

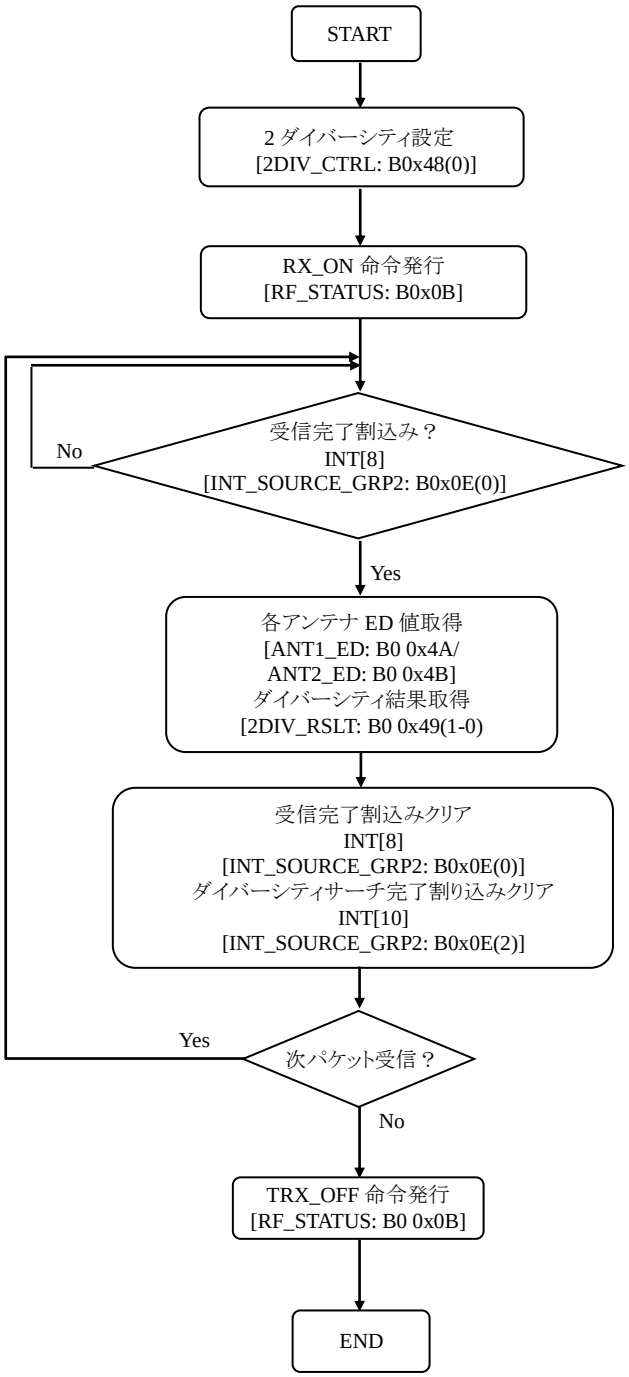
ED_CALC_EN ([ED_CTRL: B0 0x41(7)])に 0b1 が設定されている状態で、[RF_STATUS:B0 0x0B]レジスタで RX_ON 状態に設定すると、ED 値の自動取得を開始します。ED_RSLT_SET([ED_CTRL:B0 0x41(3)])=0b0 に設定すると、ED 値は常に最新の値に更新されます。



(※1)汎用タイマ設定例
250μs のウェイトを汎用タイマ 1 を使ってウェイトする場合、
以下のレジスタを設定します。
[GT_CLK_SET:B0 0x33]･･･ 0x01(128 分周)
[GT_INTERVAL1:B0 0x34]･･･ 0x04(タイマ設定)
[GT_SET:B0 0x32]･･･ 0x03(2MHz クロック選択、タイマスタート)

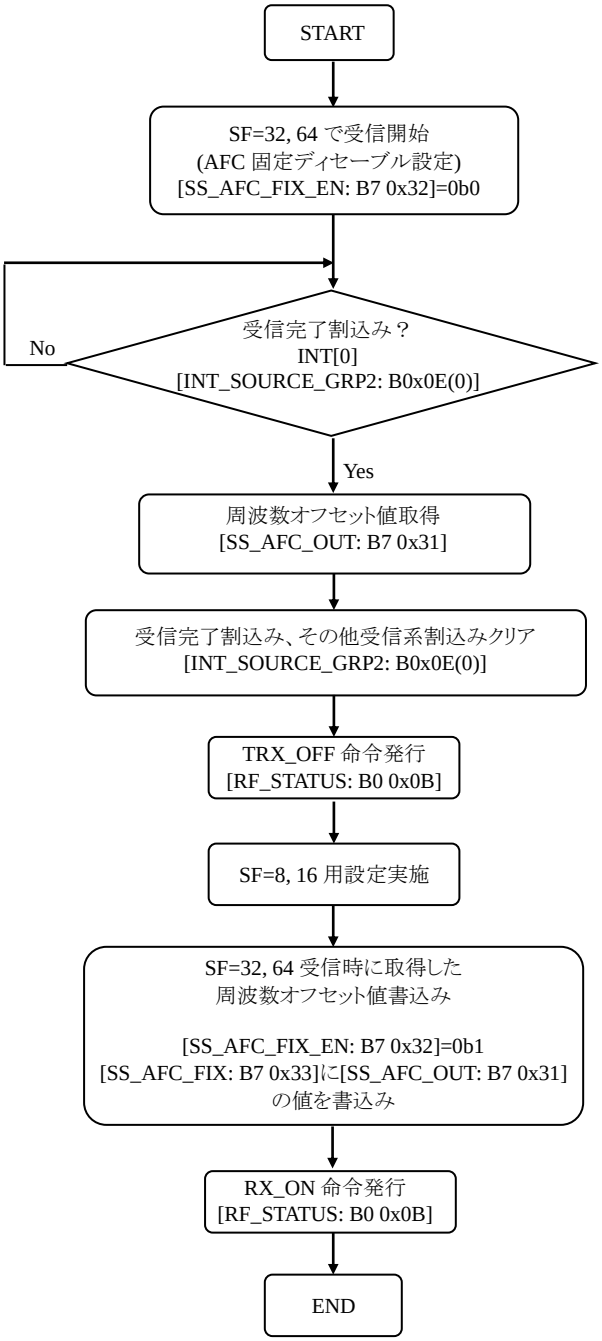
(9) アンテナダイバーシティ

2DIV_EN([2DIV_CTRL:B0 0x48(0)])に 0b1 が設定されている状態で RX_ON 状態に設定すると、受信データを検出時にアンテナを切り替えてそれぞれの ED 値を取得し、高いほうのアンテナを使用するよう制御します。
ダイバーシティにより取得した ED 値([ANT1_ED: B0 0x4A/ANT2_ED: B0 0x4B])およびダイバーシティアンテナ結果 2DIV_RSLT([2DIV_RSLT: B0 0x49(1-0)])は SyncWord 検出時に上書き更新されます。また、ダイバーシティ検出完了割込み INT[10]([INT_SOURCE_GRP2: B0x0E(2)])をクリアした場合、ダイバーシティにより取得した ED 値([ANT1_ED: B0 0x4A/ANT2_ED: B0 0x4B])およびダイバーシティアンテナ結果 2DIV_RSLT([2DIV_RSLT: B0 0x49(1-0)])はクリアされます。



(10) スペクトラム拡散受信(SF=8,16 時)

拡散率(SF)=8、16 使用時、受信レベルが高い場合であっても周波数推定精度が悪く受信できない場合があります。SF=8、16 を使用する場合は、直前に他の SF(32/64)で受信し、周波数ずれ分([SS_AFC_OUT: B7 0x31])を確認してください。他の SF(32/64)で受信し確認した際の周波数ずれを SF=8、16 受信時に補正([SS_AFC_FIX_EN: B7 0x32]=0b1, [SS_AFC_FIX: B7 0x33]に SF=32/64 時の SS_AFC_OUT 値を入力)を行うことにより、SF=8、16 でパケット受信することが可能です。

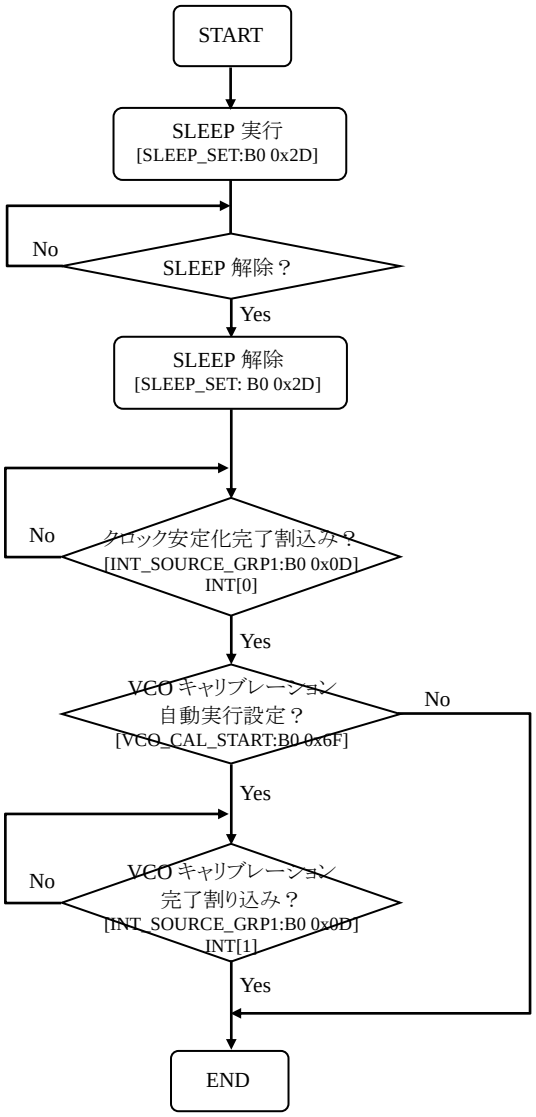


●SLEEP

(1) SLEEP

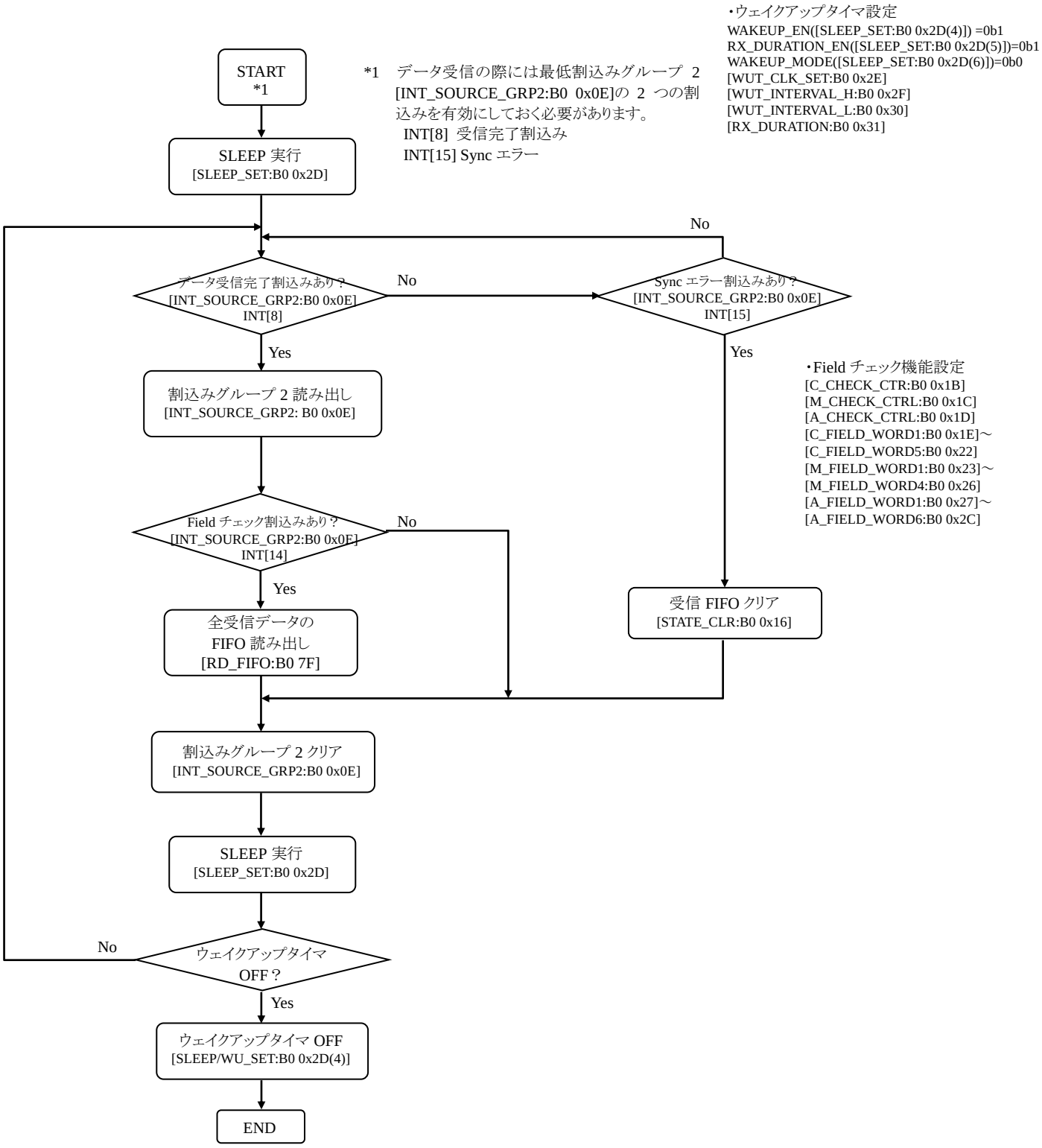
SLEEP_EN([SLEEP/WU_SET:B0 0x2D(0)])を0b1に設定することによりSLEEPが実行されます。また、SLEEP_ENを0b0に設定することによりSLEEPが解除されます。

VCOキャリブレーション自動実行設定AUTO_VCOCAL_EN([VCO_CAL_START:B0 0x6F (4)])を0b1に設定した場合、SLEEP解除後のクロック安定化完了割込み(INT[0]:割り込みグループ1)発生後、VCOキャリブレーションを自動実行します。



(2) ウェイクアップタイマ

以下レジスタを設定することにより SLEEP 実行後、自動でウェイクアップし RX_ON 状態となります。SyncWord 検出割込み(INT[13]:割り込みグループ 2)発生後、受信完了割込み(INT[8]:割り込みグループ 2)を待ち、受信完了後に Field チェック割込み(INT[14]:割り込みグループ 2)を確認します。Field チェックの結果、アドレス一致している場合は受信データリード処理を行い、アドレス不一致時は STATE_CLR1([STATE_CLR: B0 0x16(1)])(受信 FIFO クリア)を実行してください。割り込みグループ 2 のクリア後、SLEEP 実行(SLEEP_EN[SLEEP/WU_SET: B0 0x2D(0)]) することにより SLEEP 状態となり、タイマ動作を継続します。なお、RX_ON 後の動作継続タイマが満了時に SyncWord 検出していなかった場合、自動で SLEEP 状態へ戻ります。



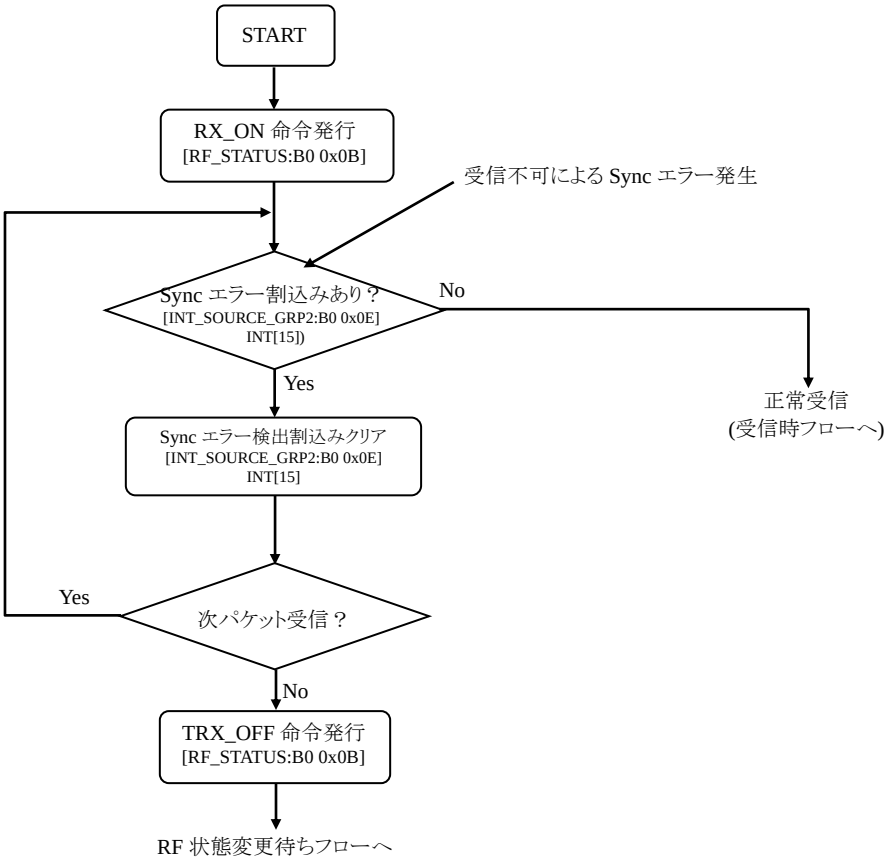
●エラー発生時の処理

(1) Sync エラー

SyncWord 検出以降のデータ受信中に同期が外れた場合、Sync エラー割込み(INT[15]:割り込みグループ 2)を通知し、データ受信完了割り込み(INT[8]:割り込みグループ 2)は通知されません。データ受信完了割り込みが通知されず Sync エラー割り込みが通知された場合には、Sync エラー割り込みをクリアしてください。

”データ受信中”とは SyncWord 以降のデータ(L-field、データ、CRC 領域)を受信しているときを示します。

【ご注意】
本 LSI は FIFO モードにおいて Sync エラーを検出した場合、Sync エラー発生パケットは無効であると判断し、受信データの FIFO への格納を停止し、受信 FIFO 制御情報(受信データ数、FIFO リード数等)をクリアします。この状態で FIFO リードを行った場合、受信データがない状態での FIFO リードとなり、無効な FIFO 使用量を示します。次のパケットを正常に受信するためには受信 FIFO クリア([STATE_CLR:B0 0x16])を実行した後、受信開始してください。
Sync エラー発生時、RF の状態は RXON を継続し、Sync エラー通知直後から次パケット受信に備え、SyncWord 検出待ち状態となります。なお、次パケットを正常に受信するためには受信 FIFO クリア([STATE_CLR:B0 0x16])および受信関連割込み([INT_SOURCE_GRP2:B0 0x0E])を全てクリアしてください。



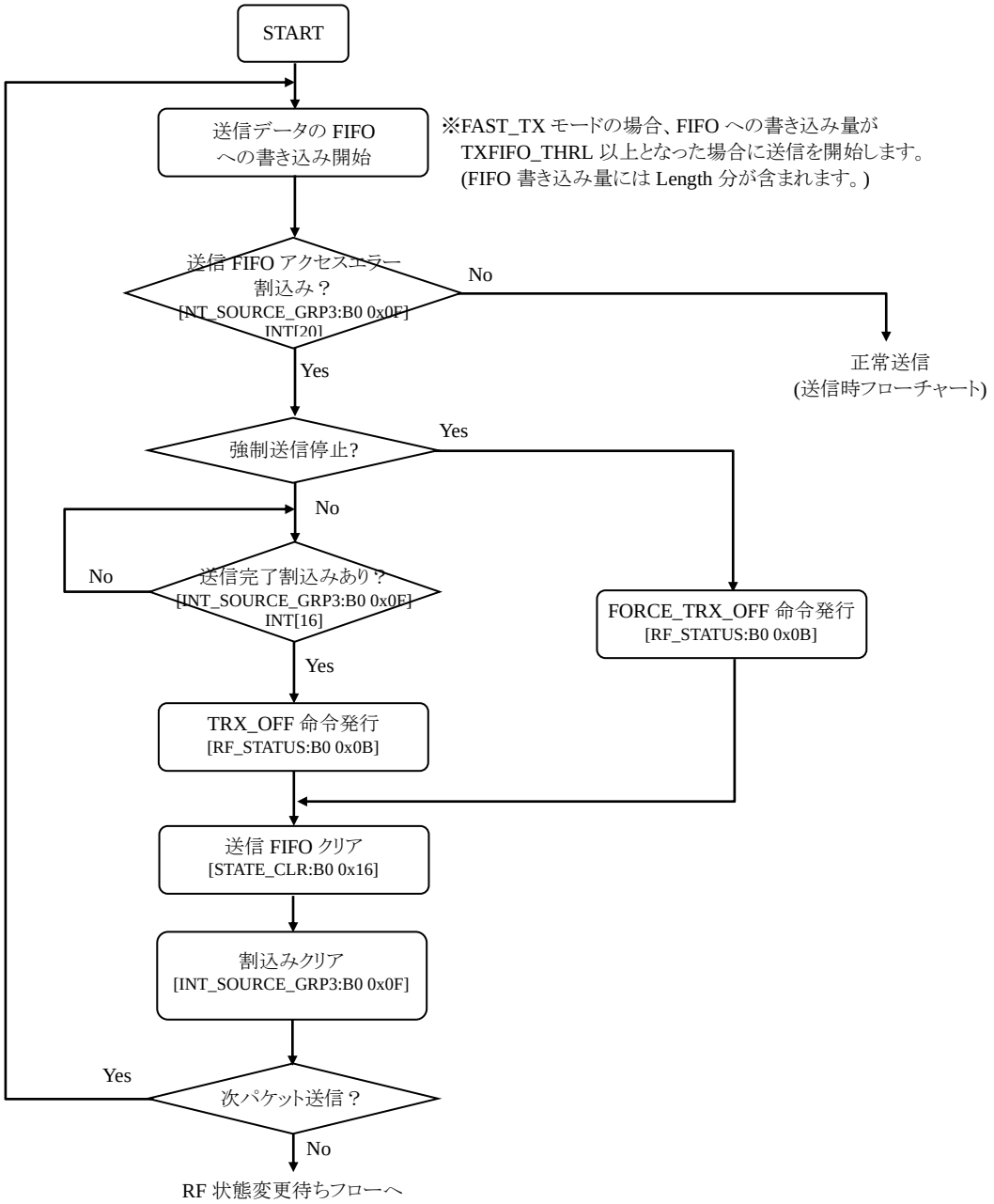
(2) 送信 FIFO アクセスエラー

以下の条件を満たしたとき送信 FIFO アクセスエラー割込み(INT[20]:割り込みグループ 3)が発生します。

・データ送信要求受付完了割込み(INT[17]:割り込みグループ 3)発生後、送信せずに次パケットのデータ書き込みを行ったとき
・TX_FIFO に対してデータ書き込みによりオーバーフローが発生したとき
・送信途中で TX_FIFO に送信すべきデータがなくなったとき

このとき、送信完了割込み(INT[16]:割り込みグループ 3)を待って[RF_STATUS:B0 0x0B]レジスタで TRX_OFF 命令を発行するか、送信完了割り込みを待たずに Force_TRX_OFF を実施します。その後[STATE_CLR:B0 0x16]レジスタで送信 FIFO クリアしたのち割り込みグループ 3[INT_SOURCE_GRP3:B0 0x0F]の送信関連割込みのクリアを実行してください。

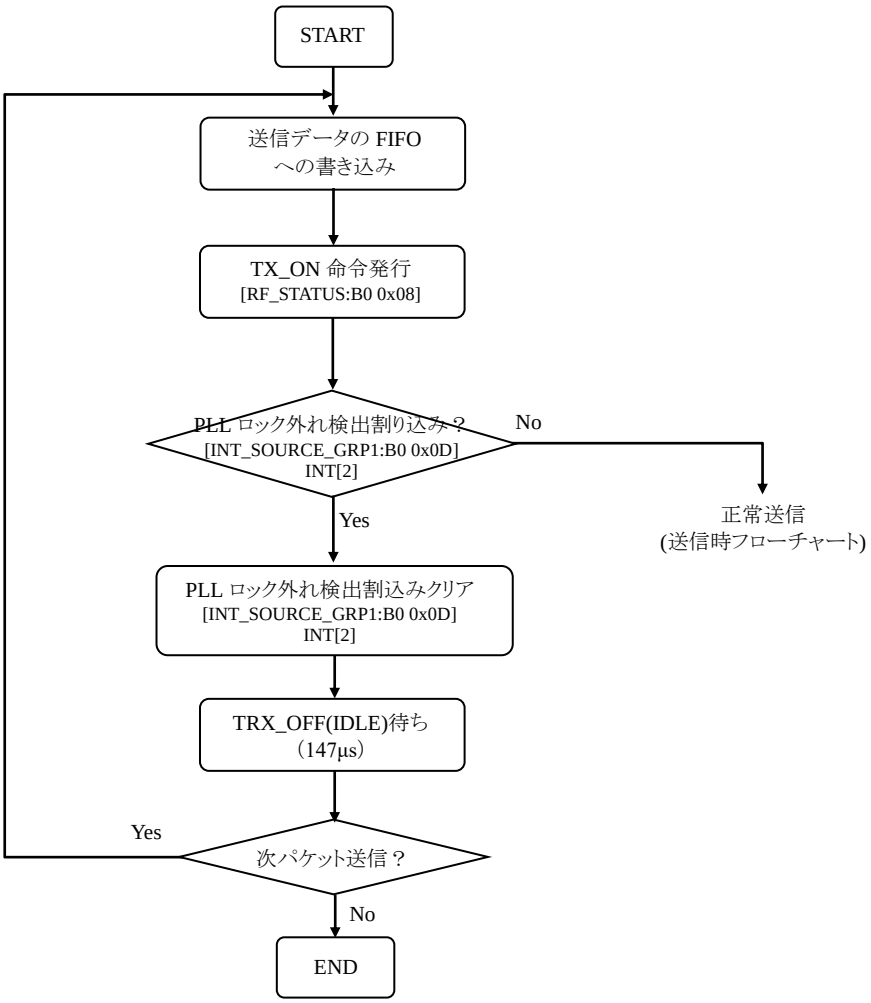
また、本 LSI は送信中に送信 FIFO アクセスエラーが発生した場合、その後の送信データを反転処理します。送信完了割込みを待って TRX_OFF 命令を発行する場合においても、受信側では CRC エラーとなります。



(3) PLL ロック外れ検出

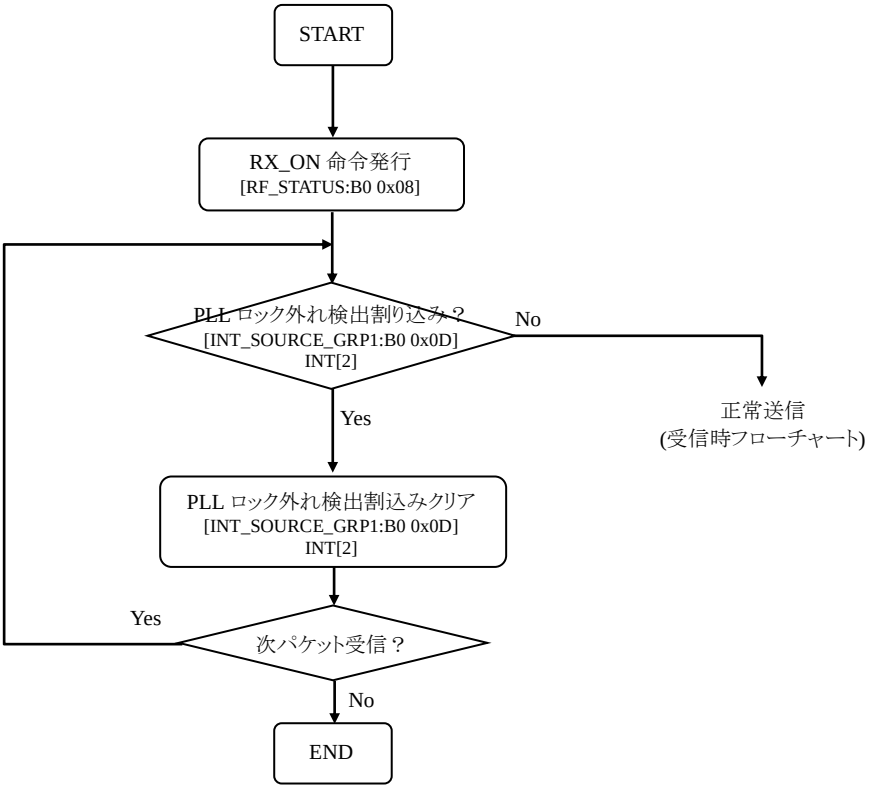
①送信時

送信中に PLL ロック外れを検出した場合、送信状態を停止し IDLE 状態へ強制移行します。PLL ロック外れは VCO キャリブレーション値が適切でない状態で発生する可能性があります。VCO キャリブレーションの確認または VCO キャリブレーションを再実行してください。PLL ロック外れ検出割込み通知後、IDLE 状態へ移行するまでに最大 147μs の時間が必要です。次の送信、受信または VCO キャリブレーションを行う前に必ず 147μs 以上の WAIT を行ってください。



②受信時

受信中に PLL ロック外れを検出した場合、IDLE 状態へ強制移行せず、受信状態を継続します。PLL ロック外れ検出割込み（[INT_SOURCE_GRP1:B0 0x0D] INT[2]）をクリアしてください。



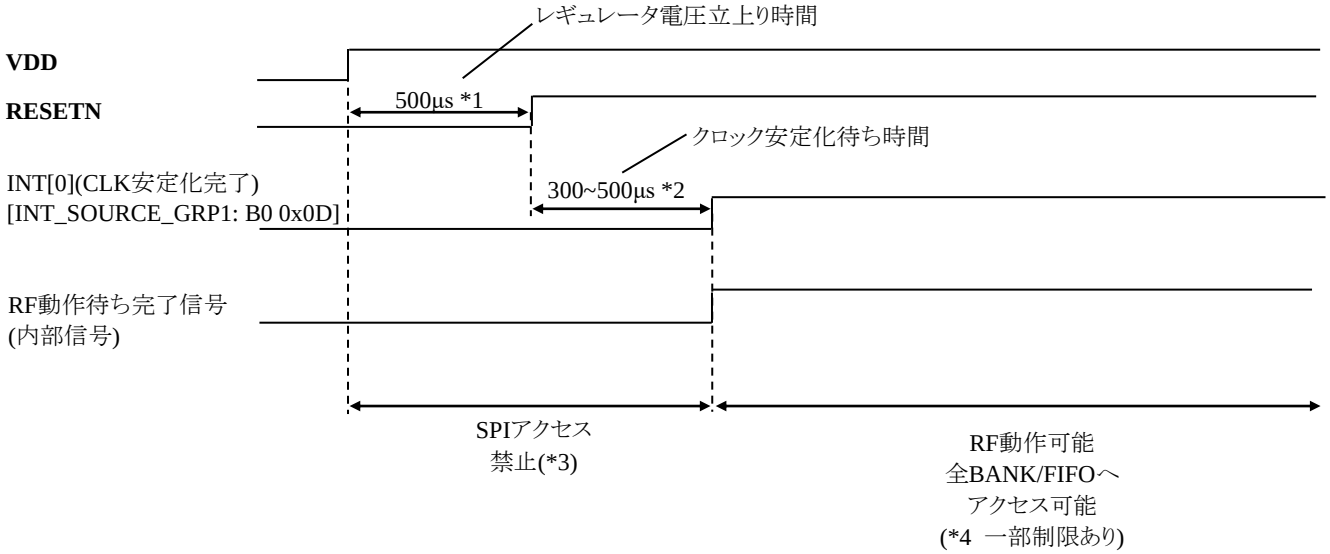
■タイムチャート

本 LSI の主な動作タイミングを示します。 太字はピン入出力関連を示します。

【ご注意】
太字の信号名は端子名を、細字の信号名は内部信号または内部状態を示します。

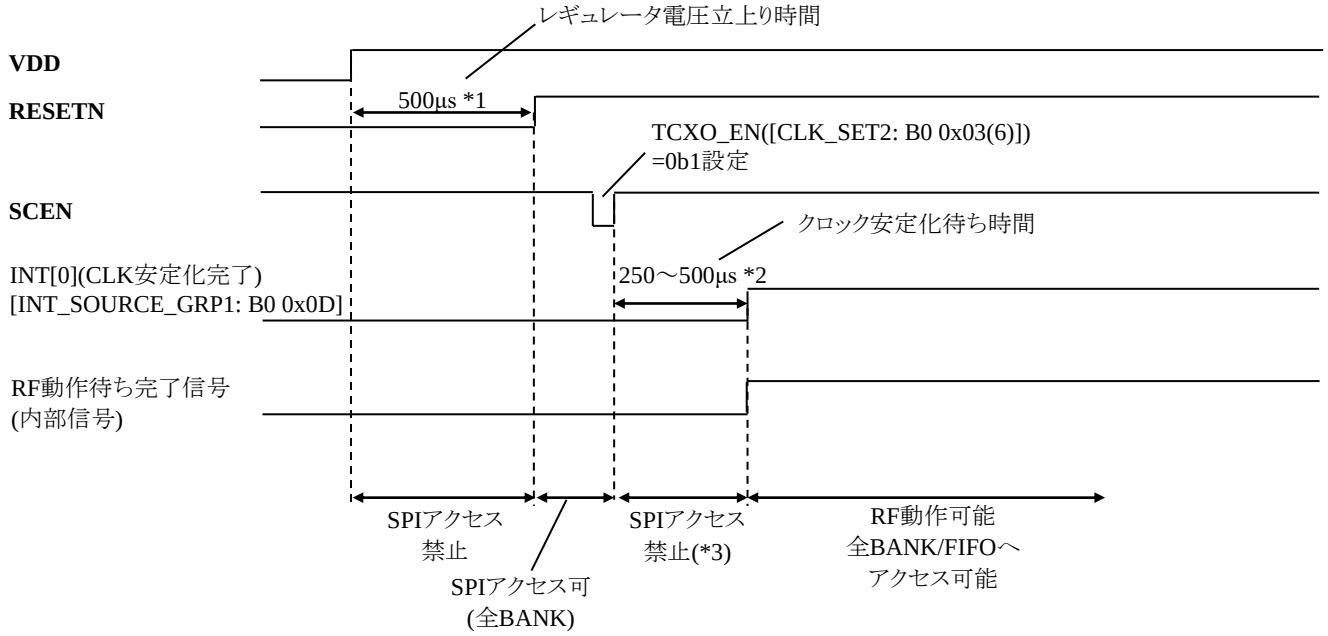
●起動時

[水晶発振回路使用時]



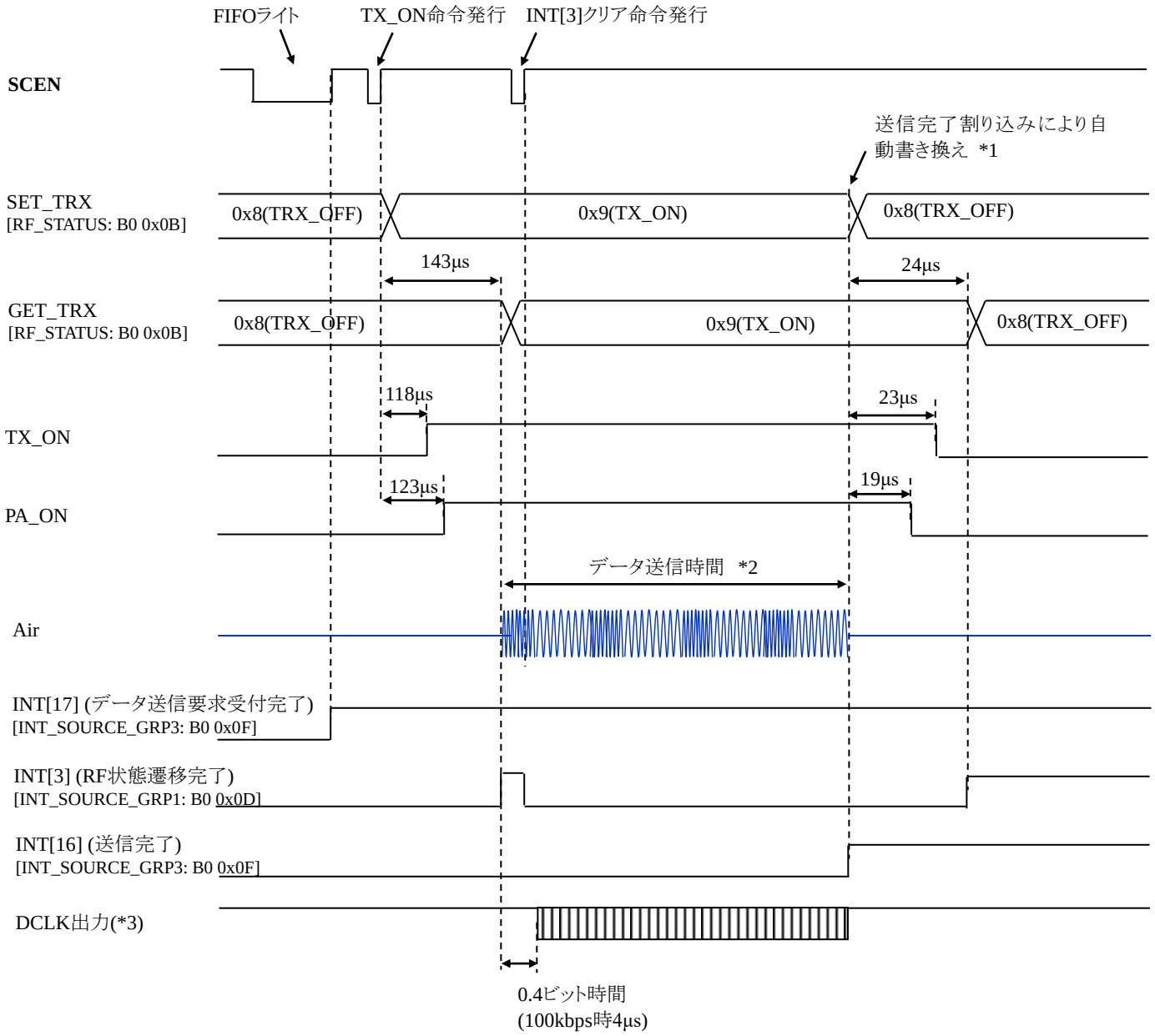
*1 : 起動時の VDD と RESETN のタイミングについては「リセット特性」をご参照下さい。
*2 : OSC_W_SEL[1:0]([OSC_W_SEL: B1 0x08(6-5)])の設定により 250µs/500µs に調整可能です。
*3 :ハードリセット解除(RESETN 端子="H")後、クロック安定化完了割込みが通知されるまで十分時間経過後に INT0[INT_SOURCE_GRP1: B0 0x0D(0)]をリードし、クロック安定化割込みが通知されていることを確認した後 SPI アクセスをしてください。

[TCXO 使用時]



*1 : 起動時の VDD と RESETN のタイミングについては「リセット特性」をご参照下さい。
*2 : OSC_W_SEL[1:0]([OSC_W_SEL: B1 0x08(6-5)])の設定により 250µs/500µs に調整可能です。
*3 : クロック安定化割込み通知後 SPI アクセスをしてください。詳細はフローチャートの「電源投入時 (1)初期化フロー」をご参照ください。

●送信時



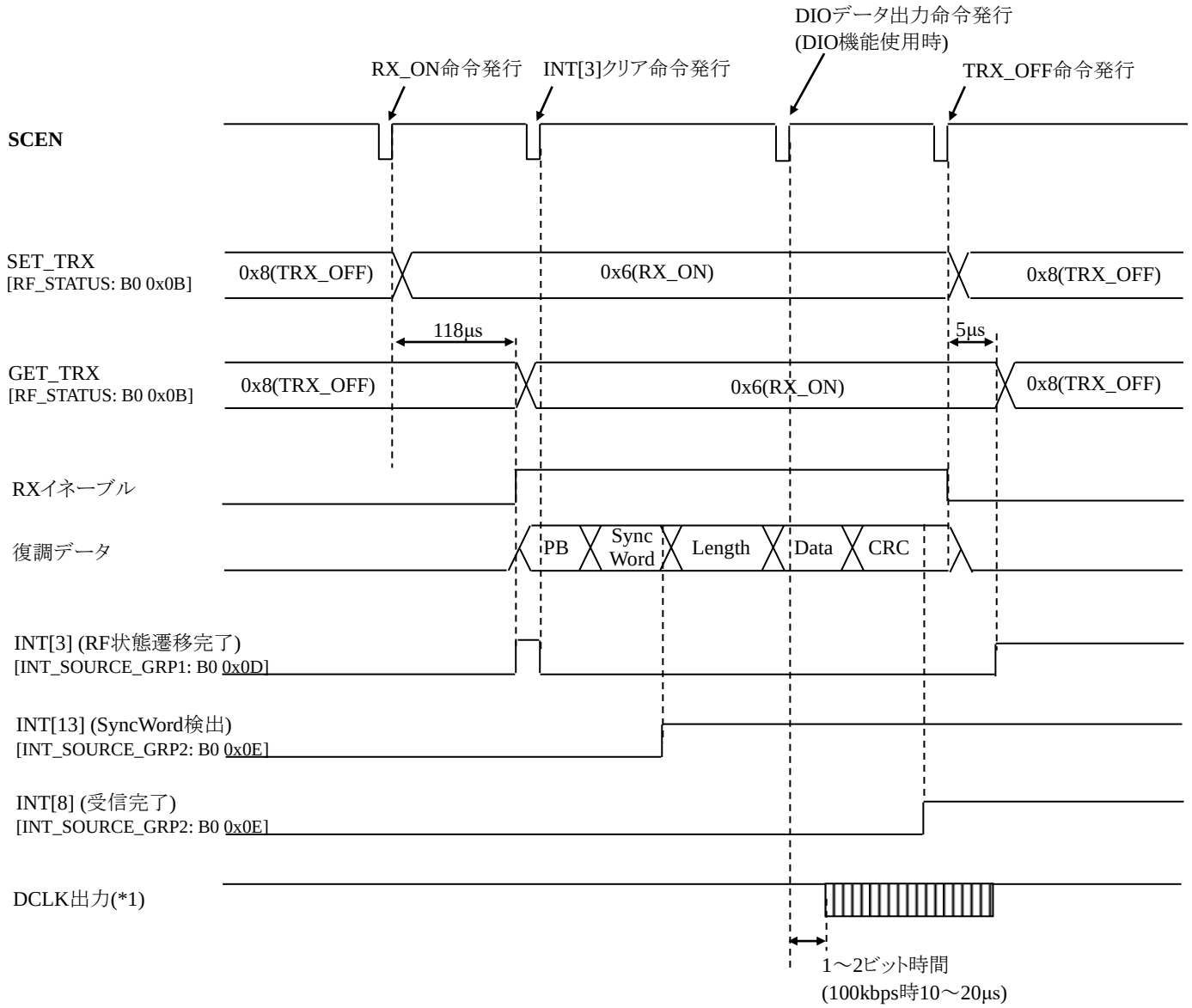
*1 : TXDONE_MODE([RF_STATUS_CTRL: B0 0x0A(1-0)])が 0b00(default)設定の場合、送信完了割込み検出により自動で SET_TRX([RF_STATUS: B0 0x0B(3-0)])を 0x8(TRX_OFF)に書き換えます。

*2 : データ送信時間は次式で計算されます。

データ送信時間[s] = (送信ビット数+3)×1 ビット送信時間[s]
1 ビット送信時間[s] = 1/データレート[bps]

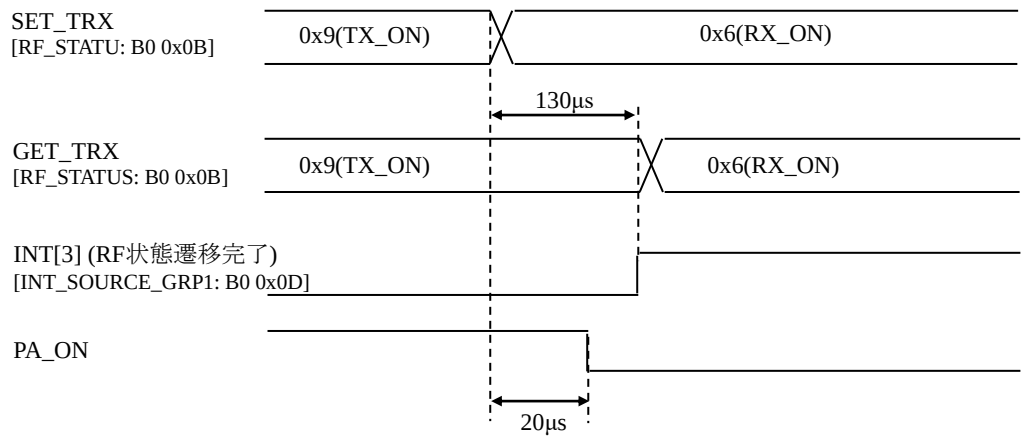
*3 : TXDIO_CTRL([DIO_SET: B0 0x0C(5-4)])=0b01 に設定した場合

●受信時

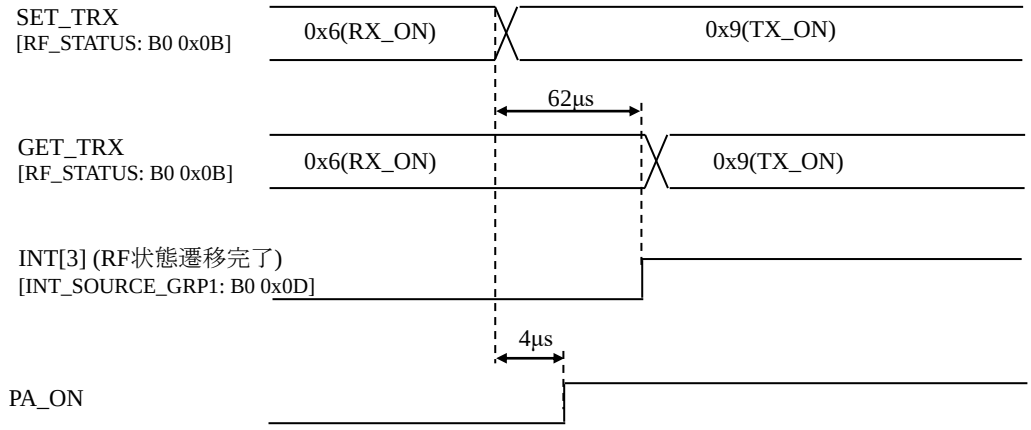


*1 : RXDIO_CTRL([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])=0b10 または 0b11 に設定した場合

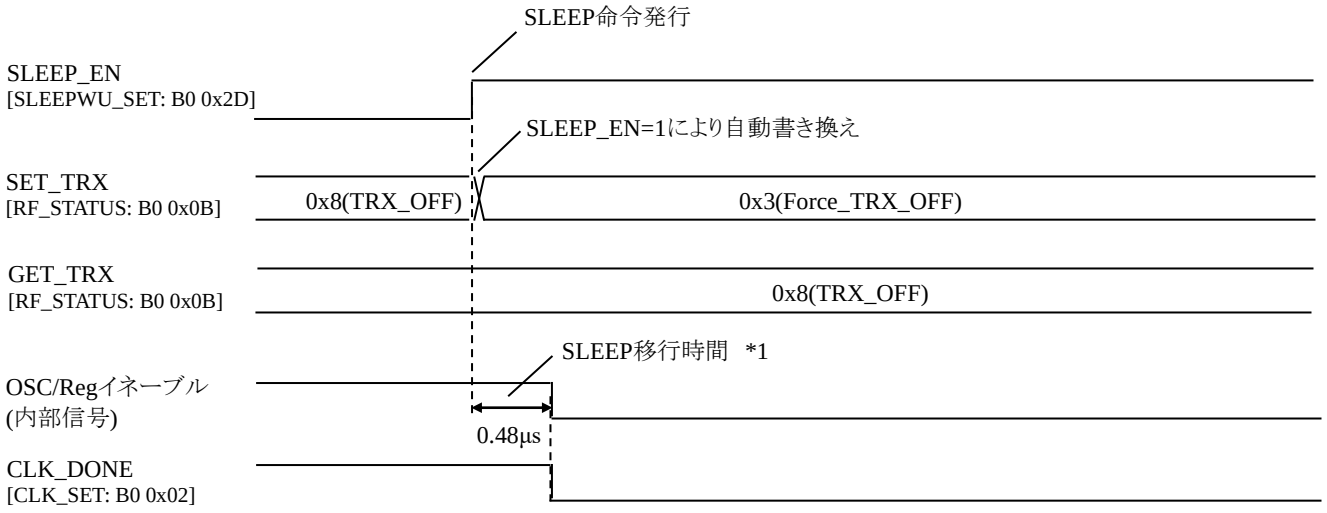
●送信から受信への移行



●受信から送信への移行

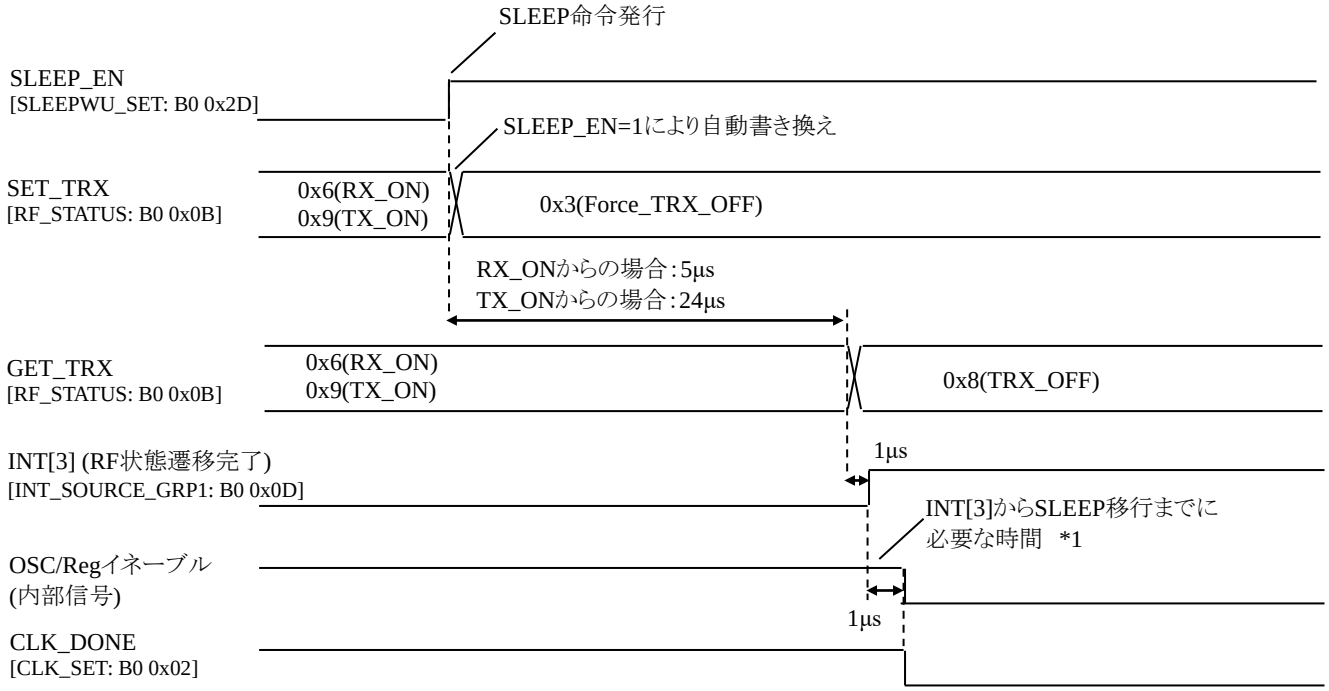


●IDLE から SLEEP への移行



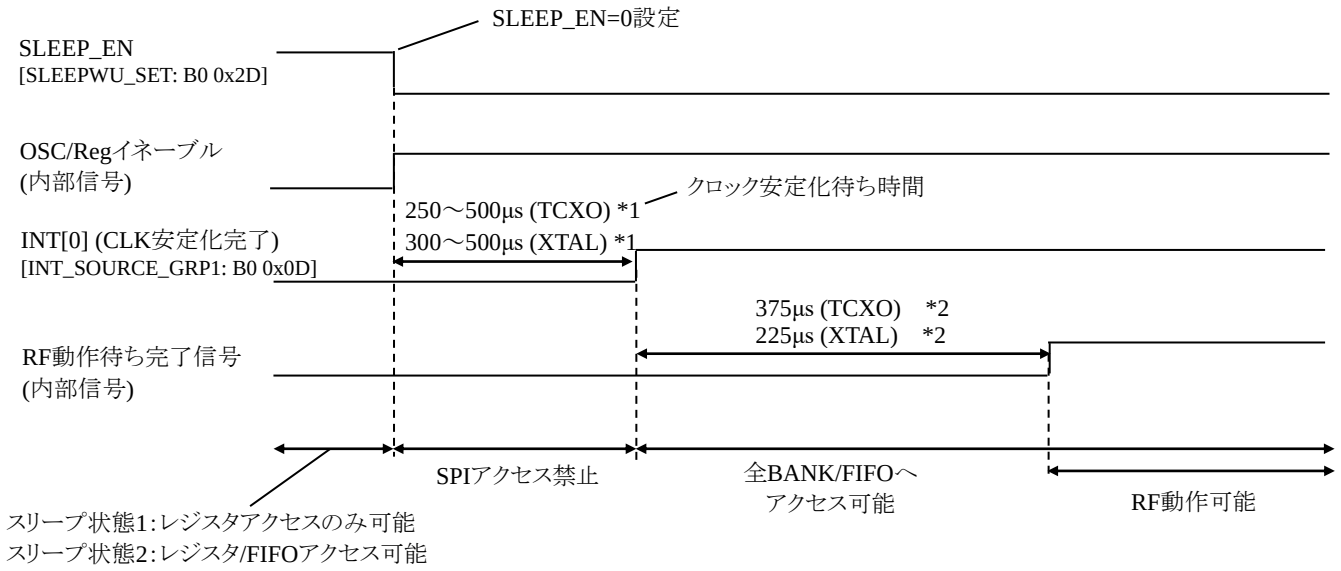
*1 : SLEEP 移行時間。SLEEP 移行の期間は内部クロックが必要なため、TCXO を停止させる場合は、SLEEP 命令発行（SLEEP_EN ([SLEEP/WU_SET: B0 0x2D(0)])=0b1）後、1μs 以上経過後にしてください。

●送信/受信状態から SLEEP への移行



*1 : TCXO を使用している場合は、SLEEP 命令発行（SLEEP_EN([SLEEP/WU_SET: B0 0x2D(0)])=1）による INT[3]の通知から 2μs 以上経過後に TCXO 入力を停止して下さい。

●SLEEP から IDLE への移行



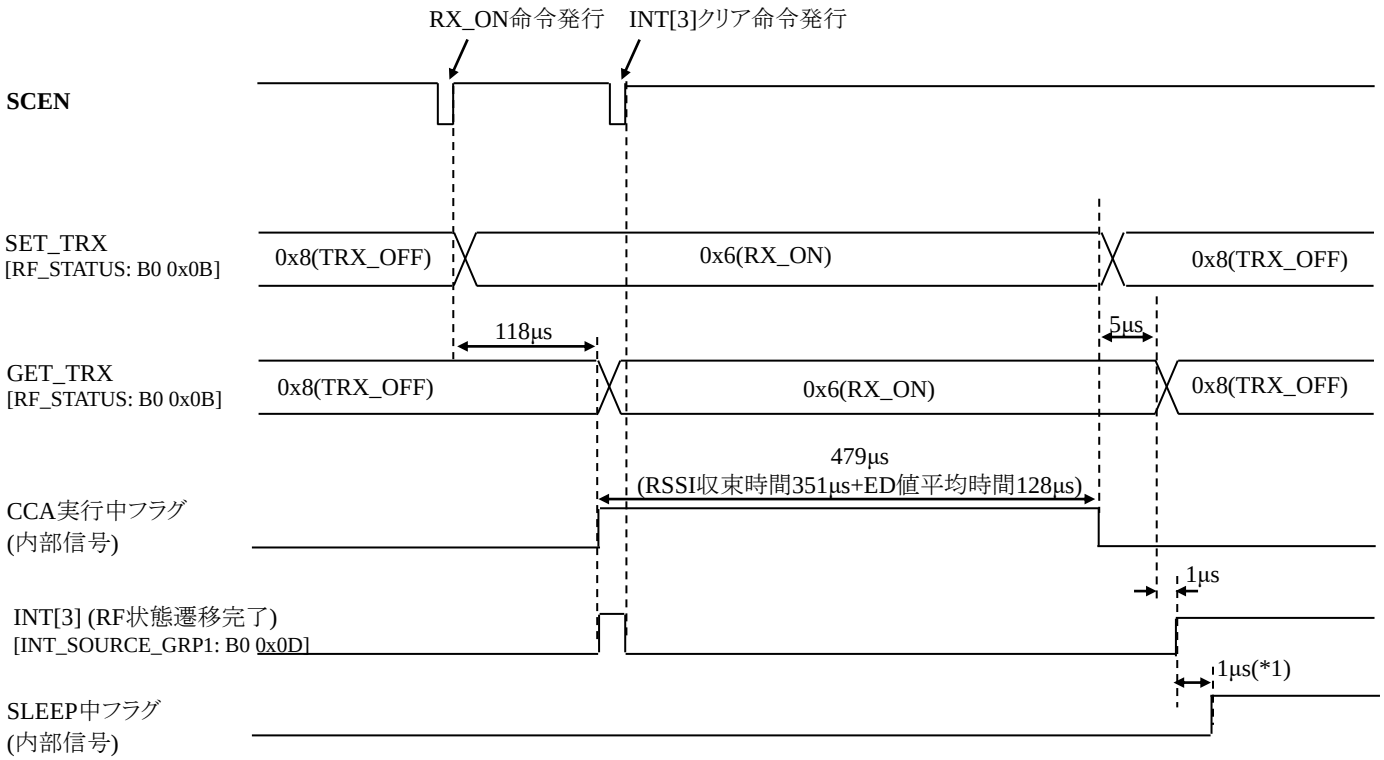
*1 : OSC_W_SEL[1:0]([OSC_W_SEL: B1 0x08(6-5)])の設定により250/500μs に調整可能です。αは発振回路起動時間で、最大 500μs です。

*2 : [VCO_CAL_START: B0 0x6F]および[SET_TRX: B0 0x0B]レジスタは設定可能ですが、RF 動作待ち完了信号がアサートされるまで処理されません。

●高速電波チェックモード時

以下の条件でのタイムチャートです。

条件）
ED値平均回数: 8回
チャネルフィルタ帯域: 10kHz



*1 : INT[3]から SLEEP 移行までに必要な時間。TCXO を使用している場合は、INT[3]の通知から 2us 以上経過後に TCXO 入力を停止して下さい。

■レジスタ

●レジスター覧

各バンクのレジスタ配置アドレス範囲は 0x00－0x7F の合計 128 バイトです。表中ビット配置のグレーのハッチング箇所は LSI に非搭載または予約ビットとなります。予約ビットの中には非公開機能のビットを含むため、予約ビットへの書き込みは必ず初期値を設定してください。また名称が“Reserved”と記載されているアドレスについても非公開レジスタが含まれており、誤動作につながる可能性があるためアクセス（書き込み）は行わないでください。[Reserved]のレジスタの読み出し値は不定です。

各 BANK には、[BANK_SEL]レジスタ（B0 0x00, B1 0x00, B2 0x00, B3 0x00, B6 0x00, B7 0x00, B10 0x00）の bit7-4 (BANK_ACEN)に 0b1 を書き込み、bit3-0 にて該当する BANK を設定することで各 BANK にアクセスすることが可能です。

別途レジスタ一覧表に設定値が記載されているレジスタは、一覧表の値を設定し変更しないでください。

BANK0

アドレス [HEX]	レジスタ名称	機能概要
00	BANK_SEL	BANK 切り替え
01	RST_SET	リセット制御
02	CLK_SET1	クロック制御 1
03	CLK_SET2	クロック制御 2
04	PKT_CTRL1	パケットフォーマット設定 1
05	PKT_CTRL2	パケットフォーマット設定 2
06	DRATE_SET	データレート設定
07	DATA_SET1	送受信データ各種設定 1
08	DATA_SET2	送受信データ各種設定 2
09	CH_SET	RF チャネル設定
0A	RF_STATUS_CTRL	RF 状態変更設定
0B	RF_STATUS	RF 状態設定
0C	DIO_SET	DIO 設定
0D	INT_SOURCE_GRP1	割り込み表示 1
0E	INT_SOURCE_GRP2	割り込み表示 2
0F	INT_SOURCE_GRP3	割り込み表示 3
10	INT_EN_GRP1	割り込み通知イネーブル 1
11	INT_EN_GRP2	割り込み通知イネーブル 2
12	INT_EN_GRP3	割り込み通知イネーブル 3
13	CRC_ERR_H	CRC エラー表示 1
14	CRC_ERR_M	CRC エラー表示 2
15	CRC_ERR_L	CRC エラー表示 3
16	STATE_CLR	状態クリア制御
17	TXFIFO_THRH	送信 FIFO-Full 閾値
18	TXFIFO_THRL	送信 FIFO-Empty 閾値、FAST_TX イネーブル時の閾値
19	RXFIFO_THRH	受信 FIFO-Full 閾値
1A	RXFIFO_THRL	受信 FIFO-Empty 閾値
1B	C_CHECK_CTRL	C-field チェックイネーブル
1C	M_CHECK_CTRL	M-field チェックイネーブル
1D	A_CHECK_CTRL	A-field チェックイネーブル
1E	C_FIELD_CODE1	C-field 設定コード 1
1F	C_FIELD_CODE2	C-field 設定コード 2
20	C_FIELD_CODE3	C-field 設定コード 3
21	C_FIELD_CODE4	C-field 設定コード 4
22	C_FIELD_CODE5	C-field 設定コード 5
23	M_FIELD_CODE1	M-field 1st バイト設定コード 1
24	M_FIELD_CODE2	M-field 1st バイト設定コード 2
25	M_FIELD_CODE3	M-field 2nd バイト設定コード 1
26	M_FIELD_CODE4	M-field 2nd バイト設定コード 2
27	A_FIELD_CODE1	A-field 1st バイト設定
28	A_FIELD_CODE2	A-field 2nd バイト設定
29	A_FIELD_CODE3	A-field 3rd バイト設定
2A	A_FIELD_CODE4	A-field 4th バイト設定
2B	A_FIELD_CODE5	A-field 5th バイト設定
2C	A_FIELD_CODE6	A-field 6th バイト設定
2D	SLEEP/WU_SET	SLEEP/WakeUP タイマ設定
2E	WUT_CLK_SET	WakeUP タイマ用クロック分周設定
2F	WUT_INTERVAL_H	WakeUP タイマインターバル設定(上位バイト)
30	WUT_INTERVAL_L	WakeUP タイマインターバル設定(下位バイト)
31	WU_DURATION	WakeUP 後の動作継続タイマ稼働時間設定
32	GT_SET	汎用タイマ設定
33	GT_CLK_SET	汎用タイマ用クロック分周設定
34	GT1_TIMER	汎用タイマ 1 タイマ設定

BANK0 続き

アドレス [HEX]	レジスタ名称	機能概要
35	GT2_TIMER	汎用タイマ 2 タイマ設定
36	CCA_IGNORE_LVL	CCA の判定除外 ED 値設定
37	CCA_LVL	CCA 閾値設定
38	CCA_ABORT	CCA ABORT 時間設定
39	CCA_CTRL	CCA 制御設定
3A	ED_RSLT	ED 値表示
3B	IDLE_WAIT_H	IDLE 検出期間設定(上位バイト)
3C	IDLE_WAIT_L	IDLE 検出期間設定(下位バイト)
3D	CCA_PROG_H	IDLE 検出期間結果表示(上位バイト)
3E	CCA_PROG_L	IDLE 検出期間結果表示(下位バイト)
3F	PREAMBLE_SET	プリアンブルパターン設定
40	VCO_VTRSLT	VCO 調整電圧結果表示
41	ED_CTRL	ED 値平均回数設定数
42	TXPR_LEN_H	送信プリアンブル長設定(上位バイト)
43	TXPR_LEN_L	送信プリアンブル長設定(下位バイト)
44	POSTAMBLE_SET	ポストアンブル設定
45	SYNC_CONDITION1	受信プリアンブル設定
46	SYNC_CONDITION2	同期検出時の ED 閾値
47	SYNC_CONDITION3	誤り許容設定
48	2DIV_CTRL	アンテナダイバーシティ設定
49	2DIV_RSLT	アンテナダイバーシティ結果表示
4A	ANT1_ED	アンテナ 1 の取得 ED 値表示
4B	ANT2_ED	アンテナ 2 の取得 ED 値表示
4C	ANT_CTRL	送受信時のアンテナ強制設定
4D	MON_CTRL	モニタ出力信号選択設定
4E	GPIO0_CTRL	GPIO0 端子(ピン#16)制御設定
4F	GPIO1_CTRL	GPIO1 端子(ピン#17)制御設定
50	GPIO2_CTRL	GPIO2 端子(ピン#18)制御設定
51	GPIO3_CTRL	GPIO3 端子(ピン#19)制御設定
52	EXTCLK_CTRL	EXT_CLK 端子(ピン#10)制御設定
53	SPI/EXT_PA_CTRL	SPI インタフェース IO /外部 PA 制御設定
54	CHFIL_BW	チャネルフィルタ帯域幅設定
55	DC_I_ADJ_H	I 相 DC オフセット調整設定(上位 6 ビット)
56	DC_I_ADJ_L	I 相 DC オフセット調整設定(下位バイト)
57	DC_Q_ADJ_H	Q 相 DC オフセット調整設定(上位 6 ビット)
58	DC_Q_ADJ_L	Q 相 DC オフセット調整設定(下位バイト)
59	DC_FIL_ADJ	DC オフセット調整フィルタ設定
5A	IQ_MAG_ADJ_H	IF の IQ 振幅バランス調整（上位 4 ビット）
5B	IQ_MAG_ADJ_L	IF の IQ 振幅バランス調整（下位バイト）
5C	IQ_PHASE_ADJ_H	IF の IQ 位相バランス調整（上位 4 ビット）
5D	IQ_PHASE_ADJ_L	IF の IQ 位相バランス調整（下位バイト）
5E	IQ_ADJ_WAIT	IF の IQ 自動調整用 RSSI 取得ウェイト時間
5F	IQ_ADJ_TARGET	IF の IQ 自動調整用 RSSI 判定閾値
60	DEC_GAIN	デシメーションゲイン設定
61	IF_FREQ	IF 周波数選択
62	OSC_ADJ1	発振回路制御(粗調）
63	OSC_ADJ2	発振回路制御(微調）
64	Reserved	予約
65	OSC_ADJ4	高速起動時発振回路バイアス設定
66	RSSI_ADJ	RSSI 値の調整
67	PA_REG_ADJ_H	PA レギュレータ調整(上位バイト)
68	PA_REG_ADJ_L	PA レギュレータ調整(下位バイト)
69	Reserved	予約
6A	CHFIL_BW_CCA	CCA 時チャネルフィルタ帯域幅設定

BANK0 続き

アドレス [HEX]	レジスタ名称	機能概要
6B	CHFIL_BW_OPTION	チャネルフィルタ帯域幅オプション設定
6C	DC_FIL_ADJ2	DC オフセット調整フィルタ設定 2
6D	DEC_GAIN_CCA	CCA 時のデシメーションゲイン設定
6E	VCO_CAL	VCO キャリブレーション値表示または設定
6F	VCO_CAL_START	VCO キャリブレーション実行
70	CLK_CAL_SET	低速クロックキャリブレーション制御
71	CLK_CAL_TIME	低速クロックキャリブレーション時間設定
72	CLK_CAL_H	低速クロックキャリブレーション値表示(上位バイト)
73	CLK_CAL_L	低速クロックキャリブレーション値表示(下位バイト)
74	Reserved	予約
75	SLEEP_INT_CLR	SLEEP 時割込みクリア設定
76	RF_TEST_MODE	送信テストパターン設定
77	STM_STATE	ステートマシン状態表示
78	FIFO_SET	FIFO リード設定
79	RD_FIFO_LAST	受信時 FIFO 使用量表示
7A	TX_PKT_LEN_H	送信パケット長設定
7B	TX_PKT_LEN_L	送信パケット長設定
7C	WR_TX_FIFO	送信 FIFO
7D	RX_PKT_LEN_H	受信パケット長表示
7E	RX_PKT_LEN_L	受信パケット長表示
7F	RD_FIFO	FIFO リード

BANK1

アドレス [HEX]	レジスタ名称	機能概要
00	BANK_SEL	BANK 切り替え
01	CLK_OUT	CLK_OUT(GPIOn) 出力周波数設定
02	TX_RATE_H	送信データレート変換設定(上位バイト)
03	TX_RATE_L	送信データレート変換設定(下位バイト)
04	RX_RATE1_H	受信データレート変換設定 1(上位バイト)
05	RX_RATE1_L	受信データレート変換設定 1(下位バイト)
06	RX_RATE2	受信データレート変換設定 2
07	Reserved	予約
08	OSC_W_SEL	クロック安定化待ち時間設定
09-0A	Reserved	予約
0B	PLL_LOCK_DETECT	PLL ロック判定設定
0C-0D	Reserved	予約
0E	GAIN_HOLD	ゲイン切り替え設定
0F	RSSI_STABLE_RES	RSSI 安定化待ち時間分解能設定
10	GC_CTRL_DIV	ダイバーシティ時のゲイン制御設定
11	Reserved	予約
12	RSSI_STABLE_TIME	RSSI 安定化待ち時間設定
13	RSSI_MAG_ADJ	ED 変換用 RSSI 補正設定
14	Reserved	予約
15	AFC/GC_CTRL	AFC/ゲイン制御設定
16	CRC_POLY3	CRC 生成多項式 3
17	CRC_POLY2	CRC 生成多項式 2
18	CRC_POLY1	CRC 生成多項式 1
19	CRC_POLY0	CRC 生成多項式 0
1A	PLL_DIV_SET	PLL 出力 2 分周切り替え設定
1B	TXFREQ_I	送信周波数 I カウンタ設定
1C	TXFREQ_FH	送信周波数 F カウンタ設定(上位 4 ビット)
1D	TXFREQ_FM	送信周波数 F カウンタ設定(中位 8 ビット)
1E	TXFREQ_FL	送信周波数 F カウンタ設定(下位 8 ビット)
1F	RXFREQ_I	受信周波数 I カウンタ設定
20	RXFREQ_FH	受信周波数 F カウンタ設定(上位 4 ビット)
21	RXFREQ_FM	受信周波数 F カウンタ設定(中位 8 ビット)
22	RXFREQ_FL	受信周波数 F カウンタ設定(下位 8 ビット)
23	CH_SPACE_H	チャネル間隔設定(上位バイト)
24	CH_SPACE_L	チャネル間隔設定(下位バイト)
25	SYNC_WORD_LEN	SYNC_WORD 長設定
26	SYNC_WORD_EN	SYNC_WORD イネーブル設定
27	SYNCWORD1_SET0	SYNC_WORD1 設定 1
28	SYNCWORD1_SET1	SYNC_WORD1 設定 2
29	SYNCWORD1_SET2	SYNC_WORD1 設定 3
2A	SYNCWORD1_SET3	SYNC_WORD1 設定 4
2B	SYNCWORD2_SET0	SYNC_WORD2 設定 1
2C	SYNCWORD2_SET1	SYNC_WORD2 設定 2
2D	SYNCWORD2_SET2	SYNC_WORD2 設定 3
2E	SYNCWORD2_SET3	SYNC_WORD2 設定 4
2F	FSK_CTRL	GFSK/FSK 変調タイミング分解能設定
30	GFSK_DEV_H	GFSK 時周波数偏位設定(上位 6 ビット)
31	GFSK_DEV_L	GFSK 時周波数偏位設定(下位バイト)
32	FSK_DEV0_H/GFIL0	FSK 周波数偏位設定 0/ガウシアンフィルタ係数設定 1
33	FSK_DEV0_L/GFIL1	FSK 周波数偏位設定 0/ガウシアンフィルタ係数設定 2
34	FSK_DEV1_H/GFIL2	FSK 周波数偏位設定 1/ガウシアンフィルタ係数設定 3
35	FSK_DEV1_L/GFIL3	FSK 周波数偏位設定 1/ガウシアンフィルタ係数設定 4

BANK1 続き

アドレス [HEX]	レジスタ名称	機能概要
36	FSK_DEV2_H/GFIL4	FSK 周波数偏位設定 2/ガウシアンフィルタ係数設定 5
37	FSK_DEV2_L/GFIL5	FSK 周波数偏位設定 2/ガウシアンフィルタ係数設定 6
38	FSK_DEV3_H/GFIL6	FSK 周波数偏位設定 3/ガウシアンフィルタ係数設定 7
39	FSK_DEV3_L	FSK 周波数偏位設定 3
3A	FSK_DEV4_H	FSK 周波数偏位設定 4
3B	FSK_DEV4_L	FSK 周波数偏位設定 4
3C	FSK_TIM_ADJ4	FSK 第 4 周波数偏位の保持時間設定
3D	FSK_TIM_ADJ3	FSK 第 3 周波数偏位の保持時間設定
3E	FSK_TIM_ADJ2	FSK 第 2 周波数偏位の保持時間設定
3F	FSK_TIM_ADJ1	FSK 第 1 周波数偏位の保持時間設定
40	FSK_TIM_ADJ0	FSK 周波数無偏位（キャリア周波数）の保持時間設定
41	4FSK_DATA_MAP	4FSK 時のデータマッピング
42	FREQ_ADJ_H	送受信周波数微調整設定（上位バイト）
43	FREQ_ADJ_L	送受信周波数微調整設定（下位バイト）
44-47	Reserved	予約
48	2DIV_MODE	アンテナダイバーシティモード設定
49	2DIV_SEARCH1	アンテナダイバーシティサーチ時間設定
4A	2DIV_SEARCH2	アンテナダイバーシティサーチ時間設定
4B	2DIV_FAST_LVL	アンテナダイバーシティ FAST モードの ED 閾値設定
4C	Reserved	予約
4D	VCO_CAL_MIN_I	VCO_CAL 下限周波数 I カウンタ設定
4E	VCO_CAL_MIN_FH	VCO_CAL 下限周波数 F カウンタ設定(上位 4 ビット)
4F	VCO_CAL_MIN_FM	VCO_CAL 下限周波数 F カウンタ設定(中位 8 ビット)
50	VCO_CAL_MIN_FL	VCO_CAL 下限周波数 F カウンタ設定(下位 8 ビット)
51	VCO_CAL_MAX_N	VCO_CAL_Max 周波数設定
52	VCAL_MIN	VCO キャリブレーション下限値
53	VCAL_MAX	VCO キャリブレーション上限値
54-55	Reserved	予約
56	DEMOD_SET0	復調器設定 0
57	DEMOD_SET1	復調器設定 1
58	DEMOD_SET2	復調器設定 2
59	DEMOD_SET3	復調器設定 3
5A-5B	Reserved	予約
5C	DEMOD_SET6	復調器設定 6
5D	DEMOD_SET7	復調器設定 7
5E	DEMOD_SET8	復調器設定 8
5F	DEMOD_SET9	復調器設定 9
60	DEMOD_SET10	復調器設定 10
61	DEMOD_SET11	復調器設定 11
62	ADDR_CHK_CTR_H	アドレスチェックカウンタ表示(上位 3 ビット)
63	ADDR_CHK_CTR_L	アドレスチェックカウンタ表示(下位バイト)
64	WHT_INIT_H	Whitening 初期状態設定(上位 1 ビット)
65	WHT_INIT_L	Whitening 初期状態設定(下位 8 ビット)
66	WHT_CFG	Whitening 生成多項式設定
67-7A	Reserved	予約
7B	TX_RATE2_EN	送信データレート設定イネーブル
7C	TX_RATE2_H	送信データレート設定 2（上位バイト）
7D	TX_RATE2_L	送信データレート設定 2（下位バイト）
7E	Reserved	予約
7F	ID_CODE	ID コード表示

BANK2

アドレス [HEX]	レジスタ名称	機能概要
00	BANK_SEL	BANK 切り替え
01-3F	Reserved	予約
40	VTUNE_COMP_ON	VCO 調整電圧閾値比較結果表示イネーブル
41-75	Reserved	予約
76	GAIN_HHTOH	高高ゲインから高ゲインへの切り替え閾値設定
77	GAIN_HTOHH	高ゲインから高高ゲインへの切り替え閾値設定
78	GAIN_HTOM	高ゲインから中間ゲインへの切り替え閾値設定
79	GAIN_MTOH	中間ゲインから高ゲインへの切り替え閾値設定
7A	GAIN_MTOL	高ゲインから低ゲインへの切り替え閾値設定
7B	GAIN_LTOM	低ゲインから中間ゲインへの切り替え閾値設定
7C	RSSI_ADJ_H	高ゲイン動作時の RSSI オフセット値設定
7D	RSSI_ADJ_M	中間ゲイン動作時の RSSI オフセット値設定
7E	RSSI_ADJ_L	低ゲイン動作時の RSSI オフセット値設定
7F	Reserved	予約

BANK3

アドレス [HEX]	レジスタ名称	機能概要
00	BANK_SEL	BANK 切り替え
01-22	Reserved	予約
23	2MODE_DET	ModeT/C 同時受信設定
24-40	Reserved	予約
41	RAMP_CTRL1	PA ランプ制御設定 1
42	RAMP_CTRL2	PA ランプ制御設定 2
43	RAMP_CTRL3	PA ランプ制御設定 3
44-4F	Reserved	予約
50	EXT_WU_CTRL	外部ウェイクアップ制御設定
51	EXT_WU_INTERVAL	外部ウェイクアップインターバル設定
52-7F	Reserved	予約

BANK6

アドレス [HEX]	レジスタ名称	機能概要
00	BANK_SEL	BANK 切り替え
01	MOD_CTRL	変調方式設定
02-7A	Reserved	予約
7B	BPSK_PLL_CTRL	BPSK 方式設定
7C	BPSK_P_START_H	BPSK 周波数制御時の周波数偏位開始時間設定(上位 3 ビット)
7D	BPSK_P_START_L	BPSK 周波数制御時の周波数偏位開始時間設定(下位バイト)
7E	BPSK_P_HOLD_H	BPSK 周波数制御時の周波数偏位保持時間設定(上位 4 ビット)
7F	BPSK_P_HOLD_L	BPSK 周波数制御時の周波数偏位保持時間設定(下位バイト)

BANK7

アドレス [HEX]	レジスタ名称	機能概要
00	BANK_SEL	BANK 切り替え
01	DSSS_CTRL	DSSS 制御設定
02	DSSS_MODE	DSSS モード設定
03	FEC_ENC_CTRL	FEC エンコーダ設定
04	Reserved	予約
05	FEC_DEC_CTRL	FEC デコーダ設定
06	SF_CTRL	拡散率設定
07	SHR_GOLD_SEED3	SHR ゴールド符号シード設定 3
08	SHR_GOLD_SEED2	SHR ゴールド符号シード設定 2
09	SHR_GOLD_SEED1	SHR ゴールド符号シード設定 1
0A	SHR_GOLD_SEED0	SHR ゴールド符号シード設定 0
0B	PSDU_GOLD_SEED3	PSDU ゴールド符号シード設定 3
0C	PSDU _GOLD_SEED2	PSDU ゴールド符号シード設定 2
0D	PSDU _GOLD_SEED1	PSDU ゴールド符号シード設定 1
0E	PSDU _GOLD_SEED0	PSDU ゴールド符号シード設定 0
0F	DSSS_PREAMBLE3	DSSS プリアンブルパターン設定 3
10	DSSS_PREAMBLE2	DSSS プリアンブルパターン設定 2
11	DSSS_PREAMBLE1	DSSS プリアンブルパターン設定 1
12	DSSS_PREAMBLE0	DSSS プリアンブルパターン設定 0
13	SS_DOWN_SIZE	DSSS ダウンサンプル設定
14	SS_AFC_RANGE_SYNC	DSSS AFC レンジ設定(同期時)
15	SS_AFC_RANGE	DSSS AFC レンジ設定(データ受信時)
16	Reserved	予約
17	DSSS_RATE_SYNC_H	DSSS 同期時受信チップレート設定(上位 4 ビット)
18	DSSS_RATE_SYNC_L	DSSS 同期時受信チップレート設定(下位バイト)
19	DSSS_RATE_H	DSSS データ受信時受信チップレート設定(上位 4 ビット)
1A	DSSS_RATE_L	DSSS データ受信時受信データレート設定(下位バイト)
1B	SS_SYNC_BIT8_GATE_H	DSSS 同期確立時相関閾値設定(上位 3 ビット)
1C	SS_SYNC_BIT8_GATE_L	DSSS 同期確立時相関閾値設定(下位バイト)
1D	SS_SYNC_BIT8_GATE2_H	DSSS 同期確立時相関閾値設定 2(上位 3 ビット)
1E	SS_SYNC_BIT8_GATE2_L	DSSS 同期確立時相関閾値設定 2(下位バイト)
1F	SS_SYNC_BIT_GATE_H	DSSS 同期確立後相関閾値設定(上位 3 ビット
20	SS_SYNC_BIT_GATE_L	DSSS 同期確立後相関閾値設定(下位バイト)
21-30	Reserved	予約
31	SS_AFC_OUT	DSSS AFC 値表示
32	SS_AFC_FIX_EN	DSSS AFC 固定イネーブル設定
33	SS_AFC_FIX	DSSS AFC 固定設定
34-7F	Reserved	予約

BANK10

アドレス [HEX]	レジスタ名称	機能概要
00	BANK_SEL	BANK 切り替え
01	BPSK_STEP_CTRL	BPSK ステップ制御設定
02	BPSK_STEP_CLK_SET	BPSK ステップ制御クロック設定
03	Reserved	予約
04	BPSK_SETP_SET0	BPSK ステップ制御設定 0
05	BPSK_SETP_SET1	BPSK ステップ制御設定 1
06	BPSK_SETP_SET2	BPSK ステップ制御設定 2
07	BPSK_SETP_SET3	BPSK ステップ制御設定 3
08	BPSK_SETP_SET4	BPSK ステップ制御設定 4
09	BPSK_SETP_SET5	BPSK ステップ制御設定 5
0A	BPSK_SETP_SET6	BPSK ステップ制御設定 6
0B	BPSK_SETP_SET7	BPSK ステップ制御設定 7
0C	BPSK_SETP_SET8	BPSK ステップ制御設定 8
0D	BPSK_SETP_SET9	BPSK ステップ制御設定 9
0E	BPSK_SETP_SET10	BPSK ステップ制御設定 10
0F	BPSK_SETP_SET11	BPSK ステップ制御設定 11
10	BPSK_SETP_SET12	BPSK ステップ制御設定 12
11	BPSK_SETP_SET13	BPSK ステップ制御設定 13
12	BPSK_SETP_SET14	BPSK ステップ制御設定 14
13	BPSK_SETP_SET15	BPSK ステップ制御設定 15
14	BPSK_SETP_SET16	BPSK ステップ制御設定 16
15	BPSK_SETP_SET17	BPSK ステップ制御設定 17
16	BPSK_SETP_SET18	BPSK ステップ制御設定 18
17	BPSK_SETP_SET19	BPSK ステップ制御設定 19
18	BPSK_SETP_SET20	BPSK ステップ制御設定 20
19	BPSK_SETP_SET21	BPSK ステップ制御設定 21
1A	BPSK_SETP_SET22	BPSK ステップ制御設定 22
1B	BPSK_SETP_SET23	BPSK ステップ制御設定 23
1C	BPSK_SETP_SET24	BPSK ステップ制御設定 24
1D	BPSK_SETP_SET25	BPSK ステップ制御設定 25
1E	BPSK_SETP_SET26	BPSK ステップ制御設定 26
1F	BPSK_SETP_SET27	BPSK ステップ制御設定 27
20	BPSK_SETP_SET28	BPSK ステップ制御設定 28
21	BPSK_SETP_SET29	BPSK ステップ制御設定 29
22	BPSK_SETP_SET30	BPSK ステップ制御設定 30
23	BPSK_SETP_SET31	BPSK ステップ制御設定 31
24	BPSK_SETP_SET32	BPSK ステップ制御設定 32
25	BPSK_SETP_SET33	BPSK ステップ制御設定 33
26	BPSK_SETP_SET34	BPSK ステップ制御設定 34
27	BPSK_SETP_SET35	BPSK ステップ制御設定 35
28	BPSK_SETP_SET36	BPSK ステップ制御設定 36
29	BPSK_SETP_SET37	BPSK ステップ制御設定 37
2A	BPSK_SETP_SET38	BPSK ステップ制御設定 38
2B	BPSK_SETP_SET39	BPSK ステップ制御設定 39
2C	BPSK_SETP_SET40	BPSK ステップ制御設定 40
2D	BPSK_SETP_SET41	BPSK ステップ制御設定 41
2E	BPSK_SETP_SET42	BPSK ステップ制御設定 42
2F	BPSK_SETP_SET43	BPSK ステップ制御設定 43
30	BPSK_SETP_SET44	BPSK ステップ制御設定 44
31	BPSK_SETP_SET45	BPSK ステップ制御設定 45
32	BPSK_SETP_SET46	BPSK ステップ制御設定 46
33	BPSK_SETP_SET47	BPSK ステップ制御設定 47
34	BPSK_SETP_SET48	BPSK ステップ制御設定 48

BANK10 続き

アドレス [HEX]	レジスタ名称	機能概要
35	BPSK_SETP_SET49	BPSK ステップ制御設定 49
36	BPSK_SETP_SET50	BPSK ステップ制御設定 50
37	BPSK_SETP_SET51	BPSK ステップ制御設定 51
38	BPSK_SETP_SET52	BPSK ステップ制御設定 52
39	BPSK_SETP_SET53	BPSK ステップ制御設定 53
3A	BPSK_SETP_SET54	BPSK ステップ制御設定 54
3B	BPSK_SETP_SET55	BPSK ステップ制御設定 55
3C	BPSK_SETP_SET56	BPSK ステップ制御設定 56
3D	BPSK_SETP_SET57	BPSK ステップ制御設定 57
3E	BPSK_SETP_SET58	BPSK ステップ制御設定 58
3F	BPSK_SETP_SET59	BPSK ステップ制御設定 59
40	PADRV_CTRL	PA ドライバ制御設定
41	PADRV_ADJ1	PA ドライバ調整 1
42	PADRV_ADJ2_H	PA ドライバ調整 1(上位バイト)
43	PADRV_ADJ2_L	PA ドライバ調整 1(下位バイト)
44	PADRV_CLK_SET_H	PA ドライバ制御用クロック設定(上位バイト)
45	PADRV_CLK_SET_L	PA ドライバ制御用クロック設定(下位バイト)
46	PADRV_UP_ADJ	BPSK ドライバ制御立上り開始時間設定
47-7F	Reserved	予約

●レジスタ BANK0

0x00【BANK_SEL】

機能:レジスタアクセス先選択
アドレス:0x00 (BANK0)
初期値:0x11

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7-4	BANK_ACEN	0001	R/W	レジスタアクセスイネーブル 0001: BANK0 アクセス許可 0010: BANK1 アクセス許可 0100: BANK2 アクセス許可 1000: BANK3 アクセス許可 0011: BANK6 アクセス許可 0101: BANK7 アクセス許可 1001: BANK10 アクセス許可 上記以外: アクセス禁止
3-0	BANK[3:0]	0001	R/W	BANK 切り替え 0001: BANK0 アクセス 0010: BANK1 アクセス 0100: BANK2 アクセス 1000: BANK3 アクセス 0011: BANK6 アクセス 0101: BANK7 アクセス 1001: BANK10 アクセス 上記以外: 設定禁止

【説明】
1. VCO キャリブレーション実行中は BANK2 のレジスタにアクセスしないでください。
2. SPI アクセスは CLK_INIT_DONE([CLK_SET1: B0 0x02(7)])が 0b0 でも実行できますが、RF 動作は必ず CLK_INIT_DONE が 0b1 であることを確認した後に実行してください。

0x01【RST_SET】

機能:ソフトリセット設定
アドレス:0x01 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	RST3_EN	0	R/W	リセット 3 イネーブル設定 0: リセット禁止 1: リセット許可(実行後、自動的に 0 になります)
6	RST2_EN	0	R/W	リセット 2 イネーブル設定 0: リセット禁止 1: リセット許可(実行後、自動的に 0 になります)
5	RST1_EN	0	R/W	リセット 1 イネーブル設定 0: リセット禁止 1: リセット許可(実行後、自動的に 0 になります)
4	RST0_EN	0	R/W	リセット 0 イネーブル設定 0: リセット禁止 1: リセット許可(実行後、自動的に 0 になります)
3	RST3	0	R/W	PHY 機能リセット bit7(RST3_EN)がリセット許可設定時のみリセット実行します。 0: リセットしない 1: リセット実行(実行後、自動的に 0 になります)
2	RST2	0	R/W	RF 状態制御機能リセット bit6(RST2_EN)がリセット許可設定時のみリセット実行します。 0: リセットしない 1: リセット実行(実行後、自動的に 0 になります)
1	RST1	0	R/W	MODEM 機能リセット bit5(RST1_EN)がリセット許可設定時のみリセット実行します。 0: リセットしない 1: リセット実行(実行後、自動的に 0 になります)
0	RST0	0	R/W	コンフィグレーション機能リセット bit4(RST0_EN)がリセット許可設定時のみリセット実行します。 0: リセットしない 1: リセット実行(実行後、自動的に 0 になります) ※[CLK_SET2]レジスタ(B0 0x03)の bit6-4 を除く全レジスタ値は初期値に戻ります。 ※本リセット後、FIFO 格納データは保証されません。

【説明】

1. イネーブルビット(bit7 から bit4)と実行ビット(bit3 から bit0)は同時に設定してください。リセット実行後は状態を保持せず、自動的に各ビットは 0b0 に上書きされます。
2. 実行ビット(bit3 から bit0)書き込み後、2μsec 以内にリセットが完了します。ただし、SLEEP 中(SLEEP_EN([SLEEP/WU_SET: B0 0x2D(0)])=0b1 時)にリセットを実行設定した場合、SLEEP 解除後のクロック安定化完了割込み INT[0]([INT_SOURCE_GRP1: B0 0x0D(0)])発生時にリセットが実行され、各ビットが 0b0 に上書きされます。リセット実行までに設定状態を変更した場合、変更後の設定が有効となります。

0x02【CLK_SET1】

機能:クロック設定
アドレス:0x02 (BANK0)
初期値:0x3F

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	CLK_INIT_DONE	0	R	クロック安定化完了フラグ
6	Reserved	0	R	予約
5	CLK5_EN	1	R/W	DSSS(受信系)のクロック制御 0: クロック停止 1: クロック供給
4	CLK4_EN	1	R/W	ADC のクロック制御 0: クロック停止 1: クロック供給
3	CLK3_EN	1	R/W	RF 機能(RF 状態制御)のクロック制御 0: クロック停止 1: クロック供給
2	CLK2_EN	1	R/W	送信機能(MOD)のクロック制御 0: クロック停止 1: クロック供給
1	CLK1_EN	1	R/W	受信機能(DEMOD)のクロック制御 0: クロック停止 1: クロック供給
0	CLK0_EN	1	R/W	PHY 機能のクロック制御 0: クロック停止 1: クロック供給

0x03【CLK_SET2】

機能:クロック設定 2
アドレス:0x03 (BANK0)
初期値:0x9B

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	MSTR_CLK_EN	1	R/W	ロジック領域クロック供給制御 0: ディセーブル 1: イネーブル
6	TCXO_EN	0	R/W	TCXO 入力制御 (1) (2) (3) 0: ディセーブル 1: イネーブル
5	Reserved	0	R	予約
4	XTAL_EN	1	R/W	水晶発振回路制御 (1) (2) 0: ディセーブル 1: イネーブル
3	RC32K_EN	1	R/W	内蔵 RC 発振回路制御 0: ディセーブル 1: イネーブル
2	Reserved	0	R/W	予約
1	REG_PA_ENB	1	R/W	PA レギュレータ制御 0: 常時動作 1: 受信時 OFF
0	LOW_RATE_EN	1	R/W	受信部クロック低速化設定 0: ディセーブル 1: イネーブル ※0b1 設定時、”電源電流特性”の受信状態の電流値が得られます。

【ご注意】

(1) TCXO をお使いになる場合は、TCXO_EN を 0b1 に設定してください。また、必ず TCXO_EN、XTAL_EN のいずれか 1 つのみ 0b1 となるように設定してください。
(2) RST0([RST_SET: B0 0x01(0)])ではクリアされません。クリア時は本ビットを SPI アクセスにより変更するか、ハードリセット(RESETN 端子=”L”)を実行してください。
(3) TCXO をお使いになる場合は、本ビットを最初に設定してください。途中でイネーブル設定(本ビット設定前に他のレジスタ設定)をした場合でも、その他レジスタ設定値は初期化されません。

0x04【PKT_CTRL1】

機能:パケット制御 1
アドレス:0x04 (BANK0)
初期値:0x03

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	EXT_PKT_MODE[1:0]	00	R/W	パケット拡張モード設定(Wireless M-Bus 対応) 00: 拡張しない 01: 2 バイト拡張(Extended Link Layer CI=0x8C) 10: 8 バイト拡張(Extended Link Layer CI=0x8D) 上記以外: 予約 ※「パケットフォーマット」を参照してください。 ※ 10/16 バイト拡張を行う場合は 0b00 に設定し、 EXT_PKT_MODE2[DATA_SET2: B0 0x08(7-6)]を設定してください。
5	LEN_LF_EN	0	R/W	Length 領域送出順設定 0: MSB ファースト 1: LSB ファースト
4	DAT_LF_EN	0	R/W	データ領域送出順設定 0: MSB ファースト 1: LSB ファースト
3	RX_EXTPKT_OFF	0	R/W	受信時パケット拡張モードオフ設定(Wireless M-Bus 対応) 0: 拡張パケットを自動認識する 1: 拡張パケットを自動認識しない
2	IEEE802_15_4G_EN	0	R/W	IEEE802.15.4g モード設定 0: IEEE802_15.4g モード無効 1: IEEE802_15.4g モード有効 ※0b1 設定時、受信時の L-field の bit12(CRC 設定)、bit11(Whitening 設定)を自動判定し、Whitening/CRC 処理を行います。 LENGTH_MODE([PKT_CTRL2: B0 0x05(0)])を 0b1(2 バイトモード)設定が必要です。 ※送信時の自動認識機能はありません。各レジスタにて WHT_SET([DATA_SET2: B0 0x08(0)])と CRC_LEN[1:0]([PKT_CTRL2: B0 0x05(5-4)])設定が必要となります。 ※詳細は「IEEE802.15.4g モード設定」をご参照ください。
1:0	PKT_FORMAT	11	R/W	パケットフォーマット設定 00: FormatA(Wireless M-Bus 対応) 01: FormatB(Wireless M-Bus 対応) 10: FormatC(汎用フォーマット) 11: FormatD(汎用フォーマット) ※「パケットフォーマット」を参照してください。

0x05【PKT_CTRL2】

機能:パケット制御 2
アドレス:0x05 (BANK0)
初期値:0x10

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	CRC_INIT_SEL	0	R/W	CRC 演算初期値選択設定 0: ALL0 1: ALL1
6	CRC_COMP_OFF	0	R/W	CRC 補数出力 OFF 設定 0: 補数出力する 1: 補数出力しない
5:4	CRC_LEN[1:0]	01	R/W	CRC 長設定 00: CRC8 01: CRC16 10: CRC32 上記以外: 予約 ※0b00(CRC8)および 0b10(CRC32)は Format C のみ有効です。 ※詳細は「CRC 機能」を参照してください。
3	RX_CRC_EN	0	R/W	受信 CRC 設定 0: ディセーブル 1: イネーブル(CRC 演算実行) ※イネーブル設定した場合、受信データに対して CRC 演算結果を[CRC_ERR_H/M/L: B0 0x13/14/15]に表示します。
2	TX_CRC_EN	0	R/W	送信 CRC 設定 0: ディセーブル 1: イネーブル(CRC 演算実行) ※イネーブル設定した場合、送信データに対して CRC を付加します。
1:0	LENGTH_MODE[1:0]	00	R/W	Length フィールド長設定 00: 1 バイトモード 01: 2 バイトモード(Length 領域を上位に 3bit 拡張します)

【説明】

1. 送信時、[TX_PKT_LEN_H/L: B0 0x7A/7B]で設定される Length 値からトータル Length を算出します。トータル Length 分の送信後、送信完了となります。
2. 受信時、受信した Length 値が示す Length 値からトータル Length を算出します。トータル Length 分のデータ受信後、受信完了となります。
3. 詳細は「パケットフォーマット」を参照してください。

0x06【DRATE_SET】

機能：データレート設定
アドレス：0x06 (BANK0)
初期値：0xCC

<table>
<tr><th>Bit</th><th>ビット名</th><th>初期値</th><th>R/W</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>7:4</td><td>RX_DRATE [3:0]</td><td>0010</td><td>R/W</td><td>受信データレート設定
※LOW_RATE_EN ([CLK_SET2:B0 0x03(0)])=0b1 の時、本ビット設定により[RX_RATE1_H/L: B1 0x04/05]および[RX_RATE2: B1 0x06]が各レートに応じた最適値を自動的に設定されます。
※但し、LOW_RATE_EN=0b0 の時、最適値は設定されません。直接[RX_RATE1_H/L: B1 0x04/05]および[RX_RATE2: B1 0x06]を「初期設定レジスタ」に従って設定してください。
※RXDIO_CTRL[1:0]([DIO_SET: B0 0x0C(7-6)])が 0b10 または 0b11 を設定した DIO モードでは、9.6kbps 以下のデータレートは本レジスタにより設定できません。DIO モードを使用する場合は、直接[RX_RATE1_H/L: B1 0x04/05]および[RX_RATE2: B1 0x06]を「初期設定レジスタ」に従って設定してください。
<table>
<tr><th>設定値</th><th>データレート</th></tr>
<tr><td>0000</td><td>1.2kbps</td></tr>
<tr><td>0001</td><td>2.4kbps</td></tr>
<tr><td>0010</td><td>4.8kbps</td></tr>
<tr><td>0011</td><td>9.6kbps</td></tr>
<tr><td>0100</td><td>10kbps</td></tr>
<tr><td>0101</td><td>19.2kbps</td></tr>
<tr><td>0110</td><td>15kbps</td></tr>
<tr><td>0111</td><td>20kbps</td></tr>
<tr><td>1000</td><td>32.768kbps</td></tr>
<tr><td>1001</td><td>40kbps</td></tr>
<tr><td>1010</td><td>50kbps</td></tr>
<tr><td>1011</td><td>100kbps</td></tr>
<tr><td>1100</td><td>200kbps</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>3:0</td><td>TX_DRATE [3:0]</td><td>0010</td><td>R/W</td><td>送信データレート設定
※本ビット設定により[TX_RATE_H/L: B1 0x02/03]が各レートに応じた最適値を自動的に設定されます。
<table>
<tr><th>設定値</th><th>データレート</th></tr>
<tr><td>0000</td><td>1.2kbps</td></tr>
<tr><td>0001</td><td>2.4kbps</td></tr>
<tr><td>0010</td><td>4.8kbps</td></tr>
<tr><td>0011</td><td>9.6kbps</td></tr>
<tr><td>0100</td><td>10kbps</td></tr>
<tr><td>0101</td><td>19.2kbps</td></tr>
<tr><td>0110</td><td>15kbps</td></tr>
<tr><td>0111</td><td>20kbps</td></tr>
<tr><td>1000</td><td>32.768kbps</td></tr>
<tr><td>1001</td><td>40kbps</td></tr>
<tr><td>1010</td><td>50kbps</td></tr>
<tr><td>1011</td><td>100kbps</td></tr>
<tr><td>1100</td><td>200kbps</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

【説明】
1. データレート変更時は、関連するレジスタの設定も必要です。詳細は「データレート変更時の設定」をご参照ください。
2. 4FSK/4GFSK 設定時はビットレートを設定します。Air 上では設定レートの 1/2 となります。

0x07【DATA_SET1】

機能:送受信データ各種設定 1
アドレス:0x07 (BANK0)
初期値:0x15

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	PB_PAT	0	R/W	送受信極性設定 0: 正極性 1: 負極性 ※0b1 設定時、PR_PAT[PREAMBLE_SET: B0 0x3F(3-0)]の極性を反転します。
6	TX_FSK_POL	0	R/W	送信データ極性設定 0: データ“1”=高い周波数に偏位、データ“0”=低い周波数に偏位 1: データ“1”=低い周波数に偏位、データ“0”=高い周波数に偏位
5	RX_FSK_POL	0	R/W	受信データ極性設定 0: 高い周波数偏位=データ”1”、低い周波数偏位=データ”0” 1: 低い周波数偏位=データ”1”、高い周波数偏位=データ”0”
4	GFSK_EN	1	R/W	ガウシアンフィルタ設定 0: ディセーブル 1: イネーブル 本設定と変調方式の関係は以下の通りです。 MOD_TYPE([MOD_CTRL: B6 0x01(1-0)])=0b00(FSK)時 0: FSK 1: GFSK MOD_TYPE([MOD_CTRL: B6 0x01(1-0)])=0b01(BPSK)時 0: 設定禁止 1: イネーブル ※詳細は「FSK 変調」をご参照ください。 ※BPSK 変調時は本ビットは必ず 0b1 に設定してください。
3:2	RX_DEC_SCHEME [1:0]	01	R/W	受信符号化モード設定 00: マンチェスタ符号化 01: NRZ 10: 3-out-of-6 符号化 11: 予約 ※マンチェスタ符号化は、データ”0”に対して”10”、データ”1”に対して”01”に符号化します。
1:0	TX_DEC_SCHEME [1:0]	01	R/W	送信符号化モード設定 00: マンチェスタ符号化 01: NRZ 10: 3-out-of-6 符号化 11: 予約 ※マンチェスタ符号化は、データ”0”に対して”10”、データ”1”に対して”01”に符号化します。

0x08【DATA_SET2】

機能:送受信データ各種設定 2
アドレス:0x08 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	EXT_PKT_MODE2[1:0]	00	R/W	パケット拡張モード設定 2(Wireless M-Bus2013 対応) 00: 拡張しない 01: 10 バイト拡張(Extended Link Layer CI=0x8E) 10: 16 バイト拡張(Extended Link Layer CI=0x8F) 上記以外: 予約 ※「パケットフォーマット」を参照してください。 ※ 2/8 バイト拡張を行う場合は、0b00 設定し、 EXT_PKT_MODE[PKT_CTRL1: B0 0x04(7-6)]を設定してください。
5	FSK_SEL	0	R/W	FSK 多値化設定 0: 2 値 FSK モード 1: 4 値 FSK モード
4	SYNCWORD_SEL	0	R/W	同期ワードパターン選択設定 0: 同期ワードパターン 1 を選択する 1: 同期ワードパターン 2 を選択する ※詳細は「SyncWord 検出機能」をご参照ください。
3	2SW_DET_EN	0	R/W	SyncWord2 面待ち設定 0: 2 面待ちしない 1: 2 面待ちする ※詳細は「SyncWord 検出機能」をご参照ください。
2	2PB_DET_EN	0	R/W	受信プリアンブル 2 面待ち設定 0: 2 面待ちしない(“01”パターンと”10”パターンの区別をする) 1: 2 面待ちする(“01”パターンと”10”パターンの区別をしない)
1	MAN_POL	0	R/W	マンチェスタ極性設定 0: 極性を反転しない 1: 極性を反転する
0	WHT_SET	0	R/W	Whitening 設定 0: Whitening 無効 1: Whitening 有効

0x09【CH_SET】

機能:送受信チャネル設定
アドレス:0x09 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	RF_CH[7:0]	0000_0000	R/W	送受信チャネル設定(設定範囲 0～255) ※詳細は「チャネル周波数の設定」をご参照ください。

0x0A【RF_STATUS_CTRL】

機能:RF 状態変更制御
アドレス:0x0A (BANK0)
初期値:0x08

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	INFINITE_TX	0	R/W	繰り返し送信モード設定 0: 1 パケット送信 1: 繰り返し送信(無限) ※0b1 設定時、プリアンブル～パケット最終データ送信後、プリアンブル送信に戻り、送信を繰り返します。送信を終了する場合、Force_TRX_OFF を実行します。
6	AUTO_DATA_REQ	0	R/W	自動送信要求設定 0: ディセーブル 1: イネーブル ※0b1 設定時、TX_ON 命令発行により自動でデータ送信要求受付完了割込みを発生し、送信します。このとき、送信されるデータは送信 FIFO に書き込んだ最新のデータが送信されます。
5	FAST_TX_EN	0	R/W	FAST_TX モード設定 0: FAST_TX モードで送信を行わない 1: FAST_TX モードで送信を行う ※0b1 設定時、送信データの書き込み量が[TXFIFO_THRL: B0 0x18(5-0)]で設定される値より大きくなった場合、送信状態へ遷移します。 ※FEC_EN([DSSS_CTRL: B7 0x01(1)])=0b1 設定時、本設定を 0b1 に設定した場合、正常に符号化処理が行われません。したがって、FEC_EN=0b1 設定時は本機能は使用せず、FIFO ライト後 TX_ON 命令発行により送信してください。なお、FIFO ライト完了後から符号化処理が開始し、符号化処理時間は 350us 程度かかります。符号化処理時間経過後に TX_ON 命令を発行してください。
4	AUTO_TX_EN	0	R/W	自動送信設定 0: 自動送信を行わない 1: 自動送信を行う ※0b1 設定時、Length 分の送信データの書き込みを完了した場合、送信状態へ遷移します。 ※FEC_EN([DSSS_CTRL: B7 0x01(1)])=0b1 設定時、本設定を 0b1 に設定した場合、正常に符号化処理が行われません。したがって、FEC_EN=0b1 設定時は本機能は使用せず、FIFO ライト後 TX_ON 命令発行により送信してください。なお、FIFO ライト完了後から符号化処理が開始し、符号化処理時間は 350us 程度かかります。符号化処理時間経過後に TX_ON 命令を発行してください。
3:2	RXDONE_MODE[1:0]	10	R/W	パケット受信完了後の RF 状態設定 00: IDLE 状態へ遷移(TRX_OFF します) 01: TX 状態へ遷移 10: RX 状態を継続 11: SLEEP 状態へ遷移
1:0	TXDONE_MODE[1:0]	00	R/W	パケット送信完了後の RF 状態設定 00: IDLE 状態へ遷移(TRX_OFF します) 01: TX 状態を継続 10: RX 状態へ遷移 11: SLEEP 状態へ遷移

【説明】
1. 詳細は「LSI 状態制御」をご参照ください。

0x0B【RF_STATUS】

機能:RF 部動作設定と状態表示
アドレス:0x0B (BANK0)
初期値:0x88

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	GET_TRX[3:0]	1000	R	RF 部動作状態表示 0110: RX_ON(受信状態) 1000: TRX_OFF(RF OFF 状態) 1001: TX_ON(送信状態) 上記以外: 予約
3:0	SET_TRX[3:0]	1000	R/W	RF 部動作状態設定 0011: Force_TRX_OFF(強制 RF OFF 設定) 0110: RX_ON(受信設定) (*1) 1000: TRX_OFF(RF OFF 設定) (*3) 1001: TX_ON(送信設定) (*2) 上記以外: 設定無効で状態を変更しない ※1 送信中に RX_ON 設定可能です。その場合、送信完了後に RX_ON へ遷移します。 ※2 受信中に TX_ON 設定可能です。その場合、受信完了後に TX_ON へ遷移します。 ※3 TRX_OFF 設定した場合、送信または受信完了後に RF を OFF します。Force_TRX_OFF 設定した場合、送信中または受信中でも強制的に RF を OFF します。

【説明】
1. 詳細は「LSI 状態制御」をご参照ください。

0x0C【DIO_SET】

機能:DIO 制御
アドレス:0x0C (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	RXDIO_CTRL[1:0]	00	R/W	受信 DIO モード設定 00: DIO ディセーブル(FIFO モード) 01: 常時出力モード (DIO/DCLK を常時出力する(復調データ/クロック出力モード)) 10: データ出力モード 1 (復号化前 DIO/DCLK を SyncWord 以降に出力する) 11: データ出力モード 2 (復号化後 DIO/DCLK を SyncWord 以降に出力する) ※0b00 設定時のみ、FIFO が使用可能です。 ※0b01 設定時は BER 測定時に使用します。 ※0b10 設定時、受信データを FIFO にバッファリングするため、FIFO は使用できません。bit0(DIO_START)を 0b1 に設定することにより DIO/DCLK が出力されます。FIFO へのバッファリングは L-field 以降のデータをバッファリングします。 ※0b11 設定時、受信データを FIFO にバッファリングするため、FIFO は使用できません。bit0(DIO_START)を 0b1 に設定することにより DIO/DCLK が出力されます。Length 分のデータ出力後、DIO/DCLK 出力が停止します。FIFO へのバッファリングは Data-field のデータをバッファリングします。
5:4	TXDIO_CTRL[1:0]	00	R/W	送信 DIO モード設定 00: DIO ディセーブル(FIFO モード) 01: 常時入力モード(DCLK を常時出力する) 10: データ入力モード(DCLK を SyncWord 以降に出力する) 上記以外: 予約 ※0b01/10 設定時、FIFO は使用できません。DCLK の立下りに同期して符号化後の送信データを入力してください。
3	Reserved	0	R	予約
2	DIO_RX_COMPLETE	0	R/W	DIO 受信完了設定 0: 受信完了しない 1: 受信完了する ※0b1 設定後、自動的に 0 に戻ります。
1	Reserved	0	R	予約
0	DIO_START	0	R/W	DIO 受信データ出力開始設定 0: 出力しない 1: 出力する ※同期解除により 0 に戻ります。

【説明】

1. 詳細は“DIO 機能”をご参照ください。

0x0D【INT_SOURCE_GRP1】

機能:割込み表示
アドレス:0x0D (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	INT[7]	0	R/W	クロックキャリブレーション完了割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり
6	INT[6]	0	R/W	ウェイクアップ割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり ※SLEEP 中に本割込みをクリアした場合、ウェイクアップタイマによるウェイクアップ時に割込みは発生しません。 【ご注意】3 を参照してください。
5	INT[5]	0	R/W	FIFO-Full 割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり ※FIFO 使用量が[TXFIFO_THRH: B0 0x17(5-0)]、または受信 FIFO の残量が[RXFIFO_THRH: B0 0x19(5-0)]で設定される閾値を越えた場合に割込みを発生します。
4	INT[4]	0	R/W	FIFO-Empty 割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり ※送信 FIFO 使用量が[TXFIFO_THRL: B0 0x18]、または受信 FIFO の残量が[RXFIFO_THRL: B0 0x1A]で設定される閾値を下回った場合に割込みを発生します。
3	INT[3]	0	R/W	RF 状態遷移完了割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり
2	INT[2]	0	R/W	PLL ロック外れ割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり ※VTUNE_INT_ENB [PLL_VTRSLT: B0 0x40(2)]=0b0 設定時、本割込みは、PLL ロック外れ時または VCO 調整電圧範囲外検出時に割り込みが発生します。
1	INT[1]	0	R/W	VCO キャリブレーション完了割込み または Fuse アクセス完了割込み または IQ 自動調整完了割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり ※RESETN 端子解除(RESETN=”H”)後、または PDN_EN([SLEEP/WU_SET: B0 0x2D(2)])=0b1 設定し、SLEEP 状態からの復帰した場合、Fuse アクセス完了割込みが発生します。VCO キャリブレーションは、INT[1]クリア後に実行してください。
0	INT[0]	0	R/W	クロック安定化完了割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり

【ご注意】

1. [INT_EN_GRP1: B0 0x10]の設定によらず本レジスタの値は内部状態に応じて変化します。書き込み動作は 0b0 のみ有効であり、0b1 の書き込みは無視されます。
2. マスクされていない割込みが要因がひとつでも発生していると、割り込み通知信号は Low 出力を継続します。
3. SLEEP 中に割込みクリアした場合、即時にクリアされず、SLEEP 復帰後のクロック安定化完了タイミングでクリアされます。SLEEP 中に割込みを即時にクリアする場合は SLEEP_INT_CLR[SLEEP_INT_CLR: B0 0x75]を実行してください。

0x0E【INT_SOURCE_GRP2】

機能:割込み表示(受信関連)
アドレス:0x0E (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	INT[15]	0	R/W	Sync エラー割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり ※SyncWord 検出以降、L-filed で指定されるパケット長受信中に受信同期が外れた場合に割込みを発生します。
6	INT[14]	0	R/W	Field チェック割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり
5	INT[13]	0	R/W	SyncWord 検出割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり
4	INT[12]	0	R/W	予約
3	INT[11]	0	R/W	受信 Length エラー割込み (1) 0: 割込みなし 1: 割込みあり
2	INT[10]	0	R/W	ダイバーシティサーチ完了割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり ※ダイバーシティサーチが完了した場合、SyncWord 検出タイミングで割込みを発生します。
1	INT[9]	0	R/W	CRC エラー割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり ※CRC エラ検出時、割込みを発生します。Format A/B については CRC-field を複数持つため、エラーが発生した CRC ブロックを[CRC_ERR_H/M/L: B0 0x13/14/15]に表示します。Format C については CRC-field は 1 つのみのため、本割込みで結果は判断することができます。
0	INT[8]	0	R/W	受信完了割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり ※L-field が示す Length 分のデータを受信した場合、割込みを通知します。

【説明】

1. 以下に示す L-field を受信した場合、受信 Length エラー割込みを発生します。

パケットフォーマット [PKT_CTRL1: B0 0x04]	拡張フォーマット [PKT_CTRL1: B0 0x04]	受信 Length エラーを示す Length 値
Fromat A	拡張なし	8 バイト以下
	2 バイト拡張	12 バイト以下
	8 バイト拡張	16 バイト以下
Fromat B	拡張なし	10 バイト以下、128～129 バイト
	2 バイト拡張	
	8 バイト拡張	17 バイト以下、19～20 バイト、128～129 バイト
Fromat C	-	0 バイト(CRC8) 1 バイト(CRC16) 2 バイト(CRC32)

【ご注意】

1. [INT_EN_GRP2: B0 0x11]の設定によらず本レジスタの値は内部状態に応じて変化します。書き込み動作は 0b0 のみ有効であり、0b1 の書き込みは無視されます。
2. マスクされていない割込みが要因がひとつでも発生していると、割り込み通知信号は Low 出力を継続します。

3. SLEEP 中に割込みクリアした場合、即時にクリアされず、SLEEP 復帰後のクロック安定化完了タイミングでクリアされます。SLEEP 中に割込みを即時にクリアする場合は SLEEP_INT_CLR[SLEEP_INT_CLR: B0 0x75]を実行してください。
4. INT[12](INT_SOURCE_GRP2: B0 0x0E(4))は、受信中の FIFO 読み出し時に 1 になる場合があります。INT[12]は無視してご使用ください。なお、INT_EN[12]([INT_EN_GRP2: B0 0x11(4)])を 0b1 に設定し、かつ INT[12]=0b1 になった場合、割込み通知されますので必ず INT_EN[12]=0b0 に設定してご使用ください。

0x0F【INT_SOURCE_GRP3】

機能:割込み表示(送信関連)
アドレス:0x0F (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	INT[23]	0	R/W	汎用タイマ 2 割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり
6	INT[22]	0	R/W	汎用タイマ 1 割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり
5	Reserved	0	R/W	予約
4	INT[20]	0	R/W	送信 FIFO アクセスエラー割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり ※FIFO モードを用いたデータ送信中に送信 FIFO のオーバーラン、アンダーランが生じた場合、およびデータ送信要求受付完了後、データ送信せずに次パケットの送信 FIFO ライトを行った場合に割込みを発生します。
3	INT[19]	0	R/W	送信 Length エラー割込み (1) 0: 割込みなし 1: 割込みあり
2	INT[18]	0	R/W	CCA 完了割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり ※CCA_INT_SEL([PREAMBLE_SET: B0 0x3F(7-6)])にて CCA 完了時、CCA キャリアあり時、CCA キャリアなし時の割込み通知を選択可能です。
1	INT[17]	0	R/W	データ送信要求受付完了割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり ※[TX_PKT_LEN_H: B0 0x7A]および[TX_PKT_LEN_L: B0 0x7B]に示す Length 分のデータを送信 FIFO にライトした場合、割込みを通知します。
0	INT[16]	0	R/W	送信完了割込み 0: 割込みなし 1: 割込みあり ※[TX_PKT_LEN_H: B0 0x7A]および[TX_PKT_LEN_L: B0 0x7B]に示す Length 分のデータを送信した場合、割込みを通知します。

【説明】
1. 以下に示す L-field を[TX_PKT_LEN_H: B0 0x7A]および[TX_PKT_LEN_L: B0 0x7B]にライトした場合、送信 Length エラー割込みを発生します。

パケットフォーマット [PKT_CTRL1: B0 0x04]	拡張フォーマット [PKT_CTRL1: B0 0x04]	送信 Length エラーを示す Length 値
Fromat A	拡張なし	8 バイト以下
	2 バイト拡張	12 バイト以下
	8 バイト拡張	16 バイト以下
Fromat B	拡張なし	10 バイト以下、128～129 バイト
	2 バイト拡張	
	8 バイト拡張	17 バイト以下、19～20 バイト、128～129 バイト
Fromat C	-	0 バイト(CRC8) 1 バイト(CRC16) 2 バイト(CRC32)

【ご注意】
1. [INT_EN_GRP3: B0 0x12]の設定によらず本レジスタの値は内部状態に応じて変化します。書き込み動作は 0b0 のみ有効であり、0b1 の書き込みは無視されます。
2. マスクされていない割込みが要因がひとつでも発生していると、割り込み通知信号は Low 出力を継続します。
3. SLEEP 中に割込みクリアした場合、即時にクリアされず、SLEEP 復帰後のクロック安定化完了タイミングでクリアされます。SLEEP 中に割込みを即時にクリアする場合は SLEEP_INT_CLR[SLEEP_INT_CLR: B0 0x75]を実行してください。

0x10【INT_EN_GRP1】

機能：割込み要因 0～7 の許可設定
アドレス：0x10 (BANK0)
初期値：0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	INT_EN[7:0]	0000_0001	R/W	割込み要因 0 から割込み要因 7 の許可設定 0: 割込み通知を行わない 1: 割込み通知を行う

【説明】
1. 各割り込みの要因(機能名)は「割り込み要因表」を参照してください。
2. 各割り込みの詳細は[INT_SOURCE_GRP1: B0 0x0D]を参照してください。

0x11【INT_EN_GRP2】

機能:割込み要因 8～15 の許可設定
アドレス:0x11 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:5	INT_EN[15:13]	000	R/W	割込み要因 13 から割込み要因 15 の許可設定 0: 割込み通知を行わない 1: 割込み通知を行う
4	Reserved	0	R/W	予約 ※必ず 0b0 に設定してください。
3:0	INT_EN[11:8]	0000	R/W	割込み要因 8 から割込み要因 11 の許可設定 0: 割込み通知を行わない 1: 割込み通知を行う

【説明】
1. 各割り込みの要因(機能名)は「割り込み要因表」を参照してください。
2. 各割り込みの詳細は[INT_SOURCE_GRP2: B0 0x0E]を参照してください。

【ご注意】
1. I NT[12](INT_SOURCE_GRP2: B0 0x0E(4))は、受信中の FIFO 読み出し時に 1 になる場合があります。INT[12]は無視してご使用ください。なお、INT_EN[12]([INT_EN_GRP2: B0 0x11(4)])を 0b1 に設定し、かつ INT[12]=0b1 になった場合、割込み通知されますので必ず INT_EN[12]=0b0 に設定してご使用ください。

0x12【INT_EN_GRP3】

機能:割込み要因 16～23 の許可設定
アドレス:0x12 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	INT_EN[23:22]	0000_0000	R/W	割込み要因 22 から割込み要因 23 の許可設定 0: 割込み通知を行わない 1: 割込み通知を行う
5	Reserved	000	R/W	予約
4:0	INT_EN[20:16]	0000_0000	R/W	割込み要因 16 から割込み要因 20 の許可設定 0: 割込み通知を行わない 1: 割込み通知を行う

【説明】
1. 各割り込みの要因(機能名)は「割り込み要因表」を参照してください。
2. 各割り込みの詳細は[INT_SOURCE_GRP3: B0 0x0F]を参照してください。

0x13【CRC_ERR_H】

機能:CRC エラー表示(上位バイト)
アドレス:0x13 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	CRC_LEN2_EN	0	R/W	CRC 長設定 2 イネーブル 0: イネーブル 1: ディセーブル
6:5	CRC_LEN2[1:0]	00	R/W	CRC 長設定 2 00: CRC8 01: CRC16 10: CRC32 11: 予約 ※CRC_LEN2_EN=0b1 設定時に有効になり、CRC は本設定に従い演算されます。ただし、パケットに付加する、またはパケットの CRC をチェックする CRC 長は CRC_LEN([PKT_CTRL2: B0 0x05(5-4)])によって決定されます。
4	CRC_INT_SET	0	R/W	CRC チェック割込み選択設定 0: CRC エラー時に割り込み通知する 1: CRC OK 時に割り込み通知する
3:1	Reserved	000	R	予約
0	CRC_ERR[16]	0	R	17th CRC エラー表示 ※Format A(Wireless M-Bus 対応)に対応します。 0: CRC OK または CRC 判定結果なし 1: CRC エラー

【説明】
1. 詳細は「CRC 機能」を参照してください。

0x14【CRC_ERR_M】

機能:CRC エラー表示(中位バイト)
アドレス:0x14 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	CRC_ERR[15]	0	R	16th CRC エラー表示 ※Format A(Wireless M-Bus 対応)に対応します。 0: CRC OK または CRC 判定結果なし 1: CRC エラー
6	CRC_ERR[14]	0	R	15th CRC エラー表示 ※Format A(Wireless M-Bus 対応)に対応します。 0: CRC OK または CRC 判定結果なし 1: CRC エラー
5	CRC_ERR[13]	0	R	14th CRC エラー表示 ※Format A(Wireless M-Bus 対応)に対応します。 0: CRC OK または CRC 判定結果なし 1: CRC エラー
4	CRC_ERR[12]	0	R	13th CRC エラー表示 ※Format A(Wireless M-Bus 対応)に対応します。 0: CRC OK または CRC 判定結果なし 1: CRC エラー
3	CRC_ERR[11]	0	R	12th CRC エラー表示 ※Format A(Wireless M-Bus 対応)に対応します。 0: CRC OK または CRC 判定結果なし 1: CRC エラー
2	CRC_ERR[10]	0	R	11th CRC エラー表示 ※Format A(Wireless M-Bus 対応)に対応します。 0: CRC OK または CRC 判定結果なし 1: CRC エラー
1	CRC_ERR[9]	0	R	10th CRC エラー表示 ※Format A(Wireless M-Bus 対応)に対応します。 0: CRC OK または CRC 判定結果なし 1: CRC エラー
0	CRC_ERR[8]	0	R	9th CRC エラー表示 ※Format A(Wireless M-Bus 対応)に対応します。 0: CRC OK または CRC 判定結果なし 1: CRC エラー

【説明】

1. 詳細は「CRC 機能」を参照してください。

0x15【CRC_ERR_L】

機能:CRC エラー表示(下位バイト)
アドレス:0x15 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	CRC_ERR[7]	0	R	8th CRC エラー表示 ※Format A(Wireless M-Bus 対応)に対応します。 0: CRC OK または CRC 判定結果なし 1: CRC エラー
6	CRC_ERR[6]	0	R	7th CRC エラー表示 ※Format A(Wireless M-Bus 対応)に対応します。 0: CRC OK または CRC 判定結果なし 1: CRC エラー
5	CRC_ERR[5]	0	R	6th CRC エラー表示 ※Format A(Wireless M-Bus 対応)に対応します。 0: CRC OK または CRC 判定結果なし 1: CRC エラー
4	CRC_ERR[4]	0	R	5th CRC エラー表示 ※Format A(Wireless M-Bus 対応)に対応します。 0: CRC OK または CRC 判定結果なし 1: CRC エラー
3	CRC_ERR[3]	0	R	4th CRC エラー表示 ※Format A(Wireless M-Bus 対応)に対応します。 0: CRC OK または CRC 判定結果なし 1: CRC エラー
2	CRC_ERR[2]	0	R	3rd CRC エラー表示 ※Format A/B(Wireless M-Bus 対応)に対応します。 0: CRC OK または CRC 判定結果なし 1: CRC エラー
1	CRC_ERR[1]	0	R	2nd CRC エラー表示 ※Format A/B(Wireless M-Bus 対応)に対応します。 0: CRC OK または CRC 判定結果なし 1: CRC エラー
0	CRC_ERR[0]	0	R	1st CRC エラー表示 ※Format A/B(Wireless M-Bus 対応)に対応します。 0: CRC OK または CRC 判定結果なし 1: CRC エラー

【説明】
1. 詳細は「CRC 機能」を参照してください。

0x16【STATE_CLR】

機能:状態クリア設定
アドレス:0x16 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	STATE_CLR_EN	0	R/W	ステートクリアイネーブル設定 0: ステートクリア禁止 1: ステートクリア許可 bit0～4 のステートクリアは本ビットがステートクリア許可設定時ののみ実行します。クリア実行後、本ビットは自動的に 0 に戻ります。
6:5	Reseverd	00	R	予約
4	STATE_CLR4	0	R/W	アドレスチェックカウンタクリア 1: [ADDR_CHK_CTR_H/L: B1 0x62/63]で表示するアドレスチェックカウンタをクリアします。 ※bit7(STATE_CLR_EN)が 0b1 設定時にクリア動作を行います。クリア実行後、本ビットは自動的に 0 に戻ります。
3	STATE_CLR3	0	R/W	ダイバーシティステートクリア 1: ダイバーシティステートをクリアします。 ※bit7(STATE_CLR_EN)が 0b1 設定時にクリア動作を行います。クリア実行後、本ビットは自動的に 0 に戻ります。
2	STATE_CLR2	0	R/W	PHY ステートクリア 1: PHY ステートをクリアします。 ※bit7(STATE_CLR_EN)が 0b1 設定時にクリア動作を行います。クリア実行後、本ビットは自動的に 0 に戻ります。
1	STATE_CLR1	0	R/W	受信 FIFO ポインタクリア 1: ライトポインタ/リードポインタをクリアします。 ※bit7(STATE_CLR_EN)が 0b1 設定時にクリア動作を行います。クリア実行後、本ビットは自動的に 0 に戻ります。
0	STATE_CLR0	0	R/W	送信 FIFO ポインタクリア 1: ライトポインタ/リードポインタをクリアします。 ※bit7(STATE_CLR_EN)が 0b1 設定時にクリア動作を行います。クリア実行後、本ビットは自動的に 0 に戻ります。

【説明】

1. イネーブルビット(bit7)と実行ビット(bit4 から bit0)は同時に設定してください。クリア実行後、自動的に各ビットに 0b0 が上書きされます。
2. 実行ビット(bit4 から bit0)書き込み後、マスタークロック周期×[RX_RATE1_H/L: B1 0x04/05]設定値×2[usec]後クリアが完了します。

0x17【TXFIFO_THRH】

機能:送信 FIFO の Full レベル設定
アドレス:0x17 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	TXFIFO_THRH_EN	0	R/W	送信 FIFO の Full レベルイネーブル 0: ディセーブル 1: イネーブル
6	Reserved	0	R	予約
5:0	TXFIFO_THRH[5:0]	00_0000	R/W	送信 FIFO の Full レベル設定 ※bit7(TXFIFO_THRH_EN)=0b1 設定時のみ有効です。

【説明】
1. 詳細な使い方は「送信 FIFO の使用量告知機能の使用方法」を参照してください。
2. 送信 FIFO に書き込み、FIFO 内のデータ量が本レジスタの設定値以上となった場合に割り込みグループ1の INT[5]にて通知します。

0x18【TXFIFO_THRL】

機能:送信 FIFO の Empty レベル設定および FAST_TX モード時の送信トリガレベル設定
アドレス:0x18 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	TXFIFO_THRL_EN	0	R/W	送信 FIFO の Empty レベルイネーブル 0: ディセーブル 1: イネーブル
6	Reserved	0	R	予約
5:0	TXFIFO_THRL[5:0]	00_0000	R/W	送信 FIFO の Empty レベル設定および FAST_TX モード時の送信トリガレベル設定 ※bit7(TXFIFO_THRH_EN)=0b1 設定時のみ有効です。 ※TXFIFO_THRL[5:0]は 1 以上の値を設定してください。 ※FAST_TX モード時の送信トリガレベルとして動作させる場合は、FAST_TX_EN([RF_STATUS_CTRL: B0 0x0A(5)])を 0b1 に設定し、TXFIFO_THRL[5:0]は送信データの総書き込み量より 3 以上少ない値を設定してください。

【説明】
1. 詳細な使い方は「送信 FIFO の使用量告知機能の使用方法」を参照してください。
2. 送信 FIFO に書き込み、FIFO 内のデータ量が本レジスタの設定値を下回った場合に割り込みグループ1の INT[4]にて通知します。

0x19【RXFIFO_THRH】

機能:受信 FIFO の Full レベルイネーブルとレベル設定
アドレス:0x19 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	RXFIFO_THRH_EN	0	R/W	受信 FIFO の Full レベルイネーブル 0: ディセーブル 1: イネーブル
6	Reserved	0	R	予約
5:0	RXFIFO_THRH[5:0]	00_0000	R/W	受信 FIFO の Full レベル設定 ※bit7(RXFIFO_THRH_EN)=0b1 設定時のみ有効です。

【説明】
1. 詳細な使い方は「受信 FIFO の使用量告知機能の使用方法」を参照してください。
2. 受信 FIFO に受信データが書き込まれ、FIFO 内のデータ量が本レジスタの設定値以上となった場合に割り込みグループ1の INT[5]にて通知します。

0x1A【RXFIFO_THRL】

機能:受信 FIFO の Full レベルイネーブルとレベル設定(上位バイト)
アドレス:0x1A (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	RXFIFO_THRL_EN	0	R/W	受信 FIFO の Empty レベルイネーブル 0: ディセーブル 1: イネーブル
6	Reserved	0	R	予約
5:0	RXFIFO_THRL[5:0]	00_0000	R/W	受信 FIFO の Empty レベル設定 ※bit7(RXFIFO_THRL_EN)=0b1 設定時のみ有効です。 ※RXFIFO_THRL[5:0]は 2 以上の値を設定してください。

【説明】
1. 詳細な使い方は「受信 FIFO の残量告知機能の使用方法」を参照してください。
2. 受信 FIFO に受信データが書き込まれ、FIFO 内のデータ量が本レジスタの設定値を下回った場合に割り込みグループ1の INT[4]にて通知します。

0x1B【C_CHECK_CTRL】

機能:コントロールフィールド検出設定
アドレス:0x1B (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	CA_RXD_CLR	0	R/W	Field 不一致時の受信データ処理設定 0: 受信データを破棄しない 1: 受信データを破棄する ※0b1 設定時、不一致検出後直ちに受信データを破棄し、次パット受信待ちを行います
6	CA_INT_CTRL	0	R/W	Field チェック割込み設定 0: 一致時に割込みを通知する 1: 不一致時に割込みを通知する
5	Reserved	0	R	予約
4	C_FIELD_CODE5_EN	0	R/W	コントロールフィールドパターン 5 チェックイネーブル 0: チェックしない 1: チェックする ※受信したコントロールフィールドデータが C_FIELD_CODE5 と一致した場合、他のフィールドデータ(マニュファクチャーID フィールド/アドレスフィールド)が不一致であった場合でも Field チェック結果は一致となります。
3	C_FIELD_CODE4_EN	0	R/W	コントロールフィールドパターン 4 チェックイネーブル 0: チェックしない 1: チェックする
2	C_FIELD_CODE3_EN	0	R/W	コントロールフィールドパターン 3 チェックイネーブル 0: チェックしない 1: チェックする
1	C_FIELD_CODE2_EN	0	R/W	コントロールフィールドパターン 2 チェックイネーブル 0: チェックしない 1: チェックする
0	C_FIELD_CODE1_EN	0	R/W	コントロールフィールドパターン 1 チェックイネーブル 0: チェックしない 1: チェックする

【説明】
1. 詳細は「Field チェック機能」を参照してください。
2. Field チェック機能は L-field の判別を行う FIFO モード(RXDIO_CTRL[DIO_SET: B0 0x0C(7-6)]=0b00)および DIO モードのデータ出力モード 2(RXDIO_CTRL[DIO_SET: B0 0x0C(7-6)]=0b11)のみ有効です。

0x1C【M_CHECK_CTRL】

機能:マニュファクチャーID フィールド検出設定
アドレス:0x1C (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5:4	RCV_CONT_SEL[1:0]	00	R/W	動作継続タイマ満了時の受信継続条件設定 00: SyncWord 検出割込み発生時に受信継続する 01: Field チェック割込み発生時に受信継続する 10: 受信同期確立状態時に受信継続する 11: 予約
3	M_FIELD_CODE4_EN	0	R/W	マニュファクチャーID フィールドパターン 4 チェックイネーブル 0: チェックしない 1: チェックする
2	M_FIELD_CODE3_EN	0	R/W	マニュファクチャーID フィールドパターン 3 チェックイネーブル 0: チェックしない 1: チェックする
1	M_FIELD_CODE2_EN	0	R/W	マニュファクチャーID フィールドパターン 2 チェックイネーブル 0: チェックしない 1: チェックする
0	M_FIELD_CODE1_EN	0	R/W	マニュファクチャーID フィールドパターン 1 チェックイネーブル 0: チェックしない 1: チェックする

【説明】
1. 詳細は「Field チェック機能」を参照してください。
2. Field チェック機能は L-field の判別を行う FIFO モード(RXDIO_CTRL[DIO_SET: B0 0x0C(7-6)]=0b00)および DIO モードのデータ出力モード 2(RXDIO_CTRL[DIO_SET: B0 0x0C(7-6)]=0b11)のみ有効です。

0x1D【A_CHECK_CTRL】

機能:アドレスフィールド検出設定
アドレス:0x1D (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5	A_FIELD_CODE6_EN	0	R/W	アドレスフィールドパターン 6 チェックイネーブル 0: チェックしない 1: チェックする
4	A_FIELD_CODE5_EN	0	R/W	アドレスフィールドパターン 5 チェックイネーブル 0: チェックしない 1: チェックする
3	A_FIELD_CODE4_EN	0	R/W	アドレスフィールドパターン 4 チェックイネーブル 0: チェックしない 1: チェックする
2	A_FIELD_CODE3_EN	0	R/W	アドレスフィールドパターン 3 チェックイネーブル 0: チェックしない 1: チェックする
1	A_FIELD_CODE2_EN	0	R/W	アドレスフィールドパターン 2 チェックイネーブル 0: チェックしない 1: チェックする
0	A_FIELD_CODE1_EN	0	R/W	アドレスフィールドパターン 1 チェックイネーブル 0: チェックしない 1: チェックする

【説明】
1. 詳細は「Field チェック機能」を参照してください。
2. Field チェック機能は L-field の判別を行う FIFO モード(RXDIO_CTRL[DIO_SET: B0 0x0C(7-6)]=0b00)および DIO モードのデータ出力モード 2(RXDIO_CTRL[DIO_SET: B0 0x0C(7-6)]=0b11)のみ有効です。

0x1E【C_FIELD_CODE1】

機能:コントロールフィールド設定(コード#1)
アドレス:0x1E (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	C_FIELD_CODE1[7:0]	0000_0000	R/W	C-field 設定 コード#1

【説明】
1. 詳細は「Field チェック機能」を参照してください。

0x1F【C_FIELD_CODE2】

機能:コントロールフィールド設定(コード#2)
アドレス:0x1F (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	C_FIELD_CODE2[7:0]	0000_0000	R/W	C-field 設定 コード#2

【説明】
1. 詳細な使い方は「Field チェック機能」を参照してください。

0x20【C_FIELD_CODE3】

機能:コントロールフィールド設定(コード#3)
アドレス:0x20 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	C_FIELD_CODE3[7:0]	0000_0000	R/W	C-field 設定 コード#3

【説明】
1. 詳細は「Field チェック機能」を参照してください。

0x21【C_FIELD_CODE4】

機能:コントロールフィールド設定(コード#4)
アドレス:0x21 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	C_FIELD_CODE4[7:0]	0000_0000	R/W	C-field 設定 コード#4

【説明】
1. 詳細は「Field チェック機能」を参照してください。

0x22【C_FIELD_CODE5】

機能:コントロールフィールド設定(コード#5)
アドレス:0x22 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	C_FIELD_CODE5[7:0]	0000_0000	R/W	C-field 設定 コード#5

【説明】
1. 詳細は「Field チェック機能」を参照してください。

0x23【M_FIELD_CODE1】

機能:マニュファクチャーID 1st バイト設定(コード#1)
アドレス:0x23 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	M_FIELD_CODE1[7:0]	0000_0000	R/W	M-field 1st バイト設定 コード#1

【説明】
1. 詳細は「Field チェック機能」を参照してください。

0x24【M_FIELD_CODE2】

機能:マニュファクチャーID 1st バイト設定(コード#2)
アドレス:0x24 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	M_FIELD_CODE2[7:0]	0000_0000	R/W	M-field 1st バイト設定 コード#2

【説明】
1. 詳細は「Field チェック機能」を参照してください。

0x25【M_FIELD_CODE3】

機能:マニュファクチャーID 2nd バイト設定(コード#1)
アドレス:0x25 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	M_FIELD_CODE3[7:0]	0000_0000	R/W	M-field 2nd バイト設定 コード#1

【説明】
1. 詳細は「Field チェック機能」を参照してください。

0x26【M_FIELD_CODE4】

機能:マニュファクチャーID 2nd バイト設定(コード#2)
アドレス:0x26 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	M_FIELD_CODE4[7:0]	0000_0000	R/W	M-field 2nd バイト設定 コード#2

【説明】
1. 詳細は「Field チェック機能」を参照してください。

0x27【A_FIELD_CODE1】

機能:アドレスフィールド 1st バイト設定(1 バイト目)
アドレス:0x27 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	A_FIELD_CODE1[7:0]	0000_0000	R/W	A-field 設定(1 バイト目)

【説明】
1. 詳細は「Field チェック機能」を参照してください。

0x28【A_FIELD_CODE2】

機能:アドレスフィールド 2nd バイト設定
アドレス:0x28 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	A_FIELD_CODE2[7:0]	0000_0000	R/W	A-field 設定(2 バイト目)

【説明】
1. 詳細は「Field チェック機能」を参照してください。

0x29【A_FIELD_CODE3】

機能:アドレスフィールド 3rd バイト設定
アドレス:0x29 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	A_FIELD_CODE3[7:0]	0000_0000	R/W	A-field 設定(3 バイト目)

【説明】
1. 詳細は「Field チェック機能」を参照してください。

0x2A【A_FIELD_CODE4】

機能:アドレスフィールド 4th バイト設定
アドレス:0x2A (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	A_FIELD_CODE4[7:0]	0000_0000	R/W	A-field 設定(4 バイト目)

【説明】
1. 詳細は「Field チェック機能」を参照してください。

0x2B【A_FIELD_CODE5】

機能:アドレスフィールド 5th バイト設定
アドレス:0x2B (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	A_FIELD_CODE5[7:0]	0000_0000	R/W	A-field 設定(5 バイト目)

【説明】
1. 詳細は「Field チェック機能」を参照してください。

0x2C【A_FIELD_CODE6】

機能:アドレスフィールド 6th バイト設定
アドレス:0x2C (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	A_FIELD_CODE6[7:0]	0000_0000	R/W	A-field 設定(6 バイト目)

【説明】
1. 詳細は「Field チェック機能」を参照してください。

0x2D【SLEEP/WU_SET】

機能:SLEEP の実行およびウェイクアップ動作設定
アドレス:0x2D (BANK0)
初期値:0x06

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	WUT_1SHOT_MODE	0	R/W	ウェイクアップタイマ動作モード設定 0: インターバル動作を継続する 1: 1SHOT 動作後、ウェイクアップタイマを停止する
6	WAKEUP_MODE	0	R/W	ウェイクアップ後の動作設定 0: RX_ON 状態にする 1: TX_ON 状態にする ※動作継続タイマ満了した場合 SLEEP 状態となります。 ※SLEEP 中に FIFO ライトした場合、SLEEP 復帰後にデータ送信要求受付完了割込みが発生します。 ※0b1 設定時、動作継続タイマ満了した場合には強制的に SLEEP に移行するため、動作継続タイマ満了前に送信完了するように設定してください。
5	WU_DURATION_EN	0	R/W	ウェイクアップ後の動作継続タイマイネーブル設定 0: ウェイクアップ後、動作継続タイマを動作させない 1: ウェイクアップ後、動作継続タイマを動作させる ※本ビットが 0b1 設定時で WAKEUP_MODE=0b0 の場合、動作継続タイマ満了までに受信(SyncWord 検出、または Field 検出設定している場合は Field 検出)できなかった場合、自動で SLEEP 状態に移行します。
4	WAKEUP_EN	0	R/W	ウェイクアップイネーブル 0: SLEEP 後、自動ウェイクアップしない 1: SLEEP 後、自動ウェイクアップする ※0b1 設定時、ウェイクアップタイマ満了後、自動で SLEEP から復帰し、bit6(WAKEUP_MODE)で設定される状態となります。
3	RCOSC_MODE	0	R/W	RC 発振回路動作モード設定 0: 常時動作する 1: SLEEP 設定時のみ動作する ※詳細は「SLEEP 設定」をご参照ください。 ※間欠動作として動作継続タイマを使用する場合は本ビットが 0b0 になっている場合、タイマは動作しません。この場合、本設定は 0b1 に設定してください。
2	WUT_CLK_SOURCE	1	R/W	ウェイクアップタイマ用クロックソース設定 0: 外部入力クロック(EXT_CLK Pin#10)を使用する 1: 内蔵 RC 発振回路出力を使用する ※詳細は「SLEEP 設定」をご参照ください。
1	PDN_EN	1	R/W	SLEEP 時の電源制御イネーブル 0: ロジック全領域電源 ON 1: ロジック一部領域のみ電源 ON(送信 FIFO は電源 OFF されます) ※詳細は「SLEEP 設定」をご参照ください。
0	SLEEP_EN	0	R/W	SLEEP モード制御 0: SLEEP 状態から復帰する(通常動作) 1: SLEEP 状態にする ※詳細は「SLEEP 設定」をご参照ください。

【説明】
1. 詳細は「ウェイクアップタイマ」を参照してください。

0x2E【WUT_CLK_SET】

機能:ウェイクアップタイマ分周設定
アドレス:0x2E (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	WUDT_CLK_SET[3:0]	0000	R/W	動作継続タイマ分周設定 0000: 分周なし(TCXO_EN([CLK_SET2: B0 0x02(6)])=0b1 設定時) 設定禁止(XTAL_EN([CLK_SET2: B0 0x02(4)])=0b1 設定時) 0001: 128 分周 0010: 256 分周 0011: 512 分周 0100: 1024 分周 0101: 2048 分周 0110: 4096 分周 0111: 8192 分周 1000: 16384 分周 1001: 2 分周 1010: 4 分周 1011: 8 分周 1100: 16 分周 1101: 32 分周 1110: 64 分周 上記以外: 16384 分周 ※WUT_CLK_SOURCE([SLEEP/WU_SET:B0 0x2D(2)])にて選択するクロックの分周値を設定します。 ※動作継続タイマを使用する場合、本設定は WUT_CLK_SET と同じ設定値にしてください。
3:0	WUT_CLK_SET[3:0]	0000	R/W	ウェイクアップタイマ分周設定 0000: 分周なし 0001: 128 分周 0010: 256 分周 0011: 512 分周 0100: 1024 分周 0101: 2048 分周 0110: 4096 分周 0111: 8192 分周 1000: 16384 分周 1001: 2 分周 1010: 4 分周 1011: 8 分周 1100: 16 分周 1101: 32 分周 1110: 64 分周 上記以外: 16384 分周 ※WUT_CLK_SOURCE([SLEEP/WU_SET:B0 0x2D(2)])にて選択するクロックの分周値を設定します。

【説明】
1. 詳細は「ウェイクアップタイマ」を参照してください。

0x2F【WUT_INTERVAL_H】

機能:ウェイクアップタイマ設定(上位バイト)
アドレス:0x2F (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	WUT_INTERVAL[15:8]	0000_0000	R/W	ウェイクアップタイマ間隔設定(上位バイト) [WUT_INTERVAL_L]レジスタの 8 ビットと共に全 16 ビットから算出されます。タイマ間隔は次式の通りとなります。 ウェイクアップタイマ間隔 = ウェイクアップタイマ用クロック周期([SLEEP/WU_SET:B0 0x2D(2)]) * 分周設定([WUT_CLK_SET: B0 0x2E(3-0)]) * (ウェイクアップタイマ間隔設定([WUT_INTERVAL_H/L: B0 0x2F/30])+1) ※本設定値 WUT_INTERVAL[15:0]は 2 以上の値を設定してください。

【説明】
1. 詳細は「ウェイクアップタイマ」を参照してください。

0x30【WUT_INTERVAL_L】

機能:ウェイクアップタイマ設定(下位バイト)
アドレス:0x30 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	WUT_INTERVAL[7:0]	0000_0000	R/W	ウェイクアップタイマ間隔設定(下位バイト) ※詳細は[TIMER_INTERVAL_H: B0 0x2F]をご参照ください。

【説明】
1. 詳細は「ウェイクアップタイマ」を参照してください。

0x31【WU_DURATION】

機能:ウェイクアップ後の動作継続タイマ設定
アドレス:0x31 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	WU_DURATION[7:0]	0000_0000	R/W	ウェイクアップ後の動作継続タイマ設定 動作継続タイマ間隔 = ウェイクアップタイマ用クロック周期([SLEEP/WU_SET:B0 0x2D(2)]) * 分周設定([WUT_CLK_SET: B0 0x2E(3-0)]) * (動作継続タイマ間隔設定[WU_DURATION: B0 0x31] – 1) ※本設定値 WU_DURATION[7:0]は 1 以上の値を設定してください。

【説明】
1. 詳細は「ウェイクアップタイマ」を参照してください。

0x32【GT_SET】

機能:汎用タイマ設定
アドレス:0x32 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5	GT2_CLK_SOURCE	0	R/W	汎用タイマ 2 クロックソース設定 0: ウェイクアップタイマ用クロック 1: 2MHz クロック
4	GT2_START	0	R/W	汎用タイマ 2 実行設定 0: タイマ中断 1: タイマスタート、再開 ※タイマ満了後、自動的に 0 に戻ります。 ※GT2_CLK_SOURCE=0b0 設定時、タイマ満了後に再スタートする場合、ウェイクアップタイマ用クロック 2 サイクル以上経過後に再スタートしてください。
3:2	Reserved	00	R	予約
1	GT1_CLK_SOURCE	00	R/W	汎用タイマ 1 クロックソース設定 0: ウェイクアップタイマ用クロック 1: 2MHz クロック
0	GT1_START	0	R/W	汎用タイマ 1 実行設定 0: タイマ中断 1: タイマスタート、再開 ※タイマ満了後、自動的に 0 に戻ります。 ※GT1_CLK_SOURCE=0b0 設定時、設定時、タイマ満了後に再スタートする場合、ウェイクアップタイマ用クロック 2 サイクル以上経過後に再スタートしてください。

【説明】

1. 詳細は「汎用タイマ」を参照してください。

0x33【GT_CLK_SET】

機能:汎用タイマクロック分周設定
アドレス:0x33 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	GT2_CLK_SET[3:0]	0000	R/W	汎用タイマ用クロック 2 分周設定 汎用タイマ用クロック 2 の分周値を設定します。 0000: 分周なし 0001: 128 分周 0010: 256 分周 0011: 512 分周 0100: 1024 分周 0101: 2048 分周 0110: 4096 分周 0111: 8192 分周 1000: 16384 分周 1001: 32768 分周 上記以外: 65536 分周 ※GT2_CLK_SOURCE([GT_SET:B0 0x32(5)])のクロックを下記の分周値に設定します。
3:0	GT1_CLK_SET[3:0]	0000	R/W	汎用タイマ用クロック 1 分周設定 汎用タイマ用クロック 1 の分周値を設定します。 0000: 分周なし 0001: 128 分周 0010: 256 分周 0011: 512 分周 0100: 1024 分周 0101: 2048 分周 0110: 4096 分周 0111: 8192 分周 1000: 16384 分周 1001: 32768 分周 上記以外: 65536 分周 ※GT1_CLK_SOURCE([GT_SET:B0 0x32(1)])のクロックを下記の分周値に設定します。

【説明】
1. 詳細は「汎用タイマ」を参照してください。

0x34【GT1_TIMER】

機能:汎用タイマ 1 間隔設定
アドレス:0x34 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	GT1_TIMER[7:0]	0000_0000	R/W	汎用タイマ 1 間隔設定 汎用タイマ 1 間隔 = 汎用タイマ用クロック周期([GT_SET:B0 0x32(1)]) * 分周設定([GT_CLK_SET:B0 0x33(3-0)]) * 汎用タイマ 1 間隔設定(GT1_TIMER[7:0])

【説明】
1. 詳細は「汎用タイマ」を参照してください。

0x35【GT2_TIMER】

機能:汎用タイマ 2 間隔設定
アドレス:0x35 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	GT2_TIMER[7:0]	0000_0000	R/W	汎用タイマ 2 間隔設定 汎用タイマ 2 間隔 = 汎用タイマ用クロック周期([GT_SET:B0 0x32(5)]) * 分周設定([GT_CLK_SET:B0 0x33(7-4)]) * 汎用タイマ 2 間隔設定(GT2_TIMER[7:0])

【説明】
1. 詳細は「汎用タイマ」を参照してください。

0x36【CCA_IGNORE_LVL】

機能:CCA の判定除外 ED 値設定
アドレス:0x36 (BANK0)
初期値:0xFE

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	CCA_IGNORE_LVL [7:0]	1111_1110	R/W	CCA の移動平均判定から除外する ED レベル設定 ※ED 値が、本レジスタ設定値を超えた場合、ED_AVG([ED_CTRL: B0 0x41(2-0)])で設定される平均化から除外され、新たに平均回数に達する ED 値を取得するまで CCA 結果を判定せず CCA_RST ([CCA_CTRL: B0 0x39(1-0)])に 0b11(判定中)を設定します。

【説明】
1. CCA の詳細動作は「CCA(Clear Channel Assesment)機能」を参照してください。

0x37【CCA_LVL】

機能:CCA の閾値設定
アドレス:0x37 (BANK0)
初期値:0x5C

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	CCA _LVL[7:0]	0101_1100	R/W	CCA 閾値レベル設定(設定範囲:0～255) ※ED 値が本レジスタの設定値を超えると CCA_RST ([CCA_CTRL: B0 0x39(1-0)])に 0b01(キャリアあり)が立ちます。

【説明】
1. CCA の詳細動作は「CCA(Clear Channel Assesment)機能」を参照してください。

0x38【CCA_ABORT】

機能:CCA 動作の強制終了時間設定
アドレス:0x38 (BANK0)
初期値:0xFF

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	CCA _ABORT[7:0]	1111_1111	R/W	CCA 強制終了時間設定(設定範囲:0～255) ※0b0000_0000 設定では強制終了時間は無効となります。 ※設定値の 1bit あたりの分解能は 128μs となります。 ※CCA のキャリアあり判定のために CCA 完了しない状態を防ぐためのタイムアウト機能です。本レジスタの設定値 * RSSI 平均間隔(16μs) の期間 CCA を実行した場合、IDLE 検出を終了し、パケットを破棄して RF 状態は TRX_OFF に移ります。

【説明】
1. CCA の詳細動作は「CCA(Clear Channel Assesment)機能」を参照してください。

0x39【CCA_CTRL】

機能:CCA 制御設定および結果表示
アドレス:0x39 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	CCA_STOP	0	R/W	CCA 無限実行終了設定(1 で停止します) ※CCA_CPU_EN が実行されると本ビットで停止されるまで CCA を実行します。
6	CCA_IDLE_EN	0	R/W	CCA アイドル検出モード設定 0: アイドル検出を行わない 1: アイドル検出を行う
5	CCA_CPU_EN	0	R/W	CCA 無限実行モード設定 0: CCA 無限実行を行わない 1: CCA 無限実行を行う ※本ビットを実行した場合、CCA_STOP ビットで停止されるまで CCA を継続します。
4	CCA_EN	0	R/W	CCA 実行命令 0: CCA を実行しない 1: CCA を実行する ※CCA 完了後、本ビットは自動的に 0 に戻ります。
3	FAST_DET_MODE_EN	0	R/W	高速電波チェックモード設定 0: RX_ON 時 CCA を実行しない 1: RX_ON 時 CCA を自動実行する ※CCA の結果、電波なしと判定した場合、自動的に SLEEP 状態へ移行します。また、タイマ機能と組合せ動作が可能です。詳細は「ウェイクアップタイマ」を参照してください。
2	CCA_ABORT_EN	0	R/W	CCA 強制終了設定 0:CCA を強制終了しない 1:CCA を強制終了する ※本ビットは CCA_IDLE_EN に 1 が設定されているときのみ有効となります。
1:0	CCA_RSLT[1:0]	0	R/W	CCA 結果 00: キャリアなし 01: キャリアあり 10: CCA 判定中(アイドル判定中) 11: CCA 判定中(判定除外の ED 値取得) ※自動クリアされません。CCA にてキャリアありと判定される毎にクリアする必要があります。クリアは CCA 完了割込み([INT_SOURCE_GRP3: B0 0x0F(2)])クリアにてクリアされます。CCA 完了は[INT_SOURCE_GRP3: B0 0x0F(2)]にて通知します。

【説明】
1. CCA の詳細動作は「CCA(Clear Channel Assesment)機能」を参照してください。
2. bit6 (CCA_IDLE_EN)と bit5(CCA_CPU_EN)を同時に 0b1 に設定しないでください。

0x3A【ED_RSLT】

機能:ED 値表示
アドレス:0x3A (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	ED_VALUE[7:0]	0000_0000	R	ED 値表示 ※ED 値は、ED_RSLT_SET([ED_CTRL: B0 0x41(3)])=0b0 設定されている場合、RX_ON 中に常時更新されます。ED_RSLT_SET=0b1 設定では SyncWord 検出時に ED 値を獲得し、受信データの FIFO リード開始により値が更新されます。

【説明】
1. ED 値の取得動作の詳細は、「電力検出値(ED 値)取得機能」を参照してください。

0x3B【IDLE_WAIT_H】

機能:CCA 時の IDLE 継続時間設定(上位バイト)
アドレス:0x3B (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:2	Reserved	00_0000	R	予約
1:0	IDLE_WAIT[9:8]	00	R/W	IDLE 判定の最大待ち時間設定(上位バイト) ※CCA の IDLE 判定動作において、長い IDLE(キャリアなし)期間の判定を行う場合に使用します。[IDLE_WAIT_L]レジスタの 8 ビットと共に全 10 ビットから算出されます。IDLE 判定待ち時間は次式の通りとなり、この期間 CCA を実行し IDLE 判定を待ちます。 IDLE 判定待ち時間 = ED 値平均化(8 回平均時)時間(128μs)＋(設定値 ＊16μs)

【説明】
1. CCA の詳細動作は「CCA(Clear Channel Assesment)機能」を参照してください。

0x3C【IDLE_WAIT_L】

機能:CCA 時の IDLE 継続時間設定(下位バイト)
アドレス:0x3C (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	IDLE_WAIT[7:0]	0000_0000	R/W	IDLE 判定の最大待ち時間設定(下位バイト) ※詳細は[IDLE_WAIT_H: B0 0x3B]をご参照ください。

【説明】
1. CCA の詳細動作は「CCA(Clear Channel Assesment)機能」を参照してください。

0x3D【CCA_PROG_H】

機能:CCA 時の IDLE 判定経過時間表示(上位バイト)
アドレス:0x3D (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:2	Reserved	00_0000	R	予約
1:0	CCA_PROG[9:8]	00	R	CCA 時の IDLE 判定経過時間表示(上位バイト) ※[CCA_PROG_L]レジスタの 8 ビットと共に全 10 ビットから算出されます。 IDLE 判定経過時間は次式で計算できます。 IDLE 判定経過時間＝ ED 値平均化(8 回平均時)時間(128μs)＋(設定値 ＊16μs)

【説明】
1. CCA の詳細動作は「CCA(Clear Channel Assesment)機能」を参照してください。

0x3E【CCA_PROG_L】

機能:CCA 時の IDLE 判定経過時間表示(下位バイト)
アドレス:0x3E (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	CCA_PROG[7:0]	0000_0000	R	CCA 時の IDLE 判定経過時間表示(下位バイト) ※詳細は[CCA_PROG_H: B0 0x3D]をご参照ください。

【説明】
1. CCA の詳細動作は「CCA(Clear Channel Assesment)機能」を参照してください。

0x3F【PREAMBLE_SET】

機能:プリアンブルパターン設定
アドレス:0x3F (BANK0)
初期値:0x05

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	CCA_INT_SEL[1:0]	00	R/W	CCA 割り込み選択設定 00: CCA 完了時に割り込み通知 01: CCA キャリアあり時に割り込み通知 10: CCA キャリアなし時に割り込み通知 11: 予約
5:4	Reserved	00	R	予約
3:0	PR_PAT[3:0]	0101	R/W	プリアンブルパターン設定 ※MSB 側から順に送出されます。

0x40【VCO_VTRSLT】

機能:VCO 調整電圧結果表示
アドレス:0x40 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:3	Reserved	0_0000	R	予約
2	VTUNE_INT_ENB	0	R/W	VCO 調整電圧範囲外検出割込み通知設定 0: PLL ロック外れ検出割込み(INT2[INT_SOURCE_GRP1: B0 0x0D(2)])にて通知する 1: 割込み通知しない ※0b1 設定時、PLL ロック外れ割込みは、PLL ロック外れ時または VCO 調整電圧範囲外検出時に割り込みが発生します。
1	VTUNE_COMP_H	0	R	VCO 調整電圧上限閾値比較結果表示 0: 調整電圧が上限未満 1: 調整電圧が上限以上
0	VTUNE_COMP_L	0	R	VCO 調整電圧下限閾値比較結果表示 0: 調整電圧が下限以上 1: 調整電圧が下限未満

0x41【ED_CTRL】

機能:ED 設定
アドレス:0x41 (BANK0)
初期値:0x80

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	ED_CALC_EN	1	R/W	ED 値算出イネーブル設定 0: ED 値算出を行わない 1: ED 値算出を行う
6	CCADONE_MODE	0	R/W	高速電波チェック時の RF 状態設定 0: 電波なし判定時、SLEEP へ移行 電波あり判定時、受信継続 1: 電波なし判定時、TX_ON へ移行 電波あり判定時、SLEEP へ移行 ※本機能は FAST_DET_MODE_EN[CCA_CTRL: B0 0x39(4)]=0b1 設定時に有効です。
5	CCA_ED_SEL	0	R/W	高速電波チェック時の ED 値算出信号選択設定 0: チャネルフィルタ帯域通過信号から ED 値を算出する 1: チャネルフィルタ 2(チャネルフィルタの帯域 2 倍)通過信号 ※0b1 設定時、チャネルフィルタは CHFIL_BW_ADJ[CHFIL_BW: B0 0x54(6-0)]にて設定するフィルタ帯域の 2 倍の帯域で ED 値を算出します。
4	ED_DONE	0	R/W	ED 値算出完了フラグ 0: ED 値算出中(未完了) 1: ED 値算出完了
3	ED_RSLT_SET	0	R	ED 表示設定 [ED_RSLT: B0 0x3A]レジスタに表示する ED 値を選択します。 0: 常時更新する ED 値 1: SyncWord 検出タイミング毎に獲得した ED 値 ※0b1 設定時、受信データの FIFO リード開始により値が更新されます。FIFO リード後、[ED_RSLT: B0 0x3A]を確認してください。
2:0	ED_AVG[2:0]	000	R/W	ED 値算出時の平均回数設定 000: 1 回平均 001: 2 回平均 010: 4 回平均 011: 8 回平均 100: 16 回平均 101: 32 回平均 上記以外: 16 回平均 ※ED_AVG は ED 値算出停止状態で(TRX_OFF 状態または TX_ON 状態または bit7(ED_CALC_EN)=0b0 時)設定して下さい。

【説明】

1. ED 値の取得動作の詳細は、「電力検出値(ED 値)取得機能」を参照してください。

0x42【TXPR_LEN_H】

機能:送信プリアンブル長設定(上位バイト)
アドレス:0x42 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	TXPR_LEN[15:8]	0000_0000	R/W	送信プリアンブル長設定(上位バイト) (設定範囲:0x0001～0xFFFF) 送信プリアンブル長を設定します。送信プリアンブル長は(設定値×2)ビットとなります。 ※[TXPR_LEN_L: B0 0x43]の8ビットと共に全16ビットにより設定します。 ※プリアンブルが必要なシステムにおいて、TXPR_LEN[15:0]は0x0010より小さい値を設定しないでください。本LSIは受信時の同期確立において0x0010以上のプリアンブルを必要とします。 ※ダイバーシティ使用時は本設定値をデータレートの設定に応じて変更する必要があります。データレートに対応する設定値は「初期設定レジスタ」を参照してください。

0x43【TXPR_LEN_L】

機能:送信プリアンブル長設定(下位バイト)
アドレス:0x43 (BANK0)
初期値:0x08

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	TXPR_LEN[7:0]	0000_1000	R/W	送信プリアンブル長設定(下位バイト) ※詳細は[TXPR_LEN_H: B0 0x42]レジスタをご参照ください。

0x44【POSTAMBLE_SET】

機能:ポストアンブル長およびパターン設定
アドレス:0x44 (BANK0)
初期値:0x12

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R	予約
6:4	POSTAMBLE_LEN[2:0]	001	R/W	ポストアンブル長設定 ポストアンブル長は(設定値×2)ビットとなります。
3	Reserved	0	R	予約
2:1	POSTAMBLE_PAT[1:0]	01	R/W	ポストアンブルパターン設定 00: “01”パターンの繰り返し 01: “10”パターンの繰り返し 10: CRC 最終パターンと CRC 最終パターンの反転の繰り返し 11: “11”パターンの繰り返し
0	POSTAMBLE_EN	0	R/W	ポストアンブルイネーブル 0: ポストアンブルを付加しない 1: ポストアンブルを付加する

0x45【SYNC_CONDITION1】

機能:受信時のプリアンブル比較長および同期検出時の ED 閾値判定設定
アドレス:0x45 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	SYNC_ED_EN	0	R/W	ED 値を使用した同期判定のイネーブル 0: 同期判定に ED 値を使用しない 1: 同期判定に ED 値を使用する ※ED 値閾値は[SYNC_CONDITION2: B0 0x46]により設定します。
6	Reserved	0	R	予約
5:0	RXPR_LEN[5:0]	00_0000	R/W	受信時のプリアンブル比較長設定(設定範囲:0～32、単位:ビット) ※0b10_0000 以上の設定は、0b10_0000 として動作します。 ※本レジスタに 1 以上を設定した場合、SyncWord 検出において、設定したプリアンブル数だけ SyncWord パターンに追加してパターン(プリアンブル+SyncWord)で SyncWord 検出を行います。SyncWord 長だけでは SyncWord 誤検出確率が高い場合、本機能によりプリアンブルを追加することにより SyncWord 誤検出確率を低減することが可能です。 ※RXPR_LEN[5:0]で設定するプリアンブル比較範囲が AFC 収束時間(最大 24 ビット)と重なった場合、SyncWord 検出できなくなります。本設定値は送信プリアンブルから AFC 収束時間を引いたバイト数以下の値を設定してください。

0x46【SYNC_CONDITION2】

機能:同期検出時の ED 閾値
アドレス:0x46 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	SYNC_ED_TH[7:0]	0000_0000	R/W	同期判定時の ED 閾値設定 ※SYNC_ED_EN ([SYNC_CONDITION1: B0 0x45(7)])が 0b1 設定時、ED 閾値が有効となります。 ※取得 ED 値が閾値を超えない場合、同期が取れたとみなしません。

0x47【SYNC_CONDITION3】

機能:受信時のプリアンブル検出および SyncWord 検出の誤り許容値設定
アドレス:0x47 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	SW_RCV[3:0]	0000	R/W	SyncWord 検出時の誤り許容ビット数設定(設定範囲 0～15)
3:0	PB_RCV[3:0]	0000	R/W	プリアンブル検出時の誤り許容ビット数設定(設定範囲 0～15)

0x48【2DIV_CTRL】

機能:アンテナダイバーシティ設定
アドレス:0x48 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5	ANT_CTRL1	0	R/W	ANT 制御ビット 1
4	ANT_CTRL0	0	R/W	ANT 制御ビット 0
3	INV_ANT_SW	0	R/W	ANT_SW 極性設定
2	INV_TRX_SW	0	R/W	TRX_SW 極性設定
1	2PORT_SW	0	R/W	アンテナスイッチ設定 0: SPDT スイッチ使用 1: DPDT スイッチ使用
0	2DIV_EN	0	R/W	アンテナダイバーシティ設定 0: ダイバーシティを行わない 1: ダイバーシティを行う

【説明】
1. 本レジスタの設定の使用方法に関しては、「ダイバーシティ機能」を参照してください。

0x49【2DIV_RSLT】

機能:アンテナダイバーシティ結果表示
アドレス:0x49 (BANK0)
初期値:0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	2DIV_DONE	0	R	アンテナダイバーシティサーチ完了表示 0: ダイバーシティサーチ中(未完了) 1: ダイバーシティサーチ完了
6:2	Reserved	0_0000	R	予約
1:0	2DIV_RSLT[1:0]	01	R	アンテナダイバーシティ結果表示 01: アンテナ 1 10: アンテナ 2 上記以外: 予約

【説明】
1. 本レジスタの使用方法に関しては、「ダイバーシティ機能」を参照してください。
2. 本レジスタは毎パケット受信時の SyncWord 検出タイミングで上書き更新されます。

0x4A【ANT1_ED】

機能:アンテナ 1 の取得 ED 値表示
アドレス:0x4A (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	ANT1_ED[7:0]	0000_0000	R	アンテナ 1 の取得 ED 値 ※2DIV_EN([2DIV_CTRL: B0 0x48(0)])が 0b1 に設定する必要があります。本レジスタは毎パケット受信時の SyncWord 検出タイミングで上書き更新されます。ただし、ダイバーシティ完了割込み([INT_SOURCE_GRP2: B0 0x0D(2)])をクリアすると本レジスタ値がクリアされます。

0x4B【ANT2_ED】

機能:アンテナ 2 の取得 ED 値表示
アドレス:0x4B (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	ANT2_ED[7:0]	0000_0000	R	アンテナ 2 の取得 ED 値 ※2DIV_EN([2DIV_CTRL: B0 0x48(0)])が 0b1 に設定する必要があります。本レジスタは毎パケット受信時の SyncWord 検出タイミングで上書き更新されます。ただし、ダイバーシティ完了割込み([INT_SOURCE_GRP2: B0 0x0D(2)])をクリアすると本レジスタ値がクリアされます。

0x4C【ANT_CTRL】

機能：送受信時のアンテナ強制設定
アドレス：0x4C (BANK0)
初期値：0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5	RX_ANT	0	R/W	受信時のアンテナ設定 0: アンテナ 1 1: アンテナ 2 ※bit4(RX_ANT_EN)が 0b01 設定時のみ有効で、RX_ON 時のアンテナを本ビットにて固定します。
4	RX_ANT_EN	0	R/W	受信時のアンテナ設定イネーブル 0: ディセーブル 1: イネーブル
3:2	Reserved	00	R	予約
1	TX_ANT	0	R/W	送信時のアンテナ設定 0: アンテナ 1 1: アンテナ 2 ※bit0(TX_ANT_EN)が 0b01 設定時のみ有効で、TX_ON 時のアンテナを本ビットにて固定します。
0	TX_ANT_EN	0	R/W	送信時のアンテナ設定イネーブル 0: ディセーブル 1: イネーブル

【説明】

1. 本ビットの使用方法に関しては、「ダイバーシティ機能」を参照してください。

0x4D【MON_CTRL】

機能:アナログ/デジタルモニタ設定
アドレス:0x4D (BANK0)
初期値:0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	BER_MODE	0	R/W	BER 測定モード設定 0: 通常動作モードにする 1: BER 測定モードにする ※BER 測定モード設定により復調データ/クロックを DIO/DCLK から出力します。詳細は「BER 測定時の設定」を参照してください。
6	FIFOMODE_MON	0	R/W	FIFO モードモニタ設定 0: FIFO モードで DIO/DCLK を出力しない 1: FIFO モードで DIO/DCLK を出力する ※DIO/DCLK は復調データ/クロックが出力されます。
5:4	DMON_SET2[1:0]	00	R/W	デジタルモニタ出力信号選択設定 00: L 出力 上記以外: 予約
3:0	DMON_SET	0001	R/W	デジタルモニタ出力信号選択設定 0000: L 出力 0001: CLK_OUT 出力 0010: PLL ロック検出信号出力 0011:同期完了信号出力 上記以外: 予約

0x4E【GPIO0_CTRL】

機能:GPIO0 端子(ピン#16)制御
アドレス:0x4E (BANK0)
初期値:0x07

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	GPIO0_INV	0	R/W	GPIO0 出力信号極性設定
6	GPIO0_OD	0	R/W	GPIO0 出力 OpenDrain 設定 0: CMOS 出力 1: OpenDrain 出力
5	GPIO0_FORCEOUT	0	R/W	GPIO0 強制出力設定 0: “L”出力 1: ”H”出力 ※ bit7(GPIO0_INV)の設定に影響されません。
4	GPIO0_FORCEOUTEN	0	R/W	GPIO0 強制出力イネーブル 0: ディセーブル 1: イネーブル(bit5(GPIO0_FOCEOUT)に設定した値を出力する)
3:0	GPIO0_IO_CFG[3:0]	0111	R/W	GPIO0 入出力信号選択設定 0000: [出力]”L”レベル 0001: [出力]アンテナスイッチ制御 1(送受信切り替え信号:TRX_SW) 0010: [出力]アンテナスイッチ制御 2(アンテナ切り替え信号:ANT_SW) 0011: [出力]外部 PA 制御信号 0100: [入出力]データ(DIO) 0101: [出力] データクロック(DCLK) 0110: [出力]デジタルモニタ信号 ※詳細はDMON_SET[3:0]([DMON_SET:B0 0x4D(3-0)])をご参照ください。 0111: [出力]割込み通知信号(SINTN) 1001: [出力] デジタルモニタ信号 2

0x4F【GPIO1_CTRL】

機能:GPIO1 端子(ピン#17)制御
アドレス:0x4F (BANK0)
初期値:0x06

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	GPIO1_INV	0	R/W	GPIO1 出力信号極性設定
6	GPIO1_OD	0	R/W	GPIO1 出力 OpenDrain 設定 0: CMOS 出力 1: OpenDrain 出力
5	GPIO1_FORCEOUT	0	R/W	GPIO1 強制出力設定 0: “L”出力 1: ”H”出力 ※ bit7(GPIO1_INV)の設定に影響されません。
4	GPIO1_FORCEOUTEN	0	R/W	GPIO1 強制出力イネーブル 0: ディセーブル 1: イネーブル(bit5(GPIO1_FOCEOUT)に設定した値を出力する)
3:0	GPIO1_IO_CFG [3:0]	0110	R/W	GPIO1 入出力信号選択設定 0000: [出力]”L”レベル 0001: [出力]アンテナスイッチ制御 1(送受信切り替え信号:TRX_SW) 0010: [出力]アンテナスイッチ制御 2(アンテナ切り替え信号:ANT_SW) 0011: [出力]外部 PA 制御信号 0100: [入出力]データ(DIO) 0101: [出力] データクロック(DCLK) 0110: [出力]デジタルモニタ信号 ※詳細はDMON_SET[3:0]([DMON_SET:B0 0x4D(3-0)])をご参照ください。 0111: [出力]割込み通知信号(SINTN) 1000: [入力]SLEEP 解除信号 1001: [出力] デジタルモニタ信号 2

0x50【GPIO2_CTRL】

機能:GPIO2 端子(ピン#18)制御
アドレス:0x50 (BANK0)
初期値:0x02

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	GPIO2_INV	0	R/W	GPIO2 出力信号極性設定
6	GPIO2_OD	0	R/W	GPIO2 出力 OpenDrain 設定 0: CMOS 出力 1: OpenDrain 出力
5	GPIO2_FORCEOUT	0	R/W	GPIO2 強制出力設定 0: “L”出力 1: ”H”出力 ※ bit7(GPIO1_INV)の設定に影響されません。
4	GPIO2_FORCEOUTEN	0	R/W	GPIO2 強制出力イネーブル 0: ディセーブル 1: イネーブル(bit5(GPIO2_FOCEOUT)に設定した値を出力する)
3:0	GPIO2_IO_CFG [3:0]	0010	R/W	GPIO2 入出力信号選択設定 0000: [出力]”L”レベル 0001: [出力]アンテナスイッチ制御 1(送受信切り替え信号:TRX_SW) 0010: [出力]アンテナスイッチ制御 2(アンテナ切り替え信号:ANT_SW) 0011: [出力]外部 PA 制御信号 0100: [入出力]データ(DIO) 0101: [出力] データクロック(DCLK) 0110: [出力]デジタルモニタ信号 ※詳細はDMON_SET[3:0]([DMON_SET:B0 0x4D(3-0)])をご参照ください。 0111: [出力]割込み通知信号(SINTN) 1001: [出力] デジタルモニタ信号 2

0x51【GPIO3_CTRL】

機能:GPIO3 端子(ピン#19)制御
アドレス:0x51 (BANK0)
初期値:0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	GPIO3_INV	0	R/W	GPIO3 出力信号極性設定
6	GPIO3_OD	0	R/W	GPIO3 出力 OpenDrain 設定 0: CMOS 出力 1: OpenDrain 出力
5	GPIO3_FORCEOUT	0	R/W	GPIO3 強制出力設定 0: “L”出力 1: ”H”出力 ※ bit7(GPIO3_INV)の設定に影響されません。
4	GPIO3_FORCEOUTEN	0	R/W	GPIO3 強制出力イネーブル 0: ディセーブル 1: イネーブル(bit5(GPIO3_FOCEOUT)に設定した値を出力する)
3:0	GPIO3_IO_CFG [3:0]	0001	R/W	GPIO3 入出力信号選択設定 0000: [出力]”L”レベル 0001: [出力]アンテナスイッチ制御 1(送受信切り替え信号:TRX_SW) 0010: [出力]アンテナスイッチ制御 2(アンテナ切り替え信号:ANT_SW) 0011: [出力]外部 PA 制御信号 0100: [入出力]データ(DIO) 0101: [出力] データクロック(DCLK) 0110: [出力]デジタルモニタ信号 ※詳細はDMON_SET[3:0]([DMON_SET:B0 0x4D(3-0)])をご参照ください。 0111: [出力]割込み通知信号(SINTN) 1001: [出力] デジタルモニタ信号 2

0x52【EXTCLK_CTRL】

機能: EXT_CLK 端子(ピン#10)制御
アドレス:0x52 (BANK0)
初期値:0x03

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	EXTCLK_INV	0	R/W	EXT_CLK 出力信号極性設定
6	EXTCLK _OD	0	R/W	EXT_CLK 出力 OpenDrain 設定 0: CMOS 出力 1: OpenDrain 出力
5	EXTCLK _FORCEOUT	0	R/W	EXT_CLK 強制出力値設定 0: “L”出力 1: ”H”出力 ※ bit7(EXTCLK_INV)の設定に影響されません。
4	EXTCLK _FORCEOUTEN	0	R/W	EXT_CLK 強制出力イネーブル 0: ディセーブル 1: イネーブル(bit5(EXTCLK_FOCEOUT)に設定した値を出力する)
3:0	EXTCLK _IO_CFG [3:0]	0011	R/W	EXT_CLK 入出力信号選択設定 0000: [入力]外部クロック (32 kHz) 0001: [出力]アンテナスイッチ制御 1(送受信切り替え信号:TRX_SW) 0010: [出力]アンテナスイッチ制御 2(アンテナ切り替え信号:ANT_SW) 0011: [出力]外部 PA 制御信号 0100: [入出力]データ (DIO) 0101: [出力]データクロック (DCLK) 0110: [出力]デジタルモニタ信号 ※詳細はDMON_SET[3:0]([DMON_SET:B0 0x4D(3-0)])をご参照ください。 0111: [出力]割込み通知信号(SINTN) 1001: [出力] デジタルモニタ信号 2

0x53【SPI/EXT_PA_CTRL】

機能：SPI インタフェース（SDI/SDO）端子/外部 PA 制御
アドレス：0x53 (BANK0)
初期値：0x80

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	SDO_OD	1	R/W	SDO 出力 OpenDrain 設定 0: CMOS 出力 1: OpenDrain 出力
6	Reserved	0	R	予約
5	SDO_CFG	0	R/W	SDO 端子(ピン#12)の入出力信号選択設定 0: [出力]SDO(SPI インタフェース) 1: [出力] SDO 出力(SCEN 端子(ピン#14)=”L”時) DCLK 出力(SCEN 端子=”H”時) ※詳細は「DIO 機能」を参照してください。
4	SDI_CFG	0	R/W	SDI 端子(ピン#15)の入出力信号選択設定 0: [入力]SDI(SPI インタフェース) 1: [入力] SDI 入力(SCEN 端子(ピン#14)=”L”時) [入出力] DIO 出力(SCEN 端子=”H”時) ※詳細は「DIO 機能」を参照してください。
3:2	Reserved	00	R	予約
1	EXT_PA_CNT	0	R/W	外部 PA 制御信号の制御タイミング設定 0: 送信回路起動タイミングで信号を出力する 1: PA の立ち上がりと同一タイミングで信号を出力する ※送信回路起動タイミング(TX_ON)および PA の立上がりタイミング(PA_ON)は、「タイムチャート-送信時」をご参照ください。
0	EXT_PA_EN	0	R/W	外部 PA 制御信号の制御設定イネーブル 0: ディセーブル (L 出力) 1: イネーブル (bit1(EXT_PA_CNT)の設定が有効となります)

0x54【CHFIL_BW】

機能:チャネルフィルタ帯域幅設定
アドレス:0x54 (BANK0)
初期値:0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	CHFIL_WIDE_SET	0	R/W	チャネルフィルタ広帯域設定 0: 常時 CHFIL_BW_ADJ で設定した帯域 1: 常時 CHFIL_BW_ADJ で設定した帯域の 2 倍帯域
6:0	CHFIL_BW_ADJ[6:0]	000_0001	R/W	チャネルフィルタ帯域幅調整設定 (設定範囲:1～127) チャネルフィルタ帯域幅[Hz] = マスタークロック周波数[Hz] / 設定値 / 180 ※初期値では 200kHz となります。 ※詳細は「チャネルフィルタ帯域幅の設定」を参照してください。

0x55【DC_I_ADJ_H】

機能:I 相 DC オフセット調整設定(上位 6 ビット)
アドレス:0x55 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	DC_ADJ_SET	0	R/W	DC オフセット補正設定 0: 自動調整 1: マニュアル調整
6	DC_ADJ_HOLD	0	R/W	DC オフセット補正ホールド設定 0: 常時更新 1: 同期確立後に DC オフセット値を固定する
5:0	DC_I_ADJ[13:8]	00_0000	R/W	I 相 DC オフセット調整設定 ※bit7 が 0b1 設定時に本調整値が有効となります。 ※設定値はマイナスの値は 2 の補数表現で設定します。 ※[DC_I_ADJ_L:B0 0x56]レジスタの 8 ビットと共に全 14 ビットから構成されます。

0x56【DC_I_ADJ_L】

機能:I 相 DC オフセット調整設定(下位バイト)
アドレス:0x56 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	DC_I_ADJ[7:0]	0000_0000	R/W	I 相 DC オフセット調整設定 ※[DC_I_ADJ_H:B0 0x55]レジスタの 6 ビットと共に全 14 ビットから構成されます。

0x57【DC_Q_ADJ_H】

機能:Q 相 DC オフセット調整設定(上位 6 ビット)
アドレス:0x57 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5:0	DC_Q_ADJ[13:8]	00_0000	R/W	Q 相 DC オフセット調整設定 ※bit7 が 0b1 設定時に本調整値が有効となります。 ※設定値はマイナスの値は 2 の補数表現で設定します。 ※[DC_Q_ADJ_L:B0 0x58]レジスタの 8 ビットと共に全 14 ビットから構成されます。

0x58【DC_Q_ADJ_L】

機能:Q 相 DC オフセット調整設定(下位バイト)
アドレス:0x58 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	DC_Q_ADJ[7:0]	0000_0000	R/W	Q 相 DC オフセット調整設定 ※[DC_Q_ADJ_H:B0 0x57]レジスタの 6 ビットと共に全 14 ビットから構成されます。

0x59【DC_FIL_ADJ】

機能: DC オフセット調整フィルタ設定
アドレス:0x59 (BANK0)
初期値:0xD5

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	DC_FIL_ADJ2[1:0]	11	R/W	DC オフセット調整用フィルタ設定 2 00: ディセーブル 01: 1/16 10: 1/32 11: 1/64
5	DC_FIL_MODE	0	R/W	DC オフセット調整フィルタモード設定 0: 初期状態から開始する 1: 前パケット受信時の DC オフセット値から開始する
4	DC_FIL_ON	1	R/W	DC オフセット調整フィルタイネーブル設定 0: ディセーブル 1: イネーブル
3	Reserved	0	R	予約
2:0	DC_FIL_SEL[2:0]	101	R/W	DC オフセット調整用フィルタ設定 000: 1/4 001: 1/8 010: 1/16 011: 1/32 100: 1/64 101: 1/128 110: 1/256 111: DC オフセット調整フィルタディセーブル(DC_FIL_ON=0b0 と同等) ※DC_ADJ_SET[DC_I_ADJ_H: B0 0x55(7)]が 0b0 設定(自動調整)時の調整フィルタ時定数を設定します。

0x5A【IQ_MAG_ADJ_H】

機能:IF の IQ 振幅バランス調整(上位 4 ビット)
アドレス:0x5A (BANK0)
初期値:0x08

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	IQ_ADJ_DONE	0	R	IQ 自動調整完了表示 0: 未完了 1: 完了
6	IQ_ADJ_RSLT	0	R	IQ 自動調整ステータス表示 0: IQ 自動調整後の RSSI 値が[IQ_ADJ_TARGET: B0 0x5F]で設定する RSSI 閾値より大きい 1: IQ 自動調整後の RSSI 値が[IQ_ADJ_TARGET: B0 0x5F]で設定する RSSI 閾値より小さい
5	LOCAL_SEL	0	R/W	受信ローカル周波数設定 0: Lower-Local 設定 1: Upper-Local 設定
4	IQ_ADJ_START	0	R/W	IQ 自動調整実行 0: 実行完了 1: 実行開始 ※自動調整後の結果は、IQ_MAG_ADJ[11:0]、IQ_PHASE_ADJ_SIGN [IQ_PHASE_ADJ_H: B0 0x5C(4)]および IQ_PHASE_ADJ [IQ_PHASE_ADJ_H/L: B0 0x5C(3-0)/0x5D(7-0)]に格納されます。
3:0	IQ_MAG_ADJ[11:8]	1000	R/W	IQ 信号の振幅調整設定(上位 4 ビット) ※[IQ_MAG_ADJ_L:B0 0x5B]レジスタの 8 ビットと共に全 12 ビットから算出されます。 bit11: x1 bit10: x1/2 bit9 : x1/4 bit8 : x1/8 bit7 : x1/16 bit6 : x1/32 bit5 : x1/64 bit4 : x1/128 bit3 : x1/256 bit2 : x1/512 bit1 : x1/1024 bit0 : x1/2048

【説明】

1. IQ_MAG_ADJ[11:0]でイメージ除去比を調整することができます。詳細は[I/Q 調整値の設定]を参照してください。

0x5B【IQ_MAG_ADJ_L】

機能:IF の IQ 振幅バランス調整(下位バイト)
アドレス:0x5B (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	IQ_MAG_ADJ[7:0]	0000_0000	R/W	IQ 信号の振幅調整設定(下位バイト) ※[IQ_MAG_ADJ_H:B0 0x5A]レジスタの 4 ビットと共に全 12 ビットから算出されます。

【説明】
1. IQ_MAG_ADJ[11:0]でイメージ除去比を調整することができます。詳細は[I/Q 調整値の設定]を参照してください。

0x5C【IQ_PHASE_ADJ_H】

機能:IF の IQ 位相バランス調整(上位 4 ビット)
アドレス:0x5C (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:5	Reserved	000	R	予約
4	IQ_PHASE_ADJ_SIGN	0	R/W	IQ 信号の位相調整符号ビット 0: プラス 1: マイナス
3	Reserved	0	R	予約
2:0	IQ_PHASE_ADJ[10:8]	000	R/W	IQ 信号の位相調整設定(上位 3 ビット) ※[IQ_PHASE_ADJ_L:B0 0x5D]レジスタの 8 ビットと共に全 11 ビットから算出されます。 bit10: x1/2 bit9 : x1/4 bit8 : x1/8 bit7 : x1/16 bit6 : x1/32 bit5 : x1/64 bit4 : x1/128 bit3 : x1/256 bit2 : x1/512 bit1 : x1/1024 bit0 : x1/2048

【説明】
1. IQ_PHASE_ADJ [10:0]および IQ_PHASE_ADJ_SIGN でイメージ除去比を調整することができます。詳細は[I/Q 調整値の設定]を参照してください。

0x5D【IQ_PHASE_ADJ_L】

機能:IF の IQ 位相バランス調整(下位バイト)
アドレス:0x5D (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	IQ_PHASE_ADJ[7:0]	0000_0000	R/W	IQ 信号の位相調整設定(下位バイト) ※[IQ_PHASE_ADJ_H:B0 0x5C]レジスタの 3 ビットと共に全 11 ビットから算出されます。

【説明】
1. IQ_PHASE_ADJ [10:0]および IQ_PHASE_ADJ_SIGN でイメージ除去比を調整することができます。詳細は[I/Q 調整値の設定]を参照してください。

0x5E【IQ_ADJ_WAIT】

機能:IF の IQ 自動調整用 RSSI 取得ウェイト時間
アドレス:0x5E (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:5	Reserved	000	R	予約
4	IQ_ADJ_MODE	0	R/W	IQ 自動調整モード設定 0: ベスト調整モード 1: 簡易調整モード ※0b1 設定時、自動調整において[IQ_ADJ_TARGET: B0 0x5F]で指定した閾値以下の RSSI が検出した時点で IQ 自動調整を終了します。
3:2	Reserved	00	R	予約
1:0	IQ_ADJ_WAIT[1:0]	00	R/W	IQ 自動調整用 RSSI 取得ウェイト時間設定 00: 1ms 01: 750us 10: 500us 11: 250us

【説明】
1. 詳細は[I/Q 調整値の設定]を参照してください。

0x5F【IQ_ADJ_TARGET】

機能:IF の IQ 自動調整用 RSSI 判定閾値
アドレス:0x5F (BANK0)
初期値:0x38

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	IQ_ADJ_TARGET[7:0]	0011_1000	R/W	IQ 自動調整用 RSSI 判定閾値 ※IQ 自動調整後の最終 RSSI 値と本設定値との比較結果を IQ_ADJ_RSLT[IQ_MAG_ADJ_H: B0 0x5A(6)]に表示します。

【説明】
1. 詳細は[I/Q 調整値の設定]を参照してください。

0x60【DEC_GAIN】

機能:デシメーションゲイン設定
アドレス:0x60 (BANK0)
初期値:0x18

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:5	Reserved	000	R	予約
4:0	DEC_GAIN[4:0]	1_1000	R/W	デシメーションゲイン設定 ゲイン = 1/2^(設定値 - 21)

0x61【IF_FREQ】

機能:IF 周波数選択
アドレス:0x61 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R	予約
6:4	IF_FREQ_CCA[2:0]	000	R/W	CCA 時の IF 周波数選択 000: 225kHz 001: 150kHz 010: 設定禁止 011: 112.5Hz 100: 設定禁止 101: 75kHz 110: 設定禁止 111: 0kHz
3	Reserved	0	R	予約
2:0	IF_FREQ[2:0]	000	R/W	IF 周波数選択 000: 225kHz 001: 150kHz 010: 設定禁止 011: 112.5Hz 100: 設定禁止 101: 75kHz 110: 設定禁止 111: 0kHz

【説明】

1. 本レジスタへの設定方法は、「IF 周波数の設定」を参照してください。

0x62【OSC_ADJ1】

機能:発振回路端子の負荷容量粗調整
アドレス:0x62 (BANK0)
初期値:0x88

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	OSC_ADJ_CORSE_XO [3:0]	1000	R/W	XO 容量負荷粗調整
3:0	OSC_ADJ_CORSE_XI [3:0]	1000	R/W	XI 容量負荷粗調整

【説明】
1. 本レジスタへの設定方法は、「発振回路の調整」を参照してください。

0x63【OSC_ADJ2】

機能:発振回路端子の負荷容量微調整
アドレス:0x63 (BANK0)
初期値:0x80

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	OSC_ADJ_FINE[7:0]	1000_0000	R/W	容量負荷微調整(調整範囲 0x00～0xFF)

【説明】
1. 本レジスタへの設定方法は、「発振回路の調整」を参照してください。

0x64【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x64 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R	予約

0x65【OSC_ADJ4】

機能:発振回路バイアス調整(起動時)
アドレス:0x65 (BANK0)
初期値:0x0F

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5	OSC_START_SET	0	R/W	OSC 起動モード設定 0: 通常起動モード [OSC_ADJ1: B0 0x62]、[OSC_ADJ1: B0 0x63]で設定する値から起動する 1: 高速起動モード [OSC_ADJ1: B0 0x62]=0x00、[OSC_ADJ1: B0 0x63]=0x00 設定から起動する
4:0	Reserved	0_1111	R	予約

0x66【RSSI_ADJ】

機能:RSSI 値の調整
アドレス:0x66 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	RSSI_ADD	0	R/W	RSSI 調整 0: -に設定する 1: +に設定する
6	Reserved	0	R	予約
5:0	RSSI_ADJ[5:0]	00_0000	R/W	RSSI 補正値設定

【説明】

1. 本レジスタを使用した調整の仕方に関しては「電力検出値(ED 値)の調整」を参照してください。

0x67【PA_REG_ADJ_H】

機能: PA 用レギュレータの出力電圧調整(上位ビット)
アドレス:0x67 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	PA_REG_ADJ_SEL	0	R/W	PA レギュレータの出力電圧調整イネーブル設定 0: ディセーブル 1: イネーブル ※調整時のみ 0b1 に設定してください。0b1 設定時、PA_REG_ADJ[8:0] にて PA レギュレータ出力電圧が可能になります。
6:1	Reserved	00_0000	R	予約
0	PA_REG_ADJ[8]	0	R/W	PA レギュレータの出力電圧調整設定 ※[PA_REG_ADJ_L: B0 0x68]レジスタの 8 ビットと共に全 9 ビットから算出されます。

【説明】
1. 本レジスタを使用した調整の仕方に関しては「PA の調整」を参照してください。

PA_REG_ADJ と PA レギュレータ出力電圧、PA 出力パワーの目安は以下の通りです。

PA_REG_ADJ[8:0]	PA レギュレータ 出力電圧[V]
0x000	0.00
・・・	・・・
0x082	0.84
・・・	・・・
0x0E6	1.48
・・・	・・・
0x140	2.06
・・・	・・・
0x1FF	3.29

0x68【PA_REG_ADJ_L】

機能:PA 用レギュレータの出力電圧調整(下位バイト)
アドレス:0x68 (BANK0)
初期値:0xE4

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	PA_REG_ADJ[7:0]	1110_0100	R/W	PA レギュレータの出力電圧調整設定 ※[PA_REG_ADJ_H:B0 0x67]レジスタの 1 ビットと共に全 9 ビットから算出されます。

【説明】
1. 本レジスタを使用した調整の仕方に関しては「PA の調整」を参照してください。

0x69【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x69 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R	予約

0x6A【CHFIL_BW_CCA】

機能:CCA 時チャネルフィルタ帯域幅設定
アドレス:0x6A (BANK0)
初期値:0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	CHFIL_WIDE_EN_CCA	0	R/W	CCA 時チャネルフィルタ広帯域設定 0: 常時 CHFIL_BW_ADJ で設定した帯域 1: 常時 CHFIL_BW_ADJ で設定した帯域の 2 倍帯域
6:0	CHFIL_BW_ADJ_CCA [6:0]	000_0001	R/W	CCA 時チャネルフィルタ帯域幅調整設定 (設定範囲:1～127) チャネルフィルタ帯域幅[Hz] = マスタークロック周波数[Hz] / 設定値 / 180 ※初期値では 200kHz となります。 ※詳細は「チャネルフィルタ帯域幅の設定」を参照してください。

0x6B【CHFIL_BW_OPTION】

機能:チャネルフィルタ帯域幅オプション設定
アドレス:0x6B (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:3	Reserved	0_0000	R	予約
2:0	CHFIL_BW_OPTION	000	R/W	チャネルフィルタ帯域幅オプション設定 000: 1 倍 001: 0.56 倍 010: 0.67 倍 011: 0.77 倍 100: 0.83 倍 101: 0.91 倍 ※[CHFIL_BW: B0 0x54] および[CHFIL_BW_CCA: B0 0x6A]で設定するチャネルフィルタ帯域幅の倍率を変更します。

0x6C【DC_FIL_ADJ2】

機能: DC オフセット調整フィルタ設定 2
アドレス:0x6C (BANK0)
初期値:0x03

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:3	Reserved	0_0000	R	予約
2:0	DC_FIL_SEL2[2:0]	011	R/W	DC オフセット引込み用フィルタ設定 000: 1/4 001: 1/8 010: 1/16 011: 1/32 100: 1/64 ※DC_ADJ_SET[DC_I_ADJ_H: B0 0x55(7)]が 0b0 設定(自動調整)時のフィルタ時定数を設定します。

0x6D【DEC_GAIN_CCA】

機能:CCA 時デシメーションゲイン設定
アドレス:0x6D (BANK0)
初期値:0x18

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:5	Reserved	000	R	予約
4:0	DEC_GAIN_CCA[4:0]	1_1000	R/W	CCA 時デシメーションゲイン設定 ゲイン = 1/2^(設定値 - 21)

0x6E【VCO_CAL】

機能：VCO キャリブレーション値の表示と設定
アドレス：0x6E (BANK0)
初期値：0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	CAL_WR_EN	0	R/W	VCO キャリブレーションモード設定 0: 自動設定モード 1: 強制書き込みモード
6:0	VCO_CAL[6:0]	000_0000	R/W	現在の VCO キャリブレーション値 ※自動設定モードでは、現在適用されている VCO キャリブレーション値を表示します。 強制書き込みモードを設定した場合、キャリブレーション値は VCO_CAL[6:0]に書き込んだ値が強制的に適用されます。 (CAL_WR_EN に 0b0 を設定した場合は値は反映されません。) ※初期値はクロック安定化完了後、0b100_0000 になります。

【説明】
1. VCO キャリブレーションの使用方法については、「VCO の調整」を参照してください。

0x6F【VCO_CAL_START】

機能：VCO キャリブレーション実行
アドレス：0x6F (BANK0)
初期値：0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:5	Reserved	000	R	予約
4	AUTO_VCOCAL_EN	0	R/W	自動 VCO キャリブレーション実行設定 0: VCO キャリブレーションを自動実行しない 1: SLEEP 復帰時に自動で VCO キャリブレーションを実行する
3:1	Reserved	000	R	予約
0	VCO_CAL_START	0	R/W	VCO キャリブレーション実行 0: 実行完了 1: 実行開始 ※実行完了後、自動的に 0 に戻ります。

【説明】
1. VCO キャリブレーションの使用方法については、「VCO の調整」を参照してください。

0x70【CLK_CAL_SET】

機能:低速クロックキャリブレーション制御
アドレス:0x70 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	CLK_CAL_DIV[3:0]	0000	R/W	キャリブレーション用クロック分周設定 0000: 分周なし 0001: 分周なし 上記以外: 設定値分周
3:1	Reserved	000	R	予約
0	CLK_CAL_START	0	R/W	低速クロックキャリブレーション実行 0: 実行完了 1: 実行開始 ※実行完了後、自動的に 0 に戻ります。

【説明】
1. 使用方法については、「低速クロック補正補助機能」を参照してください。

0x71【CLK_CAL_TIME】

機能:クロックキャリブレーション時間設定
アドレス:0x71 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5:0	CLK_CAL_TIME [5:0]	00_0000	R/W	クロックキャリブレーション時間設定 キャリブレーション時間 ＝ ウェイクアップタイマ用クロック周期([SLEEP/WU_SET:B0 0x2D(2)]) * 設定値 ※マスタークロックが 36MHz 時、CLK_CAL_TIME=0x3F 設定した場合、クロックキャリブレーション結果表示値([CLK_CAL_H/L: B0 0x72/73])の上限を超えるため、0x3E 以下の値を設定してください。

【説明】
1. 使用方法については、「低速クロック補正補助機能」を参照してください。

0x72【CLK_CAL_H】

機能：低速クロックキャリブレーション結果表示（上位バイト）
アドレス：0x72 (BANK0)
初期値：0xFF

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	CLK_CAL [15:8]	1111_1111	R	クロックキャリブレーション(上位バイト)

【説明】
1. 使用方法については、「低速クロック補正補助機能」を参照してください。

0x73【CLK_CAL_L】

機能：低速クロックキャリブレーション結果表示（下位バイト）
アドレス：0x73 (BANK0)
初期値：0xFF

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	CLK_CAL [7:0]	1111_1111	R	クロックキャリブレーション(下位バイト)

【説明】
1. 使用方法については、「低速クロック補正補助機能」を参照してください。

0x74【Reserved】

機能：予約
アドレス：0x74 (BANK0)
初期値：0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R/W	予約

0x75【SLEEP_INT_CLR】

機能:SLEEP 時割込みクリア設定
アドレス:0x75 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:2	Reserved	00_0000	R	予約
1	AUTO_SLEEP_INT_CLR	0	R/W	自動 SLEEP 時割り込みクリア設定 0: 割込みクリアしない 1: 割込みクリアする ※ウェイクアップタイマ動作中のウェイクアップ時に自動で割り込みをクリアします。
0	SLEEP_INT_CLR	0	R/W	SLEEP 時割込みクリア設定 0: 割込みクリアしない 1: 割込みクリアする ※SLEEP 中は[INT_SOURCE_GRP*: B0 0x0D/0E/0F]での割込みクリアはできません。本ビットを 0b1 に設定することにより、SLEEP 中に割込みをクリアすることができます。SLEEP 中のみ書き込み可能で、SLEEP 解除により 0b0 に戻ります。 ※対象となる割込みは全割込み([INT_SOURCE_GRP*: B0 0x0D/0E/0F])です。

0x76【RF_TEST_MODE】

機能:送信テストパターン設定
アドレス:0x76 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5	TEST5	0	R/W	CW 出力設定
4	TEST4	0	R/W	“01”パターン出力設定
3	TEST3	0	R/W	ALL”0”出力設定
2	TEST2	0	R/W	ALL”1”出力設定
1	TEST1	0	R/W	PN9 出力設定
0	TEST_EN	0	R/W	テストモードイネーブル制御 0: テスト設定を無効にする 1: テスト設定を有効にする

【説明】

1. 通常動作時には、必ず本レジスタの全てのビットを 0b0 にしてください。
2. 複数のテストパターンが有効に設定された場合は、ビット番号の低い設定が有効となります。
3. データレートは、TX_DRATE[3:0]([DRATA_SET: B0 0x06(3-0)])の設定値が適用されます。
4. PN9 出力設定時の PN9 生成回路は、[WHT_CFG: B1 0x66]にて任意の生成多項式に設定可能です。
   市販 BER 計の多くで対応している PN9 の生成多項式は x^9+x^4+1 であり、[WHT_CFG: B1 0x66]を 0x08 に設定することで対応可能です。
5. FSK モード(GFSK_EN([DATA_SET1: B0 0x07(4)])=0b0)を選択している場合、下記手順にて送信テストパターンを設定し、送信してください。
   ① 本レジスタにて送信テストパターンを設定します。
   ② 送信状態(SET_TRX[3:0]([RF_STATUS: B0 0x0B(3-0)])=0b1001)にします。
   ③ MODEM リセット([RST_SET: B0 0x01]=0x22)します。

0x77【STM_STATE】

機能:ステートマシン状態表示/プリアンブル検出状態表示
アドレス:0x77 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	MODE_DET_RSLT	0	R	Mode T/C 受信結果表示 0 : Mode T 受信 1 : Mode C 受信 ※本ビットは 2MODE_DET_EN([2MODE_DET : B3 0x23(0)])=0b1 設定時に有効です。 ※SyncWord 検出後、本表示値が有効となります。SyncWord 検出毎に更新されます。
6	SYNC_STATE	0	R	受信同期検出状態表示 0: 未同期状態 1: 同期状態
5	SW_DET_RSLT	0	R	SyncWord 検出状態表示 0: 同期ワードパターン 1(FormatA)検出 1: 同期ワードパターン 2(FormatB)検出 ※Wireless M-Bus 対応パケットフォーマット(FormatA/B)設定(PKT_FORMAT[PKT_CTRL1: B0 0x04(1-0)=0b00 または 0b01) 時のみ有効です。 ※SyncWord 検出後、本表示値が有効となります。SyncWord 検出毎に更新されます。 ※2MODE_DET_EN([2MODE_DET: B3 0x23(0)])=0b1 設定時、Modet T で受信した場合、本表示値は無効となります。
4:0	PHY_STATE[4:0]	0_0000	R	ステートマシン状態表示 0_0000: IDLE 状態 0_0001: プリアンブル送信ステート 0_0010: SyncWord 送信ステート 0_0011: L-field 送信ステート 0_0100: Data 領域送信ステート 0_0101: ポストアンブル送信ステート 0_0110:送信遅延待ちステート 0_0111: DIO 送信ステート 1_0010: SyncWord 検出待ちステート 1_0011: L-field 受信ステート 1_0100: データ領域受信ステート 1_0111: DIO 受信ステート

0x78【FIFO_SET】

機能:FIFO リード設定
アドレス:0x78 (BANK0)
初期値:0x02

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	Reserved	0000	R/W	予約
3	CLKINIT_TRX_SET	0	R/W	クロック安定後 RF 状態設定 0: クロック安定化後、RX_ON へ移行 1: クロック安定化後、TX_ON へ移行 ※CLKINIT_TRX_EN([FIFO_SET: B0 0x78(2)])=0b1 設定時のみ有効となります。
2	CLKINIT_TRX_EN	0	R/W	クロック安定後 RF 状態設定イネーブル 0: ディセーブル 1: イネーブル
1	FAST_CCA_LC	1	R/W	高速電波チェック時の低消費電力モード設定 0: ディセーブル 1: イネーブル ※高速電波チェック中は復調器動作を停止します。
0	FIFO_R_SEL	0	R/W	FIFO リード設定 0: 受信 FIFO をリードする 1: 送信 FIFO をリードする ※送信、受信バッファをリードする場合、[RD_FIFO:B0 0x7F]レジスタを共用します。そのため、0b1 設定し送信 FIFO をリードする場合、[TX_PKT_LEN_H/L: B0 0x7A/7B]で設定する Length 分のデータを FIFO リードするか、読み出し後に STATE_CLR1([STATE_CLR: B0 0x16(1)])=0b1 を設定して、受信 FIFO ポインタのクリアを実行してください。途中で読み出しを停止して、受信 FIFO のリードに切り替えた場合、停止させたポインタから読み出しを開始するため、受信データを正常に読み出せなくなります。

0x79【RX_FIFO_LAST】

機能:受信 FIFO の使用量表示(上位バイト)
アドレス:0x79 (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5:0	RX_FIFO_LAST[5:0]	00_0000	R	受信時 FIFO データ使用量表示(表示範囲 0～63) ※詳細は「FIFO 制御機能」を参照してください。

0x7A【TX_PKT_LEN_H】

機能:送信パケット Length 設定(上位バイト)
アドレス:0x7A (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	TX_PKT_LEN[15:8]	0000_0000	R/W	送信パケット Length 値設定(上位バイト) ※送信する Length を設定します。 FormatA･･･L-field/CRC-field を除く Length を設定します。 FormatB/C･･･L-field を除く Length を設定します。 FormatD･･･Data-field から CRC-field までのデータ長を設定します。 ※[TX_PKT_LEN_L:B0 0x7B]レジスタの 8 ビットと共に全 16 ビットから算出されます。上位バイトは LENGTH_MODE([PKT_CTRL: B0 0x05(1-0)])=0b01 設定時のみ有効となります。 ※詳細は「FIFO 制御機能」を参照してください。

0x7B【TX_PKT_LEN_L】

機能:送信パケット Length 設定(下位バイト)
アドレス:0x7B (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	TX_PKT_LEN[7:0]	0000_0000	R/W	設定パケット Length 値設定(下位バイト) ※詳細は[PKT_LEN_H: B0 0x7A]レジスタをご参照ください。

0x7C【WR_TX_FIFO】

機能:送信 FIFO
アドレス:0x7C (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	TX_FIFO[7:0]	0000_0000	W	送信 FIFO ※本 LSI に格納できる送信データはパケット長に関係なく 1 パケットまでとなります。1 パケットのデータを格納した状態(データ送信要求受付完了割込み INT[17]発生後から送信完了割込み INT16 発生まで)で、次の書き込み動作を行うと FIFO は上書きされ、送信 FIFO アクセスエラー割り込み(INT[20])が発生します。送信 FIFO アクセスエラーが発生した場合、送信 FIFO クリア STATE_CLR0([STATE_CLR: B0 0x16(0)])を 0b1 に設定し、送信 FIFO ポインタのクリアを実行してください。 ※詳細は「FIFO 制御機能」を参照してください。

0x7D【RX_PKT_LEN_H】

機能:受信パケット Length 設定/表示(上位バイト)
アドレス:0x7D (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	RX_PKT_LEN[15:8]	0000_0000	R/W	受信パケット Length 値設定/表示(上位バイト) ※FormatA/B/C・・・L-field を除くパケット Length を表示します。 ※FormatD・・・L-field がないパケット構成のため、本設定値を受信 Length 値として FIFO 制御(FIFO からのデータ読み出し制御)が行われます。Data-field から CRC-field までのデータ長を設定してください。

0x7E【RX_PKT_LEN_L】

機能:受信パケット Length 設定/表示(下位バイト)
アドレス:0x7E (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	RX_PKT_LEN[7:0]	0000_0000	R/W	受信パケット Length 値設定/表示(下位バイト) ※詳細は[RX_PKT_LEN_H: B0 0x7D]レジスタをご参照ください。

0x7F【RD_FIFO】

機能: FIFO リード
アドレス:0x7F (BANK0)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	RD_FIFO[7:0]	0000_0000	R	FIFO リード ※FIFO_R_SEL([FIFO_SET: B0 0x78])で設定した FIFO 面をリードします。 ※受信時、本 LSI に格納できる受信データはパケット長に関係なく 1 パケットまでとなります。1 パケットのデータが格納されている状態で次のパケットを受信した場合、FIFO は上書きされます。 ※FIFO データを全て読み出す必要がない場合、受信 FIFO クリア STATE_CLR1([STATE_CLR: B0 0x16(1)])を 0b1 に設定し、受信 FIFO ポインタのクリアを実行してください。 ※詳細は「FIFO 制御機能」を参照してください。 ※スリープ中に FIFO をリードした場合は、受信 FIFO クリア STATE_CLR1([STATE_CLR: B0 0x16(1)])を 0b1 に設定し、受信 FIFO ポインタのクリアを実行してください。

●レジスタ BANK1

0x00【BANK_SEL】

【説明】
[BANK_SEL:B0 0x00]を参照ください。

0x01【CLK_OUT】

機能:CLKOUT の出力クロック周波数設定
アドレス:0x01 (BANK1)
初期値:0x05

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	CLK_DIV[7:0]	0000_0101	R/W	出力クロック周波数設定 下記計算式で出力されます 0000_0000: 36MHz 0000_0001: 18MHz 0000_0010: 12MHz(デューティ比･･･High:Low=1:2) 0000_0011: 9MHz 0000_0100: 6MHz 0000_0101: 4.5MHz 0000_0110: 3.6MHz 0000_0111: 1.0MHz 0000_1000: 600kHz 0000_1001: 246.5kHz 上記以外: 下記の計算式で出力周波数が決定されます。 出力周波数 = 36 / (16 * [設定値] + 2) [MHz] 例えば、0x0A を設定した場合は、 出力周波数 = 36 / (16 * 10 + 2) = 222kHz となります。

0x02【TX_RATE_H】

機能:送信データレート設定(上位バイト)
アドレス:0x02 (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	TX_RATE[15:8]	0000_0000	R/W	送信データレート変換設定(上位バイト) ※[TX_RATE_L: B1 0x03]レジスタの 8 ビットと共に全 16 ビットから算出されます。 任意のレートを設定する場合、下式から算出される値を設定します。 設定値 = round (マスタークロック周波数 / 10 / [任意のビットレート]) ※詳細は「データレート設定機能」を参照してください。

0x03【TX_RATE_L】

機能:送信データレート変換設定(下位バイト)
アドレス:0x03 (BANK1)
初期値:0x12

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	TX_RATE[7:0]	0001_0010	R/W	送信データレート変換設定(下位バイト) ※詳細は[TX_RATE_H]レジスタをご参照ください。

0x04【RX_RATE1_H】

機能:受信データレート設定 1(上位バイト)
アドレス:0x04 (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	RX_RATE1[15:8]	0000_0000	R/W	受信データレート変換設定(上位バイト) ※[RX_RATE_L: B1 0x05]レジスタの 8 ビットと共に全 16 ビットから算出されます。 任意のレートを設定する場合、下式から算出される値を設定します。 設定値 = round (マスタークロック周波数/ {[任意のビットレート] * [RX_RATE2: B1 0x06]レジスタ)}) ※詳細は「データレート設定機能」を参照してください。

0x05【RX_RATE1_L】

機能:受信データレート設定 1(下位バイト)
アドレス:0x05 (BANK1)
初期値:0x09

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	RX_RATE1[7:0]	0000_1001	R/W	受信データレート変換設定(下位バイト) ※詳細は[RX_RATE1_L]レジスタをご参照ください。

0x06【RX_RATE2】

機能:受信データレート設定 2
アドレス:0x06 (BANK1)
初期値:0x0A

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R	予約
6:0	RX_RATE2[6:0]	000_1010	R/W	受信データレート変換設定 2(設定範囲: 30～127) ※RX_RATE1 と組み合わせて任意のレートを設定します。詳細は[RATE_SET1_H/L]レジスタをご参照ください。 ※0x01 以上 0x1D 以下の値は設定しないでください。ただし、0x00 設定時は 128 と認識します。

0x07【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x07(BANK1)
初期値:0x5E

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0101_1110	R/W	予約

0x08【OSC_W_SEL】

機能:クロック安定化待ち時間設定
アドレス:0x08 (BANK1)
初期値:0x20

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R	予約
6:5	OSC_W_SEL[1:0]	01	R/W	クロック安定化待ち時間設定 00: 500μsec 01: 250μsec 10: 設定禁止 11: 設定禁止 ※本ビットにて電源投入後の起動時、または SLEEP からの復帰時のクロック安定化化待ち時間を設定できます。クロック安定化待ち時間のタイミングは「タイムチャート-起動時」を参照してください。
4:0	Reserved	0_0000	R/W	予約

0x09-0x0A【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x09-0x0A(BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R	予約

0x0B【PLL_LOCK_DETECT】

機能:PLL ロック判定設定
アドレス:0x0B (BANK1)
初期値:0x81

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	PLL_LD_EN	1	R/W	送信時の PLL ロック外れ検出後の状態設定 0: 送信状態を維持する 1: Force_TRX_OFF により送信強制停止する ※ロック外れを検出すると INT2 (INT_SOURCE_GRP1)を発生させ、設定した状態へ移行します。 ※受信時に PLL ロック外れを検出した場合は、INT[2]発生後に受信状態を継続します。
6:0	TIM_PLL_LD[6:0]	000_0001	R/W	PLL ロック判定時間調整 PLL ロック検出信号の"H"期間が下記で設定される時間以上となったときにロック状態とみなします。ロック外れ状態は"L"を検出した時点で判断します。 判定時間 = 設定値 * 8μsec + 1 (デフォルト: 9μsec)

【ご注意】

1. PLL ロック外れを検出してIDLE状態へ強制移行した場合は、次の送受信を行う前に INT[2][INT_SOURCE_GRP1: B0 0x0D(2)]のクリアを必ず行ってください。また、[RF_STATUS:B0 0x0B]レジスタへの書き込みアクセスは 5μsec 以上経過してから実行してください。
2. PLL ロック外れ検出の条件、検出タイミングについては「VCO の調整」をご参照ください。

0x0C-0x0D【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x0C-0x0D (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R	予約

0x0E【GAIN_HOLD】

機能:ゲイン切替え設定
アドレス:0x0E (BANK1)
初期値:0x80

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	GAIN_SYNC_HOLD	1	R/W	ゲイン切り替え設定 0: 常時更新 1: 同期確立後にゲイン固定する ※BER 測定時には 0b0 に設定してください。
6:0	Reserved	000_0000	R	予約

0x0F【RSSI_STABLE_RES】

機能:RSSI 安定化待ち時間分解能設定
アドレス:0x0F (BANK1)
初期値:0x25

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:1	Reserved	000_0000	R	予約
0	RSSI_STABLE_RES	0	R/W	RSSI 安定待ち時間分解能設定 0: 1 倍 1: 1/2 倍 ※[RSSI_STABLE: B1 0x12]で設定する待ち時間に対し、本レジスタにて設定した値の倍率をかけたサンプル数分だけ RSSI 安定待ちを行います。

0x10【GC_MODE_DIV】

機能:ダイバーシティ時のゲイン制御モード設定
アドレス:0x10 (BANK1)
初期値:0x0F

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	Reserved	0000	R/W	予約
3:0	GC_MODE_DIV [3:0]	1111	R/W	ダイバーシティ時のゲイン制御モード設定 0001: HH ゲイン固定 0010: H ゲイン固定 0011: H⇔HH ゲイン遷移 0100: M ゲイン固定 0110: M⇔H ゲイン遷移 0111: M⇔H⇔HH ゲイン遷移 1000: L ゲイン固定 1100: L⇔M ゲイン遷移 1110: L⇔M⇔H ゲイン遷移 1111: L⇔M⇔H⇔HH ゲイン遷移 上記以外: H ゲイン固定

0x11【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x11 (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R	予約

0x12【RSSI_STABLE_TIME】

機能:RSSI 安定化待ち時間設定
アドレス:0x12 (BANK1)
初期値:0x23

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R	予約
6:4	RSSI_STABLE2[2:0]	010	R/W	高速電波チェック時ゲイン切替後の RSSI 安定待ち時間設定 ※本レジスタで設定された期間は、ゲイン切替えに伴う RSSI の収束、安定の時間とし、この期間内の RSSI 値は ED 値算出の対象外となります。 ウェイト時間[s] = 1/{マスタークロック周波数 / CHFIL_BW_ADJ[CHFIL_BW: B0 0x54]設定値 / 8} × 待ち時間サンプル数 × [RSSI_STABLE_RES: B1 0x12]設定倍率 設定値と待ち時間サンプル数との関係は以下となります。 000: 50 サンプル 001: 100 サンプル 010: 125 サンプル 011: 150 サンプル 100: 175 サンプル 101: 200 サンプル 110: 225 サンプル 111: 250 サンプル
3	Reserved	0	R	予約
2:0	RSSI_STABLE[2:0]	011	R/W	ゲイン切替後の RSSI 安定待ち時間設定 ※本レジスタで設定された期間は、ゲイン切替えに伴う RSSI の収束、安定の時間とし、この期間内の RSSI 値は ED 値算出の対象外となります。 ウェイト時間[s] = 1/{マスタークロック周波数 / CHFIL_BW_ADJ[CHFIL_BW: B0 0x54]設定値 / 8} × 待ち時間サンプル数 × [RSSI_STABLE_RES: B1 0x12]設定倍率 設定値と待ち時間サンプル数との関係は以下となります。 000: 50 サンプル 001: 100 サンプル 010: 125 サンプル 011: 150 サンプル 100: 175 サンプル 101: 200 サンプル 110: 225 サンプル 111: 250 サンプル

【ご注意】
1. 本レジスタへは 0x00 を設定しないでください。また、「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x13【RSSI_MAG_ADJ】

機能:ED 変換用 RSSI 補正設定
アドレス:0x13 (BANK1)
初期値:0x0C

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:5	Reserved	000	R	予約
4	RSSI_MAG_D4	0	R/W	RSSI 倍率 2 倍設定 0: 適用しない 1: 適用する
3	RSSI_MAG_D3	1	R/W	RSSI 倍率 1 倍設定 0: 適用しない 1: 適用する
2	RSSI_MAG_D2	1	R/W	RSSI 倍率 1/2 倍設定 0: 適用しない 1: 適用する
1	RSSI_MAG_D1	0	R/W	RSSI 倍率 1/4 倍設定 0: 適用しない 1: 適用する
0	RSSI_MAG_D0	0	R/W	RSSI 倍率 1/8 倍設定 0: 適用しない 1: 適用する

【ご注意】
1. 本レジスタを使用した調整の仕方に関しては「電力検出値(ED 値)の調整」を参照してください。
2. 本レジスタへは「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。
3. 本レジスタは 0b1 が設定された倍率の総和によりトータルの倍率が計算されます(例 bit3 と bit1 に 0b1 が書き込まれている場合は、1 倍と 1/4 倍の和からトータル倍率は 1.25 倍となります。) 。計算後、値が 0xFF 以上となる場合は 0xFF に制限されます。

0x14【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x14 (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R	予約

0x15【AFC/GC_CTRL】

機能：AFC /ゲイン制御設定
アドレス：0x15 (BANK1)
初期値：0x0F

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	AFC_EN	0	R/W	AFC 制御設定 0: AFC 無効にする 1: AFC 有効にする
6:4	Reserved	000	R	予約
3:0	GC_MODE [3:0]	1111	R/W	ゲイン制御モード設定 0001: HH ゲイン固定 0010: H ゲイン固定 0011: H⇔HH ゲイン遷移 0100: M ゲイン固定 0110: M⇔H ゲイン遷移 0111: M⇔H⇔HH ゲイン遷移 1000: L ゲイン固定 1100: L⇔M ゲイン遷移 1110: L⇔M⇔H ゲイン遷移 1111: L⇔M⇔H⇔HH ゲイン遷移 上記以外: H ゲイン固定

【ご注意】
1. 本レジスタへは「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x16【CRC_POLY3】

機能:CRC 生成多項式設定 3
アドレス:0x16 (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R	予約
6:0	CRC_POLY [30:24]	000_0000	R/W	CRC 生成多項式設定

【説明】
1. 詳細は「CRC 機能」を参照してください。

0x17【CRC_POLY2】

機能:CRC 生成多項式設定 2
アドレス:0x17 (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	CRC_POLY [23:16]	0000_0000	R/W	CRC 生成多項式設定

【説明】
1. 詳細は「CRC 機能」を参照してください。

0x18【CRC_POLY1】

機能:CRC 生成多項式設定 1
アドレス:0x18 (BANK1)
初期値:0x1E

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	CRC_POLY [15:8]	0001_1110	R/W	CRC 生成多項式設定

【説明】
1. 詳細は「CRC 機能」を参照してください。

0x19【CRC_POLY0】

機能:CRC 生成多項式設定 0
アドレス:0x19 (BANK1)
初期値:0xB2

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	CRC_POLY [7:0]	1011_0010	R/W	CRC 生成多項式設定

【説明】
1. 詳細は「CRC 機能」を参照してください。

0x1A【PLL_DIV_SET】

機能:PLL 周波数分周設定
アドレス:0x1A (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:2	Reserved	00_0000	R	予約
1:0	PLL_MODE	00	R/W	PLL モード設定 00: 分周なし 10: 2 分周 上記以外: 予約 ※0b10 設定時、PLL 周波数関連の設定は所望の周波数の 2 倍の周波数を設定してください。PLL 周波数関連のレジスタは「周波数設定機能」をご参照ください。

0x1B【TXFREQ_I】

機能:送信周波数設定(N および A カウンタ)
アドレス:0x1B (BANK1)
初期値:0x19

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5:0	TXFREQ_I [5:0]	01_1001	R/W	送信周波数設定 I カウンタ ※初期設定は 920.7MHz となります。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「チャネル#0 周波数の設定」を参照してください。

0x1C【TXFREQ_FH】

機能:送信周波数設定(F カウンタ上位 4 ビット)
アドレス:0x1C (BANK1)
初期値:0x09

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	Reserved	0000	R	予約
3:0	TXFREQ_F[19:16]	1001	R/W	送信周波数設定 F カウンタ(上位 4 ビット) ※初期設定は 920.7MHz となります。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「チャネル#0 周波数の設定」を参照してください。

0x1D【TXFREQ_FM】

機能:送信周波数設定(F カウンタ中位 8 ビット)
アドレス:0x1D (BANK1)
初期値:0x33

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	TXFREQ_F[15:8]	0011_0011	R/W	送信周波数設定 F カウンタ(中位 8 ビット) ※初期設定は 920.7MHz となります。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「チャネル#0 周波数の設定」を参照してください。

0x1E【TXFREQ_FL】

機能:送信周波数設定(F カウンタ下位 8 ビット)
アドレス:0x1E (BANK1)
初期値:0x33

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	TXFREQ_F[7:0]	0011_0011	R/W	送信周波数設定 F カウンタ(下位 8 ビット) ※初期設定は 920.7MHz となります。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「チャネル#0 周波数の設定」を参照してください。

0x1F【RXFREQ_I】

機能:受信周波数設定(I カウンタ)
アドレス:0x1F (BANK1)
初期値:0x19

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5:0	RXFREQ_I[5:0]	01_1001	R/W	受信周波数設定 I カウンタ ※初期設定は 920.7MHz となります。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「チャネル#0 周波数の設定」を参照してください。

0x20【RXFREQ_FH】

機能:受信周波数設定(F カウンタ上位 4 ビット)
アドレス:0x20 (BANK1)
初期値:0x09

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	Reserved	0000	R	予約
3:0	RXFREQ_F[19:16]	1001	R/W	受信周波数設定 F カウンタ(上位 4 ビット) ※初期設定は 920.7MHz となります。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「チャネル#0 周波数の設定」を参照してください。

0x21【RXFREQ_FM】

機能:受信周波数設定(F カウンタ中位 8 ビット)
アドレス:0x21 (BANK1)
初期値:0x33

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	RXFREQ_F[15:8]	0011_0011	R/W	受信周波数設定 F カウンタ(中位 8 ビット) ※初期設定は 920.7MHz となります。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「チャネル#0 周波数の設定」を参照してください。

0x22【RXFREQ_FL】

機能:受信周波数設定(F カウンタ下位 8 ビット)
アドレス:0x22 (BANK1)
初期値:0x33

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	RXFREQ_F[7:0]	0011_0011	R/W	受信周波数設定 F カウンタ(下位 8 ビット) ※初期設定は 920.7MHz となります。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「チャネル#0 周波数の設定」を参照してください。

0x23【CH_SPACE_H】

機能:チャネル間隔設定(上位バイト)
アドレス:0x23 (BANK1)
初期値:0x2D

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R	予約
6:0	CH_SPACE[14:8]	010_1101	R/W	チャネル間隔設定(上位バイト) ※初期設定は 400kHz となります。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「チャネル間隔の設定」を参照してください。

0x24【CH_SPACE_L】

機能:チャネル間隔設定(下位バイト)
アドレス:0x24 (BANK1)
初期値:0x83

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	CH_SPACE[7:0]	1000_0011	R/W	チャネル間隔設定(下位バイト) ※初期設定は 400kHz となります。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「チャネル間隔の設定」を参照してください。

0x25【SYNC_WORD_LEN】

機能:同期ワード長設定
アドレス:0x25 (BANK1)
初期値:0x08

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5:0	SYNC_WORD_LEN[5:0]	00_1000	R/W	同期ワード長設定(設定範囲:2～32、単位:ビット) ※0b10_0000 以上の設定は、0b10_0000 として動作します。 ※0b00_0011 以下の設定は送信/受信状態で異なり、以下となります。 (受信時) 0b00_0100 として動作します。 (送信時) 設定値に従う

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「SyncWord 検出機能」を参照してください。

0x26【SYNC_WORD_EN】

機能:同期ワードイネーブル設定
アドレス:0x26 (BANK1)
初期値:0x0F

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	Reserved	0000	R	予約
3	SYNC_WORD_EN3	1	R/W	SYNC_WORD[31:24]イネーブル 0: 検出対象としない 1: 検出対象とする
2	SYNC_WORD_EN2	1	R/W	SYNC_WORD[23:16]イネーブル 0: 検出対象としない 1: 検出対象とする
1	SYNC_WORD_EN1	1	R/W	SYNC_WORD[15:8]イネーブル 0: 検出対象としない 1: 検出対象とする
0	SYNC_WORD_EN0	1	R/W	SYNC_WORD[7:0]イネーブル 0: 検出対象としない 1: 検出対象とする

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「SyncWord 検出機能」を参照してください。

0x27【SYNCWORD1_SET0】

機能:同期ワードパターン設定 1(ビット 24～31)
アドレス:0x27 (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	SYNC_WORD1[31:24]	0000_0000	R/W	同期ワードパターン設定 1

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「SyncWord 検出機能」を参照してください。

0x28【SYNCWORD1_SET1】

機能:同期ワードパターン設定 1(ビット 16～23)
アドレス:0x28 (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	SYNC_WORD1[23:16]	0000_0000	R/W	同期ワードパターン設定 1

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「SyncWord 検出機能」を参照してください。

0x29【SYNCWORD1_SET2】

機能:同期ワードパターン設定 1(ビット 8～15)
アドレス:0x29 (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	SYNC_WORD1[15:8]	0000_0000	R/W	同期ワードパターン設定 1

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「SyncWord 検出機能」を参照してください。

0x2A【SYNCWORD1_SET3】

機能:同期ワードパターン設定 1(ビット 0～7)
アドレス:0x2A (BANK1)
初期値:0x38

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	SYNC_WORD1[7:0]	0011_1000	R/W	同期ワードパターン設定 1

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「SyncWord 検出機能」を参照してください。

0x2B【SYNCWORD2_SET0】

機能:同期ワードパターン設定 2(ビット 24～31)
アドレス:0x2B (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	SYNC_WORD2[31:24]	0000_0000	R/W	同期ワードパターン設定 2

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「SyncWord 検出機能」を参照してください。

0x2C【SYNCWORD2_SET1】

機能:同期ワードパターン設定 2(ビット 16～23)
アドレス:0x2C (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	SYNC_WORD2[23:16]	0000_0000	R/W	同期ワードパターン設定 2

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「SyncWord 検出機能」を参照してください。

0x2D【SYNCWORD2_SET2】

機能:同期ワードパターン設定 2(ビット 8～15)
アドレス:0x2D (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	SYNC_WORD2[15:8]	0000_0000	R/W	同期ワードパターン設定 2

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「SyncWord 検出機能」を参照してください。

0x2E【SYNCWORD2_SET3】

機能:同期ワードパターン設定 2(ビット 0～7)
アドレス:0x2E (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	SYNC_WORD2[7:0]	0000_0000	R/W	同期ワードパターン設定 2

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「SyncWord 検出機能」を参照してください。

0x2F【FSK_CTRL】

機能: FSK 変調タイミング分解能設定
アドレス:0x2F (BANK1)
初期値:0x02

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R/W	予約
5:4	BT_SEL[1:0]	00	W	BT 選択設定 00: 係数任意設定([FSK_D0_H/GFIL0: B1 0x32]～[FSK_D0_H/GFIL6: B1 0x38])の値が有効となります) 01: BT=0.3 10: BT=0.4 上記以外: 予約
3:1	GFSK_CLKX	001	R/W	GFSK クロック設定 000: 1 倍クロック動作 001: 2 倍クロック動作 010: 4 倍クロック動作 100: 8 倍クロック動作 上記以外: 予約 ※データレートによっては設定可能値に制約があります。設定値については「初期設定レジスタ」をご参照ください。
0	FSK_CLK_SET	0	R/W	2FSK 時の変調タイミング分解能設定 0: 4MHz 分解能 1: 12MHz 分解能 ※本 LSI では 0b0 を設定してください。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。

0x30【GFSK_DEV_H】

機能:GFSK 時の周波数偏位設定(上位 6 ビット)
アドレス:0x30 (BANK1)
初期値:0x05

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5:0	GFSK_DEV[13:8]	00_0101	R/W	GFSK 時の周波数偏位設定(上位 6 ビット)/ BPSK(周波数制御)時の周波数偏位設定(上位 6 ビット) ※初期設定は 50kHz となります。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。

0x31【GFSK_DEV_L】

機能:GFSK 時の周波数偏位設定(下位バイト)
アドレス:0x31 (BANK1)
初期値:0xB0

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	GFSK_DEV[7:0]	1011_0000	R/W	GFSK 時の周波数偏位設定(下位バイト)/ BPSK(周波数制御)時の周波数偏位設定(下位バイト) ※初期設定は 50kHz となります。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。

0x32【FSK_DEV0_H/GFIL0】

機能:FSK 時の第 1 周波数偏位設定(上位 6 ビット)/GFSK 時のガウシアンフィルタ係数設定 0
アドレス:0x32 (BANK1)
初期値:0x20

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	GFIL0[7:6]	00	R/W	ガウシアンフィルタ係数設定 0 ※ガウシアンフィルタ係数のビット範囲は bit7-0 です。
5:0	FSK_DEV0[13:8]/ GFIL0[5:0]	10_0000	R/W	FSK 時の第 1 周波数偏位設定(上位 6 ビット)/ ガウシアンフィルタ係数設定 0 ※FSK 第 1 周波数偏位は[FSK_DEV0_L/GFIL1:B1 0x33]レジスタの 8 ビットと共に全 14 ビットから算出されます。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。
2. ガウシアンフィルタ係数と FSK 時の周波数偏位設定は本レジスタで機能を共用しています。
3. [BPSK_STEP_SET0: B10 0x04]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(ガウシアンフィルタ係数、FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x33【FSK_DEV0_L/GFIL1】

機能:FSK 時の第 1 周波数偏位設定(下位バイト) /GFSK 時のガウシアンフィルタ係数設定 1
アドレス:0x33 (BANK1)
初期値:0x22

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	FSK_DEV0[7:0]/ GFIL1[7:0]	0010_0010	R/W	FSK 時の第 1 周波数偏位設定(下位バイト) / ガウシアンフィルタ係数設定 1 ※FSK 第 1 周波数偏位は[FSK_DEV0_H/GFIL0:B1 0x32]レジスタの 6 ビットと共に全 14 ビットから算出されます。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。
2. ガウシアンフィルタ係数と FSK 時の周波数偏位設定は本レジスタで機能を共用しています。
3. [BPSK_STEP_SET1: B10 0x05]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(ガウシアンフィルタ係数、FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x34【FSK_DEV1_H/GFIL2】

機能:FSK 時の第 2 周波数偏位設定(上位バイト) /GFSK 時のガウシアンフィルタ係数設定 2
アドレス:0x34 (BANK1)
初期値:0x22

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5:0	FSK_DEV1[13:8]/ GFIL2[4:0]	10_0010	R/W	FSK 時の第 2 周波数偏位設定(上位バイト) / ガウシアンフィルタ係数設定 2 ※FSK 第 2 周波数偏位は[FSK_DEV1_L/GFIL3:B1 0x35]レジスタの 8 ビットと共に全 14 ビットから算出されます。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。
2. ガウシアンフィルタ係数と FSK 時の周波数偏位設定は本レジスタで機能を共用しています。
3. [BPSK_STEP_SET2: B10 0x06]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(ガウシアンフィルタ係数、FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x35【FSK_DEV1_L/GFIL3】

機能:FSK 時の第 2 周波数偏位設定(下位バイト) /GFSK 時のガウシアンフィルタ係数設定 3
アドレス:0x35 (BANK1)
初期値:0x33

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	FSK_DEV1[7:0]/ GFIL3[5:0]	0011_0011	R/W	FSK 時の第 2 周波数偏位設定(下位バイト) / ガウシアンフィルタ係数設定 3 ※FSK 第 2 周波数偏位は[FSK_DEV1_H/GFIL2:B1 0x34]レジスタの 6 ビットと共に全 14 ビットから算出されます。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。
2. ガウシアンフィルタ係数と FSK 時の周波数偏位設定は本レジスタで機能を共用しています。
3. [BPSK_STEP_SET3: B10 0x07]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(ガウシアンフィルタ係数、FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x36【FSK_DEV2_H/GFIL4】

機能:FSK 時の第 3 周波数偏位設定(上位バイト) /GFSK 時のガウシアンフィルタ係数設定 4
アドレス:0x36 (BANK1)
初期値:0x22

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5:0	FSK_DEV2[13:8]/ GFIL4[5:0]	10_0010	R/W	FSK 時の第 3 周波数偏位設定(上位バイト) / ガウシアンフィルタ係数設定 4 ※FSK 第 3 周波数偏位は[FSK_DEV2_L/GFIL5:B1 0x37]レジスタの 8 ビットと共に全 14 ビットから算出されます。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。
2. ガウシアンフィルタ係数と FSK 時の周波数偏位設定は本レジスタで機能を共用しています。
3. [BPSK_STEP_SET4: B10 0x08]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(ガウシアンフィルタ係数、FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x37【FSK_DEV2_L/GFIL5】

機能:FSK 時の第 3 周波数偏位設定(下位バイト) /GFSK 時のガウシアンフィルタ係数設定 5
アドレス:0x37 (BANK1)
初期値:0x43

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	FSK_DEV2[7:0]/ GFIL5[6:0]	0100_0011	R/W	FSK 時の第 3 周波数偏位設定(下位バイト) / ガウシアンフィルタ係数設定 5 ※FSK 第 3 周波数偏位は[FSK_DEV2_H/GFIL4:B1 0x36]レジスタの 6 ビットと共に全 14 ビットから算出されます。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。
2. ガウシアンフィルタ係数と FSK 時の周波数偏位設定は本レジスタで機能を共用しています。
3. [BPSK_STEP_SET5: B10 0x09]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(ガウシアンフィルタ係数、FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x38【FSK_DEV3_H/GFIL6】

機能:FSK 時の第 4 周波数偏位設定(上位 6 ビット) /GFSK 時のガウシアンフィルタ係数設定 6
アドレス:0x38 (BANK1)
初期値:0x43

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	GFIL6[7:6]	01	R/W	ガウシアンフィルタ係数設定 6 ※ガウシアンフィルタ係数のビット範囲は bit7-0 です。
5:0	FSK_DEV3[13:8]/ GFIL6[5:0]	00_0011	R/W	FSK 時の第 4 周波数偏位設定(上位 6 ビット) / ガウシアンフィルタ係数設定 6 ※FSK 第 4 周波数偏位は[FSK_DEV3_L:B1 0x39]レジスタの 8 ビットと共に全 14 ビットから算出されます。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。
2. ガウシアンフィルタ係数と FSK 時の周波数偏位設定は本レジスタで機能を共用しています。
3. [BPSK_STEP_SET6: B10 0x0A]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(ガウシアンフィルタ係数、FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x39【FSK_DEV3_L】

機能:FSK 時の第 4 周波数偏位設定(下位バイト)
アドレス:0x39 (BANK1)
初期値:0x54

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	FSK_DEV3[7:0]	0101_0100	R/W	FSK 時の第 4 周波数偏位設定(下位バイト) ※[FSK_DEV3_H/GFIL6:B1 0x38]レジスタの 6 ビットと共に全 14 ビットから算出されます。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。
2. [BPSK_STEP_SET7: B10 0x0B]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x3A【FSK_DEV4_H】

機能:FSK 時の第 5 周波数偏位設定(上位 6 ビット)
アドレス:0x3A (BANK1)
初期値:0x45

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	01	R/W	予約
5:0	FSK_DEV4[13:8]	00_0101	R/W	FSK 時の第 5 周波数偏位設定(上位バイト) ※[FSK_DEV4_L:B1 0x3B]レジスタの 8 ビットと共に全 14 ビットから算出されます。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。
2. [BPSK_STEP_SET8: B10 0x0C]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x3B【FSK_DEV4_L】

機能:FSK 時の第 5 周波数偏位設定(下位バイト)
アドレス:0x3B (BANK1)
初期値:0x65

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	FSK_DEV4[7:0]	0110_0101	R/W	FSK 時の第 5 周波数偏位設定(下位バイト) ※[FSK_DEV4_H:B1 0x3A]レジスタの 6 ビットと共に全 14 ビットから算出されます。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。
2. [BPSK_STEP_SET9: B10 0x0D]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x3C【FSK_TIM_ ADJ4】

機能:FSK 時の第 4 周波数偏位の保持時間設定
アドレス:0x3C (BANK1)
初期値:0x76

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	FSK_TIM_ADJ4[7:0]	0111_0110	R/W	FSK 時の第 4 周波数偏位保持時間

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。
2. [BPSK_STEP_SET10: B10 0x0E]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x3D【FSK_TIM_ ADJ3】

機能:FSK 時の第 3 周波数偏位の保持時間設定
アドレス:0x3D (BANK1)
初期値:0x87

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	FSK_TIM_ADJ3[7:0]	1000_0111	R/W	FSK 時の第 3 周波数偏位保持時間設定

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。
2. [BPSK_STEP_SET11: B10 0x0F]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x3E【FSK_TIM_ ADJ2】

機能:FSK 時の第 2 周波数偏位の保持時間設定
アドレス:0x3E (BANK1)
初期値:0x88

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	FSK_TIM_ADJ2[7:0]	1000_1000	R/W	FSK 時の第 2 周波数偏位保持時間設定

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。
2. [BPSK_STEP_SET12: B10 0x10]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x3F【FSK_TIM_ ADJ1】

機能:FSK 時の第 1 周波数偏位の保持時間設定
アドレス:0x3F (BANK1)
初期値:0x88

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	FSK_TIM_ADJ1[7:0]	1000_1000	R/W	FSK 時の第 1 周波数偏位保持時間設定

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。
2. [BPSK_STEP_SET13: B10 0x11]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x40【FSK_TIM_ ADJ0】

機能:FSK 時の周波数無偏位(キャリア周波数)の保持時間設定
アドレス:0x40 (BANK1)
初期値:0x77

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	FSK_TIM_ADJ0[7:0]	0111_0111	R/W	FSK 時の無周波数偏位(キャリア周波数)保持時間

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。
2. [BPSK_STEP_SET14: B10 0x12]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x41【4FSK_DATA_MAP】

機能:4FSK 時のデータマッピング設定
アドレス:0x40 (BANK1)
初期値:0xE1

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	FSK4_FREQ3[1:0]	11	R/W	第 4 周波数偏位時のデータ設定 ※プラス側への最大周波数偏位時の設定です。
5:4	FSK4_FREQ2[1:0]	10	R/W	第 3 周波数偏位時のデータ設定
3:2	FSK4_FREQ1[1:0]	00	R/W	第 2 周波数偏位時のデータ設定
1:0	FSK4_FREQ0[1:0]	01	R/W	第 1 周波数偏位時のデータ設定 ※マイナス側への最大周波数偏位時の設定です。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。
2. デフォルト値は Wireless M-Bus のデータマッピングとなっています。

0x42【FREQ_ADJ_H】

機能:送信受信周波数微調整設定(上位バイト)
アドレス:0x42 (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	FREQ_ADJ_SIGN	0	R/W	送信受信周波数微調整の符号設定 0: マイナス 1: プラス
6:2	Reserved	0_0000	R	予約
1:0	FREQ_ADJ[9:8]	00	R/W	送信受信周波数微調整設定 (上位 2 ビット) ※[FREQ_ADJ_L:B1 0x43]レジスタの 8 ビットと共に全 10 ビットから算出されます。

【説明】

1. 本レジスタの設定方法は、「送受信周波数の調整」を参照してください。

0x43【FREQ_ADJ_L】

機能:送受信周波数調整設定(下位バイト)
アドレス:0x43(BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	FREQ_ADJ[7:0]	0000_0000	R/W	送受信周波数微調整設定 (下位バイト) ※[FREQ_ADJ_H:B1 0x42]レジスタの7ビットと共に全15ビットから算出されます。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「送受信周波数の調整」を参照してください。

0x44-0x47【Reserved】

機能:
アドレス:0x44-0x47(BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R/W	予約

0x48【2DIV_MODE】

機能:アンテナダイバーシティモード設定
アドレス:0x48 (BANK1)
初期値:0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	Reserved	000	R/W	予約
4	SEARCH_MODE	0	R/W	アンテナダイバーシティモード設定 0: アンテナダイバーシティ FAST モードを使用しない 1: アンテナダイバーシティ FAST モードを使用する ※FAST モード設定時、SEARCH_TIME1([2DIV_SEARCH1: B1 0x49(6-0)])での ANT サーチで取得した ED 値が[2DIV_FAST_LVL: B1 0x4B]を超えていた場合、以降のサーチはせず、ANT を確定します。
3	Reserved	0	R	予約
2:0	2DIV_ED_AVG [2:0]	001	R/W	アンテナダイバーシティ時の ED 値算出時の平均回数設定 000: 1 回平均 001: 2 回平均 010: 4 回平均 011: 8 回平均 100: 16 回平均 101: 32 回平均 上記以外: 16 回平均

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「ダイバーシティ機能」を参照してください。

0x49【2DIV_SEARCH1】

機能:アンテナダイバーシティサーチ時間設定
アドレス:0x49 (BANK1)
初期値:0x8E

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	SEARCH_TIME_SET	1	R/W	アンテナダイバーシティサーチ時間分解能設定 0 : 16μsec 1 : 256μsec ※bit6-0 の SEARCH_TIME1 および[2DIV_SEARCH2]レジスタ bit6-0(SEARCH_TIME2)にて設定するダイバーシティサーチ時間の時間分解能を設定します。
6:0	SEARCH_TIME1[6:0]	000_1110	R/W	アンテナダイバーシティサーチ時間設定 1 サーチ時間 = (設定値+1)×サーチ時間時間分解能 ※最初の同期検出までの ANT1 または ANT2 のサーチ時間を設定します。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「ダイバーシティ機能」を参照してください。

0x4A【2DIV_SEARCH2】

機能:アンテナダイバーシティサーチ時間設定
アドレス:0x4A (BANK1)
初期値:0x0E

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R/W	予約
6:0	SEARCH_TIME2[6:0]	000_1110	R/W	アンテナダイバーシティサーチ時間設定 2 サーチ時間 = 設定値×サーチ時間時間分解能 ※同期検出後、直前の ANT とは異なる ANT でのサーチ時間を設定します。

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「ダイバーシティ機能」を参照してください。

0x4B【2DIV_FAST_LVL】

機能:アンテナダイバーシティ FAST モードの ED 閾値設定
アドレス:0x4B (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	2DIV_FAST_LVL[7:0]	0000_0000	R/W	アンテナダイバーシティ FAST モードの ED 閾値

0x4C【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x4C (BANK1)
初期値:0x06

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0110	R/W	予約

0x4D【VCO_CAL_MIN_I】

機能:VCO キャリブレーション下限周波数設定(I カウンタ)
アドレス:0x4D (BANK1)
初期値:0x19

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R/W	予約
5:0	VCO_CAL_MIN_I[5:0]	01_1001	R/W	VCO キャリブレーション下限周波数設定 (I カウンタ)

【説明】
1. VCO キャリブレーションの使用方法については、「VCO の調整」を参照してください。
2. 周波数の設定方法に関しては、「VCO 下限周波数の設定」を参照してください。

【ご注意】
1. 下限周波数は、実際に運用する周波数に対して 400kHz 低い値を設定してください。

0x4E【VCO_CAL_MIN_FH】

機能:VCO キャリブレーション下限周波数設定(F カウンタ上位 4 ビット)
アドレス:0x4E (BANK1)
初期値:0x09

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	Reserved	0000	R/W	予約
3:0	VCO_CAL_MIN_F[19:16]	1001	R/W	VCO キャリブレーション下限周波数設定 (F カウンタ上位 4 ビット)

【説明】
1. VCO キャリブレーションの使用方法については、「VCO の調整」を参照してください。
2. 周波数の設定方法に関しては、「VCO 下限周波数の設定」を参照してください。

【ご注意】
1. 下限周波数は、実際に運用する周波数に対して 400kHz 低い値を設定してください。

0x4F【VCO_CAL_MIN_FM】

機能:VCO キャリブレーション下限周波数設定(F カウンタ中位 8 ビット)
アドレス:0x4F (BANK1)
初期値:0x05

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	VCO_CAL_MIN_F[15:8]	0000_0101	R/W	VCO キャリブレーション下限周波数設定 (F カウンタ中位 8 ビット)

【説明】
1. VCO キャリブレーションの使用方法については、「VCO の調整」を参照してください。
2. 周波数の設定方法に関しては、「VCO 下限周波数の設定」を参照してください。

【ご注意】
1. 下限周波数は、実際に運用する周波数に対して 400kHz 低い値を設定してください。

0x50【VCO_CAL_MIN_FL】

機能:VCO キャリブレーション下限周波数設定(F カウンタ下位 8 ビット)
アドレス:0x50 (BANK1)
初期値:0xB0

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	VCO_CAL_MIN_F[7:0]	1011_0000	R/W	VCO キャリブレーション下限周波数設定 (F カウンタ下位 8 ビット)

【説明】
1. VCO キャリブレーションの使用方法については、「VCO の調整」を参照してください。
2. 周波数の設定方法に関しては、「VCO 下限周波数の設定」を参照してください。

【ご注意】
1. 下限周波数は、実際に運用する周波数に対して 400kHz 低い値を設定してください。

0x51【VCO_CAL_MAX_N】

機能:VCO キャリブレーションの上限周波数設定
アドレス:0x51 (BANK1)
初期値:0x05

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	Reserved	0000	R/W	予約
3:0	VCO_CAL_MAX_N[3:0]	0101	R/W	VCO キャリブレーション上限周波数範囲(下限周波数からの⊿F) 0000: 0MHz 0001: 1.125MHz 0010: 2.25MHz 0011: 4.5MHz 0100: 9 MHz 0101: 18 MHz 0110: 36 MHz 上記以外: 設定禁止

【説明】
1. VCO キャリブレーションの使用方法については、「VCO の調整」を参照してください。
2. 周波数の設定方法に関しては、「VCO 上限周波数の設定」を参照してください。

【ご注意】
1. 上限値の設定は、実際に運用する周波数範囲が完全に含まれるように設定してください。

0x52【VCAL_MIN】

機能:下限側 VCO キャリブレーション値表示と設定
アドレス:0x52 (BANK1)
初期値:0x40

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R	予約
6:0	VCAL_MIN[6:0]	100_0000	R/W	下限側 VCO キャリブレーション値 ※[VCO_CAL_START: B0 0x6F]でのキャリブレーション実行により値が自動的に保存されます。

【説明】
1. VCO キャリブレーションの使用方法については、「VCO の調整」を参照してください。

0x53【VCAL_MAX】

機能：上限側 VCO キャリブレーション値表示と設定
アドレス：0x53 (BANK1)
初期値：0x40

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R	予約
6:0	VCAL_MAX[6:0]	100_0000	R/W	上限側 VCO キャリブレーション値 ※[VCO_CAL_START: B0 0x6F]でのキャリブレーション実行により値が自動的に保存されます。

【説明】
1. VCO キャリブレーションの使用方法については、「VCO の調整」を参照してください。

0x54-0x55【Reserved】

機能：予約
アドレス：0x54-0x55 (BANK1)
初期値：0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R	予約

0x56【DEMOD_SET0】

機能:復調器設定 0
アドレス:0x56 (BANK1)
初期値:0x50

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	CHFIL_WIDE_SYNC	0	R/W	未同期時のチャネルフィルタ広帯域設定 0: 常時に CHFIL_BW_ADJ で設定した帯域 1: 非同期時に CHFIL_BW_ADJ で設定した帯域の 2 倍帯域 同期時は CHFIL_BW_ADJ で設定した帯域
6	IQ_INV	1	R/W	IQ 反転機能 0: 反転しない 1: 反転する
5	Reserved	0	R	予約
4	STR_LIM_ON	1	R/W	シンボルタイミングリカバリリミッタ設定 0: リミッタを OFF にする 1: リミッタを ON にする
3	STR_HOLD_ON	0	R/W	シンボルタイミングリカバリ設定 0: シンボルタイミング追従を常時行う 1: SFD 検出後シンボルタイミングを保持する
2	AFC_LIM_OFF	0	R/W	AFC リミッタ設定 0: AFC リミッタを ON にする 1: AFC リミッタを OFF にする
1	AFC_HOLD_ON	0	R/W	AFC モード設定 0: AFC を常時行う 1: SFD 検出後 AFC を保持する
0	AFC_OFF_EN	0	R/W	AFC 制御 0: AFC を行う 1: AFC を行わない

0x57【DEMOD_SET1】

機能:復調器設定 1
アドレス:0x57 (BANK1)
初期値:0x04

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5:4	DEM_FIL2[1:0]	00	R/W	復調器フィルタ設定 2 00: 平均なし 01: 2 回平均 10: 4 回平均 11: 8 回平均
3	Reserved	0	R	予約
2:0	DEM_FIL[2:0]	0100	R/W	復調器フィルタ帯域幅設定 000: マスタークロック周波数/8×(1/120) 001: マスタークロック周波数/8×(1/100) 010: マスタークロック周波数/8×(7/600) 011: マスタークロック周波数/8×(1/75) 100: マスタークロック周波数/8×(3/200) 101: マスタークロック周波数/8×(1/60) 110: マスタークロック周波数/8×(1/30) 111: マスタークロック周波数/8×(1/30)

【ご注意】
1.「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x58【DEMOD_SET2】

機能:復調器設定 2
アドレス:0x58 (BANK1)
初期値:0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:3	Reserved	0_0000	R	予約
2:0	DEM_GAIN[2:0]	001	R/W	復調器ゲイン設定 ゲイン = (設定値+1)/2

【ご注意】
1. 「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x59【DEMOD_SET3】

機能:復調器設定 3
アドレス:0x59 (BANK1)
初期値:0x10

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	DEM_4FSK_TH[7:0]	0001_0000	R/W	4FSK 時閾値設定

【ご注意】
1. 「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x5A-0x5B【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x5A-0x5B (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R	予約

0x5C【DEMOD_SET6】

機能:復調器設定 6
アドレス:0x5C (BANK1)
初期値:0x18

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	RXDEV_RANGE[7:0]	0001_1000	R/W	受信周波数偏位範囲設定 設定値 = 受信周波数偏位範囲[Hz]*512 /{マスタークロック周波数[Hz]/8/CHFIL_BW_ADJ([CHFIL_BW: B0 0x54(6-0)])}

【ご注意】
1. 「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x5D【DEMOD_SET7】

機能:復調器設定 7
アドレス:0x5D (BANK1)
初期値:0x0B

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	AFC_LIM[7:0]	0000_1011	R/W	AFC 追従レンジ設定 設定値 = 設定追従レンジ[Hz]*1024 /{マスタークロック周波数[Hz]/8/CHFIL_BW_ADJ([CHFIL_BW: B0 0x54(6-0)])} * 復調器ゲイン(DEM_GAIN([DEMOD_SET: B1 0x58(2-0)])) ※AFC_LIM_OFF([DEMOD_SET0: B1 0x56(2)])を 0b0 に設定した場合本設定が有効となります。

【ご注意】
1. 「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x5E【DEMOD_SET8】

機能:復調器設定 8
アドレス:0x5E (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:3	Reserved	0_0000	R	予約
2:0	PLL_AFC_SHIFT[2:0]	000	R/W	PLL-AFC 倍率調整設定 1

【ご注意】
1. 「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x5F【DEMOD_SET9】

機能:復調器設定 9
アドレス:0x5F (BANK1)
初期値:0x07

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	PLL_AFC_CO[7:0]	0000_0111	R/W	PLL-AFC 倍率調整設定 2

【ご注意】
1. 「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x60【DEMOD_SET10】

機能:復調器設定 10
アドレス:0x60 (BANK1)
初期値:0x0C

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:5	Reserved	000	R	予約
4:0	STR_PB_LEN[4:0]	0_1100	R/W	復調器プリアンブル検出閾値設定

【ご注意】
1. 「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x61【DEMOD_SET11】

機能:復調器設定 11
アドレス:0x61 (BANK1)
初期値:0x08

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:5	Reserved	000	R	予約
4:0	STR_PB_LEN_DIV[4:0]	0_1000	R/W	復調器プリアンブル検出閾値設定(ダイバーシティ時)

【ご注意】
1. 「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x62【ADDR_CHK_CTR_H】

機能:アドレスチェックカウンタの表示(上位 3 ビット)
アドレス:0x62 (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:3	Reserved	0_0000	R	予約
2:0	ADDR_CHK_CTR[10:8]	000	R	Field チェックでのアドレス不一致パケット数表示(上位 3 ビット) ※[ADDR_CHK_CTR_L:B1 0x63]レジスタの 8 ビットと共に全 11 ビットで表示します。 ※最大 2047 個までカウントできます。本レジスタをクリアする場合は、STATE_CLR4([STATE_CLR: B0 0x16(4)])のアドレスチェックカウンタクリアを実行してください。

【説明】
1. アドレスフィルタ機能の詳細に関しては、「Field チェック機能」を参照してください。

0x63【ADDR_CHK_CTR_L】

機能:アドレスチェックカウンタの表示(下位バイト)
アドレス:0x63 (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	ADDR_CHK_CTR[7:0]	0000_0000	R	Field チェックでのアドレス不一致パケット数表示(下位バイト) ※詳細は、[ADDR_CHK_CTR_H: B1 0x62]をご参照ください。

【説明】
1. アドレスフィルタ機能の詳細に関しては、「Field チェック機能」を参照してください。

0x64【WHT_INIT_H】

機能:Whiteing 初期状態設定(上位 1 ビット)
アドレス:0x64 (BANK1)
初期値:0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:1	Reserved	000_0000	R/W	予約
0	WHT_INIT[8]	1	R/W	Whiteing 初期状態設定(上位 1 ビット)

【説明】
1. 詳細は、「DataWhitening 機能」を参照してください。

0x65【WHT_INIT_L】

機能:Whiteing 初期状態設定((下位バイト)
アドレス:0x65 (BANK1)
初期値:0xFF

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	WHT_INIT[7:0]	1111_1111	R/W	Whiteing 初期状態設定(下位バイト)

【説明】
1. 詳細は、「DataWhitening 機能」を参照してください。

0x66【WHT_CFG】

機能:Whiteing 生成多項式設定
アドレス:0x66 (BANK1)
初期値:0x08

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	WHT_CFG[7:0]	0000_1000	R/W	Whiteing 生成多項式設定

【説明】
1. 詳細は、「DataWhitening 機能」を参照してください。

0x67-0x7A【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x67-0x7A (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R	予約

0x7B【TX_RATE2_EN】

機能:送信データレート設定 2 イネーブル
アドレス:0x7B (BANK1)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:1	Reserved	000_0000	R	予約
0	TX_RATE2_EN	0	R/W	送信データレート変換設定 2 イネーブル 0: ディセーブル 1: イネーブル ※0b1 設定時、[TX_RATE2_H/L: B1 0x7C/7D]の送信データレート変換設定が有効となります。

0x7C【TX_RATE2_H】

機能：送信データレート設定 2（上位バイト）
アドレス：0x7C (BANK1)
初期値：0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	TX_RATE2[15:8]	0000_0000	R/W	送信データレート変換設定 2(上位バイト) ※[TX_RATE2_L: B1 0x7D]レジスタの 8 ビットと共に全 14 ビットから算出されます。 ※TX_RATE2_EN([TX_RATE2_EN: B1 0x7B(0)])=0b1 設定時のみ有効です。 [TX_RATE_H/L: B1 0x02/03]によるデータレート設定ではデータレート偏差が大きくなる場合、下式により算出される値を設定し、データレート偏差を調整します。 設定値 = round [[{1/データレート(bps)} – {1 / (マスタークロック周波数(Hz) / TX_RATE[13:0]) × 9}] / {1/マスタークロック周波数(Hz)}] ※詳細は「データレート設定機能」を参照してください。

0x7D【TX_RATE2_L】

機能：送信データレート変換設定 2（下位バイト）
アドレス：0x7D (BANK1)
初期値：0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	TX_RATE2[7:0]	0000_0000	R/W	送信データレート変換設定 2(下位バイト) ※詳細は[TX_RATE2_H: B1 0x7C]レジスタをご参照ください。

0x7E【Reserved】

機能：予約
アドレス：0x7E (BANK1)
初期値：0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R	予約

0x7F【ID_CODE】

機能：ID コード表示
アドレス：0x7F (BANK1)
初期値：0x65

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	ID[7:0]	0110_0101	R	ID コード

●レジスタ BANK2

0x00【BANK_SEL】

【説明】
[BANK_SEL:B0 0x00]を参照ください。

0x01-0x3F【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x01-0x3F (BANK2)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R	予約

0x40【VTUNE_COMP_ON】

機能:VCO 調整電圧閾値比較結果表示イネーブル
アドレス:0x40 (BANK2)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5	VTUNE_COMP_ON	0	R/W	VCO 調整電圧比較イネーブル設定 1: VCO 調整電圧閾値比較結果表示イネーブル 0: VCO 調整電圧閾値比較結果表示ディセーブル
4:0	Reserved	0_0000	R	予約

【説明】
1. 本レジスタを使用した VCO 調整電圧閾値比較結果表示の詳細は、「VCO の調整」を参照してください。

0x41-0x75【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x41-0x75 (BANK2)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R	予約

0x76【GAIN_HHTOH】

機能:高高ゲインから高ゲインへの切り替え閾値設定
アドレス:0x76 (BANK2)
初期値:0x8E

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	GCTRIM_HHTOH[7:0]	1000_1110	R/W	ゲイン切り替え閾値(高高ゲイン⇒高ゲイン)

【説明】
1. 本レジスタを使用した RSSI 調整の詳細は、「電力検出値(ED 値)の調整」を参照してください。

【ご注意】
1. 本レジスタへは「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。
2. 本レジスタの設定値と[GAIN_HTOHH]レジスタで設定される値の関係が、[GAIN_HHTOH] >[GAIN_HTOHH] の関係になるように設定してください。

0x77【GAIN_HTOHH】

機能:高ゲインから高高ゲインへの切り替え閾値設定
アドレス:0x77 (BANK2)
初期値:0x32

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	GCTRIM_HTOHH[7:0]	0011_0010	R/W	ゲイン切り替え閾値(高ゲイン⇒高高ゲイン)

【説明】
1. 本レジスタを使用した RSSI 調整の詳細は、「電力検出値(ED 値)の調整」を参照してください。

【ご注意】
1. 本レジスタへは「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。
2. 本レジスタの設定値と[GAIN_HHTOH]レジスタで設定される値の関係が、 [GAIN_HHTOH] >[GAIN_HTOHH] の関係になるように設定してください。

0x78【GAIN_HTOM】

機能:高ゲインから中間ゲインへの切り替え閾値設定
アドレス:0x78 (BANK2)
初期値:0x8E

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	GCTRIM_HTOM[7:0]	1000_1110	R/W	ゲイン切り替え閾値(高ゲイン⇒中間ゲイン)

【説明】
1. 本レジスタを使用した RSSI 調整の詳細は、「電力検出値(ED 値)の調整」を参照してください。

【ご注意】
1. 本レジスタへは「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。
2. 本レジスタの設定値と[GAIN_HTOM]レジスタで設定される値の関係が、[GAIN_HTOM] >[GAIN_MTOH] の関係になるように設定してください。

0x79【GAIN_MTOH】

機能：中間ゲインから高ゲインへの切り替え閾値設定
アドレス：0x79 (BANK2)
初期値：0x32

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	GCTRIM_MTOH [7:0]	0011_0010	R/W	ゲイン切り替え閾値(中間ゲイン⇒高ゲイン)

【説明】
1. 本レジスタを使用した RSSI 調整の詳細は、「電力検出値(ED 値)の調整」を参照してください。

【ご注意】
1. 本レジスタへは「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。
2. 本レジスタの設定値と[GAIN_HTOM]レジスタで設定される値の関係が、 [GAIN_HTOM] >[GAIN_MTOH] の関係になるように設定してください。

0x7A【GAIN_MTOL】

機能：高ゲインから低ゲインへの切り替え閾値設定
アドレス：0x7A (BANK2)
初期値：0x8E

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	GCTRIM_MTOL[7:0]	1000_1110	R/W	ゲイン切り替え閾値(中間ゲイン⇒低ゲイン)

【説明】
1. 本レジスタを使用した RSSI 調整の詳細は、「電力検出値(ED 値)の調整」を参照してください。

【ご注意】
1. 本レジスタへは「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。
2. 本レジスタの設定値と[GAIN_LTOM]レジスタで設定される値の関係が、[GAIN_MTOL] > [GAIN_LTOM] の関係になるように設定してください。

0x7B【GAIN_LTOM】

機能:低ゲインから中間ゲインへの切り替え閾値設定
アドレス:0x7B (BANK2)
初期値:0x32

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	GCTRIM_LTOM[7:0]	0011_0010	R/W	ゲイン切り替え閾値(低ゲイン⇒中間ゲイン)

【説明】
1. 本レジスタを使用した RSSI 調整の詳細は、「電力検出値(ED 値)の調整」を参照してください。

【ご注意】
1. 本レジスタへは「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。
2. 本レジスタの設定値と[GAIN_MTOL]レジスタで設定される値の関係が、 [GAIN_MTOL] > [GAIN_LTOM] の関係になるように設定してください。

0x7C【RSSI_ADJ_H】

機能:高ゲイン動作時の RSSI オフセット値設定
アドレス:0x7C (BANK2)
初期値:0x22

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R	予約
6:0	RSSI_ADJ_H [6:0]	010_0010	R/W	高ゲイン動作時の RSSI オフセット値

【説明】
1. 本レジスタを使用した RSSI 調整の詳細は、「電力検出値(ED 値)の調整」を参照してください。

【ご注意】
1. 本レジスタへは「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x7D【RSSI_ADJ_M】

機能:中間ゲイン動作時の RSSI オフセット値設定
アドレス:0x7D (BANK2)
初期値:0x47

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R	予約
6:0	RSSI_ADJ_M [6:0]	100_0111	R/W	中間ゲイン動作時の RSSI オフセット値

【説明】
1. 本レジスタを使用した RSSI 調整の詳細は、「電力検出値(ED 値)の調整」を参照してください。

【ご注意】
1. 本レジスタへは「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x7E【RSSI_ADJ_L】

機能:低ゲイン動作時の RSSI オフセット値設定
アドレス:0x7E (BANK2)
初期値:0x6E

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R	予約
6:0	RSSI_ADJ_L [6:0]	110_1110	R/W	低ゲイン動作時の RSSI オフセット値

【説明】
1. 本レジスタを使用した RSSI 調整の詳細は、「電力検出値(ED 値)の調整」を参照してください。

【ご注意】
1. 本レジスタへは「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x7F【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x7F(BANK2)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R/W	予約

●レジスタ BANK3

0x00【BANK_SEL】

【説明】
[BANK_SEL:B0 0x00]を参照ください。

0x01-0x22【Reserved】

機能:
アドレス:0x01-0x22 (BANK3)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R/W	予約

0x23【2MODE_DET】

機能:ModeT/C 同時受信設定
アドレス:0x23 (BANK3)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	000_0000	R	予約
0	2MODE_DET	0	R/W	ModeT/C(Wireless M-Bus)同時受信モード設定 0: Mode C パケットのみ受信する 1: ModeT と ModeC の両パケットを受信する ※RX_ON 状態での受信モード切替えは禁止です。受信モードを切替える場合、必ず TRX_OFF 状態にしてください。

0x24-0x40【Reserved】

機能:
アドレス:0x24-0x40 (BANK3)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R/W	予約

0x41【RAMP_CTRL1】

機能:PA ランプ制御設定 1
アドレス:0x41 (BANK3)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:3	Reserved	0_0000	R	予約
2	RAMP_CLK_STEP	0	R/W	ランプ制御基準クロック周期設定 0: マスタークロック周期×2(18MHz) 1: マスタークロック周期×32(18MHz の 16 分周)
1:0	RAMP_INC [1:0]	00	R/W	ランプ制御カウンタインクリメント設定 00: 1 01: 2 10: 4 11: 8 ※9 ビットカウンタ(0～511)において、設定数に従いインクリメントまたはデクリメント数を変更することにより、ランプアップ/ダウン時間を制御します。

【説明】
1. 詳細は、「ランプ制御機能」を参照してください。
2. 「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x42【RAMP_CTRL2】

機能:PA ランプ制御設定 2
アドレス:0x42 (BANK3)
初期値:0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R	予約
6:0	RAMP_CLK_SET_R [6:0]	000_0001	R/W	ランプアップ時間設定 ランプアップ時間 = ランプ制御基準クロック周期 (RAMP_CLK_STEP[RAMP_CTRL1: B3 0x41(2)]) * 設定値 * [PA_REG_ADJ_H/L: B0 0x67/68] / ランプ制御インクリメント設定(RAMP_INC[RAMP_CTRL1: B3 0x41(1-0)])

【説明】
1. 詳細は、「ランプ制御機能」を参照してください。
2. 「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x43【RAMP_CTRL3】

機能:PA ランプ制御設定 3
アドレス:0x43 (BANK3)
初期値:0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R	予約
6:0	RAMP_CLK_SET_F[6:0]	000_0001	R/W	ランプダウン時間設定 ランプダウン時間 = ランプ制御基準クロック周期 (RAMP_CLK_STEP[RAMP_CTRL1: B3 0x41(2)]) * 設定値 * [PA_REG_ADJ_H/L: B0 0x67/68] / ランプ制御インクリメント設定(RAMP_INC[RAMP_CTRL1: B3 0x41(1-0)])

【説明】
1. 詳細は、「ランプ制御機能」を参照してください。
2. 「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x44-0x4F【Reserved】

機能:
アドレス:0x44-0x4F (BANK3)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R	予約

0x50【EXT_WU_CTRL】

機能:外部ウェイクアップ制御設定
アドレス:0x50 (BANK3)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:2	Reserved	00_0000	R	予約
1	INT_CLR_WU_EN	0	R/W	ウェイクアップ時の割込みクリア設定 0: ディセーブル 1: イネーブル
0	EXT_WU_EN	0	R/W	外部ウェイクアップイネーブル 0: ディセーブル 1: イネーブル ※0b1 設定時、GPIO1 端子から入力した信号の立上りエッジを検出し、SLEEP 状態からIDLE 状態に遷移(ウェイクアップ)します。ここで、ウェイクアップ動作は[EXT_WU_INTERVAL: B3 0x51]設定値に1回ウェイクアップします。

0x51【EXT_WU_INTERVAL】

機能:外部ウェイクアップ制御設定
アドレス:0x51 (BANK3)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	EXT_WU_INTERVAL [7:0]	0000_0000	R/W	外部ウェイクアップインターバル設定 ※EXT_WU_EN([EXT_WU_CTRL: B3 0x50(0)])=0b1 設定時、設定値のうち 1 回ウェイクアップします。

0x52-0x7F【Reserved】

機能:
アドレス:0x52-0x7F (BANK3)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R	予約

●レジスタ BANK6

0x00【BANK_SEL】

【説明】
[BANK_SEL:B0 0x00]を参照ください。

0x01【MOD_CTRL】

機能：変調方式設定
アドレス：0x01 (BANK6)
初期値：0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:2	Reserved	00_0000	R	予約
1:0	MOD_TYPE[1:0]	01	R/W	変調方式設定 00: FSK 01: BPSK 上記以外: 予約

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「FSK 変調」を参照してください。

0x02-0x7A【Reserved】

機能：予約
アドレス：0x02-0x7A (BANK6)
初期値：0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R/W	予約

0x7B【BPSK_PLL_CTRL】

機能:BPSK 方式設定
アドレス:0x7B (BANK6)
初期値:0x02

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:2	Reserved	00_0000	R	予約
1	BPSK_P_CLKSEL	1	R/W	BPSK PLL 制御時の周波数偏位時間算出用クロック選択 0: 450kHz 1: 4MHz
0	BPSK_PLL_CTRL	0	R/W	BPSK 方式選択設定 0: セレクタ方式 1: 周波数制御方式

0x7C【BPSK_P_START_H】

機能:BPSK 周波数制御時の周波数偏位開始時間設定(上位 3 ビット)
アドレス:0x7C (BANK6)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:3	Reserved	0_0000	R	予約
2:0	BPSK_P_START[10:8]	000	R/W	BPSK 周波数制御時の周波数偏位開始時間(上位 3 ビット)

0x7D【BPSK_P_START_L】

機能:BPSK 周波数制御時の周波数偏位開始時間設定(下位バイト)
アドレス:0x7D (BANK6)
初期値:0x05

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	BPSK_P_START[7:0]	0000_0101	R/W	BPSK 周波数制御時の周波数偏位開始時間(下位バイト)

0x7E【BPSK_P_HOLD_H】

機能:BPSK 周波数制御時の周波数偏位保持時間設定(上位 4 ビット)
アドレス:0x7E (BANK6)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	Reserved	0000	R	予約
3:0	BPSK_P_HOLD[11:8]	0000	R/W	BPSK 周波数制御時の周波数偏位保持時間(上位 4 ビット)

0x7F【BPSK_P_HOLD_L】

機能:BPSK 周波数制御時の周波数偏位保持時間設定(下位バイト)
アドレス:0x7F (BANK6)
初期値:0x02

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	BPSK_P_HOLD[7:0]	0000_0010	R/W	BPSK 周波数制御時の周波数偏位保持時間(下位バイト)

●レジスタ BANK7

0x00【BANK_SEL】

【説明】
[BANK_SEL:B0 0x00]を参照ください。

0x01【DSSS_CTRL】

機能:DSSS 制御設定
アドレス:0x01 (BANK7)
初期値:0x07

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	SF_OFF	0	R/W	拡散 OFF 設定 0: 拡散 ON 1: 拡散 OFF
6	Reserved	0	R	予約
5:4	PSDU_SIZE[1:0]	00	R/W	DSSS 時の PSDU 長設定 00: 16 バイト 01: 24 バイト 10: 32 バイト 11: 任意の PSDU 長 ※0b11 設定時のパケット長については、PKT_FORMAT([PKT_CTRL1: B0 0x04(1-0)])で設定するパケットフォーマットに従い、パケット長を設定してください。 なお、FEC 機能は 16/24/32 バイトのいずれかの設定時のみ正しく動作します。したがって、0b11 設定する場合は必ず FEC 機能をディセーブルに設定してください。 FEC 機能ディセーブル設定は以下の通りです。 FEC_EN([DSSS_CTRL: B7 0x01(2)])=0b0 INTLV_EN([FEC_ENC_CTRL: B7 0x03(0)])=0b0 DEINTLV_EN([FEC_DEC_CTRL: B7 0x05(0)])=0b0
3	Reserved	0	R	予約
2	DIFF_ENC_EN	1	R/W	差動符号化イネーブル設定 0: ディセーブル 1: イネーブル
1	FEC_EN	1	R/W	FEC イネーブル設定 0: ディセーブル 1: イネーブル ※0b1 設定時、AUTO_TX_EN([RF_STATUS_CTRL: B0 0x0A(4)])または FAST_TX_EN([RF_STATUS_CTRL: B0 0x0A(5)])に設定した場合、正常に符号化処理が行われません。したがって、0b1 設定時は自動送信機能(AUTO_TX_EN/FAST_TX_EN)は使用せず、FIFO ライト後 TX_ON 命令発行により送信してください。なお、FIFO ライト完了後から符号化処理が開始し、符号化処理時間は 350us 程度かかります。符号化処理時間経過後に TX_ON 命令を発行してください。
0	DSSS_EN	1	R/W	DSSS イネーブル設定 0: ディセーブル 1: イネーブル

【説明】
1. 詳細は「スペクトラム拡散機能」を参照してください。

0x02【DSSS_MODE】

機能:DSSS モード設定
アドレス:0x02 (BANK7)
初期値:0x65

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	FEC_CLK_SEL	01	R/W	FEC デコード時のデコーダ動作クロック設定 00: 4MHz 01: 2MHz 10: 1MHz 11: 0.5MHz
5:4	Reserved	10	R/W	予約
3:2	DSSS_LC_RCV[1:0]	01	R/W	DSSS 復調回路クロック設定(データ受信時) (復調回路の動作クロック周波数を切り替えます) 00: マスタークロック周波数 01: マスタークロック周波数 * 1/2 10: マスタークロック周波数 * 1/4 上記以外: マスタークロック周波数
1:0	DSSS_LC_SYNC[1:0]	01	R/W	DSSS 復調回路クロック設定(同期時) (復調回路の動作クロック周波数を切り替えます) 00: マスタークロック周波数 01: マスタークロック周波数 * 1/2 10: マスタークロック周波数 * 1/4 上記以外: マスタークロック周波数

0x03【FEC_ENC_CTRL】

機能:FEC エンコーダ設定
アドレス:0x03 (BANK7)
初期値:0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:5	Reserved	000	R	予約
4	INTLV_BYTE_MSB	00	R/W	インタリーブバイト送出順設定 0: MSB ファースト 1: LSB ファースト
3	ENC_BIT_MSB	0	R/W	FEC エンコーダビット送出順設定 0: LSB ファースト 1: MSB ファースト
2	ENC_BYTE_MSB	0	R/W	FEC エンコーダバイト送出順設定 0: LSB ファースト 1: MSB ファースト
1	ENC_INIT_SEL	0	R/W	FEC エンコーダ初期状態選択設定 0: ALL0 から開始 1: 前回送信時の PSDU 最終値から開始 ※0b0 設定時、入力データの最終データ(1 バイト)は 8'h00 に置き換えられます。
0	INTLV_EN	1	R/W	インタリーブイネーブル設定 0: ディセーブル 1: イネーブル ※PSDU_SIZE([DSSS_CTRL: B7 0x01(5-4)])=0b11 設定時、本設定は 0b0 に設定してください。

【説明】
1. 詳細は「スペクトラム拡散機能」を参照してください。

0x04【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x04 (BANK7)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R/W	予約

0x05【FEC_DEC_CTRL】

機能:FEC デコーダ設定
アドレス:0x05 (BANK7)
初期値:0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5	FEC_CRC_AREA_SEL	0	R/W	FEC 受信時の CRC 範囲設定 0: Data-field(通常の演算範囲) 1: Data-field 開始～(Length 値-1-CRC 長)までの範囲 ※ENC_INIT_SEL=0b0 設定時に最終データ(1 バイト)が 8'h00 に置き換えられます。そのため、0b1 設定時、CRC 演算範囲を最終データを除いた範囲に変更可能です。
4	DEINTLV_BYTE_MSB	0	R/W	デインタリーブデータ出力順設定 0: MSB ファースト 1: LSB ファースト
3	DEC_BIT_MSB	0	R/W	FEC デコーダデータ入力順設定 0: LSB ファースト 1:MSB ファースト
2	DEC_BYTE_MSB	0	R/W	FEC デコーダデータ出力順設定 0: LSB ファースト 1: MSB ファースト
1	DEC_INIT_SEL	0	R/W	FEC デコーダ復号選択設定 0: 終端処理を考慮して復号する 1: 終端処理を考慮せず復号する
0	DEINTLV_EN	1	R/W	デインタリーブイネーブル設定 0: ディセーブル 1: イネーブル ※PSDU_SIZE([DSSS_CTRL: B7 0x01(5-4)])=0b11 設定時、本設定は 0b0 に設定してください。

【説明】
1. 詳細は「スペクトラム拡散機能」を参照してください。

0x06【SF_CTRL】

機能：拡散率設定
アドレス：0x06 (BANK7)
初期値：0x22

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5:4	PSDU_SF[1:0]	10	R/W	PSDU 拡散率設定 00: 16 01: 32 10: 64 11: 8
3:2	Reserved	00	R	予約
1:0	SHR_SF[1:0]	10	R/W	SHR 拡散率設定 00: 16 01: 32 10: 64 11: 8

【説明】
1. 詳細は「スペクトラム拡散機能」を参照してください。

【ご注意】
1. 拡散率(SF)=8、16 使用時、受信レベルが高い場合であっても周波数推定精度が悪く受信できない場合があります。SF=8、16 を使用する場合は、直前に他の SF(32/64)で受信し、周波数ずれ分([SS_AFC_OUT: B7 0x31])を確認してください。他の SF(32/64)で受信し確認した際の周波数ずれを SF=8、16 受信時に補正([SS_AFC_FIX_EN: B7 0x32]=0b1, [SS_AFC_FIX: B7 0x33]に SF=32/64 時の SS_AFC_OUT 値を入力)を行うことにより、SF=8、16 でパケット受信することが可能です。詳細は「フローチャート 受信時 スペクトラム拡散受信（SF=8,16 時）」をご参照ください。

0x07【SHR_GOLD_SEED3】

機能:SHR ゴールド符号シード設定 3
アドレス:0x07 (BANK7)
初期値:0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:1	Reserved	000_0000	R	予約
0	SHR_GOLD_SEED[24]	1	R/W	SHR ゴールド符号シード設定 3

【説明】
1. 詳細は「スペクトラム拡散機能」を参照してください。

0x08【SHR_GOLD_SEED2】

機能:SHR ゴールド符号シード設定 2
アドレス:0x08 (BANK7)
初期値:0x6E

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	SHR_GOLD_SEED [23:16]	0110_1110	R/W	SHR ゴールド符号シード設定 2

【説明】
1. 詳細は「スペクトラム拡散機能」を参照してください。

0x09【SHR_GOLD_SEED1】

機能:SHR ゴールド符号シード設定 1
アドレス:0x09 (BANK7)
初期値:0xCD

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	SHR_GOLD_SEED [15:8]	1100_1101	R/W	SHR ゴールド符号シード設定 1

【説明】
1. 詳細は「スペクトラム拡散機能」を参照してください。

0x0A【SHR_GOLD_SEED0】

機能:SHR ゴールド符号シード設定 0
アドレス:0x0A (BANK7)
初期値:0x5F

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	SHR_GOLD_SEED [7:0]	0101_1111	R/W	SHR ゴールド符号シード設定 0

【説明】
1. 詳細は「スペクトラム拡散機能」を参照してください。

0x0B【PSDU_GOLD_SEED3】

機能:PSDU ゴールド符号シード設定 3
アドレス:0x0B (BANK7)
初期値:0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:1	Reserved	000_0000	R	予約
0	PSDU_GOLD_SEED[24]	1	R/W	PSDU ゴールド符号シード設定 3

【説明】
1. 詳細は「スペクトラム拡散機能」を参照してください。

0x0C【PSDU_GOLD_SEED2】

機能:PSDU ゴールド符号シード設定 2
アドレス:0x0C (BANK7)
初期値:0x6E

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	PSDU_GOLD_SEED [23:16]	0110_1110	R/W	PSDU ゴールド符号シード設定 2

【説明】
1. 詳細は「スペクトラム拡散機能」を参照してください。

0x0D【PSDU_GOLD_SEED1】

機能:PSDU ゴールド符号シード設定 1
アドレス:0x0D (BANK7)
初期値:0xCD

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	PSDU_GOLD_SEED [15:8]	1100_1101	R/W	PSDU ゴールド符号シード設定 1

【説明】
1. 詳細は「スペクトラム拡散機能」を参照してください。

0x0E【PSDU_GOLD_SEED0】

機能:PSDU ゴールド符号シード設定 0
アドレス:0x0E (BANK7)
初期値:0x5F

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	PSDU_GOLD_SEED [7:0]	0101_1111	R/W	PSDU ゴールド符号シード設定 0

【説明】
1. 詳細は「スペクトラム拡散機能」を参照してください。

0x0F【DSSS_PREAMBLE3】

機能:DSSS プリアンブルパターン設定 3
アドレス:0x0F (BANK7)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	DSSS_PREAMBLE [31:24]	0000_0000	R/W	DSSS プリアンブルパターン設定 3

【説明】
1. 詳細は「スペクトラム拡散機能」を参照してください。

0x10【DSSS_PREAMBLE2】

機能:DSSS プリアンブルパターン設定 2
アドレス:0x10 (BANK7)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	DSSS_PREAMBLE [23:16]	0000_0000	R/W	DSSS プリアンブルパターン設定 2

【説明】
1. 詳細は「スペクトラム拡散機能」を参照してください。

0x11【DSSS_PREAMBLE1】

機能:DSSS プリアンブルパターン設定 1
アドレス:0x11 (BANK7)
初期値:0x3F

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	DSSS_PREAMBLE [15:8]	0011_1111	R/W	DSSS プリアンブルパターン設定 1

【説明】
1. 詳細は「スペクトラム拡散機能」を参照してください。

0x12【DSSS_PREAMBLE0】

機能:DSSS プリアンブルパターン設定 0
アドレス:0x12 (BANK7)
初期値:0x59

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	DSSS_PREAMBLE [7:0]	0101_1001	R/W	DSSS プリアンブルパターン設定 0

【説明】
1. 詳細は「スペクトラム拡散機能」を参照してください。

0x13【SS_DOWN_SIZE】

機能:DSSS ダウンサンプル設定
アドレス:0x13 (BANK7)
初期値:0x24

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R	予約
6:0	SS_DOWN_SIZE[6:0]	010_0100	R/W	DSSS ダウンサンプル設定 ダウンサンプル設定値 = {マスタークロック周波数[Hz] / [CHFIL_BW: B0 0x54] / 5} / チップレート[cps]

0x14【SS_AFC_RANGE_SYNC】

機能:DSSS AFC レンジ設定(同期時)
アドレス:0x14 (BANK7)
初期値:0x05

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R	予約
6:0	SS_AFC_RANGE_SYNC [6:0]	000_0101	R/W	DSSS AFC レンジ設定(同期時)

0x15【SS_AFC_RANGE】

機能:DSSS AFC レンジ設定(データ受信時)
アドレス:0x15 (BANK7)
初期値:0x05

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R	予約
6:0	SS_AFC_RANGE[6:0]	000_0101	R/W	DSSS AFC レンジ設定(データ受信時)

0x16【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x16 (BANK7)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R	予約

0x17【DSSS_RATE_SYNC_H】

機能:DSSS 同期時受信チップレート設定(上位 4 ビット)
アドレス:0x19 (BANK7)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	Reserved	0000	R	予約
3:0	DSSS_RATE_SYNC [11:8]	0000	R/W	DSSS 同期時受信チップレート設定(上位 4 ビット) 設定値 = round(DSSS 復調回路動作クロック周波数 / チップレート) ※DSSS 復調回路動作クロック周波数は DSSS_LC_SYNC([DSSS_MODE: B7 0x02(1-0)]) により決定されます。

0x18【DSSS_RATE_SYNC_L】

機能:DSSS 同期時受信チップレート設定(下位バイト)
アドレス:0x18 (BANK7)
初期値:0x59

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	DSSS_RATE_SYNC[7:0]	0101_1001	R/W	DSSS 同期時受信チップレート設定(下位バイト) ※詳細は[DSSS_RATE_H: B7 0x1A]レジスタをご参照ください。

0x19【DSSS_RATE_H】

機能:DSSS 受信チップレート設定(上位 4 ビット)
アドレス:0x19 (BANK7)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	Reserved	0000	R	予約
3:0	DSSS_RATE[11:8]	0000	R/W	DSSS データ受信時受信チップレート設定(上位 4 ビット) 設定値 = round(DSSS 復調回路動作クロック周波数 / チップレート) ※DSSS 復調回路動作クロック周波数は DSSS_LC_RCV([DSSS_MODE: B7 0x02(3-2)])により決定されます。

0x1A【DSSS_RATE_L】

機能:DSSS 受信データレート設定(下位バイト)
アドレス:0x1A (BANK7)
初期値:0x59

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	DSSS_RATE[7:0]	0101_1001	R/W	DSSS データ受信時受信チップレート設定(下位バイト) ※詳細は[DSSS_RATE_H: B7 0x19]レジスタをご参照ください。

0x1B【SS_SYNC_BIT8_GATE_H】

機能:DSSS 同期確立時相関閾値設定(上位 3 ビット)
アドレス:0x1B (BANK7)
初期値:0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:3	Reserved	0_0000	R	予約
2:0	SS_SYNC_BIT8_GATE [10:8]	001	R/W	DSSS 同期確立時相関閾値設定(上位 3 ビット)

【ご注意】
1.「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x1C【SS_SYNC_BIT8_GATE_L】

機能:DSSS 同期確立時相関閾値設定(下位バイト)
アドレス:0x1C (BANK7)
初期値:0x13

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	SS_SYNC_BIT8_GATE [7:0]	0001_0011	R/W	DSSS 同期確立時相関閾値設定(下位バイト)

【ご注意】
1.「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x1D【SS_SYNC_BIT8_GATE2_H】

機能:DSSS 同期確立時相関閾値設定 2(上位 3 ビット)
アドレス:0x1D (BANK7)
初期値:0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:3	Reserved	0_0000	R	予約
2:0	SS_SYNC_BIT8_GATE2 [10:8]	001	R/W	DSSS 同期確立時相関閾値設定 2(上位 3 ビット)

【ご注意】
1.「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x1E【SS_SYNC_BIT8_GATE2_L】

機能:DSSS 同期確立時相関閾値設定 2(下位バイト)
アドレス:0x1E (BANK7)
初期値:0x23

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	SS_SYNC_BIT8_GATE2 [7:0]	00010_0011	R/W	DSSS 同期確立時相関閾値設定 2(下位バイト)

【ご注意】
1.「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x1F【SS_SYNC_BIT_GATE_H】

機能:DSSS 同期確立後相関閾値設定(上位 3 ビット)
アドレス:0x1F (BANK7)
初期値:0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:3	Reserved	0_0000	R	予約
2:0	SS_SYNC_BIT_GATE [10:8]	001	R/W	DSSS 同期確立後相関閾値設定(上位 3 ビット)

【ご注意】
1.「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x20【SS_SYNC_BIT_GATE_L】

機能:DSSS 同期確立後相関閾値設定(下位バイト)
アドレス:0x20 (BANK7)
初期値:0x06

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	SS_SYNC_BIT_GATE [7:0]	00000_0110	R/W	DSSS 同期確立後相関閾値設定(下位バイト)

【ご注意】
1.「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x21-0x30【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x21-0x30 (BANK7)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R/W	予約

0x31【SS_AFC_OUT】

機能:DSSS AFC 値表示
アドレス:0x31 (BANK7)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	SS_AFC_FIX[7:0]	0000_0000	R	DSSS AFC 値表示 ※SW 検出時の AFC 値を表示します。

0x32【SS_AFC_FIX_EN】

機能:DSSS AFC 固定イネーブル設定
アドレス:0x32 (BANK7)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:1	Reserved	000_0000	R	予約
0	SS_AFC_FIX_EN	0	R/W	DSSS AFC 固定イネーブル 0: ディセーブル 1: イネーブル

0x33【SS_AFC_FIX】

機能:DSSS AFC 固定設定
アドレス:0x33 (BANK7)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	SS_AFC_FIX[7:0]	0000_0000	R/W	DSSS AFC 固定設定

0x34-0x7F【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x34-0x7F (BANK7)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R	予約

●レジスタ BANK10

0x00【BANK_SEL】

【説明】
[BANK_SEL:B0 0x00]を参照ください。

0x01【BPSK_STEP_CTRL】

機能:BPSK ステップ制御設定
アドレス:0x01 (BANK10)
初期値:0x30

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	Reserved	0	R	予約
6	BPSK_CLK_SEL	0	R/W	ステップ制御クロック選択設定 0: マスタークロック周波数/2 (18MHz) 1: マスタークロック周波数/4 (9MHz)
5	BPSK_STEP_SEL	1	R/W	ステップ制御機能選択設定 0: アップ/ダウン個別設定 1: アップ/ダウン共通設定
4	BPSK_STEP_EN	1	R/W	ステップ制御イネーブル設定 0: ディセーブル 1: イネーブル
3:1	Reserved	000	R	予約
0	BPSK_CLK_SET[8]	0	R/W	ステップ制御クロック周期設定 ステップ制御クロック周期 = ステップ制御用クロック周期(BPSK_CLK_SEL) * 設定値

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x02【BPSK_STEP_CLK_SET】

機能:ステップ制御クロック設定
アドレス:0x02 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	BPSK_CLK_SET[7:0]	0000_0000	R/W	ステップ制御クロック周期設定

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x03【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x03 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R	予約

0x04【BPSK_STEP_SET0】

機能:BPSK ステップ制御設定 0
アドレス:0x04 (BANK10)
初期値:0x20

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP1[3:0]	0010	R/W	BPSK ステップ制御 1
3:0	STEP0[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 0

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。
2. [FSK_DEV0_H/GFIL0: B1 0x32]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(ガウシアンフィルタ係数、FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x05【BPSK_STEP_SET1】

機能:BPSK ステップ制御設定 1
アドレス:0x05 (BANK10)
初期値:0x22

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP3[3:0]	0010	R/W	BPSK ステップ制御 3
3:0	STEP2[3:0]	0010	R/W	BPSK ステップ制御 2

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。
2. [FSK_DEV0_L/GFIL1: B1 0x33]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(ガウシアンフィルタ係数、FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x06【BPSK_STEP_SET2】

機能:BPSK ステップ制御設定 2
アドレス:0x06 (BANK10)
初期値:0x22

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP5[3:0]	0010	R/W	BPSK ステップ制御 5
3:0	STEP4[3:0]	0010	R/W	BPSK ステップ制御 4

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。
2. [FSK_DEV1_H/GFIL2: B1 0x34]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(ガウシアンフィルタ係数、FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x07【BPSK_STEP_SET3】

機能:BPSK ステップ制御設定 3
アドレス:0x07 (BANK10)
初期値:0x33

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP7[3:0]	0011	R/W	BPSK ステップ制御 7
3:0	STEP6[3:0]	0011	R/W	BPSK ステップ制御 6

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。
2. [FSK_DEV1_L/GFIL3: B1 0x35]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(ガウシアンフィルタ係数、FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x08【BPSK_STEP_SET4】

機能:BPSK ステップ制御設定 4
アドレス:0x08 (BANK10)
初期値:0x22

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP9[3:0]	0010	R/W	BPSK ステップ制御 9
3:0	STEP8[3:0]	0010	R/W	BPSK ステップ制御 8

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。
2. [FSK_DEV2_H/GFIL4: B1 0x36]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(ガウシアンフィルタ係数、FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x09【BPSK_STEP_SET5】

機能:BPSK ステップ制御設定 5
アドレス:0x09 (BANK10)
初期値:0x43

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP11[3:0]	0100	R/W	BPSK ステップ制御 11
3:0	STEP10[3:0]	0011	R/W	BPSK ステップ制御 10

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。
2. [FSK_DEV2_L/GFIL5: B1 0x37]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(ガウシアンフィルタ係数、FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x0A【BPSK_STEP_SET6】

機能:BPSK ステップ制御設定 6
アドレス:0x0A (BANK10)
初期値:0x54

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP13[3:0]	0101	R/W	BPSK ステップ制御 13
3:0	STEP12[3:0]	0100	R/W	BPSK ステップ制御 12

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。
2. [FSK_DEV3_H/GFIL6: B1 0x38]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(ガウシアンフィルタ係数、FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x0B【BPSK_STEP_SET7】

機能:BPSK ステップ制御設定 7
アドレス:0x0B (BANK10)
初期値:0x45

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP15[3:0]	0100	R/W	BPSK ステップ制御 15
3:0	STEP14[3:0]	0101	R/W	BPSK ステップ制御 14

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。
2. [FSK_DEV3_L: B1 0x39]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x0C【BPSK_STEP_SET8】

機能:BPSK ステップ制御設定 8
アドレス:0x0C (BANK10)
初期値:0x65

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP17[3:0]	0110	R/W	BPSK ステップ制御 17
3:0	STEP16[3:0]	0101	R/W	BPSK ステップ制御 16

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。
2. [FSK_DEV4_H: B1 0x3A]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x0D【BPSK_STEP_SET9】

機能:BPSK ステップ制御設定 9
アドレス:0x0D (BANK10)
初期値:0x76

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP19[3:0]	0111	R/W	BPSK ステップ制御 19
3:0	STEP18[3:0]	0110	R/W	BPSK ステップ制御 18

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。
2. [FSK_DEV4_L: B1 0x3B]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x0E【BPSK_STEP_SET10】

機能:BPSK ステップ制御設定 10
アドレス:0x0E (BANK10)
初期値:0x87

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP21[3:0]	1000	R/W	BPSK ステップ制御 21
3:0	STEP20[3:0]	0111	R/W	BPSK ステップ制御 20

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。
2. [FSK_TIM_ADJ4: B1 0x3C]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x0F【BPSK_STEP_SET11】

機能:BPSK ステップ制御設定 11
アドレス:0x0F (BANK10)
初期値:0x88

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP23[3:0]	1000	R/W	BPSK ステップ制御 23
3:0	STEP22[3:0]	1000	R/W	BPSK ステップ制御 22

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。
2. [FSK_TIM_ADJ3: B1 0x3D]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x10【BPSK_STEP_SET12】

機能:BPSK ステップ制御設定 12
アドレス:0x10 (BANK10)
初期値:0x88

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP25[3:0]	1000	R/W	BPSK ステップ制御 25
3:0	STEP24[3:0]	1000	R/W	BPSK ステップ制御 24

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。
2. [FSK_TIM_ADJ2: B1 0x3E]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x11【BPSK_STEP_SET13】

機能:BPSK ステップ制御設定 13
アドレス:0x11 (BANK10)
初期値:0x77

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP27[3:0]	0111	R/W	BPSK ステップ制御 27
3:0	STEP26[3:0]	0111	R/W	BPSK ステップ制御 26

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。
2. [FSK_TIM_ADJ1: B1 0x3F]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x12【BPSK_STEP_SET14】

機能:BPSK ステップ制御設定 14
アドレス:0x12 (BANK10)
初期値:0x76

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP29[3:0]	0111	R/W	BPSK ステップ制御 29
3:0	STEP28[3:0]	0110	R/W	BPSK ステップ制御 28

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。
2. [FSK_TIM_ADJ0: B1 0x40]とレジスタを共用しています。どちらのレジスタからも設定可能ですが、それぞれのレジスタは異なる機能ため、用途(FSK または BPSK ステップ制御)に合わせて適切な値を設定してください。

0x13【BPSK_STEP_SET15】

機能:BPSK ステップ制御設定 15
アドレス:0x13 (BANK10)
初期値:0x76

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP31[3:0]	0111	R/W	BPSK ステップ制御 31
3:0	STEP30[3:0]	0110	R/W	BPSK ステップ制御 30

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x14【BPSK_STEP_SET16】

機能:BPSK ステップ制御設定 16
アドレス:0x14 (BANK10)
初期値:0x67

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP33[3:0]	0110	R/W	BPSK ステップ制御 33
3:0	STEP32[3:0]	0111	R/W	BPSK ステップ制御 32

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x15【BPSK_STEP_SET17】

機能:BPSK ステップ制御設定 17
アドレス:0x15 (BANK10)
初期値:0xA8

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP35[3:0]	1010	R/W	BPSK ステップ制御 35
3:0	STEP34[3:0]	1000	R/W	BPSK ステップ制御 34

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x16【BPSK_STEP_SET18】

機能:BPSK ステップ制御設定 18
アドレス:0x16 (BANK10)
初期値:0x8A

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP37[3:0]	1000	R/W	BPSK ステップ制御 37
3:0	STEP36[3:0]	1010	R/W	BPSK ステップ制御 36

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x17【BPSK_STEP_SET19】

機能:BPSK ステップ制御設定 19
アドレス:0x17 (BANK10)
初期値:0x58

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP39[3:0]	0101	R/W	BPSK ステップ制御 39
3:0	STEP38[3:0]	1000	R/W	BPSK ステップ制御 38

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x18【BPSK_STEP_SET20】

機能:BPSK ステップ制御設定 20
アドレス:0x18 (BANK10)
初期値:0x03

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP41[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 41
3:0	STEP40[3:0]	0011	R/W	BPSK ステップ制御 40

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x19【BPSK_STEP_SET21】

機能:BPSK ステップ制御設定 21
アドレス:0x19 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP43[3:0]	000	R/W	BPSK ステップ制御 43
3:0	STEP42[3:0]	000	R/W	BPSK ステップ制御 42

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x1A【BPSK_STEP_SET22】

機能:BPSK ステップ制御設定 22
アドレス:0x1A (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP45[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 45
3:0	STEP44[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 44

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x1B【BPSK_STEP_SET23】

機能:BPSK ステップ制御設定 23
アドレス:0x1B (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP47[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 47
3:0	STEP46[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 46

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x1C【BPSK_STEP_SET24】

機能:BPSK ステップ制御設定 24
アドレス:0x1C (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP49[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 49
3:0	STEP48[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 48

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x1D【BPSK_STEP_SET25】

機能:BPSK ステップ制御設定 25
アドレス:0x1D (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP51[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 51
3:0	STEP50[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 50

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x1E【BPSK_STEP_SET26】

機能:BPSK ステップ制御設定 26
アドレス:0x1E (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP53[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 53
3:0	STEP52[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 52

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x1F【BPSK_STEP_SET27】

機能:BPSK ステップ制御設定 27
アドレス:0x1F (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP55[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 55
3:0	STEP54[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 54

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x20【BPSK_STEP_SET28】

機能:BPSK ステップ制御設定 28
アドレス:0x20 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP57[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 57
3:0	STEP56[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 56

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x21【BPSK_STEP_SET29】

機能:BPSK ステップ制御設定 29
アドレス:0x21 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP59[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 59
3:0	STEP58[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 58

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x22【BPSK_STEP_SET30】

機能:BPSK ステップ制御設定 30
アドレス:0x22 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP61[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 61
3:0	STEP60[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 60

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x23【BPSK_STEP_SET31】

機能:BPSK ステップ制御設定 31
アドレス:0x23 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP63[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 63
3:0	STEP62[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 62

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x24【BPSK_STEP_SET32】

機能:BPSK ステップ制御設定 32
アドレス:0x24 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP65[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 65
3:0	STEP7:4[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 64

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x25【BPSK_STEP_SET33】

機能:BPSK ステップ制御設定 33
アドレス:0x25 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP67[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 67
3:0	STEP66[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 66

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x26【BPSK_STEP_SET34】

機能:BPSK ステップ制御設定 34
アドレス:0x26 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP69[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 69
3:0	STEP68[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 68

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x27【BPSK_STEP_SET35】

機能:BPSK ステップ制御設定 35
アドレス:0x27 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP71[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 71
3:0	STEP70[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 70

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x28【BPSK_STEP_SET36】

機能:BPSK ステップ制御設定 36
アドレス:0x28 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP73[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 73
3:0	STEP72[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 72

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x29【BPSK_STEP_SET37】

機能:BPSK ステップ制御設定 37
アドレス:0x29 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP75[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 75
3:0	STEP74[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 74

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x2A【BPSK_STEP_SET38】

機能:BPSK ステップ制御設定 38
アドレス:0x2A (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP77[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 77
3:0	STEP76[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 76

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x2B【BPSK_STEP_SET39】

機能:BPSK ステップ制御設定 39
アドレス:0x2B (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP79[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 79
3:0	STEP78[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 78

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x2C【BPSK_STEP_SET40】

機能:BPSK ステップ制御設定 40
アドレス:0x2C (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP81[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 81
3:0	STEP80[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 80

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x2D【BPSK_STEP_SET41】

機能:BPSK ステップ制御設定 41
アドレス:0x2D (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP83[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 83
3:0	STEP82[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 82

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x2E【BPSK_STEP_SET42】

機能:BPSK ステップ制御設定 42
アドレス:0x2E (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP85[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 85
3:0	STEP84[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 84

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x2F【BPSK_STEP_SET43】

機能:BPSK ステップ制御設定 43
アドレス:0x2F (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP87[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 87
3:0	STEP86[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 86

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x30【BPSK_STEP_SET44】

機能:BPSK ステップ制御設定 44
アドレス:0x30 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP89[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 89
3:0	STEP88[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 88

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x31【BPSK_STEP_SET45】

機能:BPSK ステップ制御設定 45
アドレス:0x31 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP91[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 91
3:0	STEP90[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 90

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x32【BPSK_STEP_SET46】

機能:BPSK ステップ制御設定 46
アドレス:0x32 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP93[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 93
3:0	STEP92[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 92

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x33【BPSK_STEP_SET47】

機能:BPSK ステップ制御設定 47
アドレス:0x33 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP95[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 95
3:0	STEP94[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 94

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x34【BPSK_STEP_SET48】

機能:BPSK ステップ制御設定 48
アドレス:0x34 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP97[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 97
3:0	STEP96[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 96

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x35【BPSK_STEP_SET49】

機能:BPSK ステップ制御設定 49
アドレス:0x35 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP99[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 99
3:0	STEP98[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 98

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x36【BPSK_STEP_SET50】

機能:BPSK ステップ制御設定 50
アドレス:0x36 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP101[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 101
3:0	STEP100[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 100

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x37【BPSK_STEP_SET51】

機能:BPSK ステップ制御設定 51
アドレス:0x37 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP103[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 103
3:0	STEP102[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 102

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x38【BPSK_STEP_SET52】

機能:BPSK ステップ制御設定 52
アドレス:0x38 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP105[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 105
3:0	STEP104[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 104

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x39【BPSK_STEP_SET53】

機能:BPSK ステップ制御設定 53
アドレス:0x39 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP107[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 107
3:0	STEP106[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 106

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x3A【BPSK_STEP_SET54】

機能:BPSK ステップ制御設定 54
アドレス:0x3A (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP109[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 109
3:0	STEP108[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 108

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x3B【BPSK_STEP_SET55】

機能:BPSK ステップ制御設定 55
アドレス:0x3B (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP111[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 111
3:0	STEP110[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 110

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x3C【BPSK_STEP_SET56】

機能:BPSK ステップ制御設定 56
アドレス:0x3C (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP113[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 113
3:0	STEP112[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 112

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x3D【BPSK_STEP_SET57】

機能:BPSK ステップ制御設定 57
アドレス:0x3D (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP115[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 115
3:0	STEP114[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 114

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x3E【BPSK_STEP_SET58】

機能:BPSK ステップ制御設定 58
アドレス:0x3E (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP117[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 117
3:0	STEP116[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 116

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x3F【BPSK_STEP_SET59】

機能:BPSK ステップ制御設定 59
アドレス:0x3F (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	STEP119[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 119
3:0	STEP118[3:0]	0000	R/W	BPSK ステップ制御 118

【説明】
1. 本レジスタの設定方法は、「BPSK 変調」を参照してください。

0x40【PADRV_CTRL】

機能:PA ドライバ制御設定
アドレス:0x40 (BANK10)
初期値:0x53

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:4	PADRV_DLY[3:0]	0101	R/W	PA ドライバ制御遅延設定(設定範囲: 2～15) 遅延時間 = マスタークロック周期 / 2 * 設定値 ※本レジスタは 2 以上の値を設定してください。
3:2	Reserved	00	R	予約
1	PADRV_CTRL_SEL	1	R/W	PA ドライバ制御機能選択設定 0: PA レギュレータ電圧制御と連動 1: 線形制御
0	PADRV_CTRL_EN	1	R/W	PA ドライバ制御イネーブル 0: ディセーブル 1: イネーブル

【ご注意】
1.「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x41【PADRV_ADJ1】

機能:PA ドライバ調整 1
アドレス:0x41 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	PADRV_ADJ1[7:0]	0000_0000	R/W	PA ドライバ調整 1 ※PADRV_CTRL_SEL([PADRV_CTRL: B10 0x40(1)])=0b0(PA レギュレータ電圧制御と連動)のとき有効です。 ※PA レギュレータ電圧制御設定に対するオフセット値を設定します。

【ご注意】
1.「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x42【PADRV_ADJ2_H】

機能:PA ドライバ調整 1(上位バイト)
アドレス:0x42 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:2	Reserved	00_0000	R	予約
1	PADRV_INC	0	R/W	PA ドライバ線形制御用カウンタインクリメント・デクリメント設定 0: 1step 1: 2step
0	PADRV_ADJ2[8]	0	R/W	PA ドライバ調整 2 ※PADRV_CTRL_SEL([PADRV_CTRL: B10 0x40(1)])=0b1(線形制御)のとき有効です。 ※PA レギュレータ電圧制御設定が本設定に達した場合、線形制御が開始します。

【ご注意】
1.「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x43【PADRV_ADJ2_L】

機能:PA ドライバ調整 2(下位バイト)
アドレス:0x43 (BANK10)
初期値:0x2C

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	PADRV_ADJ2[7:0]	0010_1100	R/W	PA ドライバ調整 2(下位バイト)

【ご注意】
1.「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x44【PADRV_CLK_SET_H】

機能:PA ドライバ制御用クロック設定(上位バイト)
アドレス:0x44 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7	PADRV_CLK_STEP	0	R/W	PA ドライバ線形制御クロック周波数選択設定 0: マスタークロック周波数/2 (18MHz) 1: マスタークロック周波数/32 (1.125MHz)
6:1	Reserved	00_0000	R	予約
0	PADRV_CLK_SET[8]	0	R/W	PA ドライバ制御クロック周期設定 PA ドライバ制御クロック周期 = PA ドライバ線形制御クロック周期 (PADRV_CLK_STEP) * 設定値

【ご注意】
1.「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x45【PADRV_CLK_SET_L】

機能:PA ドライバ制御用クロック設定(下位バイト)
アドレス:0x45 (BANK10)
初期値:0x00

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	PADRV_CLK_SET[7:0]	0000_0000	R/W	PA ドライバ制御クロック周期設定(下位バイト)

【ご注意】
1.「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

0x46【PADRV_UP_ADJ】

機能:BPSK ステップ制御設定 2
アドレス:0x46 (BANK10)
初期値:0x01

Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:6	Reserved	00	R	予約
5:0	PADRV_UP_ADJ[5:0]	00_0001	R/W	PA ドライバ制御立上り開始時間設定 開始時間 = PA ドライバ線形制御時のクロック周期 (PADRV_CLK_STEP([PADRV_CLK_SET_H: B10 0x44(7)])) * PA ドライバ制御用クロック設定(PADRV_CLK_SET _H/L: B10 0x44/45]) * (設定値+1) ※PA ドライバ制御が立下り切ったタイミングを起点として、立ち上がりの時間を設定します。

【ご注意】
1.「初期設定レジスタ」で指定する値を設定し、調整用に設定を変えないでください。

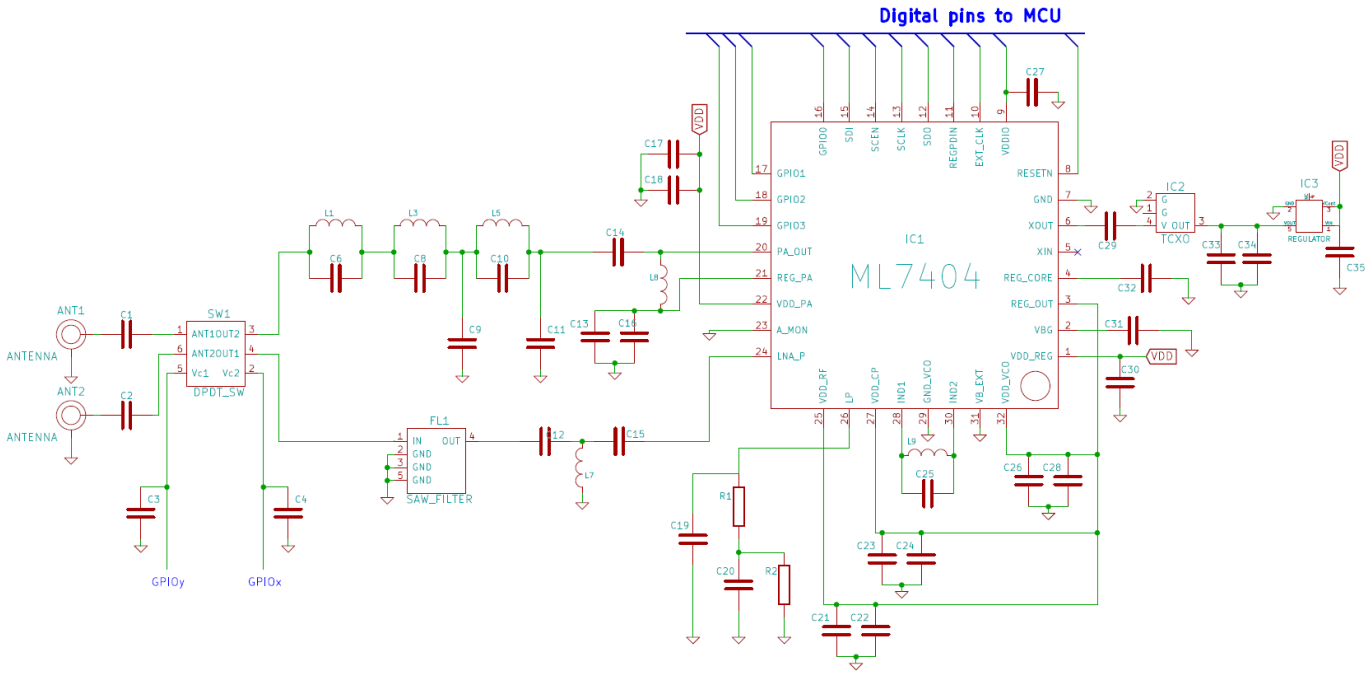
0x47-0x7F【Reserved】

機能:予約
アドレス:0x47-0x7F (BANK10)
初期値:0x00

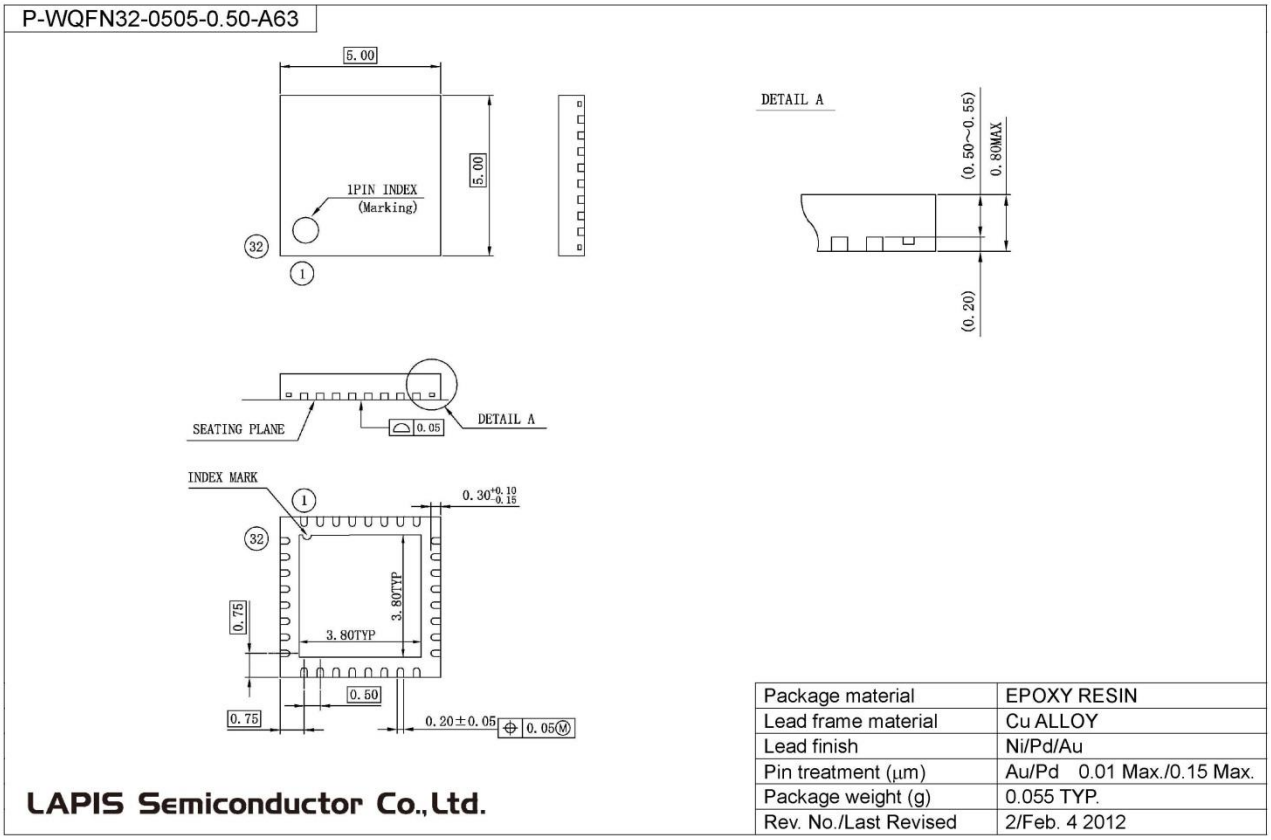
Bit	ビット名	初期値	R/W	説明
7:0	Reserved	0000_0000	R	予約

■応用回路例

3. 3V の電源電圧を印可する端子は共通接続とし、10μF のパスコンを挿入してください。
インダクタは、MURATA LQW15 シリーズを推奨いたします。



■パッケージ寸法図



Package material	EPOXY RESIN
Lead frame material	Cu ALLOY
Lead finish	Ni/Pd/Au
Pin treatment (μm)	Au/Pd 0.01 Max./0.15 Max.
Package weight (g)	0.055 TYP.
Rev. No./Last Revised	2/Feb. 4 2012

表面実装型パッケージ実装上の注意

表面実装型パッケージは、リフロー実装時の熱や保管時のパッケージの吸湿量等に大変影響を受けやすいパッケージです。
したがって、リフロー実装の実施を検討される際には、その製品名、パッケージ名、ピン数、パッケージコード及び希望されている実装条件（リフロー方法、温度、回数）、保管条件などをセールスオフィスまで必ずお問い合わせください。

■改版履歴

ドキュメント No.	発行日	ページ		変更内容
		改版前	改版後	
FJDL7404-01	2017.12.5	-	-	初版発行
FJDL7404-02	2018.1.11	54	54	機能説明-パケットハンドリング機能-FIFO 制御機能-【受信時】 注意事項 1,2 修正および注意事項 3 追加
		96	96	機能説明-受信機能関連-CCA 機能-(6)ダイバーシティ使用時の CCA 実行について 受信 FIFO アクセスエラー記述削除
		102,104,105	102,104,105	機能説明-その他の機能-割込み通知機能 受信 FIFO アクセスエラーを予約に変更
		-	131	機能説明-フローチャート-送信時 (4)Sigfox 送信時フロー追加
		147	148	機能説明-フローチャート-エラー発生時の処理-(1)Sync エラー 注意事項修正
		149	-	機能説明-フローチャート-エラー発生時の処理-(3)受信 FIFO アクセスエラー フロー削除
		183,184	183,184	レジスタ[INT_SOURCE_GRP2: B0 0x0E] INT[12]([INT_SOURCE_GRP2: B0 0x0E(4)]を予約に変更 ご注意 4 追加
		185	186	レジスタ[INT_EN_GRP2: B0 0x11] INT_EN[12]([INT_SOURCE_GRP2: B0 0x0E(4)]を予約に変更 ご注意 1 追加
FJDL7404-03	2018.5.28	12	12	推奨動作条件 RF 周波数下限周波数変更
		13	13	電源電流特性 DSSS 受信 100kcps 時電流追加
		15	15	FSK RF 特性 RF 周波数 分周なし時の最小値変更
		16	16	FSK RF 特性 送信特性 685MHz Band 追加
		18	18	FSK RF 特性 受信特性 685MHz Band 追加
		19	20	BPSK RF 特性 RF 周波数 分周なし時の最小値変更
				BPSK RF 特性 送信特性 ご注意 1 修正 / ご注意 2 追加
		20	21	BPSK RF 特性 受信特性 920MHz Band 最小受信感度 100kcps 条件追加
		-		BPSK RF 特性 受信特性 920MHz Band ご注意追加
		-		BPSK RF 特性 受信特性 685MHz Band 追加
		43	44	機能説明-パケットハンドリング機能-パケットフォーマット(3)フォーマット C *5(L-field と IEEE802.15.4g PHR の関係)追加
		50	51	機能説明-パケットハンドリング機能-Field チェック機能 説明追加
		64	65	タイマ機能-ウェイクアップタイマ ウェイクアップ後 TX_ON 遷移時の説明修正
		65	66	タイマ機能-ウェイクアップタイマ-(1)インターバル動作-②送信時 説明修正
		66	67	タイマ機能-ウェイクアップタイマ-(2)1 ショット動作-①受信時 説明追加
		108	109	LSI 調整項目と調整方法-PA の調整-BPSK の場合 説明修正
		115	116	LSI 調整項目と調整方法-VCO の調整-VCO 上限周波数の設定 114.75MHz 以上設定禁止
		131	132	フローチャート-送信時-(5)Sigfox 送信時 フロー修正
		152	153	タイムチャート-起動時 [水晶発振回路使用時]*2 修正(OSC_W_SEL 設定範囲)
		153	154	タイムチャート-起動時 [TCXO 使用時]*2 修正(OSC_W_SEL 設定範囲)
		158	159	タイムチャート-SLEEP から IDLE への移行*1 修正(OSC_W_SEL 設定範囲)
		211	212	[TXPR_LEN_H: B0 0x43] 説明追加
		246	247	[OSC_W_SEL: B1 0x08]説明修正(0b10/0b11 設定禁止)
		256	257	[SYNC_WORD_LEN: B1 0x25] 説明追加
		273	274	[VCO_CAL_MAX_N: B1 0x51] 説明修正(114.75MHz 以上設定禁止)
FJDL7404-04	2018.10.5	2	2	[特徴]アンテナダイバーシティ機能の対応変調方式追加
		83	83	[機能説明-受信関連機能-ダイバーシティ機能]対応変調方式追加
		178	178	RX_FSK_POL([DATA_SET1: B0 0x07(5)])説明誤記修正

ドキュメント No.	発行日	ページ		変更内容
		改版前	改版後	
		216	216	RX_ANT([ANT_CTRL: B0 0x4C(5)]), TX_ANT([ANT_CTRL: B0 0x4C(1)])説明誤記修正
		225	225	DC_FIL_SEL([DC_FIL_SET: B0 0x59(2-0)]) 0b110/0b111 説明追加
FJDL7404-05	2019.4.1	8	8	[端子説明]-[レギュレータ端子] 詳細(*1)削除
		24	24	[電気的特性]-[リセット特性] RSETN 立上り時間削除
		57	57	[機能説明]-[パケットハンドリング機能]-[FIFO 制御機能] 注意事項 4 追加
		113	113	[LSI の調整項目と調整方法]-[VCO の調整] 説明追加 (VTUNE_COMP_ON 有効化設定の説明)
		213	213	[SYNC_CONDITION1: B0 0x45] 説明追加
		-	283	[VTUNE_COMP_ON: B2 0x40]追加
FJDL7404-06	2023.11.1	2	2	製品名 用途の追加
		331	331	ご注意の更新
FJDL7404-07	2024.1.10	331	331	ご注意の更新

(ご注意) 誤記、表現の変更および修正は含まれません。

ご注意

1) 本製品をご使用の際は、最新の製品情報をご確認の上、絶対最大定格(*1)、動作条件その他の指定条件の範囲内でお使いください。指定条件の範囲を超えて使用された場合や、使用上の注意を守ることなく使用された場合、その後に発生した故障、誤動作等の不具合、事故、損害等については、ラピステクノロジー株式会社(以下、「当社」といいます)はいかなる責任も負いません。また、指定条件の範囲内のご使用であっても、半導体製品は種々の要因で故障・誤作動する可能性があります。万が一本製品が故障・誤作動した場合でも、その影響により人身事故、火災損害等が起こらないよう、お客様の責任において、ディレーティング、冗長設計、延焼防止、バックアップ、フェイルセーフ等お客様の機器・システムとしての安全確保を行ってください。
(*1)絶対最大定格 ： 瞬時たりとも超過してはならない限界値となります。

2) 本資料に掲載されております製品は、耐放射線設計がなされておりません。

3) 本資料に記載されております応用回路例やその定数、ソフトウェア等の情報は、半導体製品の標準的な動作例や応用例を説明するものです。お客様の機器やシステムの設計においてこれらの情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。また、量産設計をされる場合には、外部諸条件を考慮していただきますようお願いいたします。これらのご使用に起因して生じた損害等に関し、当社は一切その責任を負いません。

4) 本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の技術情報は、それをもって当該技術情報に関する当社または第三者の知的財産権その他の権利を許諾するものではありません。したがいまして、 当該技術情報を使用されたことによる第三者の知的財産権に対する侵害またはこれらに関する紛争について、当社は何ら責任を負うものではありません。

5) 当社は、本資料に明示した用途で本製品が使用されることを意図しています。本資料に明示した用途以外への使用を検討される場合は、必ず営業窓口までお問い合わせください。また、本製品を、医療機器分類クラスⅢ、Ⅳに該当する用途に使用される際は、必ず当社へご連絡の上、書面にて承諾を得てください。
本製品を、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム、極めて高い信頼性を要求される機器(航空宇宙機器、原子力制御機器、海底中継機器等)に使用することはできません。当社の事前の書面による承諾なく、当社の意図していない用途に製品を使用したことにより生じた損害等に関し、当社は一切その責任を負いません。

6) 本資料に記載の内容は、改良などのため予告なく変更することがあります。本製品のご使用、ご購入に際しては、必ず事前に営業窓口で最新の情報をご確認ください。本資料に記載されております情報は、正確を期すため慎重に作成したものですが、万が一、当該情報の誤り・誤植に起因して、お客様に損害が生じた場合においても、当社はその責任を負うものではありません。

7) 本製品のご使用に際しては、RoHS 指令など適用される環境関連法令を遵守の上ご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。

8) 本製品および本資料に記載の技術を輸出または国外へ提供する際には、「外国為替及び外国貿易法」、「米国輸出管理規則」など適用される輸出関連法令を遵守し、それらの定めにしたがって必要な手続を行ってください。

9) 本資料に記載されている内容または本製品についてご不明な点がございましたら営業窓口までお問い合わせください。

10) 本資料の一部または全部を当社の許可なく、転載・複写することを堅くお断りします。

Copyright 2017 – 2024 LAPIS Technology Co., Ltd.

ラピステクノロジー株式会社
〒222-8575 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-4-8
https://www.lapis-tech.com

LTSZ08023・01・002